平成23年度

アニュアルレポート 年報

独立行政法人　国立病院機構

京都医療センター





序　文

京都医療センターのアニュアルレポートができあがりました。診療科によっては毎年の年報を出されていたようですが､病院としてのアニュアルレポートは６年ぶりとなります。この間､国立病院は法人化され、独立行政法人国立病院機構となり、当院は京都医療センターとなりました。当センターの使命は､高度な医療の提供､新しい医療技術の開発そして人材の育成です。この目標を達成するために、病院一丸となって取り組んでいます。平成２３年度もこの目標を達成するために，関係者の方々にご尽力をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

平成２３年を振り返ったとき、まず上げなければならないことは東日本大震災とそれに起因した津波災害と原発事故でした。当センターからもDMATの派遣を始め、様々な支援活動を国立病院機構の一員として果たしてまいりました。当センターの中での動きを見ると、平成２３年１月に新病棟が完成し運用が始まりました。病棟では緩和ケア病棟と特別室個室病棟が新設され､また手術室も１０室から１２室へと拡張し､内視鏡治療センターの運用も始まりました。当センターの柱の一つである救命救急センターも新棟に移転し、充実した施設の中で救命救急医療が行えるようになりました。また、同年１２月にはGCUが開設され、NICUとともに新生児の治療に貢献できるものと思います。これらの施設は、今後、当センターの発展に大きく貢献してくれるものと期待しています。一方、その計画した実績を上げることが課題となり、関係者の一層の奮闘が望まれます。

平成２２年度から診療報酬のプラス改定により当センターの収支は大幅な改善を示しました。平成２３年度も引き続き順調な運営がなされ医業収支はプラスとなっています。しかし、平成２２年度に比べると医業収入は増加していますが、医業経費や人件費の増加も大きく、収支率は減少しました。今後は医業収入の増加を図るとともに、医業費用の削減が課題と考えています。しかし、医療の質を確保し、当センターの活動を高めるための資源の投資は必要であり、長期的な展望をもって計画的に進める必要があります。

以上述べました平成２３年度の成果を踏まえ、スタッフが一丸となって平成２４年度も引き続き当センターの発展に勤めてまいります。

皆様におかれましては、今後とも、ご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

院長　**中　村　孝　志**

京都医療センター診療年報　目次

序文 …… 1
京都医療センターの理念 …… 4
沿革 …… 5
組織図 …… 6
幹部職員 …… 7
統計資料 …… 8
総合内科 …… 12
血液内科 …… 14
内分泌・代謝内科 …… 15
糖尿病センター …… 22
腎臓内科 …… 31
腫瘍内科 …… 34
精神科 …… 36
神経内科 …… 38
呼吸器センター …… 40
消化器科 …… 42
循環器科 …… 46
小児科 …… 51
外科 …… 54
整形外科 …… 58
形成外科 …… 62
脳神経外科 …… 64
血管外科…… 67
心臓外科 …… 69
皮膚科 …… 71
泌尿器科 …… 73
産科・婦人科 …… 76
緩和ケア科 …… 79
眼科 …… 81
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 …… 83

麻酔科 …… 87
放射線科 …… 89
リハビリテーション科 …… 92
歯科口腔外科 …… 94
救命救急科 …… 97
健診部 …… 99
臨床研究センター …… 101
医療安全監理部 …… 108
感染制御部 …… 111
医療情報部 …… 113
教育研修部 …… 117
地域医療部 …… 118
薬剤科 …… 121
臨床検査科 …… 124
臨床栄養科 …… 127
医療技術部　臨床工学科 …… 129
看護部 …… 131
京都看護助産学校 …… 148
編集後記 …… 161

京都医療センターの理念

私たちは患者さんとともに病気に立ち向かい、患者さんが安心できる医療を提供します。

■基本方針

一、常に高度で先進的な医療を導入し、地域の医療機関との連携を図り、急性期医療を中心とした質の高い医療を提供することで患者さんに信頼される病院となることを目指します。
一、十分な説明のうえで患者さんの同意を得た医療を提供します。
一、臨床医学の発展を常に念頭におき、臨床研究を積極的に推進し、新しい医療技術の研究開発に努めます。
一、教育研修病院として医師、看護師等、医療に従事する人材の育成に努めます。
一、職員の働きやすい職場環境であることが、安全で高度かつ効率的な医療の提供に不可欠であると考え、職員の福利厚生の向上に努めます。

■患者さんの権利の尊重に関して

京都医療センターでは患者さんと医療従事者との信頼関係のもとで患者さんとともに歩む病院を目指しています。ここに患者さんの権利に関する事項について記します。

■患者さんの権利に関する事項

1．尊厳ある人間として医療を受ける権利を大切にします。
2．良質で適切な医療を平等に提供します。
3．検査や治療について充分に理解していただけるように説明します。
4．検査や治療について自ら選択する権利を尊重します。
5．医療のどの段階においても他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利を尊重します。
6．自分に関する医療情報の開示を求める権利を尊重します。
7．プライバシーを守ります。

沿　革

当院は、３９診療科を標榜している高度総合医療施設として、既に約半世紀にわたって京都伏見の地で医療活動を行っている。

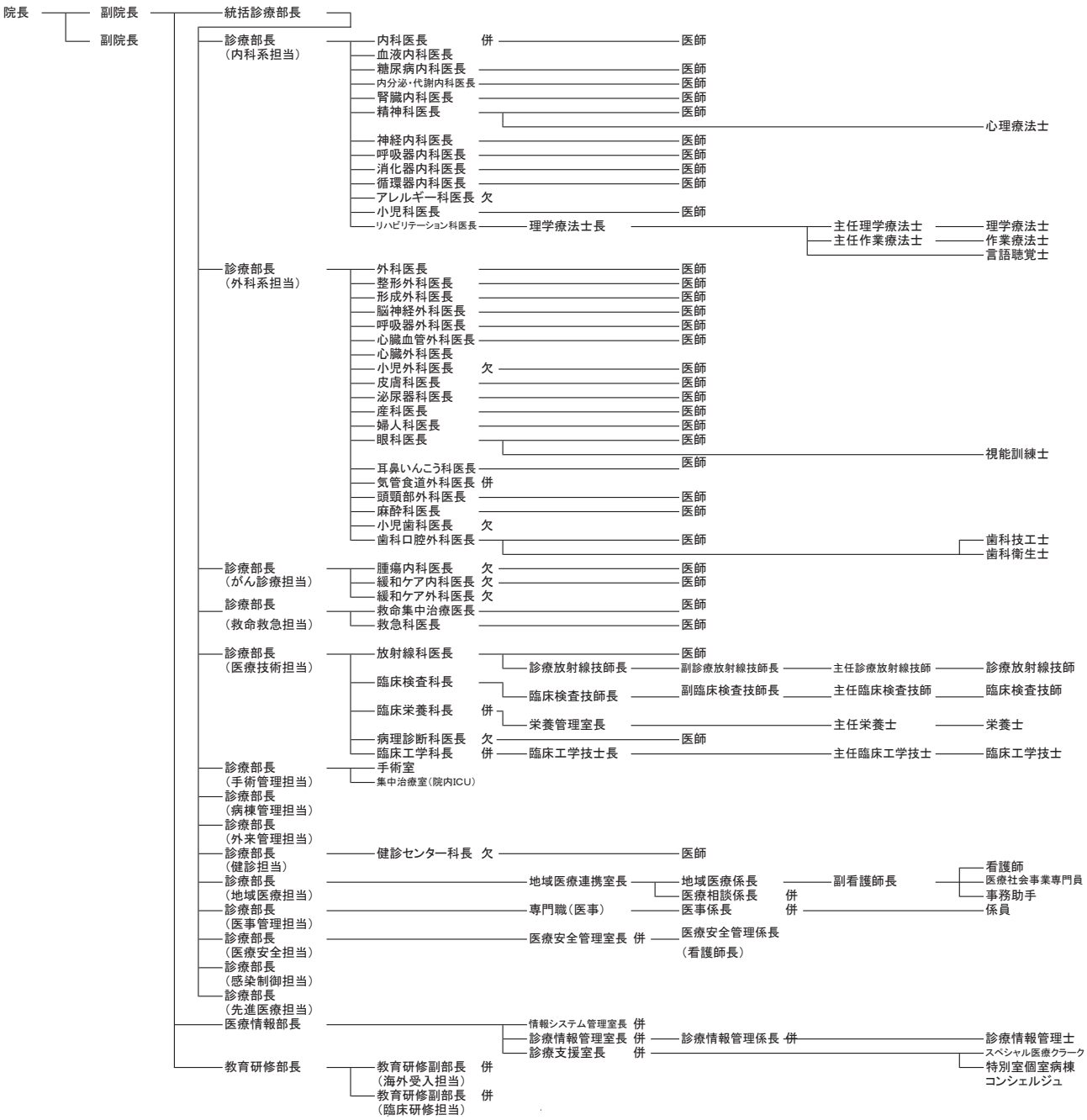
国から内分泌・代謝疾患の高度専門医療施設（準ナショナルセンター）、成育医療の基幹医療施設、がん・循環器・感覚器・腎疾患の専門医療施設に指定されており、エイズ診療、国際医療協力の機能も付与されている。また京都府から三 次救急医療施設の指定を受けている６施設のうちの１つであり、更に平成１９年１月には地域がん診療連携拠点病院に指定された。

高度先進医療を実施していくとともに、その基礎となる臨床研究の実施、質の高い医療を提供できる医療従事者の育成、与えられた政策医療分野に関する情報の発信など当院に与えられた使命を引き続き果たしていき、また今後、地域の診療所・病院との連携を強化し、地域医療の発展に貢献していくため地域医療連携室の充実を図る。

明治４１年１１月		京都衛病衛戎病院として設立
昭和２０年１２月		国立京都病院として厚生省に移管
昭和３４年１２月		昭和２８年１２月に基幹病院整備に着工
		外来診療棟、中央治療棟、管理棟、病棟を竣工
昭和５３年	４月	臨床研究部設置
昭和５９年１２月		救命救急センター設置
平成 ２年	３月	昭和５６年３月老朽基幹病院更新築工事に着工
		外来管理診療棟、中央診療棟、病棟を竣工
平成 ７年	７月	京都府エイズ治療拠点病院
平成１０年１０月		完全院外処方箋発行実施
平成１１年	３月	病院情報システム稼働開始
平成１５年１０月		臨床研修センター設置
平成１６年	３月	電子カルテシステム稼働開始
平成１６年	４月	独立行政法人へ移行
		独立行政法人国立病院機構京都医療センターへ名称を変更
平成１７年	４月	（財）日本医療機能評価機構の Ver.4.0 認定
平成１９年	１月	地域がん診療連携拠点病院に指定
平成２０年	８月	地域医療支援病院　承認
平成２２年	３月	（財）日本医療機能評価機構の Ver.6.0 認定
平成２３年	１月	新中央診療棟を竣工
		緩和ケア病棟設置

京都医療センター　組織図

平成 24 年 4 月 1 日



京都医療センター　幹部職員


院長　中村　孝志


副院長　塚原　徹也

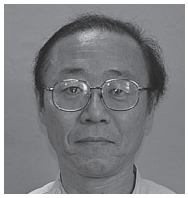

副院長　高倉　賢二


臨床研究センター長
島津　　章


統括診療部長
猪飼　伊和夫


内科系診療部長
小山　　弘


外科系診療部長
中川　泰彰


がん診療部長
土屋　宣之


救命救急部長
金子　一郎


医療技術部長
伊藤　剛

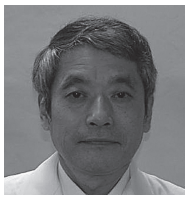

手術管理部長
七野　力


病棟管理部長
田上　哲也


外来管理部長
三尾　直士


健診部長
前川　高天


地域医療部長
秋山　祐一


医事管理部長
小坂田　元太


感染制御部長
奥野　博


先進医療部長
喜多　美穂里


医療情報部長
北岡　有喜


内分泌代謝高血圧研究部長
成瀬　光栄


展開医療研究部長
長谷川　浩二


薬剤科長
北村　良雄


看護部長
森田　文


事務部長
長井　義美


副学校長
山本　薫里

入院年度別統計

【延患者数】

	総内	血内	内分	糖尿	腎内	腫瘍	神内	呼吸	消化	循環	小児	外科	整形	形成	脳外
平成19年度	4,610	3,950	3,022	8,291	6,366	4,233	1,958	15,487	23,584	8,242	7,557	18,874	21,468	-	18,325
平成20年度	4,253	3,692	2,751	8,388	5,953	7,180	3,605	13,191	24,148	7,599	7,386	19,444	20,919	1,261	16,447
平成21年度	3,111	4,567	2,767	7,190	5,660	6,583	6,085	12,379	22,313	8,564	6,558	19,200	19,603	3,088	12,701
平成22年度	3,079	4,438	3,419	6,860	6,082	7,284	5,542	14,398	20,742	10,050	5,740	18,180	18,327	2,389	11,188
平成23年度	3,326	4,135	2,521	6,057	5,370	6,166	6,040	16,458	20,531	10,276	5,020	17,020	17,386	3,722	12,125

【新入院患者数】

	総内	血内	内分	糖尿	腎内	腫瘍	神内	呼吸	消化	循環	小児	外科	整形	形成	脳外
平成19年度	298	55	196	363	265	342	74	887	1,418	679	835	1,051	638	-	860
平成20年度	231	64	203	381	253	378	162	701	1,604	615	841	941	645	74	549
平成21年度	170	52	210	343	290	311	210	701	1,531	834	757	1,007	866	169	546
平成22年度	176	68	248	320	268	369	203	887	1,488	1,084	585	996	810	132	477
平成23年度	173	58	233	339	310	388	224	1,028	1,439	1,223	527	1,037	652	175	411

【退院患者数】

	総内	血内	内分	糖尿	腎内	腫瘍	神内	呼吸	消化	循環	小児	外科	整形	形成	脳外
平成19年度	289	63	200	373	281	367	73	894	1,395	697	828	1,113	692	-	849
平成20年度	242	75	208	373	260	384	155	721	1,549	624	849	1,012	688	85	574
平成21年度	186	56	234	330	299	326	229	714	1,504	850	757	1,085	917	180	574
平成22年度	174	68	257	310	296	398	222	879	1,405	1,113	587	1,045	841	181	444
平成23年度	168	64	241	324	329	369	245	1,071	1,375	1,244	530	1,126	713	208	455

【１日平均在院患者数】

	総内	血内	内分	糖尿	腎内	腫瘍	神内	呼吸	消化	循環	小児	外科	整形	形成	脳外
平成19年度	12.6	10.8	8.3	22.7	17.4	11.6	5.3	42.3	64.4	22.5	20.6	51.6	58.7	-	50.1
平成20年度	11.7	10.1	7.5	23.0	16.3	19.7	9.9	36.1	66.2	20.8	20.2	53.3	57.3	3.5	45.1
平成21年度	8.5	12.5	7.6	19.7	15.5	18.0	16.7	33.9	61.1	23.5	18.0	52.6	53.7	8.5	34.8
平成22年度	8.4	12.2	9.4	18.8	16.7	20.0	15.2	39.4	56.8	27.5	15.7	49.8	50.2	6.5	30.7
平成23年度	9.1	11.3	6.9	16.5	14.7	16.8	16.5	45.0	56.1	28.1	13.7	46.5	47.5	10.2	33.1

【平均在院日数】

	総内	血内	内分	糖尿	腎内	腫瘍	神内	呼吸	消化	循環	小児	外科	整形	形成	脳外
平成19年度	15.7	67.0	15.3	22.5	23.3	11.9	26.6	17.4	16.8	12.0	9.1	17.4	32.3	-	21.5
平成20年度	18.0	53.1	13.4	22.3	23.2	18.9	22.7	18.6	15.3	12.3	8.7	19.9	31.4	15.9	29.3
平成21年度	17.5	84.6	12.5	21.4	19.2	20.7	27.7	17.5	14.7	10.2	8.7	18.4	22.0	17.7	22.7
平成22年度	17.6	65.3	13.5	21.8	21.6	19.0	26.1	16.3	14.3	9.2	9.8	17.8	22.2	15.3	24.3
平成23年度	19.5	67.8	10.6	18.3	16.8	16.3	25.8	15.7	14.6	8.3	9.5	15.7	25.5	19.4	28.0

【一人１日当り診療点数】

	総内	血内	内分	糖尿	腎内	腫瘍	神内	呼吸	消化	循環	小児	外科	整形	形成	脳外
平成19年度	4,197.8	4,923.1	3,577.5	3,225.6	3,958.2	4,475.1	4,485.9	4,351.4	4,249.6	8,625.3	5,519.0	5,280.8	4,656.5	-	6,040.5
平成20年度	4,570.5	5,625.5	3,744.9	3,351.3	4,111.3	4,467.0	4,918.2	4,248.3	4,627.1	8,490.6	5,438.0	5,234.3	4,296.3	4,565.0	5,778.0
平成21年度	5,244.0	6,270.5	3,954.1	3,367.1	4,415.2	4,444.0	5,011.8	4,608.5	4,628.8	10,393.3	5,738.0	5,595.4	6,073.7	4,335.4	6,407.9
平成22年度	4,750.8	5,622.5	4,119.5	3,639.9	4,480.5	4,471.5	4,997.7	5,441.0	4,963.8	11,159.3	6,405.7	6,144.5	6,696.6	4,231.5	7,380.1
平成23年度	4,608.4	5,560.2	4,496.2	3,712.0	4,872.2	4,899.0	5,600.1	5,280.9	5,080.0	11,289.3	6,516.6	6,520.8	6,124.4	4,322.7	6,981.8

呼外	血管	心外	皮膚	泌尿	産科	婦人	緩内	緩外	眼科	耳鼻	放射	口腔	救命	合計
2,353	5,273	-	1,524	9,082	6,552	8,041	-	-	2,826	6,268	7	875	3,540	192,357
2,418	3,297	-	1,837	8,630	5,863	8,608	-	-	3,844	6,681		945	3,732	192,087
2,962	3,714	-	1,020	8,691	6,008	8,523	-	-	5,204	9,139		462	4,292	190,396
3,841	2,736	-	1,754	8,644	5,662	9,327	400	819	5,358	13,141		526	4,295	194,223
4,444	3,188	1,886	1,510	8,658	5,621	7,627	3,272	3,583	4,122	11,848		625	5,397	197,934

呼外	血管	心外	皮膚	泌尿	産科	婦人	緩内	緩外	眼科	耳鼻	放射	口腔	救命	合計
134	196	-	92	664	726	781	-	-	400	392	4	90	590	12,052
160	163	-	93	673	719	870	-	-	539	341		97	576	11,880
182	150	-	70	679	705	903	-	-	743	448		84	602	12,568
266	150	-	74	678	707	1,007	3	15	798	541		78	615	13,044
304	165	52	62	741	661	835	19	80	655	532		79	773	13,175

呼外	血管	心外	皮膚	泌尿	産科	婦人	緩内	緩外	眼科	耳鼻	放射	口腔	救命	合計
146	194	-	102	669	723	773	-	-	415	391	3	102	370	12,023
168	156	-	88	682	717	866	-	-	526	348		99	381	11,837
184	152	-	68	670	716	901	-	-	752	437		86	380	12,592
268	151	-	71	687	714	991	19	26	816	522		77	418	12,981
307	160	51	67	733	666	832	107	101	662	554		80	467	13,249

呼外	血管	心外	皮膚	泌尿	産科	婦人	緩内	緩外	眼科	耳鼻	放射	口腔	救命	合計
6.4	14.4	-	4.2	24.8	17.9	22.0	-	-	7.7	17.1	0.0	2.4	9.7	525.6
6.6	9.0	-	5.0	23.6	16.1	23.6	-	-	10.5	18.3		2.6	10.2	526.3
8.1	10.2	-	2.8	23.8	16.5	23.4	-	-	14.3	25.0		1.3	11.8	521.6
10.5	7.5	-	4.8	23.7	15.5	25.6	4.4	9.1	14.7	36.0		1.4	11.8	532.1
12.1	8.7	5.2	4.1	23.7	15.4	20.8	8.9	9.8	11.3	32.4		1.7	14.7	540.8

呼外	血管	心外	皮膚	泌尿	産科	婦人	緩内	緩外	眼科	耳鼻	放射	口腔	救命	合計
16.8	27.0	-	15.7	13.6	9.0	10.4	-	-	6.9	16.0	2.0	9.1	7.4	16.0
14.7	20.7	-	20.3	12.7	8.2	9.9	-	-	7.2	19.4		9.6	7.8	16.2
16.2	24.6	-	14.8	12.9	8.5	9.5	-	-	7.0	20.7		5.4	8.7	15.1
14.4	18.2	-	24.2	12.7	8.0	9.3	36.4	40.0	6.6	24.7		6.8	8.3	14.9
14.6	19.6	36.6	23.4	11.8	8.5	9.2	51.9	39.6	6.3	21.8		7.9	8.7	15.0

呼外	血管	心外	皮膚	泌尿	産科	婦人	緩内	緩外	眼科	耳鼻	放射	口腔	救命	合計
7,327.3	5,767.0	-	3,333.2	4,217.6	5,366.1	5,621.8	-	-	6,229.1	4,317.1	23,846.3	5,275.3	10,846.8	5,093.8
7,441.7	6,046.0	-	3,477.6	4,680.3	5,992.9	5,766.1	-	-	6,561.2	4,405.0		4,197.5	11,832.0	5,155.1
7,320.3	5,782.2	-	3,591.1	4,840.1	6,548.4	6,151.4	-	-	7,049.0	4,673.5		5,451.0	10,625.0	5,679.9
8,456.9	6,906.2	-	3,593.3	5,157.8	7,134.2	6,576.4	2,740.6	3,339.5	7,509.9	4,701.1		5,582.4	12,384.3	6,124.3
8,169.8	6,865.8	15,832.5	3,935.8	5,365.5	6,787.2	6,656.0	4,708.2	4,633.6	7,861.7	4,852.0		5,789.9	12,235.2	6,271.8

外来年度別統計

【延患者数】

	総内	血内	内分	糖尿	腎内	腫瘍	精神	神内	呼吸	消化	循環	小児	外科	整形	形成	脳外
平成19年度	7,405	3,005	9,992	22,247	7,772	3,332	13,030	5,765	11,708	24,965	19,304	8,781	21,865	16,961	-	11,951
平成20年度	7,109	3,025	10,889	22,231	8,624	4,710	12,562	6,062	10,033	25,986	18,323	7,683	21,221	15,807	2,232	12,165
平成21年度	8,361	2,757	11,636	22,083	8,689	5,224	12,496	6,965	10,696	28,291	19,258	8,345	20,418	17,259	3,919	10,360
平成22年度	7,565	2,874	12,616	23,857	9,152	5,210	12,733	7,995	11,652	30,126	19,285	8,289	20,118	17,871	4,661	10,679
平成23年度	7,346	3,073	13,128	24,525	8,598	5,462	11,994	9,456	13,699	30,896	20,018	9,058	17,951	21,179	5,051	10,573

【１日平均患者数】

	総内	血内	内分	糖尿	腎内	腫瘍	精神	神内	呼吸	消化	循環	小児	外科	整形	形成	脳外
平成19年度	30.2	12.3	40.8	90.8	31.7	13.6	53.2	23.5	47.8	101.9	78.8	35.8	89.2	69.2	-	48.8
平成20年度	29.3	12.4	44.8	91.5	35.5	19.4	51.7	24.9	41.3	106.9	75.4	31.6	87.3	65.0	9.2	50.1
平成21年度	34.5	11.4	48.1	91.3	35.9	21.6	51.6	28.8	44.2	116.9	79.6	34.5	84.4	71.3	16.2	42.8
平成22年度	31.1	11.8	51.9	98.2	37.7	21.4	52.4	32.9	48.0	124.0	79.4	34.1	82.8	73.5	19.2	43.9
平成23年度	30.1	12.6	53.8	100.5	35.2	22.4	49.2	38.8	56.1	126.6	82.0	37.1	73.6	86.8	20.7	43.3

【初診患者数】

	総内	血内	内分	糖尿	腎内	腫瘍	精神	神内	呼吸	消化	循環	小児	外科	整形	形成	脳外
平成19年度	1,956	37	426	293	218	25	288	349	703	1,366	525	906	1,086	1,833	-	986
平成20年度	1,843	39	455	284	211	45	276	341	559	1,246	507	707	1,049	2,001	143	733
平成21年度	2,574	42	591	238	212	40	263	440	550	1,225	475	624	827	2,105	254	613
平成22年度	1,764	38	540	261	219	35	220	475	560	1,351	523	492	785	1,819	274	620
平成23年度	1,599	42	545	250	249	22	234	510	714	1,355	578	564	671	1,690	377	674

【新患率】

	総内	血内	内分	糖尿	腎内	腫瘍	精神	神内	呼吸	消化	循環	小児	外科	整形	形成	脳外
平成19年度	26.4%	1.2%	4.3%	1.3%	2.8%	0.8%	2.2%	6.1%	6.0%	5.5%	2.7%	10.3%	5.0%	10.8%	-	8.3%
平成20年度	25.9%	1.3%	4.2%	1.3%	2.4%	1.0%	2.2%	5.6%	5.6%	4.8%	2.8%	9.2%	4.9%	12.7%	6.4%	6.0%
平成21年度	30.8%	1.5%	5.1%	1.1%	2.4%	0.8%	2.1%	6.3%	5.1%	4.3%	2.5%	7.5%	4.1%	12.2%	6.5%	5.9%
平成22年度	23.3%	1.3%	4.3%	1.1%	2.4%	0.7%	1.7%	5.9%	4.8%	4.5%	2.7%	5.9%	3.9%	10.2%	5.9%	5.8%
平成23年度	21.8%	1.4%	4.2%	1.0%	2.9%	0.4%	2.0%	5.4%	5.2%	4.4%	2.9%	6.2%	3.7%	8.0%	7.5%	6.4%

【紹介率】

	総内	血内	内分	糖尿	腎内	腫瘍	精神	神内	呼吸	消化	循環	小児	外科	整形	形成	脳外
平成19年度																
平成20年度	16.3%	100.0%	80.9%	76.8%	91.9%	100.0%	36.6%	56.3%	70.3%	72.2%	70.0%	36.9%	53.4%	37.5%	57.3%	40.4%
平成21年度	11.9%	100.0%	71.9%	74.8%	89.2%	100.0%	30.0%	56.1%	73.3%	73.0%	65.7%	40.1%	61.3%	44.2%	52.0%	45.1%
平成22年度	13.9%	100.0%	76.7%	67.4%	95.0%	100.0%	30.9%	51.6%	70.7%	76.1%	69.8%	45.1%	75.9%	37.7%	55.5%	39.5%
平成23年度	13.9%	97.6%	77.1%	74.4%	93.6%	90.9%	33.8%	55.9%	70.6%	74.5%	76.1%	37.9%	62.6%	36.3%	46.7%	50.4%

【逆紹介率】

	総内	血内	内分	糖尿	腎内	腫瘍	精神	神内	呼吸	消化	循環	小児	外科	整形	形成	脳外
平成19年度																
平成20年度	15.9%	107.7%	72.3%	97.5%	127.5%	175.6%	30.1%	90.6%	101.8%	55.1%	106.1%	14.0%	53.8%	53.2%	37.1%	80.8%
平成21年度	9.8%	54.8%	46.5%	94.1%	101.9%	355.0%	38.0%	67.7%	100.0%	38.1%	146.5%	14.4%	68.2%	52.7%	24.0%	82.4%
平成22年度	12.4%	110.5%	62.4%	115.7%	138.8%	580.0%	45.0%	68.0%	98.2%	45.2%	171.1%	21.7%	65.7%	54.7%	15.0%	54.2%
平成23年度	13.9%	140.5%	62.6%	119.6%	153.4%	709.1%	39.7%	61.0%	85.6%	38.2%	175.8%	19.3%	47.4%	62.2%	10.1%	45.3%

【一人１日当り診療点数】

	総内	血内	内分	糖尿	腎内	腫瘍	精神	神内	呼吸	消化	循環	小児	外科	整形	形成	脳外
平成19年度	874.1	1,352.8	1,427.5	1,232.4	984.8	6,658.0	474.4	833.2	1,451.6	1,509.4	711.0	870.8	1,303.3	882.4	-	905.3
平成20年度	858.0	1,513.4	1,374.0	1,284.4	1,035.1	7,535.0	497.3	1,081.4	1,404.8	1,593.6	691.2	1,017.7	1,349.4	814.4	692.1	950.7
平成21年度	873.5	1,516.2	1,434.4	1,313.9	1,146.0	6,823.7	486.7	1,042.1	1,436.3	1,722.5	683.2	1,028.7	1,325.5	827.3	539.0	956.2
平成22年度	832.3	1,941.7	1,290.2	1,309.3	1,156.5	6,036.5	482.2	1,039.3	1,527.1	1,721.6	736.1	1,260.5	1,350.9	825.9	526.3	954.4
平成23年度	838.1	2,308.9	1,386.6	1,363.4	1,325.1	6,494.8	494.6	1,142.4	2,517.4	1,611.8	889.0	1,305.1	1,502.7	808.3	618.5	1,112.3

呼外	血管	心外	皮膚	泌尿	産科	婦人	緩内	緩外	眼科	耳鼻	放射	リハ	小歯	口腔	救命	健診	合計
760	2,836	-	16,194	16,775	7,684	9,932	-	-	13,702	13,765	2,099	19,771	87	6,919	1,908	982	301,564
1,172	2,825	-	15,988	17,034	7,610	10,915	-	-	15,664	13,737	6,835	2,341	32	8,175	1,946	1,004	293,977
1,618	2,462	-	15,808	17,827	5,723	12,701	-	-	17,073	14,142	7,872	354	27	8,306	1,767	952	303,404
1,966	2,603	-	16,881	17,948	5,056	14,001	11	278	18,145	14,856	9,307	252	6	10,227	1,798	1,024	319,045
2,421	2,613	408	16,914	18,404	4,262	13,479	119	1,146	16,852	15,764	8,968	812	0	10,250	1,657	992	327,069

呼外	血管	心外	皮膚	泌尿	産科	婦人	緩内	緩外	眼科	耳鼻	放射	リハ	小歯	口腔	救命	健診	合計
3.1	11.6	-	66.1	68.5	31.4	40.5	-	-	55.9	56.2	8.6	80.7	0.4	28.2	7.8	4.0	1230.9
4.8	11.6	-	65.8	70.1	31.3	44.9	-	-	64.5	56.5	28.1	9.6	0.1	33.6	8.0	4.1	1209.8
6.7	10.2	-	65.3	73.7	23.6	52.5	-	-	70.5	58.4	32.5	1.5	0.1	34.3	7.3	3.9	1253.7
8.1	10.7	-	69.5	73.9	20.8	57.6	0.2	4.6	74.7	61.1	38.3	1.0	0.0	42.1	7.4	4.2	1312.9
9.9	10.7	1.7	69.3	75.4	17.5	55.2	0.5	4.7	69.1	64.6	36.8	3.3	0.0	42.0	6.8	4.1	1340.4

呼外	血管	心外	皮膚	泌尿	産科	婦人	緩内	緩外	眼科	耳鼻	放射	リハ	小歯	口腔	救命	健診	合計
22	135	-	992	708	497	1,134	-	-	756	1,228	854		45	1,258	996	905	20,553
28	123	-	917	658	483	991	-	-	853	1,096	796		19	1,321	913	1,004	19,647
32	114	-	814	658	350	885	-	-	783	1,276	921		17	1,315	661	952	19,853
20	101	-	883	693	344	963	4	7	907	1,254	848		5	1,599	746	1,024	19,374
35	115	3	866	649	281	894	22	73	814	1,187	844		0	1,562	549	992	18,961

呼外	血管	心外	皮膚	泌尿	産科	婦人	緩内	緩外	眼科	耳鼻	放射	リハ	小歯	口腔	救命	健診	合計
2.9%	4.8%	-	6.1%	4.2%	6.5%	11.4%	-	-	5.5%	8.9%	40.7%		51.7%	18.2%	52.2%	92.2%	6.8%
2.4%	4.4%	-	5.7%	3.9%	6.3%	9.1%	-	-	5.4%	8.0%	11.6%		59.4%	16.2%	46.9%	100.0%	6.7%
2.0%	4.6%	-	5.1%	3.7%	6.1%	7.0%	-	-	4.6%	9.0%	11.7%		63.0%	15.8%	37.4%	100.0%	6.5%
1.0%	3.9%	-	5.2%	3.9%	6.8%	6.9%	36.4%	2.5%	5.0%	8.4%	9.1%		83.3%	15.6%	41.5%	100.0%	6.1%
1.4%	4.4%	0.7%	5.1%	3.5%	6.6%	6.6%	18.5%	6.4%	4.8%	7.5%	9.4%			15.2%	33.1%	100.0%	5.8%

呼外	血管	心外	皮膚	泌尿	産科	婦人	緩内	緩外	眼科	耳鼻	放射	リハ	小歯	口腔	救命	健診	合計
							-	-									
100.0%	77.2%	-	28.7%	58.5%	53.6%	60.9%	-	-	58.1%	56.6%	100.0%		47.4%	45.6%	10.8%		63.6%
100.0%	83.3%	-	24.4%	62.8%	50.9%	58.0%	-	-	57.0%	61.9%	100.0%		35.3%	49.7%	18.7%		65.3%
100.0%	82.2%	-	27.9%	57.0%	47.1%	59.6%	100.0%	85.7%	58.3%	64.5%	103.8%			43.5%	16.6%		65.1%
97.1%	84.3%	133.3%	28.5%	60.9%	48.4%	62.6%	100.0%	89.0%	61.5%	66.6%	100.0%			47.4%	17.5%		67.2%

呼外	血管	心外	皮膚	泌尿	産科	婦人	緩内	緩外	眼科	耳鼻	放射	リハ	小歯	口腔	救命	健診	合計
							-	-									
	81.3%	-	16.0%	95.7%	23.2%	30.6%	-	-	43.6%	24.5%	149.6%			12.6%	28.4%		52.0%
293.8%	84.2%	-	14.4%	88.8%	28.6%	26.7%	-	-	53.0%	23.6%	153.4%				33.4%		51.3%
604.3%	115.8%	-	14.5%	84.7%	29.1%	22.0%	175.0%	228.6%	51.7%	24.8%	167.1%			9.8%	34.2%		53.7%
440.0%	103.5%	1833.3%	15.2%	78.9%	36.3%	18.1%	27.3%	101.4%	52.0%	22.2%	169.2%			7.6%	47.0%		54.0%

呼外	血管	心外	皮膚	泌尿	産科	婦人	緩内	緩外	眼科	耳鼻	放射	リハ	小歯	口腔	救命	健診	合計
1,227.8	475.3	-	284.3	1,306.3	632.5	994.3	-	-	541.5	750.1	1,858.8	31.0	706.3	630.3	1,913.6	4,088.6	999.2
1,393.5	449.8	-	301.9	1,342.4	724.2	1,061.1	-	-	604.5	744.6	1,627.1	315.3	653.4	720.2	1,910.6	4,241.8	1,140.1
1,785.8	472.7	-	297.3	1,386.0	986.7	1,061.9	-	-	664.3	803.2	1,507.6	322.2	724.2	684.9	1,896.4	4,414.8	1,173.0
3,590.4	571.1	-	329.5	1,398.3	1,112.1	1,098.2	1,840.5	1,523.7	684.4	842.9	1,539.5	405.6	687.5	668.0	2,063.2	4,201.0	1,189.9
2,827.9	587.4	1,425.0	369.0	1,457.8	1,175.3	1,097.5	1,917.7	1,273.6	654.7	830.8	1,585.5	665.0		705.5	2,311.2	4,414.3	1,281.8

科　名：総合内科



専門医資格等　日本内科学会総合内科専門医
専 門 分 野　内科一般
得 意 疾 患　内科一般

部長
小山　　弘

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	小田垣　孝雄	日本内科学会総合内科専門医 Infection Control Doctor 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 アメリカ心臓協会ACLSコースディレクター、BLSインストラクター 日本救急医学会ICLSコースディレクター 日本医師会認定産業医	内科一般	内科一般、感染制御、救急蘇生法教育
医　　師	桂　　敏明	日本内科学会認定内科医	内科一般	内科一般
専 修 医	大倉　　敬之		内科一般	内科一般
専 修 医	小見山　麻紀	日本医師会認定産業医	内科一般	内科一般、禁煙外来、予防医学

□診療科の特徴

1．器官系を横断的に考えます
2．患者と病院のインターフェースとして、窓口機能も果します
3．専門診療科との連携を重視します
4．医学的なエビデンスに配慮します

□代表的診療対象疾患

急性感染症(気道、尿路、皮膚軟部組織、骨、その他)
不明熱、多発関節痛など診断の確定していない症候
免疫膠原病(関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症など。診断後自科で治療または必要に応じ専門診療科に紹介)

□診療(業務)内容

外来では重篤でない急性疾患の診断･管理や、不明熱や多発関節痛など診断の確定していない症候の診断･管理と必要に応じての専門診療部門・機関への紹介などを行っております。健診その他での高血圧や脂質異常症などについて相談に受診される方もおられますが、生活指導や薬物療法が継続的に必要と考えられた場合、地域の医療機関を紹介することがありますので、よろしくお願い致します。

入院では、おもに救急外来から緊急入院した内科系非重篤患者のうち、肺炎、腎盂腎炎などの急性感染症、原因不明の発熱(最終的には薬剤熱、血管炎症候群、血液学的腫瘍、自然治癒するウイルス感染症や一過性

の肺への吸引など）や意識障害、電解質異常、栄養不良を受け持ち、診断および管理、必要に応じて他科への紹介を行っています。他科入院中の患者の感染症や原因不明の発熱についての共診も主たる活動の一部になっています。

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	9.1	173	19.5

外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	30.1	13.9%	13.9%

主な疾患の件数など

	肺炎	急性尿路感染症	蜂窩織炎	化膿性骨髄炎	感染性心内膜炎
2011年度	40件	21件	10件	4件	3件

□地域医療連携・広報活動

京滋感染管理研究会発表演題　小田垣孝雄「京都医療センターにおける抗菌薬適正使用」2011年12月10日
伏見医師会学術集談会　北村憲子、小田垣孝雄、桂敏明、小山　弘「3ヵ月間にわたる発熱に比して状態のよい20代男性」 2011年11月19日

□学術活動報告（学会・研究発表など）

年	場　所	内　　容
2011	日本内科学会近畿	垣田　真以子, 小田垣　孝雄, 岩田　昌史, 廣田　圭昭, 太田　励, 大倉　敬之, 桂　敏明, 小山　弘. Helicobacter Pylori除菌療法にて低蛋白血症の改善を認めた蛋白漏出性胃腸症の1例. 第196回日本内科学会近畿地方会

□投稿論文など

年	筆頭著者	内　　容
2011	いずれも小山が作成部会評価委員	日本緩和医療学会　緩和医療ガイドライン作成委員会　がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン　2011年版　金原出版株式会社
2011		日本緩和医療学会　緩和医療ガイドライン作成委員会　がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン　2011年版　金原出版株式会社

科　名：血液内科



医長
奥野　芳章

専門医資格等　日本内科学会内科専門医
日本血液学会専門医・指導医京都大学医学博士
専 門 分 野　血液一般

□診療科の特徴

1．当科では貧血から、白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫など血液悪性疾患に至るまでいろいろな血液疾患の診断、治療をおこなっています。血液疾患は自覚症状に乏しく、血液検査をして初めて異常が明らかになることが多いため、まず、お近くのかかりつけの医師に診察して頂いて、血液疾患の疑いがあれば当科にご紹介して頂いています。
2．血液疾患の治療法の進歩はめざましく、血液幹細胞移植の適応になることもありますが、残念ながら当院では移植治療は行っておりません。そのような治療が必要な場合、移植施設をご紹介いたします。

□代表的診療対象疾患

・貧血・出血傾向・リンパ腫・白血病・骨髄腫　など

□診療(業務)内容

再生不良性貧血に対する免疫抑制療法や血液悪性疾患に対する通常量化学療法、貧血などに対する輸血などの対症療法を行っています。治療法を選択するにあたっては、広く認められている標準療法であること、患者さんが十分ご理解、ご納得頂けることを重視しています。

血液疾患は診断、あるいは治療の選択に困難を伴う場合が多いかと思いますが、患者さんと常にご相談しながらよりよい治療法を探していきます。

・貧血
・出血傾向
・リンパ腫
・白血病
・骨髄腫　など

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	11.3	58	67.8

外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	12.6	97.6%	140.5%

科　名：内分泌・代謝内科



専門医資格等　日本内科学会総合内科専門医
日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医
日本甲状腺学会専門医
専 門 分 野　内科一般
内分泌・代謝
得 意 疾 患　甲状腺疾患

医長
田上　哲也

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　師	玉那覇　民子	日本糖尿病学会専門医	内分泌・代謝	
医　師	難波　多挙		内分泌・代謝	
専修医	中尾　佳奈子		内分泌・代謝	
レジデント	垣田　真以子		内分泌・代謝	
レジデント	植田　洋平		内分泌・代謝	
レジデント	革嶋　幸子		内分泌・代謝	
臨床研究センター長	島津　章	日本内科学会総合内科専門医 日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医 日本糖尿病学会専門医	内科一般 内分泌・代謝	下垂体疾患
臨床研究センター部長	成瀬　光栄	日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医 日本高血圧学会専門医 日本腎臓学会腎臓専門医	内分泌・代謝	副腎疾患
臨床研究センター室長	臼井　健	日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医 日本人類遺伝学会/日本遺伝カウンセリング学会臨床遺伝専門医	内分泌・代謝	遺伝性疾患

□診療科の特徴

施設認定等	日本内分泌学会研修施設
	日本甲状腺学会認定施設

1．内分泌代謝疾患に関する良質で高水準の医療を提供している。
2．満足のいく十分な説明を行い，安心できる医療を提供している。
3．十分な診療情報提供と逆紹介により，病診連携を促進していている。
4．地域における内分泌代謝疾患の専門診療を担っており，1999年には内分泌代謝性疾患に関する高度専門医療施設(準ナショナルセンター)として国の指定を受け，全国の内分泌・代謝疾患の「専門医療施設」と内分泌・代謝疾患ネットワークを構築している(EMネット)。

□代表的診療対象疾患

●下垂体疾患

下垂体腫瘍：先端巨大症，クッシング病，プロラクチノーマ，TSH 産生腫瘍など

下垂体機能低下症：汎下垂体機能低下症（ Sheehan 症候群を含む），下垂体ホルモン単独欠損症（低身長症を含む），中枢性尿崩症 *，リンパ球性下垂体炎など

●甲状腺疾患

甲状腺機能亢進症（甲状腺中毒症）：バセドウ病，プランマー病など

破壊性甲状腺中毒症：亜急性甲状腺炎，無痛性甲状腺炎など

甲状腺機能低下症：慢性甲状腺炎（橋本病），術後または放射性ヨード療法後の甲状腺機能低下症，先天性甲状腺機能低下症（甲状腺ホルモン不応症 * を含む）など

甲状腺腫瘍（腺腫様甲状腺腫を含む）

●カルシウム・骨疾患

高カルシウム血症：原発性副甲状腺機能亢進症，悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症など

低カルシウム血症：副甲状腺機能低下症（偽性副甲状腺機能低下症を含む）など

骨粗鬆症

●副腎疾患

副腎腫瘍：クッシング症候群，原発性アルドステロン症（特発性アルドステロン症を含む），褐色細胞腫 *，副腎偶発腫など

副腎皮質機能低下症：アヂソン病，急性副腎不全（副腎クリーゼを含む）など

先天性副腎過形成 *

●性腺疾患

ターナー症候群，クラインフェルター症候群，性腺機能低下症など

●メタボリックシンドローム

高血圧，肥満，糖尿病などの生活習慣病の中にも内分泌の病気が隠れています。

●内分泌性高血圧

高血圧の約 15％はホルモンの異常による内分泌性高血圧で，下垂体，甲状腺，副甲状腺，副腎，腎臓などのホルモン過剰が原因となります。適確な診断と治療で治癒可能なことが多いので，専門医の受診を勧めます。原発性アルドステロン症が代表です。

●その他

腎性尿崩症 *，多発性内分泌腺腫症 (Ⅰ型，Ⅱ型)*

電解質異常（低カリウム血症，低ナトリウム血症など），高脂血症，高尿酸血症など

* 遺伝子検査が可能

□診療(業務)内容

●内分泌代謝疾患とは「ホルモンの乱れに起因する病気」を総称するもので，下垂体，甲状腺，副甲状腺，副腎，性ホルモンの異常をきたす疾患の他，内分泌疾患を疑う必要のある，高血圧，糖尿病，肥満，高脂血症などの生活習慣病，電解質異常，骨粗鬆症などを対象として，診療にあたっている。

●外来では，血液検査，画像検査（レントゲン，CT，MRI，アイソトープ検査や甲状腺エコー），甲状腺の細胞診などを行っている。遺伝子診断・遺伝相談，セカンドオピニオン外来を実施している。

●入院では，上記疾患の診断と治療の他，バセドウ病のアイソトープ治療，甲状腺眼症のステロイドパルス療法，原発性アルドステロン症の副腎静脈サンプリング検査などを実施している。

入院患者数

	１日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	6.9	233	10.6

外来患者数

	１日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	53.8	77.1%	62.6%

主な手術・検査の件数など

	甲状腺エコー	甲状腺細胞診	遺伝子検査	遺伝カウンセリング
2011年度	1,331件	181件	62件	24件

□地域医療連携・広報活動

市民公開講座「世界高血圧デー企画市民公開講座」2011年5月14日

下垂体患者の会　医療講演会「とことん甲状腺」イン京都　2011年9月11日

伏見内分泌代謝ネットワーク「第15回連携の会」2011年4月9日

伏見内分泌代謝ネットワーク「第16回連携の会」2011年10月27日

□学術活動報告（学会・研究発表など）

年	場　所	内	容	
2011	国際学会	田上哲也	The SITSH:an update	国際分子甲状腺学シンポジウム、11/21、大阪
2011	国際学会	K Nanba, T Tamanaha, K Nakao, S Kawashima, A Yuno, T Usui, T Tagami, A Shimatsu, M Naruse	Clinical characteristics in elderly patients with primary aldosteronism	ENDO 2011、June 4-7, 2011、Boston
2011	国際学会	K Nakao, K Nanba, S Kawashima, A Yuno, T Tamanaha, T Tagami, T Yamamoto, S Minamiguchi, T Usui, A Shimatsu, M Naruse	Clinical significance of the histopathological grading scoring in malignant pheochromocytoma/paraganglioma	ENDO 2011、June 4-7, 2011、Boston
2011	国内学会	中尾佳奈子, 難波多挙, 革嶋幸子, 湯野暁子, 玉那覇民子, 田上哲也, 臼井健, 島津章, 成瀬光栄	難治性疾患である悪性褐色細胞腫の臨床像と病理組織学的所見の解析	第34回日本高血圧学会総会、10/20-22、宇都宮
2011	国内学会	難波多挙、中尾佳奈子、革嶋幸子、玉那覇民子、臼井健、田上哲也、島津章、成瀬光栄	高齢者における原発性アルドステロン症の臨床像に関する検討	第34回日本高血圧学会総会、10/20-22、宇都宮
2011	国内学会	難波多挙、中尾佳奈子、革嶋幸子、湯野暁子、玉那覇民子、臼井健、田上哲也、島津章、成瀬光栄	臨床像および機能確認検査による原発性アルドステロン症(PA)の病型診断に関する検討	第34回日本高血圧学会総会、10/20-22、宇都宮
2011	国内学会	中尾佳奈子，臼井　健，池田真悠実，革嶋幸子，難波多挙，湯野暁子，玉那覇民子，田上哲也，成瀬光栄，森　祐輔，安里　亮，山本鉄郎，島津　章	新規RET遺伝子の重複変異による多発内分泌腫瘍２B型（MEN２B）の１例	第12回日本内分泌学会近畿支部学術集会,10/22,神戸
2011	国内学会	革嶋幸子, 難波多挙，中尾佳奈子，玉那覇民子，立木美香，臼井　健，田上哲也，黒田昌志，伊藤　剛，島津　章，成瀬光栄	原発性アルドステロン症(PA)における副腎CT所見と副腎静脈サンプリング(AVS)による局在診断の比較	第12回日本内分泌学会近畿支部学術集会,10/22,神戸
2011	国内学会	立木美香，難波多挙，澤井邦子，玉那覇民子，中尾佳奈子，革嶋幸子，臼井健，田上哲也，奥野　博，山本鉄郎，島津　章，西本紘一郎，向井邦晃，成瀬光栄	原発性アルドステロン症(PA)の非腫瘍部におけるAldosteron-producing cell cluster(APCC)に 関する免疫組織化学的検討	第12回日本内分泌学会近畿支部学術集会,10/22,神戸
2011	国内学会	難波多挙、澤井邦子、玉那覇民子、中尾佳奈子、革嶋幸子、臼井健、田上哲也、奥野博、山本鉄郎、島津章、西本紘嗣郎、向井邦晃、成瀬光栄	アルステロン産生腺腫におけるCYP11B2およびCYP11B1発現に関する免疫組織化学的検討	第12回日本内分泌学会近畿支部学術集会,10/22,神戸
2011	国内学会	玉那覇民子, 島津智子, 中尾佳奈子, 湯野暁子, 革嶋幸子, 難波多挙, 田上哲也, 臼井健, 徳重誠, 山本鉄郎, 島津章, 成瀬光栄, 笹野公伸	男性化徴候より副腎疾患が疑われたテストステロン産生卵巣腫瘍の1例	第15回日本内分泌病理学会、11/23-25、東京

2011	国内学会	立木美香, 難波多挙, 澤井邦子, 玉那覇民子, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 臼井健, 田上哲也, 奥野博, 山本鉄郎, 島津章, 西本紘一郎, 向井邦晃, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症の非腫瘍部におけるAldosterone-producing cell cluster(APCC)に 関する免疫組織化学的検討	第15回日本内分泌病理学会、11/23-25、東京
2011	国内学会	難波多挙、澤井邦子、玉那覇民子、中尾佳奈子、革嶋幸子、立木美香、臼井健、田上哲也、奥野博、山本鉄郎、島津章、西本紘嗣郎、向井邦晃、成瀬光栄	原発性アルドステロン症の病理診断の進歩と課題 アルドステロン産生腺腫におけるCYP11B2およびCYP11B1免疫染色の発現動態解析と診断的意義に関する検討	第15回日本内分泌病理学会、11/23-25、東京
2011	国内学会	難波多挙、中尾佳奈子、革嶋幸子、湯野暁子、玉那覇民子、臼井健、田上哲也、成瀬光栄、島津章	後腹膜線維症を合併したIgG4関連下垂体炎の2例	第38回日本神経内分泌学会，11/25，東京
2011	国内学会	中尾佳奈子, 革嶋幸子, 難波多挙, 湯野暁子, 玉那覇民子, 臼井健, 成瀬光栄, 島津章, 田上哲也	免疫グロブリンGによりFT4偽高値を呈しSITSHと鑑別を要した橋本病の一例	第54回日本甲状腺学会、11/21-23、大阪
2011	国内学会	田上哲也, 臼井健, 島津章, 成瀬光栄, BBGD班	抗甲状腺剤によるバセドウ病治療におけるβ遮断薬併用の有用性　前向き無作為オープン試験	第54回日本甲状腺学会、11/21-23、大阪
2011	国内学会	安宅麻美, 山本裕之, 二若久美, 田上哲也, 森山賢治	新規甲状腺ホルモン受容体アイソフォームβ4の細胞内局在に関する基礎的検討	第54回日本甲状腺学会、11/21-23、大阪
2011	国内学会	金本巨哲, 田上哲也, 上田依利子, 山下唯, 近藤絵里, 藤井寿人, 曽根正勝, 三浦晶子, 八十田明宏, 荒井宏司, 中尾一和	FOXA1とFOXA2は肝臓特異的にヒト1型脱ヨード酵素遺伝子発現を調節する	第54回日本甲状腺学会、11/21-23、大阪
2011	国内学会	難波多挙、臼井健、方波見卓行、金本巨哲、岸谷譲、花岡郁子、田上哲也、成瀬光栄、島津章	機能性結節性甲状腺腫におけるTSH受容体遺伝子およびGsα遺伝子の変異に関する検討	第54回日本甲状腺学会、11/21-23、大阪
2011	国内学会	難波多挙、臼井健、牛呂幸司、安里亮、関山健太郎、中尾佳奈子、革嶋幸子、湯野暁子、玉那覇民子、田上哲也、成瀬光栄、島津章	抗甲状腺薬の副作用のため手術療法を行い出産に至ったバセドウ病合併妊娠の一例	第54回日本甲状腺学会、11/21-23、大阪
2011	国内学会	玉那覇民子, 上田依利子, 中尾佳奈子, 難波多挙, 革嶋幸子, 湯野暁子, 田上哲也, 臼井健, 奥野博, 南口早智子, 古家美幸, 笹野公伸, 島津章, 成瀬光栄	両側副腎腫瘍によるクッシング症候群の一例	第84回日本内分泌学会、4/21-23、神戸
2011	国内学会	難波多挙,臼井健、渡邉佳紀、本多啓吾、南口早智子、安里亮、湯野暁子、革嶋幸子、中尾佳奈子、玉那覇民子、田上哲也、成瀬光栄、島津章	中毒性多発結節性甲状腺腫(TMNG)における新規TSH受容体遺伝子変異に関する検討	第84回日本内分泌学会、4/21-23、神戸
2011	国内学会	難波多挙、中尾佳奈子、革嶋幸子、湯野暁子、玉那覇民子、臼井健、田上哲也、島津章、成瀬光栄	原発性アルドステロン症の病型分類に基づく臨床像の比較	第84回日本内分泌学会、4/21-23、神戸
2011	国内学会	中尾佳奈子, 臼井健, 難波多挙, 革嶋幸子, 湯野暁子, 玉那覇民子, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章	67歳で腹部手術を契機に診断された家族性中枢性尿崩症(FNDI)の一例	第84回日本内分泌学会、4/21-23、神戸
2011	国内学会	田上哲也, 臼井健, 山本裕之, 森山賢治, 島津章, 成瀬光栄	イルベサルタンによるPPARδ活性化	第84回日本内分泌学会、4/21-23、神戸
2011	国内学会	中尾佳奈子, 難波多挙, 革嶋幸子, 玉那覇民子, 田上哲也, 臼井健, 南口早智子, 島津章, 成瀬光栄	悪性褐色細胞腫12例の臨床像と病理組織学的所見の解析	第84回日本内分泌学会、4/21-23、神戸
2011	国内学会	玉那覇民子, 中尾佳奈子, 難波多挙, 湯野暁子, 革嶋幸子, 田上哲也, 臼井健, 三品睦輝, 奥野博, 南口早智子, 島津章, 成瀬光栄, 西本紘嗣郎, 向井邦晃, 笹野公伸	副腎過形成が示唆された原発性アルドステロン症(PA)の一例	第84回日本内分泌学会、4/21-23、神戸
2011	国内学会	臼井健, 革嶋幸子, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章	本邦における21水酸化酵素欠損症132家系の遺伝子変異の検出	第18回日本遺伝子診療学会、6/16-19、京都
2011	国内学会	難波多挙, 玉那覇民子，山口将，中久木卓也，小田垣孝雄，南口早智子, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 湯野暁子, 臼井健, 田上哲也，成瀬光栄，島津章	下垂体卒中様症状で発見された高齢のIgG4関連リンパ球性下垂体炎の一例	第21回日本間脳下垂体腫瘍学会、3/11-12、東京
2011	国内学会	革嶋幸子, 難波多挙, 中尾佳奈子, 玉那覇民子, 立木美香, 臼井健, 田上哲也, 黒田昌志, 伊藤剛, 島津章, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症のCT所見とAVSによる局在診断の比較	第21回臨床内分泌代謝Update，1/27-28，浜松
2011	国内学会	中尾佳奈子, 植田洋平, 垣田真以子, 革嶋幸子, 難波多挙, 玉那覇民子, 立木美香, 田上哲也, 臼井健, 奥野博, 島津章, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症術後の腎機能と血清K濃度の予知因子	第21回臨床内分泌代謝Update，1/27-28，浜松

2011	国内学会	玉那覇民子, 垣田真以子, 植田洋平, 中尾佳奈子, 難波多挙, 革嶋幸子, 臼井健, 田上哲也, 奥野博, 南口早智子, 島津章, 西本紘嗣郎, 向井邦晃, 笹野公伸, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症2例のCYP11B2免疫染色による病型診断	第21回臨床内分泌代謝Update，1/27-28，浜松
2011	国内学会	立木美香, 難波多挙, 澤井邦子, 玉那覇民子, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 臼井健, 田上哲也, 奥野博, 山本鉄郎, 島津章, 田辺晶代, 西本紘嗣郎, 向井邦晃, 成瀬光栄	PA球状層におけるCYP11B2発現動態とその病態生理学的意義	第21回臨床内分泌代謝Update，1/27-28，浜松
2011	国内学会	成瀬光栄, 大谷すみれ, 宮崎康, 田中剛史, 波多史郎, 小河淳, 立木美香, 田上哲也	国立病院機構(NHO)ネットワークを活用したPAに関する研究	第21回臨床内分泌代謝Update，1/27-28，浜松
2011	国内学会	難波多挙、澤井邦子、玉那覇民子、立木美香、中尾佳奈子、革嶋幸子、臼井健、田上哲也、奥野博、山本鉄郎、島津章、西本紘嗣郎、向井邦晃、成瀬光栄	アルドステロン産生腺腫のCYP11B2免疫染色と臨床所見の比較	第21回臨床内分泌代謝Update，1/27-28，浜松
2011	国内学会	廣田圭昭、難波多挙、臼井健、中村道三、豊田有子、中尾佳奈子、革嶋幸子、湯野暁子、玉那覇民子、田上哲也、成瀬光栄、島津章	新規GATA3遺伝子変異と認めたHDR症候群の一例	第21回臨床内分泌代謝Update，1/27-28，浜松
2011	国内学会	森山賢治, 李娟娥, 山本裕之, 桑村優衣子, 安宅麻美, 田上哲也	漢方薬構成生薬中のPPARsに対する有効成分の探索と効果評価の試み	第54回日本糖尿病学会、5/19-21、札幌
2011	国内学会	池田真悠実，中尾佳奈子，臼井　健，田上哲也，成瀬光栄，島津　章，森祐輔, 安里　亮，山本鉄郎	新規RET遺伝子の重複変異による多発内分泌腫瘍２B型（MEN２B）の１例	第195回日本内科学会近畿地方会、9/10、大阪
2011	国内学会	難波多挙、中尾佳奈子、革嶋幸子、湯野暁子、玉那覇民子、田上哲也、臼井健、成瀬光栄、島津章	後腹膜線維症を伴ったIgG4関連下垂体炎の2例	第195回日本内科学会近畿地方会，9/10，大阪
2011	国内学会	中西宏貴、難波多挙、臼井健、松永敬子、中尾佳奈子、玉那覇民子、田上哲也、成瀬光栄、八幡兼成、島津章	7年間の経過で診断されたGitelman症候群の1例	第196回日本内科学会近畿地方会，12/17，京都
2011	研究会	Kazutaka Nanba, Tamiko Tamanaha, Kanako Nakao, Sachiko Kawashima, Akiko Yuno, Takeshi Usui, Tetsuya Tagami, Akira Shimatsu, Mitsuhide Naruse	Comparison of clinical characteristics between elderly and younger patients with primary aldosteronism	37th Meeting of the International Aldosterone Conference, June 2-3, 2011、Boston
2011	研究会	難波多挙、中尾佳奈子、玉那覇民子、立木美香、臼井健、田上哲也、島津章、成瀬光栄	高齢者における原発性アルドステロン症の臨床像	第3回アルドステロンフォーラム、1/21、東京
2011	研究会	難波多挙、中尾佳奈子、植田洋平、垣田真以子、玉那覇民子、立木美香、臼井健、田上哲也、島津章、成瀬光栄	造影剤アレルギーにてAVS実施不可であった一側性PAの一例	第3回アルドステロンフォーラム、1/21、東京
2011	研究会	革嶋幸子, 臼井健, 中尾佳奈子，難波多挙、湯野暁子、玉那覇民子, 田上哲也, 成瀬光栄, 森祐輔, 安里亮, 南口早智子, 島津章	副甲状腺癌が疑われた２症例の臨床的・病理的・分子遺伝学的検討	第80回京都内分泌同好会，3/5．京都
2011	研究会	湯野暁子	ラトケ嚢胞をご存じですか？	伏見内分泌代謝ネットワーク第15回連携の会，4/9，京都
2011	研究会	難波多挙	完治した18年来の高血圧	伏見内分泌代謝ネットワーク第15回連携の会，4/9，京都
2011	研究会	中尾佳奈子	治ったはずがまた甲状腺中毒症に	伏見内分泌代謝ネットワーク第15回連携の会，4/9，京都
2011	研究会	成瀬光栄	内分泌のトレーニング	伏見内分泌代謝ネットワーク第15回連携の会，4/9，京都
2011	講演会	成瀬光栄	高血圧の基礎知識：高血圧全般のお話	世界高血圧デー企画市民公開講座，5/14，京都
2011	講演会	田上哲也	高血圧の基礎知識：白衣高血圧と仮面高血圧	世界高血圧デー企画市民公開講座，5/14，京都
2011	講演会	玉那覇民子	高血圧の基礎知識：日常生活の注意	世界高血圧デー企画市民公開講座，5/14，京都
2011	講演会	成瀬光栄	高血圧の基礎知識：食塩と高血圧	世界高血圧デー企画市民公開講座，5/14，京都
2011	講演会	難波多挙	原発性アルドステロン症：どんな病気か知っていますか	世界高血圧デー企画市民公開講座，5/14，京都
2011	講演会	中尾佳奈子	原発性アルドステロン症：検査・治療のお話	世界高血圧デー企画市民公開講座，5/14，京都

2011	研究会	湯野暁子	クッシング症候で初発し再発時に男性化徴候を示した41歳女性	第８回 京都地区病院研修医･若手医師のための代謝･内分泌セミナー，6/16，京都
2011	研究会	田上哲也	生活習慣と骨折	伏見骨セミナー，7/7、京都
2011	研究会	難波多挙、中尾佳奈子，革嶋幸子, 湯野暁子、玉那覇民子, 田上哲也, 臼井健, 成瀬光栄, 島津章	後腹膜線維症を伴ったIgG4関連下垂体炎の２例	第44回間脳下垂体疾患研究会，8/27，京都
2011	研究会	湯野暁子、臼井健, 中尾佳奈子，革嶋幸子, 難波多挙、玉那覇民子, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章	偽性副甲状腺機能低下症におけるGNAS遺伝子群のメチル化解析	第81回京都内分泌同好会，9/3，京都
2011	講演会	田上哲也	甲状腺のすべて	下垂体患者の会　医療講演会「とことん甲状腺」イン京都，9/11，京都
2011	研究会	田上哲也	降圧薬イルベサルタンのビヨンドクラスエフェクト：PPAR活性化の分子機構	メタボリック治療を考える，10/27，京都
2011	研究会	難波多挙	Mayoレポート：米国での内分泌診療	伏見内分泌代謝ネットワーク第16回連携の会，10/27，京都
2011	研究会	中尾佳奈子	ホルモン高値の甲状腺機能低下症	伏見内分泌代謝ネットワーク第16回連携の会，10/27，京都
2011	研究会	玉那覇民子	副腎は二つも必要でしょうか	伏見内分泌代謝ネットワーク第16回連携の会，10/27，京都
2011	研究会	立木美香	東日本大震災と内分泌診療	伏見内分泌代謝ネットワーク第16回連携の会，10/27，京都
2011	講演会	難波多挙	原発性アルドステロン症の診断と治療	第4回CKDを語る会，11/11，京都
2011	研究会	難波多挙、中西宏貴，植田洋平，垣田真以子，中尾佳奈子，革嶋幸子, 玉那覇民子, 田上哲也, 臼井健, 成瀬光栄, 島津章，八幡兼成，松永敬子	原因不明の低カリウム血症，その診断は？	第70回伏見医師学術集談会，11/19，京都
2011	研究会	植田洋平	尿路結石を繰り返す21歳男性	第９回京都地地区病院研修医・若手医師のための代謝・内分泌セミナー，12/8，京都
2011	研究会	垣田真衣子，五十嵐修太，田上哲也	感冒を契機に心不全の急性増悪を来たした49歳女性	第９回京都地区病院研修医・若手医師のための代謝・内分泌セミナー，12/8，京都
2011	研究会	Kazutaka Nanba, Mika Tsuiki, Kuniko Sawai, Kanako Nakao, Tamiko Tamanaha, Takeshi Usui, Tetsuya Tagami, Akira Shimatsu, Mitsuhide Naruse	Clinical impact of CYP11B2 immunostaining in the diagnosis of PA	Meet the specialist，12/8，京都

□投稿論文など

年	著書・雑誌名			巻・ページ
2011	J Clin Endocrinol Metab	Tagami T, Usui T, Shimatsu A, Beniko M, Yamamoto H, Moriyama K, Naruse M.	Aberrant expression of thyroid hormone receptor beta isoform may cause inappropriate secretion of TSH in a TSH-secreting pituitary adenoma.	96(6):E948-52
2011	Endocrinology	Kanamoto N, Tagami T, Ueda-Sakane Y, Sone M, Miura M, Yasoda A, Tamura N, Arai H, Nakao K.	Forkhead box A1 (FOXA1) and A2 (FOXA2) oppositely regulate human type 1 iodothyronine deiodinase gene in liver.	153(1):492-500
2011	Endocr J	Nanba K, Usui T, Minamiguchi S, Mori Y, Watanabe Y, Honda K, Asato R, Nakao K, Kawashima ST, Yuno A, Tamanaha T, Tagami T, Naruse M, Akiyama Y, Shimatsu A.	Two rare TSH receptor amino acid substitutions in toxic thyroid adenomas.	59(1):13-9

2011	Endocr J	Tagami T, Kimura H, Ohtani S, Tanaka T, Tanaka T, Hata S, Saito M, Miyazaki Y, Araki R, Tanaka M, Yonezawa K, Sawamura M, Ise T, Ogo A, Shimbo T, Shimatsu A, Naruse M; PHPH study group.	Multi-center study on the prevalence of hypothyroidism in patients with hypercholesterolemia.	58(6):449-57
2011	Modern Physician	田上哲也	私の処方　Basedow病の治療	31巻12号 Page1524-1525(2011.12)
2011	Modern Physician	田上哲也	【甲状腺疾患へのアプローチ】臨床に必要な甲状腺基礎知識 甲状腺ホルモンの作用	31巻4号 Page382-384(2011.04)
2011	症候群ハンドブック	田上哲也	ホフマン症候群	405
2011	日本臨床	成瀬光栄, 立木美香, 中尾佳奈子, 難波多挙, 田上哲也, 田辺晶代	【内分泌腺腫瘍　基礎・臨床研究のアップデート】副腎腫瘍 副腎腫瘍の治療　褐色細胞腫の治療戦略　概論	69巻増刊2 内分泌腺腫瘍 Page536-539(2011.03)
2011	日本臨床	成瀬光栄, 中尾佳奈子, 難波多挙, 玉那覇民子, 田上哲也, 立木美香, 田辺晶代, 島津章	【内分泌腺腫瘍　基礎・臨床研究のアップデート】内分泌腺腫瘍の臨床的課題と最近の進歩 褐色細胞腫の場合	69巻増刊2 内分泌腺腫瘍 Page15-25(2011.03)
2011	家族性腫瘍	臼井健, 革嶋幸子, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章	本邦における21水酸化酵素欠損症132家系の遺伝子変異の検出	11巻2号 PageA81(2011.05)
2011	医学と薬学	難波多挙, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 湯野暁子, 玉那覇民子, 田上哲也, 臼井健, 成瀬光栄, 島津章	後腹膜線維症を伴ったIgG4関連下垂体炎の2例	66巻4号 Page644(2011.10)
2011	診療と新薬	難波多挙, 奥紗織, 田上哲也	甲状腺中毒症を呈した52歳女性	48巻2号 Page219-220(2011.02)
2011	日本内分泌学会雑誌	玉那覇民子, 島津智子, 中尾佳奈子, 湯野暁子, 革嶋幸子, 難波多挙, 田上哲也, 臼井健, 徳重誠, 山本鉄郎, 島津章, 成瀬光栄, 笹野公伸	男性化徴候より副腎疾患が疑われたテストステロン産生卵巣腫瘍の1例	87巻2号 Page838-839(2011.09)
2011	日本内分泌学会雑誌	立木美香, 難波多挙, 澤井邦子, 玉那覇民子, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 臼井健, 田上哲也, 奥野博, 山本鉄郎, 島津章, 西本紘一郎, 向井邦晃, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症の非腫瘍部におけるAldosterone-producing cell cluster(APCC)に関する免疫組織化学的検討	87巻2号 Page825-826(2011.09)
2011	日本内分泌学会雑誌	臼井健, 革嶋幸子, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章	21水酸化酵素欠損症遺伝子診断の現状と未来	87巻Suppl Page92-93(2011.06)
2011	日本内分泌学会雑誌	中尾佳奈子, 難波多挙, 革嶋幸子, 湯野暁子, 玉那覇民子, 田上哲也, 臼井健, 島津章, 山本鉄郎, 南口早智子, 成瀬光栄	悪性褐色細胞腫10例の臨床像の解析	87巻Suppl Page64-65(2011.06)
2011	日本内分泌学会雑誌	難波多挙, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 玉那覇民子, 臼井健, 田上哲也, 奥野博, 島津章, 成瀬光栄	高齢者の原発性アルドステロン症の臨床像　自験109例での検討	87巻Suppl Page59-60(2011.06)
2011	褐色細胞腫診療マニュアル 改訂第2版	難波多挙、成瀬光栄、久保速三	薬物療法②：骨転移の薬物療法②	86-87
2011	褐色細胞腫診療マニュアル 改訂第2版	難波多挙、立木美香、成瀬光栄	薬物療法④：慢性便秘に対する治療	92-93
2011	内分泌画像検査・診断マニュアル	田上哲也	第３章　甲状腺疾患　A　総論	76-77
2011	内分泌画像検査・診断マニュアル	田上哲也	第３章　甲状腺疾患　B　Basedow病　1　甲状腺超音波検査	78-82

科　名：糖尿病センター



内科医長
山田　和範

専門医資格等
　京都大学医学博士
　京都大学臨床教授
専門分野　糖尿病
得意疾患　糖尿病



内科医長
河野　茂夫

専門医資格等
　日本糖尿病学会　糖尿病専門医
　日本内分泌学会　内分泌
　代謝科専門医・指導医
　日本内科学会　認定内科医
　総合内科専門医･指導医
　日本糖尿病学会　評議員
　京都大学医学博士
　京都大学臨床教授
専門分野　糖尿病
得意疾患　足病変

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
内科医師	村田　敬	日本内科学会　認定内科医 東京大学医学博士	糖尿病	若年者糖尿病
内科医師	中川内　玲子	日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内科学会　認定内科医･総合内科専門医	糖尿病	足病変
内科医師	小鳥　真司	日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医 日本内科学会　認定内科医	糖尿病	糖尿病
レジデント	井口　梓	日本内科学会　認定内科医	糖尿病	糖尿病
レジデント	岸　純一郎		糖尿病	糖尿病
レジデント	橡谷　真由	日本内科学会　認定内科医	糖尿病	糖尿病
臨床研究センター長	島津　章	日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内科学会　認定内科医･総合内科専門医･指導医 日本病態栄養学会　認定NSTコーディネーター 京都大学医学博士 京都大学臨床教授	内分泌代謝疾患、検査医学、神経内分泌	内分泌代謝疾患、検査医学、神経内分泌
予防医学研究室長	坂根　直樹	日本内科学会　認定内科医 日本肥満学会　評議員 京都府立医科大学医学博士	糖尿病	糖尿病教育
臨床代謝栄養研究室長	浅原　哲子	日本糖尿病学会　糖尿病専門医・研修指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本内科学会　認定内科医 日本肥満学会　評議員 日本病態栄養学会　評議員 日本肥満症治療学会　評議員 京都大学医学博士 京都大学非常勤講師	糖尿病、肥満（メタボリックシンドローム）疾患	糖尿病、肥満（メタボリックシンドローム）疾患
非常勤医師	重光　松崇		糖尿病	糖尿病
非常勤医師	吉良　友里		糖尿病	糖尿病
非常勤医師	小谷　和彦		糖尿病	糖尿病

□診療科の特徴

施設認定等	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本肥満学会認定専門病院

1．生活習慣病である糖尿病の治療には、患者さんご自身が自己管理能力を身につけることが大事です。当科では糖尿病教育、すなわち患者さんへの教育を実施すると同時に、患者さんに対する指導能力を高めた

教育スタッフを育成し、より一層の治療実績アップに努めます
２．地域の糖尿病基幹病院としての責務を果たすべく、地域連携に努めます

□代表的診療対象疾患

2型糖尿病、耐糖能異常、1型糖尿病、肥満症、メタボリック症候群、糖尿病神経障害と糖尿病足病変、糖尿病腎症、糖尿病網膜症(眼科)、妊娠糖尿病、脂質異常症(高脂血症)、糖尿病性昏睡、重症低血糖

□診療(業務)内容

糖尿病センターでは一般糖尿病外来および入院での診療に加えてさまざまな専門外来を開設し、さまざまなタイプの糖尿病および関連疾患およびそれらの合併症の充実した診療活動につながっている。

下記に専門外来の診療活動について紹介する。

・フットケア外来　毎週月曜日14時～ /フットセンター外来　毎週火曜日14時～　(2000年開設)　フットケア外来では、主に糖尿病に由来する足病変に対応し、全国各地からの紹介患者を集めている。また、非糖尿病足病変患者に対する問い合わせも多く、難治性の足病変を扱う集学的な欧米型のフットセンターを目指している。フットセンター外来では初診は糖尿病センターで行い、一般診察をした上で、関係担当診療科へ紹介している。

・フットウェア外来(月2回：木曜日13時～ 16時　完全予約制)　フットウェア外来では義肢装具士がオーストリア人の整形外科靴マイスター (Orthopedic Shoe Meiste)と協力して、靴・装具の指導や調整にあたっている。

・1型糖尿病外来(2005年開設)毎週　火曜日9時～ 16時・金曜日9時～ 12時/インスリンポンプ外来(2010年開設)　毎週　月曜日　14時～ 16時

1型糖尿病は若い時期に発症することも多く、合併症予防のためにはインスリンをうまく調節して血糖値をほぼ正常化させることが重要である。1型糖尿病外来では、重症低血糖を起こすことなく血糖コントロールを改善する方法(カーボカウント、修正インスリンなど)につき、医師・看護師・管理栄養士のチームがわかりやすく指導している。インスリンポンプ療法(CSII)を行っている患者は50名以上おり、希望があれば外来でのCSII導入も行っている。　2011年度　1型糖尿病外来(火・金)　延べ外来患者数　1007人　(うち新患　21人)　CSII外来(月)延べ外来患者数　94人

・肥満・メタボリックシンドローム外来(2001年開設)　毎週　月曜日・水曜日9時～ 14時　肥満・メタボリックシンドローム外来では、医師・看護師・栄養士によるチーム医療をベースに、体重グラフや食事記録表を登載した当院独自の「ダイエットノート」を活用して日本肥満学会が提唱する行動療法的アプローチに基づく減量指導を行っている。また動脈硬化や睡眠時無呼吸症候群等の合併症も定期的に評価している。

また、外来患者を中心として2006年よりメタボリックシンドローム会(患者会)を定期的に開催。さらにメタボ通信、メタボランチなどをチーム医療で展開している。2009年には本活動をまとめた「チームで撲滅！メタボリックシンドローム」(診断と治療社)を刊行。外来開設からの延べ患者数12,000人以上、他院・他科からの紹介率も高く、新患100人以上(年間)に昇る。

・高脂血症外来(2005年開設)　毎週木曜日10時～ 15時　/高脂血症療養指導外来(2006年開設)　毎週木曜日10時～ 15時

家族性高コレステロール血症(FH)、家族性複合型高脂血症(FCHL)など脂質異常症を対象。頸動脈や特殊検査による動脈硬化リスク評価を行い、管理目標値を設定。管理栄養士による療養指導外来を併設。飲酒問題を抱える高中性脂肪者に対する節酒プログラム(HAPPYプログラム)を実施。スタチン副作用例への対応なども行っている。　外来開設からの患者数454人(2005年11月～ 2011年3月)　内訳　・家族性高コレステロール血症　45例

・Ⅱa型 132例　・Ⅱb型 122例　・Ⅳ型　66例　・Ⅲ・Ⅴ型　1例　・その他　88例

・妊娠糖尿病外来(2007年3月開設)　毎週金曜日13時～ 15時　妊娠糖尿病は妊娠中に初めて発見された軽

度の(糖尿病には至っていないレベルの)耐糖能異常で巨大児その他の周産期合併症の原因となる。
また出産後の糖尿病発症リスクが増大する。平成23年度当外来にて診断・管理された妊娠糖尿病は16名であった。妊娠前に糖尿病を発症した場合、糖尿病合併妊娠となり、胎児奇形が大きな問題となり、妊娠前血糖管理が重要となる。2011年度、1型糖尿病合併妊娠は2名、2型糖尿病合併妊娠は4名であった。

・糖尿病血管合併症外来　毎週金曜日13時～ 16時　　糖尿病血管合併症外来では、糖尿病血管合併症のスクリーニングを行い、他科との緊密な連携によって治療にあたっている。特に、閉塞性動脈硬化症などの合併症に加え腎機能障害を有する糖尿病患者の短期入院で、外来での施行が困難な造影剤による画像検査を施行し、定期的なスクリーニング・治療への展開も検討している。
さらに、糖尿病センターではコメディカルスタッフによる指導として一般糖尿病食事指導(管理栄養士)および糖尿病療養指導外来(インスリン自己注射、血糖自己測定、フットケア指導など：看護師)を開設している。また、自己管理(療養)を患者に指導する医療スタッフである糖尿病療養指導士(CDE)は、当院内で17名を擁し、綿密な糖尿病セルフケアを支援している。

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	16.5	339	18.3

外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	100.5	74.4%	119.6%

主な手術・検査の件数など

	CGM(連続皮下ブドウ糖測定)	CAVI/ABI測定	CT(内臓脂肪面積測定)	リポプリント解析
2011年度	58件	720件	540件	73件

□地域医療連携・広報活動

・糖友会(患者会)：日本糖尿病協会傘下の糖尿病患者組織。京都医療センター糖友会は昭和36年発足。現会長藤井弘氏。平成23 (2011)年度総会は11月23日　岡崎白河院にて開催。
食事研修(栄養士講演)など、参加24名。80歳男性会員が日本糖尿病協会名誉会員(80歳以上、糖尿病歴20年以上、協会在籍20年以上)に推挙。また、女性会員が日本糖尿病協会ガリクソン賞を受賞
(小児期発症の1型糖尿病患者で、社会、文化、芸術活動などで活躍した患者に授与)。

・糖尿病市民公開講座「第26回DM京都」 糖尿病と「こころ」 2011年6月19日　特別講演 「糖尿病との付き合い方-こころと身体-」講師：天理よろづ相談所病院内分泌内科　石井均部長

・第12回メタボリックシンドローム市民講座(肥満・メタボリックシンドローム外来10周年記念) 2011年9月17日　特別講座「あなたの脂肪を希望に変えるヒント」講師：琉球大学医学部第二内科(内分泌代謝・血液・膠原病内科)　益崎裕章教授

・1型糖尿病患者会「1型交流会」「1型糖尿病と災害時の備えについて」講師：楠部比佐子(造形作家)氏
2011年9月4日茶話会　2012年1月22日2011年8月27日

・医療従事者向け研修会「京都医療センター1型糖尿病セミナー」第7回1型糖尿病セミナー 「1型糖尿病患者のインスリン自己調節アルゴリズム」 2011年8月27日
第8回1型糖尿病セミナーin奥琵琶湖 「1型糖尿病のエンパワーメントアプローチ」 2012年2月25日-26日

・平成23年度JICA研修「生活習慣病予防対策研修コース：糖尿病対策について」、2011年9月7日

・平成23年度内分泌・代謝性疾患研修会「楽しくてためになる糖尿病教育～企画から評価まで～」、2011年11月15日-17日

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年月日	場　所	内　　容
2011年	兵庫	浅原哲子：肥満・メタボリック症候群における単球機能を標的とした動脈硬化早期診断パネルの構築と心腎疾患予防法　第32回日本肥満学会 学術奨励賞　講演(2011年9月、兵庫)
2011年	京都	浅原哲子：メタボリックシンドロームにおける心血管病リスク指標としてのCAVIの有用性と生活指導　第29回日本肥満症治療学会学術集会 ランチョンセミナー（2011年6月、京都）
2011年10月1～5日	Orland, Florida	Yamada-Goto N, Katsuura G, Ochi Y, Ebihara K, Kusakabe T, Sato-Asahara N, Hosoda K, Nakao K. Amylin has an antidepressant action in diet-induced obesity. OBESITY 2011 29th Annual Scientific Meeting. (2011年10月1 ～ 5日, Orland, Florida)
2011年11月12～16日	Orland, Florida	Takanabe-Mori R, Ono K, Wada H, Takaya T, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Takahashi Y, Fujita M, Fujita Y, Sawamura T, Hasegawa K. Soluble LOX-1 and LOX Index in Sera of Smoking Patients are Closely Associated with Highly Sensitive CRP and Expired Air Carbon Monoxide Concentrations. AHA2011米国心臓学会,American Heart Association Scientific Sessions 2011.(2011年11月12 ～ 16日, Orland, Florida)
2011年5月	北海道	浅原哲子、佐々木洋介、橡谷真由、姫野亜紀裕、村中和哉、山陰一、河野茂夫、島津章:肥満・メタボリック症候群におけるエイコサペンタエン酸による末梢血単球M1/M2タイプへの影響と抗動脈硬化作用　第54回日本糖尿病学会年次学術集会(2011年5月、北海道)
2011年5月	北海道	山田明、和田啓道、浦修一、北岡修二、浅原(佐藤)哲子、高谷智英、森(高鍋)利依子、赤尾昌治、森本達也、藤田正俊、高橋裕子、島津章、長谷川浩二：胎盤由来増殖因子(PlGF)は禁煙後の内臓脂肪蓄積、インスリン抵抗性憎悪を鋭敏に反映する　第54回日本糖尿病学会年次学術集会(2011年5月、北海道)
2011年5月	北海道	井口梓、浅原哲子、山陰一、橡谷真由、村中和哉、佐々木洋介、島津章、河野茂夫:肥満症・メタボリック症候群における睡眠時無呼吸の実態と減量効果－アディポサイトカインや動脈硬化指標との関連－　第54回日本糖尿病学会年次学術集会(2011年5月、北海道)
2011年5月	北海道	橡谷真由、浅原哲子、姫野亜紀裕、村中和哉、佐々木洋介、山陰一、島津章、河野茂夫：肥満症治療における減量成功およびリバウンドに対する抑うつ状態の関与　第54回日本糖尿病学会年次学術集会(2011年5月、北海道)
2011年5月	北海道	浦修一、和田啓道、山田明、北岡修二、浅原(佐藤)哲子、高谷智英、森(高鍋)利依子、赤尾昌治、阿部充、森本達也、藤田正俊、島津章、長谷川浩二：血管内皮増殖因子C（VEGF-C)はメタボリックシンドロームで上昇し、脂質異常、可溶性VEGF受容体2に関連する　第54回日本糖尿病学会年次学術集会(2011年5月、北海道)
2011年5月	北海道	和田啓道、尾野亘、浅原(佐藤)哲子、川村晃久、森本達也、上北和実、東堂龍平、山田和範、赤尾昌治、小坂田元太、島津章、長谷川浩二：プラバスタチンもしくはアトルバスタチンとロサルタンの併用が耐糖能患者の初期腎病変に及ぼす影響　第54回日本糖尿病学会年次学術集会(2011年5月、北海道)
2011年5月	北海道	姫野亜紀裕、浅原哲子、田中智洋、佐々木洋介、村中和哉、橡谷真由、山田伸子、勝浦五郎、中尾一和、島津章：高脂肪食または高炭水化物食負荷によるメタボリックパラメータの変化－エネルギー組成の差異がもたらす糖脂質代謝異常の検討－　第54回日本糖尿病学会年次学術集会(2011年5月、北海道)
2011年5月	北海道	宮永史子、浅原哲子、森崎裕子、山中到、小久保善弘、宮本恵宏、島津章、森崎隆幸：日本人の肥満発症及び減量治療抵抗性に関連する遺伝素因の探索－チロシンホスファターゼ1B遺伝子多型の検討－　第54回日本糖尿病学会年次学術集会(2011年5月、北海道)
2011年4月	神戸	浅原哲子、臼井健、橡谷真由、姫野亜紀裕、河野茂夫、島津章：肥満・メタボリック症候群におけるHPA axis activityの異常と心血管病リスクとの関連-唾液コルチゾールの検討-　第84回日本内分泌学会学術総会(2011年4月、神戸)　第85回日本内分泌学会雑誌・抄録集 vol.87 No.1 p.290 O3-7-5, 2011
2011年4月	神戸	宮永史子、浅原哲子、森崎裕子、山中到、小久保喜弘、宮本恵宏、森崎隆幸、島津章：日本人の肥満発症及び減量効果の遺伝素因の探索-PTP1Bの影響-　第84回日本内分泌学会学術総会(2011年4月、神戸)　第85回日本内分泌学会雑誌・抄録集 vol.87 No.1 p.344 P2-8-9, 2011
2011年9月23-24日	兵庫	浅原哲子、佐々木洋介、橡谷真由、姫野亜紀裕、村中和哉、山陰一、小鳥真司、河野茂夫、和田啓道、長谷川浩二、島津章：脂質代謝異常合併肥満症におけるEPAによる末梢血単球M1/M2タイプへの影響と抗動脈硬化作用 第32回日本肥満学会(2011年9月23-24日、兵庫)
2011年9月23-24日	兵庫	浦修一、和田啓道、北岡修二、浅原哲子、高谷智英、森利依子、赤尾昌治、阿部充、森本達也、尾野亘、藤田正俊、島津章、長谷川浩二：ヒト血中の血管内皮増殖因子A（VEGF-A)及びC(VEGF-C)の心血管危険因子との関連 第32回日本肥満学会(2011年9月23-24日、兵庫)
2011年9月23-24日	兵庫	井口梓、山陰一、橡谷真由、村中和哉、佐々木洋介、島津章、河野茂夫、浅原哲子:肥満症・メタボリック症候群における睡眠時無呼吸症候群の重症度と心血管病リスクとの関連 第32回日本肥満学会(2011年9月23-24日、兵庫)
2011年9月23-24日	兵庫	佐々木洋介、浅原哲子、村中和哉、橡谷真由、姫野亜紀裕、山陰一、河野茂夫、島津章:肥満・2型糖尿病患者における末梢血単球M1/M2タイプに対するピオグリタゾンの効果 第32回日本肥満学会(2011年9月23-24日、兵庫)
2011年9月23-24日	兵庫	姫野亜紀裕、浅原哲子、佐々木洋介、村中和哉、後藤伸子、田中智洋、橡谷真由、勝浦五郎、中尾一和、島津章：高脂肪食または高炭水化物食負荷がもたらす糖脂質代謝異常の差異の検討 第32回日本肥満学会(2011年9月23-24日、兵庫)
2011年9月23-24日	兵庫	宮永史子、浅原哲子、森崎裕子、山中到、小久保喜弘、宮本恵宏、森崎隆幸、島津章：チロシンフォスファターゼ1B遺伝子多型は日本人の肥満発症及び減量治療抵抗性に関与する第32回日本肥満学会(2011年9月23-24日、兵庫)

2011年9月23-24日	兵庫	橡谷真由、浅原哲子、姫野亜紀裕、村中和哉、佐々木洋介、山陰一、河野茂夫、岡嶋泰一郎、田邊真紀人、加藤泰久、荒木里香、大石まり子、小谷和彦、島津章：日本人肥満症の減量成功とリバウンドに関する検討 - NHO肥満症多施設共同研究 (JOMS) - 第32回日本肥満学会(2011年9月23-24日、兵庫)
2011年7月	東京	中久木卓也、浅原哲子、福田俊一、村上守、新井大輔、山口将、中村道三、大谷良、山陰一、塚原徹也：脳梗塞患者における血中アディポサイトカインの検討 第36回日本脳卒中学会総会(2011年7月、東京)
2011年12月10日	兵庫	浅原(佐藤)哲子：日本人肥満症における心腎合併症予防のためのアディポサイトカインの臨床的意義と減量治療効果に関する多施設共同研究 神戸成人血管病シンポジウム 井村臨床研究奨励賞(2011年12月10日、兵庫)
2011年6月9～11日	Toronto, Canada	Takanabe-Mori R, Ono K, Wada H, Takaya T, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Takahashi Y, Fujita M, Fujita Y, Sawamura T, Hasegawa K. Serum Soluble LOX-1 Levels are Increased in Close Association With hsCRP Levels and Expired Air CO Concentrations in Smokers. The 14th Annual INTERNATIONAL TORONTO HEART SUMMIT Together with the ISCHF A Member of the World Heart Federation. (2011年6月9 ～ 11日, Toronto, Canada)
2011年12月3日	京都	山田和範：複数主治医による糖尿病病診連携 その2 第20回伏見糖尿病研究会 (2011年12月3日 京都)
2012年3月24日	京都	浅原(佐藤)哲子：糖尿病患者における脂質管理とスタチンの新たな可能性 糖尿病アドバイザリーボード「糖尿病における脂質管理」(2012年3月24日、京都)
2011年11月23日	東京	佐々木洋介、浅原哲子、菅波孝祥、小川佳宏、長谷川浩二、島津章：メタボリック症候群におけるエイコサペンタエン酸の抗動脈硬化作用の分子機構-PPARγを介するIL-10の上昇作用- 第6回高血圧と冠動脈疾患研究会(2011年12月23日、東京)
2011年11月19日	京都	佐藤哲子、橡谷真由、岡嶋泰一郎、田邉真紀人、荒木里香、加藤泰久、大石まり子、河野茂夫、小谷和彦、島津章：肥満症・メタボリック症候群における心腎関連-国立病院機構肥満症多施設共同研究(JOMS) - 第16回京都生活習慣病科学カンファランス(2011年11月19日、京都)
2011年11月5日	東京	橡谷真由、浅原(佐藤)哲子、姫野亜紀裕、河野茂夫、臼井健、島津章:肥満症の唾液コルチゾール濃度とCAVIとの関係-減量治療効果の検討- 第8回血管バイオメカニクス研究会 (2011年11月5日、東京)
2011年9月10日	京都	佐藤哲子：メタボリックシンドロームにおけるEPAのpleiotropic effect 京滋EPA研究会 EPA/AAの重要性(2011年9月10日、京都)
2011年7月10日	京都	浅原哲子：生活習慣病と睡眠時無呼吸症候群との深い関係 第2回睡眠呼吸フォーラム
2011年5月14日	京都	橡谷真由、浅原哲子、臼井健、中川内玲子、小鳥真司、河野茂夫、島津章:肥満・メタボリック症候群における大豆イソフラボン代謝物・エクオール産生能とエクオール投与の効果 第12回糖尿病と生活習慣病治療研究会(2011年5月14日、京都)
2011年5月12日	京都	浅原(佐藤)哲子：生活習慣病とCAVI 臨床検査科カンファレンス(2011年5月12日、京都)
2011年5月19日～21日	札幌	真鍋悟、山地聡子、佐野喜子、西澤玲子、村田敬、坂根直樹、山田和範：1型糖尿病患者を対象としたカーボカウント習得度評価の状況 第54回日本糖尿病学会年次学術集会 (2011年5月19日～ 21日 札幌)
2011年5月19日～21日	札幌	村田敬、岡田浩、岸純一郎、橡谷真由、窪田恵、吉岡二三、西澤玲子、森住蘭、山地聡子、真鍋悟、坂根直樹、山田和範：インスリンポンプに関する医療従事者向け教育プログラム開発および患者教育用ツール開発の試み 第54回日本糖尿病学会年次学術集会 (2011年5月19日～ 21日 札幌)
2011年5月19日～21日	札幌	岸純一郎、橡谷真由、井口梓、岡島昭、村田敬、中川内玲子、坂根直樹、山田和範：1型糖尿病ではいつ、何回血糖測定をすることで1日平均値を予測できるか？ 第54回日本糖尿病学会年次学術集会(2011年5月19日～ 21日 札幌)
2011年5月19日～21日	札幌	佐野喜子、西澤玲子、松岡幸代、真鍋悟、村田敬、坂根直樹、山田和範：1型糖尿病患者における肥満の割合とカーボカウント実施後の食事傾向 第54回日本糖尿病学会年次学術集会(2011年5月19日～ 21日 札幌)
2011年5月19日～21日	札幌	松岡幸代、津崎こころ、馬引美香、西澤玲子、小谷和彦、山田和範、坂根直樹：高ＬＤＬ-Ｃ血症を合併した糖尿病患者における脂質栄養分析の検討 第54回日本糖尿病学会年次学術集会(2011年5月19日～ 21日 札幌)
2011年6月4日	大阪	村田敬：1型糖尿病合併妊娠の血糖コントロール-CGMとCSIIの連携 糖尿病セミナー大阪(2011年6月4日 大阪)
2011年7月10日	京都	村田敬：『糖尿病診療ガイドライン』の概説及び妊娠糖尿病の栄養・代謝について 京都府栄養士会生涯学習研修会(2011年7月10日 京都)
2011年7月29日	大阪	村田敬：インスリンポンプ指導のチームアプローチ 第2回関西血糖変動研究会 (2011年7月29日 大阪)
2011年8月7日	京都	村田敬：基礎インスリンとSMBGの連携 第4回京都薬剤師糖尿病シンポジウム (2011年8月7日 京都)
2011年10月21日		村田敬：なぜ、高齢者の食事療法は難しいのか？ 東京ビクトーザラウンドテーブルディスカッション(2011年10月21日)
2011年10月29日	大阪	村田敬：教育講演5 CGM：Up to Date 第48回日本糖尿病学会近畿地方会 (2011年10月29日 大阪)
2011年11月18日	兵庫	村田敬：1型糖尿病患者のインスリン自己調節アルゴリズム 神戸DM臨床カンファレンス・播磨糖尿病内分泌カンファレンス合同セミナー (2011年11月18日 兵庫)
2011年12月3日	滋賀	村田敬：1型糖尿病におけるインスリン自己調節 第7回大津糖尿病看護研究会 (2011年12月3日 滋賀)

2012年1月8-11日	Barcelona, Spain	Murata T, Okada H, Sakane N, Yamada K. DEVELOPMENT OF A ROLE-PLAYING PROGRAM FOR HEALTH CARE PROVIDERS IN CARBOHYDRATE COUNTING EDUCATION. The 5th International Conference on Advanced Technologies & Treatment for Diabetes. Barcelona, Spain, February 8-11, 2012
2011年5月19日	札幌	佐野喜子, 西澤玲子, 松岡幸代, 真鍋悟, 村田敬, 坂根直樹, 山田和範：1型糖尿病患者における肥満の割合とカーボカウント実施後の食事傾向　第54回日本糖尿病学会年次学術集会（2011年5月19日　札幌）
2011年9月23日	兵庫	小谷和彦, 津崎こころ, 佐野喜子, 松岡幸代, 坂根直樹：UCP1遺伝子多型と低HDLコレステロールとの関連　肥満の考慮:美馬研究　第32回日本肥満学会（2011年9月23日　兵庫）
2011年11月10日	Korea	Sakane N. Japan Diabetes Prevention Program (JDPP) and Japan Diabetes Outocome Intervention Trial-1 (J-DOIT1). 2011 International Conference on Diabetes and Metabolism（2011年11月10日　Korea）
2011年5月25日	Istanbul, Turkey	Tsuzaki K, Kotani K, Sano Y, Fujiwara S, Sakane N. Which claasical and genetic factors could affect high-density lipoprotein subfraction?: from the Mima study. 18th European Congresss on Obesity（2011年5月25日　Istanbul, Turkey）
2011年9月7日	京都	坂根直樹：生活習慣病対策　JICA集団研修「生活習慣病対策」（中国、スリランカ、フィリピン、サモア）（2011年9月7日　京都）
2011年8月5日	京都	津崎こころ、小谷和彦、坂根直樹：糖尿病患者における酸化ストレス度の測定と測定結果の情報提供について　第11回日本糖尿病情報学会年次学術集会（2011年8月5日　京都）
2011年9月23日	兵庫	津崎こころ、佐野喜子、松岡幸代、小谷和彦、坂根直樹：β 3- アドレナリンレセプター遺伝子多型が脂質プロファイルに与える影響: 徳島県美馬研究から　第32回日本肥満学会（2011年9月23日　兵庫）
2011年10月	兵庫	宮崎亮、石井好二郎、小谷和彦、津崎こころ、綾部誠也、島田淳子、坂根直樹、高瀬秀人、市川寛、米井嘉一：中高齢者に対する高濃度茶カテキン飲料摂取がLDLに及ぼす効果　第32回日本肥満学会（2011年10月　兵庫）
2011年6月11日	京都	松岡幸代、坂根直樹：生活習慣病予防教室におけるドロップアウトに関連する因子の検討　第4回日本肥満症治療学会（2011年6月11日　京都）
2011年8月5日	京都	鋤納心、吉岡二三、山田和範、村田敬、岸純一郎、津崎こころ、真鍋悟、佐野喜子、松岡幸代、坂根直樹：1型糖尿病患者における骨折予防に関する研究―ビタミン・ミネラルの摂取量と骨塩量の関連について　第11回日本糖尿病情報学会年次学術集会（2011年8月5日　京都）
2011年4月22日	兵庫	冨田努、細田公則、小鳥真司、藤倉純二、岩倉浩、野口倫生、森栄作、内藤雅喜、日下部徹、海老原健、中尾一和：新規のインスリン分泌調節因子GPR40の遺伝子肥満モデルでの発現調節　第84回日本内分泌学会学術総会（2011年4月22日　兵庫）
2011年4月22日	兵庫	小鳥真司、冨田努、孫徹、藤倉純二、野口倫生、森栄作、内藤雅喜、日下部徹、海老原健、細田公則、中尾一和：新規のG蛋白共役型-脂質受容体GPR119の臨床的意義：ヒトおよびマウスでの膵島における遺伝子発現と膵島機能との連関　第84回日本内分泌学会学術総会（2011年4月22日　兵庫）
2011年4月22日	兵庫	内藤雅喜、藤倉純二、森栄作、小鳥真司、野口倫生、冨田努、孫徹、日下部徹、宮永史子、宮本理人、山本祐二、海老原健、細田公則、中尾一和：Leptin Transgenic Akita mouse を用いたインスリン分泌低下型糖尿病に対するレプチン治療　第84回日本内分泌学会学術総会（2011年4月22日　兵庫）
2011年5月19日	北海道	内藤雅喜、藤倉純二、森栄作、小鳥真司、野口倫生、冨田努、孫徹、日下部徹、宮永史子、宮本理人、山本祐二、海老原健、細田公則、中尾一和：Leptin Transgenic Akita マウスを用いたインスリン分泌低下型糖尿病に対するレプチン治療　第54回日本糖尿病学会年次学術集会（2011年5月19日　北海道）
2011年5月21日	北海道	冨田努、細田公則、小鳥真司、孫徹、藤倉純二、岩倉浩、野口倫生、森栄作、内藤雅喜、吉良友里、日下部徹、海老原健、益崎裕章、中尾一和：膵β細胞に高発現し、中・長鎖脂肪酸をリガンドするG蛋白共役型受容体GPR40の遺伝性肥満モデルの膵島での発現調節　第54回日本糖尿病学会年次学術集会（2011年5月21日　北海道）
2011年5月21日	北海道	小鳥真司、冨田努、孫徹、藤倉純二、野口倫生、森栄作、内藤雅喜、日下部徹、海老原健、細田公則、中尾一和：新規のG蛋白共役型-脂質受容体GPR119の臨床的意義：ヒトおよびマウスでの膵島における遺伝子発現と膵島機能との連関　第54回日本糖尿病学会年次学術集会（2011年5月21日　北海道）
2011年6月11日	奈良	内藤雅喜、藤倉純二、小鳥真司、野口倫生、冨田努、孫徹、日下部徹、海老原健、細田公則、中尾一和：胃全摘術後の低血糖症に対し膵切除術施行後、ジアゾキサイド投与を試みた１例　第194回日本内科学会近畿地方会（2011年6月11日　奈良）
2011年9月24日	兵庫	冨田努、細田公則、小鳥真司、孫徹、藤倉純二、岩倉浩、野口倫生、日下部徹、海老原健、中尾一和：G蛋白共役型-脂肪酸受容体GPR40の遺伝性肥満モデルの膵島での発現調節　第32回日本肥満学会　学術集会（2011年9月24日　兵庫）
2011年9月24日	兵庫	小鳥真司、冨田努、孫徹、藤倉純二、野口倫生、森栄作、内藤雅喜、日下部徹、海老原健、細田公則、中尾一和：G蛋白共役型-脂肪酸受容体GPR40の遺伝性肥満モデルの膵島での発現調節　第32回日本肥満学会　学術集会（2011年9月24日　兵庫）
2011年9月24日	兵庫	井田みどり、森栄作、小鳥真司、近藤絵里、日下部徹、藤倉純二、海老原健、益崎裕章、細田公則、濱口剛宏、大島秀武、志賀利一、中尾一和：Dual生体インピーダンス法による腹部内臓脂肪蓄積の評価　第32回日本肥満学会　学術集会（2011年9月24日　兵庫）
2011年10月29日	大阪	八幡兼成、村田真紀、金子惠一、小泉三輝、菊地祐子、瀬田公一：慢性腎臓病 (CKD)における連携診療システムの構築　第48回日本糖尿病学会近畿地方会（2011年10月29日　大阪）
2011年5月19日	北海道	河野茂夫：糖尿病足病変の国際情勢とその対策　第54回日本糖尿病学会年次学術集会（2011年5月19日　北海道）

2011年10月29日	大阪	橡谷真由、金子恵一、中川内玲子、八幡兼成、河野茂夫：二度顎下腺腫脹の生検をしたにも関わらず診断に苦慮した糖尿病合併IgG4関連腎症の一例　第47回日本糖尿病学会近畿地方会(2011年10月29日　大阪)
2011年5月11日	Amsterdam, Netherlands	河野茂夫：招待講演：'-Diabetic Foot- News from the South-East Asia and Western Pacific regions, 6 t h International Symposium on the diabetic foot(2011年5月11日-14日　Amsterdam, Netherlands)
2011年5月28日	杭 州 中国	河野茂夫：招待講演：Diabetic foot care in the Asia Pacific region,中国糖尿病学会共催：The Forum on Diabetic Foot and Related Diseases 2011（2011年5月28日-29日　中国　杭州）
2011年6月4日	京都	河野茂夫：糖尿病足病変診療の実際とトピックス　第24回 糖尿病臨床カンファレンス(2011年6月4日　京都)
2011年6月25日	草 津 滋賀	河野茂夫：糖尿病足病変診療の実際とトピックス　第152回滋賀県皮膚科医会　(2011年6月25日　草津)
2011年7月1日	神戸	河野茂夫:糖尿病足病変診療の実際とトピックス　第8回神戸糖尿病チーム医療研究会(2011年7月1日　神戸)
2011年7月2日	高知	河野茂夫：糖尿病フットケア　第２回高知糖尿病チーム医療を考える会(2011年7月2日　高知)
2011年7月28日	大 阪 狭 山	河野茂夫:「糖尿病足病変の診療と治療」-糖尿病フットケアのトピックス-　大阪南　糖尿病・合併症治療セミナー　2011(2011年　7月28日　近畿大学　大阪狭山市)
2011年8月27日	志 摩 三重	河野茂夫：末梢循環障害の予知・予防と対応　第28回糖尿病Up・Date賢島セミナー(2011年8月27日　三重県志摩市)
2011年11月10日	ソウル、韓国	河野茂夫：招待講演：Management of diabetic foot problems in the Western Pacific region　韓国糖尿病学会主催：2011 International Conference on Diabetes and Metabolism　(2011年11月10日-12日　ソウル　韓国)
2011年12月4日	ドバイ UAE	河野茂夫：招待講演：Meet the Expert; Prevention of diabetic foot: An Asia-Pacific initiative 国際糖尿病連合主催：International Diabetes Federation The World Diabetes Congress 2011(2011年12月4日-8日　ドバイ　UAE)
2012年1月14日	京都	河野茂夫：糖尿病フットケアのトピックス-2011　インターナショナルガイドラインより-第８回京滋糖尿病フットケア研究会　(2012年1月14日　京都)
2012年3月2日	盛岡	河野茂夫：糖尿病診療と療養指導に必要な知識　第46回 糖尿病学の進歩　(2012年3月2日-3日　盛岡)
2012年3月10日	台 北 台湾	河野茂夫：招待講演：Management of diabetic foot　台湾糖尿病学会主催：Annual Meeting on Diabetes Assosiation of the Republic of China (2012年3月10日　台北　台湾)
2012年3月15日	L.A. USA	河野茂夫：招待講演：Diabetic Foot; The Japanese Interdisciplinary Clinic　Diabetic Foot Conference 2012-DFcon 2012-(2012年3月15日-17日 Los Angeles　USA)

□投稿論文など

年	著書・雑誌名	内　　容
2012	J Atheroscler Thromb	Wada H, Ura S, Satoh-Asahara N, Kitaoka S, Mashiba S, Akao M, Mitsuru Abe M, Ono K, Morimoto T, Fujita M, Shimatsu A, Takahashi Y, Hasegawa K.　α1-Antitrypsin-low-density-lipoprotein Serves as a Marker of Smoking-specific Oxidative Stress. J Atheroscler Thromb 19:47-58, 2012.
2012	Metabolism	Himeno A, Satoh-Asahara N, Usui T, Wada H, Tochiya M, Kono S, Yamada-Goto N, Katsuura G, Hasegawa K, Nakao K, Shimatsu A. Salivary cortisol levels are associated with outcomes of weight reduction therapy in obese Japanese patients. Metabolism 61:255-261, 2012.
2012	PLoS ONE	Wada H, Ura S, Kitaoka S, Satoh-Asahara N, Horie T, Ono K, Takaya T, Takanabe-Mori R, Akao M, Abe M, Morimoto T, Murayama T, Yokode M, Fujita M, Shimatsu A, Hasegawa K. Distinct Characteristics of Circulating Vascular Endothelial Growth Factor-A and C Levels in Human Subjects. PLoS ONE 6:e29351, 2012.
2011	J Clin Lipidol	Kotani K, Satoh-Asahara N, Kato Y, Araki R, Himeno A, Yamakage H, Koyama K, Tanabe T, Oishi M, Okajima T, Shimatsu A, The Japan Obesity Metabolic Syndrome Study (JOMS) Group. Remnantt-like particle cholesterol and serum amyloid A-low-density lipoprotein levels in obese subjects with metabolic syndrome. J Clin Lipidol 5:395-400, 2011.
2011	J Int Med Res	Kotani K, Satoh-Asahara N, Kato Y, Araki R, Himeno A, Yamakage H, Koyama K, Tanabe T, Oishi M, Okajima T, Shimatsu A, The Japan Obesity Metabolic Syndrome Study (JOMS) Group. Serum Amyloid A Low-density Lipoprotein Levels and Smoking Status in Obese Japanese Patients. J Int Med Res 39: 1917-1922, 2011.
2011	Acta Neurochir Suppl	Arai D, Yamaguchi S, Murakami M, Nakakuki T, Fukuda S, Satoh-Asahara N, Tsukahara T. Characteristics of carotid plaque findings on ultrasonography and black blood magnetic resonance imaging in comparison with pathological findings. Acta Neurochir Suppl 112:15-19, 2011.
2011	Diabetes	Ichioka M, Suganami T, Tsuda N, Shirakawa I, Hirata Y, Satoh-Asahara N, Shimoda Y, Tanaka M, Kim-Saijo M, Miyamoto Y, Kamei Y, Sata M, Ogawa Y. Increased Expression of Macrophage-inducible C-type Lectin in Adipose Tissue of Obese Mice and Humans. Diabetes 60:819-826, 2011.

2011	Clin J Am Soc Nephrol	Satoh-Asahara N, Sugamami T, Majima T, Kotani K, Kato Y, Araki R, Koyama K, Okajima T, Tanabe M, Oishi M, Himeno A, Kono S, Sugawara A, Masakazu H, Ogawa Y, and Shimatsu A, The Japan Obesity Metabolic Syndrome Study (JOMS) Group. Urinary Cystatin C as a Potential Risk Marker for Cardiovascular Disease and Chronic Kidney Disease in Patients with Obesity and Metabolic Syndrome. Clin J Am Soc Nephrol 6:265-273, 2011.
2012	The Lipid vol.23 No.1 p.67-73	姫野亜紀裕、臼井健、浅原哲子：肥満症における唾液中コルチゾール濃度モニタリングの意義について - 脂質代謝異常との関連も含めて - The Lipid vol.23 No.1 p.67-73, 2012.
2012	肥満と糖尿病 vol.10 No.5（通巻 65 号）p.687-689	浅原哲子：特集 チーム医療とコメディカルの役割Q&A 肥満 メタボ会とは？メタボの患者会について教えてください. 肥満と糖尿病 vol.10 No.5 (通巻65号) p.687-689, 2011.
2012	日本臨床増刊号 メタボリックシンドローム (第 2 版) vol 69 p.507-511,	浅原(佐藤)哲子：メタボリックシンドロームの病態診断　メタボリックシンドロームの臨床マーカー―病態における意義―レプチン、高分子量アディポネクチン　日本臨床増刊号 メタボリックシンドローム(第2版) vol 69 p.507-511, 2011
2012	「アンチエイジング医学」－日本抗加齢医学会雑誌 vol.7 No.4	浅原(佐藤)哲子：魚油とω3多価不飽和脂肪酸「アンチエイジング医学」－日本抗加齢医学会雑誌 vol.7 No.4, 2011.
2012	総合臨床 vol.60 No.10 p.2039-2046	浅原哲子、小川佳宏：動脈硬化症の危険因子 動脈硬化症 一次予防から二次予防まで メタボリックシンドローム 総合臨床 vol.60 No.10 p.2039-2046, 2011.
2012	メディカルビューポイント vol.32 No.10	浅原 (佐藤) 哲子：メタボリックシンドロームの新知見と未来展望 我が国のメタボリックシンドロームの実際 -国立病院機構多施設共同研究と肥満・メタボリックシンドローム外来10年の実績から- メディカルビューポイント vol.32 No.10, 2011.
2012	改訂版糖尿病治療薬ハンドブック 234-242、羊土社	村田敬、佐々木香織：若年糖尿病患者の治療薬、改訂版糖尿病治療薬ハンドブック　234-242、羊土社　2012
2011	Int J Obes　vol 38.No 8,p1050-1055	Nagai N, Sakane N, Tsuzaki K, Moritani T. UCP1 genetic polymorphism (-3826 A/G) diminishes resting energy expenditure and thermoregulatory sympathetic nervous system activity in young females. Int J Obes　vol 38.No 8,p1050-1055,2011
2011	Prim Care Respir J　vol 20.No 3,p336-337	Kotani K, Kimura S, Komada I, Sakane N, Gugliucci A. Continuous positive air pressure treatment reduces serum advanced glycation end products in patients with obstructive sleep apnoea syndrome: a pilot study. Prim Care Respir J　vol 20.No 3,p336-337,2011
2011	Nutr Res　Vol 31,No 4,p255-261	Nagai N, Sakane, N, Kotani K, Hamada T, Tsuzaki K, Moritani T. Uncoupling protein 1 gene -3826 A/G polymorphism is associated with weight loss on a short-term, controlled-energy diet in young women. Nutr Res　Vol 31,No 4,p255-261,2011
2011	Endocr J　vol 58,No 4,p323-324	Umabki M, Sakane N. Sweet taste and (AAT)12 repeat in the cannabinoid receptor gene in obese females. Endocr J　vol 58,No 4,p323-324,2011
2011	Exp Clin Endocrinol Diabetes　vol 120,No 1,p59-61	Kotani K, Sakane N. A gene polymorphism in acetyl-coenzyme A carboxylase beta may be associated with the C-reactive protein level in a prediabetic and diabetic population: Mima study. Exp Clin Endocrinol Diabetes　vol 120,No 1,p59-61,2012
2011	Korean J Lab Med　vol 31,p1-5	Kotani K, Sakane N. Leptin:Adiponectin Ratio and Metabolic Syndrome in the General Japanese Population. Korean J Lab Med　vol 31,p1-5,2011
2011	Pol Arch Med Wewn　vol 121,No 7-8,p247-252	Kotani K, Sakane N. Association between lipoprotein(a) and oxygen reactive metabolite in asymptomatic subjects. Pol Arch Med Wewn　vol 121,No 7-8,p247-252,2011
2011	Med Princ PractMed Princ Pract　vol 21,No 2,p134-138	Kotani K, Sakane N, Taniguchi N : Effect of Ezetimibe on Remnant-Like Particle Cholesterol in Subjects with Metabolic Syndrome. Med Princ PractMed Princ Pract vol 21,No 2,p134-138,2012
2011	J Clin Med Res　vol 3,No 5,p252-257	Kotani K, Russell Caccavello, Naoki Sakane, Toshiyuki Yamadaa, Nobuyuki Taniguchi, Alejandro Gugliucci. Infl uence of Physical Activity Intervention on CirculatingSoluble Receptor for Advanced Glycation endProducts in Elderly Subjects. J Clin Med Res vol 3,No 5,p252-257,2011
2011	Pharmacol Rep　vol 63,No 5,p1248-1252	Kotani K, Caccavello R, Sakane N, Miyamoto M, Gugliucci. A.Pharmacol Rep、Influence of ezetimibe monotherapy on ischemia-modified albumin levels in hypercholesterolemic patients. Pharmacol Rep　vol 63,No 5,p1248-1252,2011
2011	J Clin Med Res　vol 3,No 6,p319-324	Kotani K, Fujiwara S, Tsuzaki K, Sano Y, Nagai N, Yamada T, Sakane N. The Association Between the Uncoupling Protein-1 Gene A-3826G Polymorphism and High-density Lipoprotein Cholesterol in A General Japanese Population: A Consideration of the Obesity Status. J Clin Med Res　vol 3,No 6,p319-324,2011
2011	Australas J Ageing　vol 30,No 4,p231-233	Kotani K, Sakane N, Kamimoto M, Taniguchi N. Levels of reactive oxygen metabolites in patients with knee osteoarthritis. Australas J Ageing　vol 30,No 4,p231-233,2011
2011	Metabolism　vol 61,No 1,p17-21	Tsuzaki K, Kotani K, Sano Y, Fujiwara S, Gazi IF, Elisaf M, Sakane N. The relationship between adiponectin, an adiponectin gene polymorphism, and high-density lipoprotein particle size: from the Mima study. Metabolism　vol 61,No 1,p17-21,2012
2011	Anti-Aging Medicine　vol 8,No 7,p103-107	Ayabe M, Yonei Y, Miyazaki R, Kumahara H, Sakane N, Ishii K. Functional age and bouts of physical activity in middle-aged to older Japanese adults; Yurin-Study. Anti-Aging Medicine　vol 8,No 7,p103-107,2011
2012	J Investig Med　vol 60,No 2,p514-516	Kotani K, Fujiwara S, Tsuzaki K, Sakane N. FTO gene polymorphisms and platelet counts in a general Japanese population. J Investig Med　vol 60,No 2,p514-516,2012

2012	Int J Prev Med　vol 3,No 3,p160-166	Kotani K, Tsuzaki K, Taniguchi N, Sakane N. LDL Particle Size and Reactive Oxygen Metabolites in Dyslipidemic Patients. Int J Prev Med　vol 3,No 3,p160-166,2012
2011	医歯薬出版	坂根直樹：Dr.坂根のクイズでわかる糖尿病カーボカウント、 医歯薬出版,2011
2011	中央法規	坂根直樹、佐野喜子：説明力で差がつく保健指導、 中央法規,2011
2011	睡眠教室夜の病気たち、新興医学出版	坂根直樹：快眠のために、誰にでもできる減量プログラム、 睡眠教室夜の病気たち、新興医学出版,2011
2011	糖尿病ケアス秋季増刊､メディカ出版,	坂根直樹：患者指導における視覚情報の効果的な使い方、 糖尿病ケアス秋季増刊、メディカ出版,2011
2011	羊土社	坂根直樹：肥満症、今日の治療方針、羊土社,2012
2012	改訂版糖尿病治療薬ハンドブック、羊土社,	岡田浩、坂根直樹：リラグルチド、 改訂版糖尿病治療薬ハンドブック、羊土社,2012
2012	改訂版糖尿病治療薬ハンドブック、羊土社	岡田浩、坂根直樹：エキセナチド、 改訂版糖尿病治療薬ハンドブック、羊土社,2012
2012	改訂版糖尿病治療薬ハンドブック、羊土社	岡田浩、坂根直樹：開発中の糖尿病治療薬、 改訂版糖尿病治療薬ハンドブック、羊土社,2012
2012	改訂版糖尿病治療薬ハンドブック、羊土社	岡田浩、坂根直樹：ジェネリック医薬品の活用、 改訂版糖尿病治療薬ハンドブック、羊土社,2012
2012	改訂版糖尿病治療薬ハンドブック、羊土社	岡田浩、坂根直樹：肥満糖尿病患者の治療、 改訂版糖尿病治療薬ハンドブック、羊土社,2012
2012	輸液のコツとポイント、文光堂	坂根直樹：糖尿病科での輸液　輸液のコツとポイント、文光堂,2012
2011	肥満研究 vol 17,No 2,p119-126	高木絢加、山口光枝、脇坂しおり、坂根直樹、森谷敏夫、永井成美：若年女性の冷え感に及ぼすエネルギー摂取量、ダイエット、および体熱産生制御に関わる交感神経活動の影響　肥満研究vol 17,No 2,p119-126,2011
2011	女性心身医学 vol 16,No 2,p160-168	山口光枝, 渡邊敏明, 高木絢加, 脇坂しおり, 坂根直樹, 森谷敏夫, 永井成美: 女子大学生における生活リズムの朝型－夜型度と朝の自律神経活動の関連　女性心身医学vol 16,No 2,p160-168,2011
2011	Medicament News.vol 2038,p1113	坂根直樹：糖尿病～2型糖尿病発症予防のメガスタディ～　Medicament News.vol 2038,p1113,2011
2011	内分泌疾患と運動療法 vol 41,No 3,p319-325	坂根直樹：内分泌疾患と運動療法　内分泌疾患と運動療法vol 41,No 3,p319-325,2011
2011	ENTONIvol 133,p9-16	坂根直樹：減量指導　ENTONIvol 133,p9-16,2011
2011	薬局 vol 62,No 13,p3928-3931	坂根直樹：治療エビデンスの構築に向けてどのようなエンドポイントを設定すべきか？　薬局vol 62,No 13,p3928-3931,2011
2011	日本臨床 vol 70,No 1,p165-170	坂根直樹：経口糖尿病配合錠をいかに使いこなすか、日本臨床vol 70,No 1,p165-170,2011
2011	動脈硬化予防　vol.10,No.1,50-55	河野茂夫：糖尿病足病変　動脈硬化予防　vol.10,No.1,50-55　メディカルレビュー社
2011	PRACTICE 5・6 2011 vol.28,No.3 256-262	河野茂夫：糖尿病足病変 -感染症として、血管病として-　PRACTICE 5･6 2011 vol.28,No.3 256-262　医歯薬出版
2011	血管糖尿病 2011 Annual Book of Vascular Diabetes　194-198	河野茂夫：糖尿病性足病変　―末梢動脈病変―　血管糖尿病2011 Annual Book of Vascular Diabetes　194-198　フジメディカル出版
2011	Diabetes Frontier Vol.22,No.3,231	河野茂夫：特集：糖尿病フットケア臨床の実際と展望 特集にあたって Diabetes Frontier Vol.22,No.3,231　メディカルレビュー社
2011	糖尿病合併症　Vol.22 No.3 227-228	河野茂夫：糖尿病療養指導　-合併症進展予防へのフットケアの貢献　糖尿病フットケアの現状と今後の課題　　Vol.22 No.3 227-228　日本糖尿病合併症学会
2011	Medicina　Vol.46,No11,444-446	河野茂夫：糖尿病足壊疽　Medicina　Vol.46,No11,444-446　医学書院
2011	月刊循環器　Vol.2,No.3,53-61	河野茂夫：血流のみならず，足を診る - フットケア -　月刊循環器 Vol.2,No.3,53-61　医学出版
2011	Diabetes Frontier(0915-6593)23 巻 1 号 Page17-27	冨田努、細田公則、小鳥真司、藤倉純二、中尾一和：糖尿病治療における新規分子標的GPR40　その発見と臨床応用への展望　Diabetes Frontier(0915-6593)23巻1号 Page17-27

科　名：腎臓内科



医長
八幡　兼成

専門医資格等　日本腎臓学会専門医・指導医
日本透析医学会専門医・指導医
日本糖尿病学会専門医
日本内科学会専門医
京都大学医学博士

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　長	瀬田　公一	日本腎臓学会専門医 日本透析医学会専門医 日本高血圧学会専門医 日本内科学会認定医		
医　師	菊地　祐子	日本内科学会認定医		
医　師	小泉　三輝	日本内科学会認定医		
医　師	金子　惠一	日本内科学会認定医		
専修医	村田　真紀			

□診療科の特徴

施設認定等	日本腎臓学会研修施設
	日本透析医学会認定施設

1．積極的に腎生検を行い、早ければ翌日には診断がつく体制を取っている
2．血液透析だけでなく、血漿交換や持続血液ろ過透析など急性血液浄化に対応できる
3．腹膜透析も多く導入している
4．学会発表・論文執筆・臨床研究を積極的に行っている

□代表的診療対象疾患

急性腎不全、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、急速進行性糸球体腎炎、多発性嚢胞腎、Gitelman症候群、高血圧症

□診療(業務)内容

1．慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群などに対して腎生検を行い、その結果に基づいて治療を行っている。
2．保存期腎不全に対し、血圧管理を始めとした腎保護療法を行い、末期腎不全への進行を抑制できるようにしている。
3．末期腎不全に陥った場合、腎移植・腹膜透析・血液透析の3つの選択肢を提示し、患者に合った治療を提供している。

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	14.7	310	16.8

外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	35.2	93.6%	153.4%

主な疾患の件数など

	腎生検数	血液浄化療法延べ件数	血液透析導入患者数	腹膜透析導入患者数
2011年度	59件	2,679件	44件	4件

□地域医療連携・広報活動

世界腎臓デー関連イベント

2012年3月8日　京都医療センターロビー

伏見CKD医療連携の会講演会

「CKD患者と薬　－抗不整脈薬を例に－」 八幡　兼成

「CKD診療の質向上を目指して」 瀬田　公一

「CKDと心腎連関　－バイオマーカーとRA系阻害の意義」 京都大学内分泌代謝内科　向山　政志准教授

2012年2月25日　京都タワーホテル

腎臓病教室応用編

2011年12月10日　京都医療センター多目的ホール

第4回CKDを語る会

「慢性腎不全の急性増悪の一例　～急性腎全の対処法・マネジメント」 小泉　三輝

2011年11月11日　京都医療センター多目的ホール

内科医のための骨粗鬆症治療2011

「慢性腎臓病 (CKD)のMBD (mineral bone disorder)の管理」 八幡　兼成

2011年10月8日　ウエスティン都ホテル

メタボ会

「肥満と腎臓って関係あるの」 八幡　兼成

2011年9月17日　京都医療センター多目的ホール

伏見CKD医療連携の会講演会

「ANCA関連腎炎の一例　～巷にもいます～」 小泉　三輝

「低カリウム血症の鑑別　～こんな症例もあります～」 金子　惠一

「薬剤性腎障害の一例　～薬にはくれぐれも注意～」 菊地　祐子

「伏見CKD連携パスの現状」 八幡　兼成

「医療の質を向上させるためのquality indicator ～診療ガイドラインと実臨床のギャップについて～」

瀬田　公一　2011年7月9日　ホテルグランヴィア京都

腎臓病教室応用編

2011年6月25日　京都医療センター多目的ホール

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　　容
2011	国内学会	リネゾリドによる乳酸アシドーシスをSLED-fにより改善できた一例 独立行政法人国立病院機構　京都医療センター　腎臓内科1)、麻酔科2)、総合内科3) 小泉三輝1)、瀬田公一1)、八幡兼成1)、岩田良佳2)、宇賀久敏2)、七野力2)、高木大輔3)桂敏明3)、小田垣孝雄3)、小山弘3) 第39回日本集中治療医学会

2011	国内学会	LDL吸着療法により蛋白尿減少を認めた、巣状分節性糸球体硬化症(FSGS) cellular variantの 1 例 演者・共同研究者 1) 京都医療センター腎臓内科 2) 仙台社会保険病院病理部 ○金子　惠一 1), 村田　真紀 1), 小泉　三輝 1), 菊地　祐子 1), 瀬田　公一 1), 城　謙輔 2), 八幡　兼成 1) 第196回内科学会近畿地方会
2011	国内学会	カバノアナタケ(通称チャーガ)粉末の長期内服によりシュウ酸腎症を発生し末期腎不全に至った1例 演者・共同研究者 1) 国立病院機構京都医療センター腎臓内科 2) 同　腎臓内科 3) 同　腎臓内科 4) 同　腎臓内科 5) 北海道腎病理センター 6) 同　腎臓内科 ○菊地　祐子 1), 金子　惠一 2), 小泉　三輝 3), 瀬田　公一 4), 小川　弥生 5), 八幡　兼成 6) 第196回内科学会近畿地方会
2011	国内学会	慢性腎臓病 (CKD)における連携診療システムの構築 八幡　兼成, 村田　真紀, 金子　惠一, 小泉　三輝, 菊地　祐子, 瀬田　公一 第48回日本糖尿病学会近畿地方会
2011	国内学会	慢性腎臓病(CKD)における病診連携システムの構築 Author : 八幡兼成(国立病院機構京都医療センター 腎臓内科), 村田真紀, 金子惠一, 小泉三輝, 菊地祐子, 瀬田公一, 島津章, 剣持敬, 依田純三, 菅原照, 伏見CKD医療連携の会 Source : 国立病院総合医学会講演抄録集65回 Page370(2011.10)
2011	国内学会	片腎患者におけるARB投与直後24時間の尿蛋白抑制効果を利用した、糸球体血圧低下作用の臨床的評価 Author : 金子惠一(国立病院機構京都医療センター 腎臓内科), 瀬田公一, 村田真紀, 小泉三輝, 菊地祐子, 菅原照, 八幡兼成 Source : 日本高血圧学会総会プログラム・抄録集34回 Page613(2011.10)
2011	国内学会	シクロスポリン投与を行い、剖検にて腎病理組織の経時的変化を観察できたV型ループス腎炎の一症例 Author : 大野祥子(国立病院機構京都医療センター 腎臓内科), 瀬田公一, 金子惠一, 小泉三輝, 菊地祐子, 長谷川千夏, 八幡兼成, 菅原照 Source : 日本腎臓学会誌(0385-2385)53巻6号 Page820(2011.08)
2011	国内学会	巣状糸球体硬化症タイプのC1q nephropathyと考えられた一症例 Author : 菊地祐子(国立病院機構京都医療センター), 金子惠一, 小泉三輝, 長谷川千夏, 瀬田公一, 菅原照, 桑原隆, 八幡兼成 Source : 日本腎臓学会誌(0385-2385)53巻6号 Page796(2011.08)
2011	国内学会	上気道炎罹患後に肺胞出血をきたした急性糸球体腎炎の一例 Author : 小泉三輝(国立病院機構京都医療センター), 金子惠一, 菊地祐子, 瀬田公一, 八幡兼成 Source : 日本腎臓学会誌(0385-2385)53巻6号 Page793(2011.08)
2011	国内学会	ネフローゼ症候群で発症したIgG1重鎖沈着症の症例 Author : 金子惠一(国立病院機構京都医療センター), 瀬田公一, 相馬淳, 桑原隆, 小泉三輝, 菊地佑子, 八幡兼成, 菅原照 Source : 日本腎臓学会誌(0385-2385)53巻6号 Page791(2011.08)
2011	国内学会	保存期腎不全に二次性副甲状腺機能亢進症を認め、副甲状腺摘出術に至った2例 Author : 小泉三輝(国立病院機構京都医療センター 腎臓内科), 瀬田公一, 八幡兼成, 金子惠一, 大野祥子, 菊地祐子, 長谷川千夏, 菅原照 Source : 日本透析医学会雑誌(1340-3451)44巻Suppl.1 Page433(2011.05)
2011	国内学会	末期腎不全(ESRD)患者に発症したうっ血性心不全(CHF)へのカルペリチド(hANP)の効果の検討 Author : 金子惠一(国立病院機構京都医療センター 腎臓内科), 瀬田公一, 八幡兼成, 大野祥子, 小泉三輝, 菊地祐子, 長谷川千夏, 菅原照 Source : 日本透析医学会雑誌(1340-3451)44巻Suppl.1 Page387(2011.05)
2011	国内学会	高齢者ANCA関連腎炎の治療　初期治療としての経口ステロイド療法 Author : 金子惠一(国立病院機構京都医療センター 腎臓内科), 八幡兼成, 大野祥子, 小泉三輝, 菊地祐子, 長谷川千夏, 瀬田公一, 菅原照 Source : 日本腎臓学会誌(0385-2385)53巻3号 Page338(2011.05)
2011	国内学会	リンパ増殖性肺疾患に腎アミロイドーシスを合併した1例 演者・共同研究者 京都医療センター腎臓内科 ○伊藤　遼, 瀬田　公一, 金子　惠一, 小泉　三輝, 菊地　祐子, 八幡　兼成 第194回内科学会近畿地方会

□投稿論文など

年	著書・雑誌名	内容
2011	Yagi H, Yahata K, Usui T, Hasegawa C, Seta K, Sugawara A. Intern Med. 2011;50(11):1211-4.	Inheritance of an autosomal recessive disorder, Gitelman's syndrome, across two generations in one family.
2011	小泉三輝, 瀬田公一, 金子惠一, 大野祥子, 菊地祐子, 長谷川千夏, 八幡兼成, 菅原照 日本急性血液浄化学会雑誌(2185-1085)2巻1号 Page118-121(2011.04)	Endoscopic retrograde cholangiopancreatography (ERCP)後に重症急性膵炎をきたし、sustained low-efficiency dialysis with filtration (SLED-f)により急性期を脱した1例
2011	Nanba K, Yahata K, Kikuchi Y, Okamoto C, Seta K, Sugawara A. Clin Exp Nephrol. 2011 Apr; 15(2) : 303-7.	A rare case of malignant-phase hypertension with pulmonary alveolar hemorrhage.

科　名：腫瘍内科



診療科長
外来化学療法センター長
安井　久晃

専門医資格等　日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医／指導医
がん治療認定医／がん治療認定医機構暫定教育医
日本内科学会認定内科医
専 門 分 野　腫瘍内科学(臨床腫瘍学)
緩和医療
得 意 疾 患　固形腫瘍
原発不明がん

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　師	岡崎　俊介	日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 日本内科学会認定内科医	腫瘍内科学 (臨床腫瘍学) 緩和医療	消化器がん

□診療科の特徴

1．患者さんが納得し満足いただける医療を提供します
2．患者さんとご家族を徹底的に支援します
3．エビデンスに基づいた最善の化学療法を行ないます
4．化学療法と並行して、緩和医療を提供します
5．患者さんと一緒に歩み、成長する姿勢を大切にします
6．地域の医療機関との連携を大切にします

□代表的診療対象疾患

・消化器がん(食道がん、胃がん、大腸がん、消化管間質腫瘍など)
・膵臓がん、胆道がん
・原発不明がん
・その他の固形腫瘍

□診療(業務)内容

・化学療法(がん薬物療法)の実施
・緩和医療の実施
・緩和ケアチーム参加
・他職種カンファレンスの実施
・他科からのコンサルテーション
・セカンドオピニオン
・外来化学療法センターの運営
・化学療法委員会の運営
・中心静脈ポート造設(他科より依頼)
・臨床試験への参加

入院患者数

	１日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	16.8	388	16.3

外来患者数

	１日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	22.4	90.9%	709.1%

□地域医療連携・広報活動

市民公開講座「京都市内の抗がん薬治療専門医によるがん医療の最前線」2012年３月４日(安井久晃)
がん支えあいの日記念フォーラム「がん治療と痛みケア」2011年6月18日；東京(安井久晃)
リボンズハウス開設イベント「自分らしくがんと生きる」2011年10月5日(安井久晃)
第二岡本総合病院化学療法研修会「外来化学療法と在宅ケア」2011年10月8日(安井久晃)

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　　容
2011	研究会	岡崎俊介、安井久晃．疼痛コントロールに難渋した症例．第3回京都のがん薬物療法を熱く語る会．2011年6月16日；京都
2011	研究会	岡崎俊介．ASCO2011の最新情報．第9回京都消化器癌化学療法セミナー．2011年7月7日；京都
2011	国内学会	安井久晃、岡崎俊介．Effect of paclitaxel in patients with pancreas cancer: retrospective analysis．第9回日本臨床腫瘍学会学術集会．2011年7月23日；東京
2011	研究会	安井久晃．がん化学療法における副作用対策．伏見医師会癌医療病診連携の会．2011年11月26日；京都
2012	研究会	安井久晃．制吐療法の新常識～ガイドラインの先へ～．兵庫支持療法セミナー．2012年2月9日；神戸
2012	研究会	岡崎俊介．3つの患者グループについての検討：Group 1 session．京都大腸がんカンファレンス．2012年2月9日；京都

□投稿論文など

年	著書・雑誌名	内容	
2011	Medicina（医学書院）	“がん診療”を内科医が担う時代　第2章　内科医が知りたいがんの知識　12. 外来化学療法と化学療法の副作用マネージメント	安井久晃
2012	腫瘍内科(化学評論社)	特集／分子標的治療薬の副作用とその対策　９．消化器症状	安井久晃
2012	Gastric Cancer	A feasibility study of outpatient chemotherapy with S-1 + cisplatin in patients with advanced gastric cancer.	岡崎俊介

科　名：精神科



専門医資格等　精神保健指定医
専 門 分 野　精神病理学

医長
杉崎　全良

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　師	吉田　貴子	精神保健指定医	精神病理学	
非常勤臨床心理士	梶川　和行			
非常勤臨床心理士	中前　純治			
非常勤臨床心理士	鍛治　まどか			
非常勤臨床心理士	平塚　梓			

□診療科の特徴

施設認定等	日本精神神経学会精神科専門医研修施設

1．確定診断と精神療法的な意味を兼ねて、初診時診察に十分な時間をかける。
2．精神疾患の病態を自然科学的、人間学的視点から多角的に把握する。
3．共感的、探求的な診察態度を心がけ、繊細な薬物療法を工夫する。
4．器質性精神障害が疑われるときには、他科と連携し、頭部ＭＲＩ等を利用して病態検索が可能である。

□代表的診療対象疾患

・睡眠障害　・身体表現性自律神経機能不全、その他の身体表現性障害
・パニック障害、その他の不安障害　・適応障害、その他のストレス関連障害
・強迫性障害、その他の神経症性障害　・躁うつ病、その他の気分障害　・統合失調症、妄想性障害等
・器質性あるいは症状性精神障害

□診療(業務)内容

1．精神科入院病棟は無いため、入院治療が必要と判断される時は、精神科病院等に紹介する。
2．医師による診療後、病態として心理学的に複雑な葛藤が想定される場合は、心理療法士による標準型精神分析療法等を併用することが可能。
3．一般病棟の他科入院患者に対し、依頼に応じて、リエゾン・コンサルテーション精神科医療に従事している。

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	−	−	−

外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	49.2	33.8%	39.7%

□地域医療連携・広報活動

吉田貴子医師

講演　「良質な医師を育てる研修会」講師

日時；2011年6月23 ～ 24日

場所；三重医療センター

講演　カウンセラー養成講座　講師

日時；2011年8月6日

場所；大阪ウィメンズセンター

科　名：神経内科



専門医資格等　日本神経学会専門医
専 門 分 野　神経内科
得 意 疾 患　ミオパチー、認知症

医長
中村　道三

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　長	大　谷　良	日本神経学会専門医	神経内科	脳血管障害
医　師	村 瀬　永 子	日本神経学会専門医	神経内科	ジストニア，パーキンソン病，運動異常症
専 修 医	端　祐 一 郎		神経内科	

□診療科の特徴

施設認定等	日本神経学会研修施設

1．納得できる医療を目指します
2．紹介医との密な連絡(病診連携)および大学や機関病院との連携に努めます
3．看護師、薬剤師、理学療法士など他の医療従事者とのチーム医療を推進します
4．若手医師の教育に尽力します

□代表的診療対象疾患

脳血管障害(脳梗塞、脳出血など)、認知症(アルツハイマー病など)、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの数多の神経難病、多発性硬化症、重症筋無力症などの免疫神経疾患、脳炎、髄膜炎など神経感染症、頭痛、てんかんなどの発作性疾患、ギランバレー症候群、種々のニューロパチーなどの末梢神経疾患、筋炎、筋ジストロフィーなどの筋疾患など

□診療(業務)内容

神経内科一般
糖尿病脳血管合併症外来(頸部血管エコー外来)
ボツリヌス治療
対象疾患：ジストニア、脳卒中後の痙縮、半側顔面痙攣
電気診断学にもとずく神経・筋疾患の電気生理検査(電気生理外来)
深部脳刺激、脊髄電気刺激を使った治療

入院患者数(事務で入力)

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	16.5	224	25.8

外来患者数(事務で入力)

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	38.8	55.9%	61.0%

□地域医療連携・広報活動

市民講座「認知症と音楽療法」2012.1.8

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内	容	
2011	国内学会	日本神経学会総会	CIDPの寛解維持を目的とする定期的ステロイドパルス療法	2011/5/19
2011	文化講演・教育講演など	伏見医師会学術集談会	認知症に対する外来音楽療法	2011/5/21
2011	薬効調査・研究会発表	Stroke研究会	超急性期に脳梗塞とてんかん重積の鑑別が困難であった一例	2011/6/10
2011	国内学会の全国年次学会	日本神経科学学会	Inter-individual variation in the after-effect of paired associative stimulation depends on the recruitment of late corticospinal Indirect-waves in the human primary motor cortex	2011/9/14
2011	文化講演・教育講演など	下京西部医師会生涯教育講演会	認知症と音楽療法	2011/9/15
2011	薬効調査・研究会発表	京都内科神経懇話会第20回	脳梗塞患者の運動機能における、大脳半球間の抑制とリハビリテーションへの応用	2011/9/17
2011	国内学会	日本臨床神経生理学会	シンポジウム TMSの臨床応用： ジストニアへの応用	2011/11/10
2011	文化講演・教育講演など	関西クラシック音楽ネットワーク・例会	認知症に対する音楽療法	2011/11/10
2011	国内学会	日本神経治療学会・神経難病における音楽療法を考える会	当院脳神経センターにおける音楽療法	2011/11/18
2011	国内学会の全国年次学会	音楽医療研究会	認知症の人に対して音楽ができること	2011/11/27
2011	薬効調査・研究会発表	OSK	超急性期に脳梗塞とけいれん重積状態の鑑別が困難であった1例	2011/12/3
2012	文化講演・教育講演など	大阪堺市福祉事業センター主催・市民講座	認知症と音楽療法	2012/1/8
2012	薬効調査・研究会発表	てんかん学術講演会	救急外来で脳梗塞が疑われたてんかんの1症例	2012/3/10
2012	薬効調査・研究会発表	京都大学医学部脳機総合解析センター 講演	Inter-individual variation in the after-effect of paired associative stimulation depends on the recruitment of late corticospinal Indirect-waves in the human primary motor cortex"	2012/3/14

科　名：呼吸器センター



医長
三尾　直士

専門医資格等
　呼吸器専門医、近畿支部評議員日本がん治療認定医機構暫定教育医
　日本内科学会認定内科医、指導医
　日本医師会認定産業医
　アメリカ胸部疾患学会(ATS)
　アメリカ臨床腫瘍学会(ASCO)
京都大学医学博士
京都大学臨床教授
専門分野
　呼吸器科全般
得意疾患
　肺癌・間質性肺炎



医長
澤井　　聡

専門医資格等
　日本呼吸器外科学会指導医、評議員　呼吸器外科専門医　気管支鏡指導医
　滋賀医科大学医学博士
専門分野
　呼吸器外科全般
得意疾患
　肺癌、縦隔腫瘍

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　師	元石　充	呼吸器外科専門医　気管支鏡専門医	呼吸器外科全般	呼吸器外科全般
医　師	陣内　牧子	日本内科学会認定内科医	呼吸器科全般	呼吸器内科一般
医　師	大塩　麻友美	外科専門医	呼吸器外科全般	肺癌
医　師	田中　博之	日本内科学会認定内科医	呼吸器科全般	肺癌　呼吸器疾患の集中治療　呼吸器内科一般　救急内科一般
医　師	岡村　美里	日本内科学会認定内科医	呼吸器科全般	肺癌　呼吸器内科一般
医　師	金井　修	日本内科学会認定内科医 エイズ拠点病院　施設代表 京都市HIV感染症対策専門委員会　委員	呼吸器科全般	HIV感染症、睡眠時無呼吸症候群、呼吸器内科一般
レジデント	片岡　瑛子	日本内科学会認定内科医	呼吸器外科全般	
専修医	葉山　学		呼吸器科全般	呼吸器感染症、呼吸器内科一般
専修医	北村　知嵩		呼吸器科全般	呼吸器内科一般・肺癌

□診療科の特徴

施設認定等	日本呼吸器外科基幹施設
	日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設

□代表的診療対象疾患

肺癌　縦隔腫瘍　胸壁腫瘍　気胸　肺嚢胞症

□診療(業務)内容

肺癌をはじめとする胸部の腫瘍(肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍)や気胸を代表とする嚢胞性肺疾患に対して主に胸腔鏡を用いた手術を行っております。

月、火、木、金曜日に外来、水、金曜日に手術を行っています。

呼吸器科入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	45.0	1028	15.7

呼吸器科外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	56.1	70.6%	85.6%

呼吸器外科入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	12.1	304	14.6

呼吸器外科外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	9.9	97.1%	440.0%

主な手術・検査の件数など

	手術(全身麻酔)	肺癌手術(診断含)
2011年度	148件	77件

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　容
2011	国内学会	大塩麻友美、片岡瑛子、澤井　聡．Rosai-Dorfman病の1手術例．第28回日本呼吸器外科学会総会．2011年5月12日；大分
2011	国内学会	片岡瑛子、大塩麻友美、澤井　聡．超高齢者の漏斗胸に対する胸壁固定術(Nuss法)の1例．第28回日本呼吸器外科学会総会．2011年5月12日；大分
2012	国内学会	片岡瑛子、大塩麻友美、元石　充、澤井　聡．右肺中葉低形成に発生したカルチノイドの1例．第95回日本肺癌学関西支部会．2012年2月25日；大阪

□投稿論文など

年	著書・雑誌名	内容
2012	日本呼吸器外科学会雑誌	腎細胞癌手術既往がある肺原発淡明細胞腫の1例(元石充)

科　名：消化器科



健診部長
前川　高天

専門医資格等　日本消化器病学会指導医
日本消化器内視鏡学会指導医・同評議員
日本内科学会認定内科医
日本ヘリコバクター学会　H.Pylori(ピロリ菌)感染症認定医
専 門 分 野　消化器内科一般
得 意 疾 患　消化管疾患

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　長	勝島　慎二	日本消化器病学会指導医・同評議員 日本消化器内視鏡学会指導医 日本医学放射線学会放射線科専門医 日本内科学会認定内科医 日本がん治療認定医機構がん治療暫定教育医・認定医 日本消化器がん検診学会認定医	消化器内科一般	肝疾患 炎症性腸疾患
医　長	島　伸子	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本内科学会認定内科医	消化器内科一般	消化管X線検査 内視鏡検査・治療
医　長	水本　吉則	日本消化器病学会指導医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本内科学会総合内科専門医	消化器内科一般	消化管・胆・膵の内視鏡検査・治療全般 炎症性腸疾患
医　員	米田　俊貴	日本消化器病学会消化器病専門医 日本肝臓学会指導医 日本内科学会指導医	消化器内科一般	肝疾患
医　員 (健診部)	北岡　修二	日本消化器病学会指導医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本肝臓学会専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本医師会認定産業医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医	消化器内科一般	内視鏡検査・治療 産業保健
医　員	友野　輝子	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本内科学会認定内科医 日本医師会認定産業医 ICD協議会認定インフェクションコントロールドクター	消化器内科一般	消化管・胆・膵の内視鏡検査・治療全般 EUS、EUS-FNA
医　員	江坂　直樹		消化器内科一般	小腸内視鏡、緩和医療、PEG
医　員	遠藤　文司	日本内科学会認定内科医 日本医師会認定産業医 ICD協議会認定インフェクションコントロールドクター	消化器内科一般	胆道・膵疾患検査・治療
医　員	太田　義之		消化器内科一般	消化管疾患

レジデント	田 中　義 人		消化器内科一般	消化管疾患
専　修　医	太　田　　励	日本ヘリコバクター学会　H.Pylori(ピロリ菌)感染症認定医	消化器内科一般	消化管疾患
専　修　医	出口　美智代		消化器内科一般	消化管疾患

□診療科の特徴

施設認定等	日本消化器病学会認定施設
	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本肝臓学会認定施設

1．三次救急病院の消化器内科として、緊急内視鏡検査(ERCP含む)治療・PTCDなどに24時間対応
2．地域がん診療連携拠点病院の消化器内科として消化器癌全般の診断と早期癌の内視鏡的あるいは経皮的治療に全て対応
3．地域医療支援病院の消化器内科として紹介による内視鏡検査の実施、PEG/PTEGの造設・管理に対応
4．炎症性腸疾患の専門診療を実施
5．多数の慢性肝疾患症例を専門的に診療

□代表的診療対象疾患

消化器癌全般(食道、胃、大腸、肝臓、膵臓、胆嚢･胆管系)、炎症性腸疾患(クローン病、潰瘍性大腸炎)
急性および慢性肝疾患(ウイルス性、自己免疫性)、肝硬変、ヘリコバクター感染症関連疾患(消化性潰瘍、MALT)

□診療(業務)内容

消化器内科一般外来および肝臓専門外来
上部消化管、下部消化管内視鏡検査および治療
ERCPおよびERCP関連治療
PTCおよびPTC関連治療
EUSおよびEUS-FNA
小腸内視鏡(カプセルおよびバルーン内視鏡)
炎症性腸疾患に対する免疫療法(免疫抑制剤、生物学的製剤)
慢性ウイルス性肝炎に対する抗ウイルス療法(インターフェロン、核酸アナログ)
肝癌に対する経皮的治療
セカンドオピニオン外来
内視鏡技師の育成

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	56.1	1439	14.6

外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	126.6	74.5%	38.2%

主な手術・検査の件数など

	上部消化管内視鏡検査	下部消化管内視鏡検査	ERCP	食道･胃ESD	大腸ESD	肝癌ラジオ波焼灼術
2011年度	6,031件	2,537件	462件	97件	50件	96件

□地域医療連携・広報活動

深草消化器医療連携の会2011年8月27日(地元医師会と)

伏見医師会癌医療病診連携の会2011年9月10日(肝癌について勝島医師講演)

伏見医師会癌医療病診連携の会2011年11月26日(大腸癌について水本医師講演)

京都消化器医会定例学術講演会2011年5月14日(ピロリ菌除菌療法の近況と問題点について前川医師講演)

第19回京都糖尿病医学学術講演会2011年6月25日(生活習慣病からNASH ～肝硬変に至った症例について米田医師症例検討)

第19回京滋消化器内視鏡治療勉強会2011年7月21日(緩和医療における消化管ステントについて水本医師講演)

第9回慢性肝炎カンファレンス2011年12月3日(IFNの第三世代治療について米田医師講演)

第9回慢性肝炎カンファレンス2011年12月3日(C型肝硬変に対する抗ウィルス療法について勝島医師講演)

第6回消化器循環器JOINT FORUM2012年3月3日(H.pylori除菌療法の現状と問題点について前川医師講演)

FM845　カラダ元気　2011年11月29日(胆石について遠藤医師)ラジオ出演

FM845　カラダ元気2011年12月13日(胃がん検診について北岡医師)ラジオ出演

伏見栄養療法・胃瘻研究会2011年10月1日・2012年3月17日(地元医師会と開催)

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　　容
2011	国内学会	水本吉則ら.下部食道癌・噴門部胃癌対する逆流防止Niti-S Esophageal Stent(ロングカバータイプ)の有用性.第81回日本消化器内視鏡学会総会.2011年8月17日；名古屋
2011	国内学会	水本吉則ら.ERCP検査・治療に対する卒後研修の試み.第81回日本消化器内視鏡学会総会.2011年8月17日；名古屋
2011	国内学会	太田義之ら.大腸内視鏡検査における術者熟練度別にみたCO_2送気の有用性.第81回日本消化器内視鏡学会総会.2011年8月17日；名古屋
2011	国内学会	遠藤文司ら.ERCP後膵炎の発症予防を目的とした内視鏡的胆道ドレナージにおける適切なチューブ口径の選択.第81回日本消化器内視鏡学会総会.2011年8月18日；名古屋
2011	国内学会	田中義人ら.当院で経験した胆管内乳頭状腫瘍(IPNB)3例の臨床病理学的特徴.第81回日本消化器内視鏡学会総会.2011年8月18日；名古屋
2011	国内学会	水本吉則ら.大腸ESDの安全性に関する検討.第81回日本消化器内視鏡学会総会.2011年8月19日；名古屋
2011	国内学会	北岡修二ら.経鼻内視鏡検査における適応型IHb色彩強調画像併用観察の有用性.第81回日本消化器内視鏡学会総会付置研究会第１回経鼻内視鏡研究会.2011年8月19日；名古屋
2011	国内学会	米田俊貴.勝島慎二ら、HCVの自然排除群の関連遺伝子の検索―IL28B遺伝子とHLA抗原の多型性の検索を中心に.第47回日本肝臓学会総会.2011年6月3日；東京
2011	国内学会	米田俊貴ら.Genotype2 HCV症例におけるIFN非著効サブポピュレーション.第47回日本肝臓学会総会.2011年6月3日；東京
2011	国際学会	Teruko Tomono et al. Natural History of Gastrointestinal Stromal Tumors(GISTs). Digestive Didease Week 2011.2011年5月7日；chicago　USA
2011	国内学会	米田俊貴ら.日本人原発性胆汁性肝硬変における免疫関連分子の遺伝子多型の解析.　第47回日本肝臓学会ワークショップ自己免疫性肝疾患. 2011年6月3日；東京
2011	国内学会	米田俊貴ら.核酸アナログ未治療のB型慢性肝炎疾患に対するエンテカビルの治療成績.　第47回日本肝臓学会ポスターセッションB型肝炎. 2011年6月2日；東京
2011	国内学会	友野輝子ら.EUS-FNAの基本.第81回日本消化器内視鏡学会総会パネルディスカッション.2011年8月19日；名古屋
2011	国内学会	北岡修二ら.経鼻内視鏡検査における適応型IHb色彩強調画像観察の有用性.JDDW2011福岡ワークショップ.2011年10月21日；福岡
2011	国内学会	米田俊貴ら.ジェノタイプ2難治例に対する再治療はいかに臨むべきか.第39回日本肝臓学会西部会一般演題.2011年12月9日；岡山
2011	研究会発表	田中義人ら.胆管内乳頭状腫瘍(IPBN)の一例.　第30回京大消化器症例検討会.2011年6月11日；大阪

2011	研究会発表	田中義人.大腸の平坦隆起性病変の一例.　第4回京都大腸内視鏡研究会.2011年6月24日；京都
2011	研究会発表	松本　淳ら.急速な増大を示したforegut cystの一例.　第31回京大消化器症例検討会.2012年1月7日；京都
2011	研究会発表	米田俊貴ら.IFN著効判定後にHCV-RNAの再出現をみた3例.第12回R24肝臓カンファレンス.2012年1月14日；奈良
2011	研究会発表	田中義人.当院で経験した胆管内乳頭状腫瘍の臨床病理学的特徴.第4回京都胆道カンファレンス.2012年1月19日；京都
2011	研究会発表	水本吉則.レミケード増量(10ｍｇ/ｋｇ)投与に寄せる期待.Inflixmab CD Seminar.2012年3月17日；京都
2011	研究会発表	米田俊貴.PEG-IFN市販後のC型肝炎に対するIFN治療の変遷.平成23年度第2回国立病院機構共同臨床研究・厚生労働科学研究費補助金合同班会議.2012年2月3日；長崎

□投稿論文など

年	著書・雑誌名	内容
Apr-11	臨床腫瘍プラクティス	悪性消化管閉塞に対する内視鏡ステント、水本吉則ら
Sep-11	病理と臨床	巨大嚢胞性病変を呈した膵退形成癌の一剖検例、南口早智子、勝島慎二ら
Oct-11	肝臓	C型慢性肝炎に対するペグインターフェロンα2a少量療法はグリチルリチン製剤に比して有意にALT値およびAFP値を低下させる、勝島慎二ら
Feb-12	Gastroenterological Endoscopy	胃粘膜下腫瘍様病変に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)が診断に有用であったサルコイドーシスの1例、遠藤文司ら
Mar-12	肝胆膵画像	肝副葉に生じた肝血管腫の1例、遠藤文司ら
Nov-11	Gut Online	Hepatitis B virus strains of subgenotype A2 with an identical sequence spreading rapidly from the capital region to all over Japan in patients with acute hepatitis B；Toshiki Komeda et al.

科　名：循環器科



医長・診療科長
赤尾　昌治

専門医資格等　日本循環器学会認定循環器専門医、
日本内科学会認定内科医、指導医、近畿支部評議員
京都大学臨床教授
京都大学非常勤講師

専 門 分 野　循環器一般、不整脈、心房細動、医学教育

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長 カテ室チーフ	阿　部　充	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医、指導医 日本心血管インターベンション治療学会専門医、指導医	虚血性心疾患、冠動脈インターベンション、臨床研究（冠動脈インターベンション、造影剤起因性腎症）	
医師	益永　信豊	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	循環器一般、カテーテル治療	
医師	小　川　尚		電気生理、呼吸循環病態生理	
医師	井口　守丈	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	循環器一般、心不全、冠動脈CT	
医師	石　井　充	日本内科学会認定内科医	循環器一般、カテーテル治療	
医師	鵜　木　崇	日本内科学会認定内科医	循環器救急、心肺停止蘇生、低体温療法、虚血性心疾患	
医師	高林　健介		循環器一般	
医師	竹中　淑夏		循環器一般	
展開医療研究部部長	長谷川　浩二	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医専門医 アメリカ心臓協会専門医（FAHA） アメリカ心臓病学会専門医（FACC） 日本禁煙科学会認定　禁煙支援医	心不全、虚血性心疾患、心血管危険因子管理・特に禁煙指導、心血管展開医療研究	
展開医療研究部室長	和田　啓道	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	循環器学、リスクファクター管理、予防医学	
医事管理部長	小坂田　元太	日本循環器学会認定循環器専門医、近畿支部評議員 日本内科学会認定内科医、指導医 日本超音波医学会 超音波専門医、指導医	循環器内科学、超音波医学	
医長	中島　康代	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医、総合内科専門医、指導医	心不全、不整脈、心臓リハビリ	

□診療科の特徴

施設認定等	日本循環器学会認定循環器研修施設
	日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設
	日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設

診療科モットー：「地域、世界、そして将来に貢献する循環器科」

1．「地域」：命を守る責任感をもって、信頼される地域医療を提供すること

2．「世界」：より良い医療を探求する情熱を持ち、世界に向けて情報発信すること

3．「将来」：指導者として人を教え育て、学習者として人から学び成長すること

「地域」は診療、「世界」は研究、「将来」は教育をあらわしています。診療・研究・教育の3本柱は、それぞれが互いを刺激して高めあう関係にあります。この3本柱がバランス良くしかも高いレベルで達成されていること、これが我々の診療科の目指す姿であり、また課せられた使命であると考えています。

□代表的診療対象疾患

虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)、不整脈、心不全、心原性ショック、心筋症､心筋炎、心臓弁膜症、
感染性心内膜炎、心膜疾患、心タンポナーデ、高血圧、大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症
静脈血栓症、肺塞栓症

□診療(業務)内容

心臓、血管系の疾病全般を扱います。専門性に偏ることなく､バランスの取れた診療を行っていくよう、常に心がけていきます。

冠動脈疾患に対するカテーテル検査・治療が当科診療の中心です。知識も技術もともに“世界に通用する心臓カテーテル検査と治療”を提供するべくスタッフ全員で日夜頑張っております。2009年から下肢閉塞性動脈硬化症のカテーテル治療(PTA)を、また2010年春から頻脈性不整脈のカテーテルアブレーションを開始し、良好な治療成績をおさめております。さらに高度先進医療を積極的に推進し、心臓・血管系の疾病でお困りの皆さんに少しでもお役に立ちたいと願っています。

また、当科ではつねに多くの臨床研究や、新しい薬剤や医療機器の治験をおこなっており、より有効性・安全性の高い医療を求めて積極的に研究活動を行っています。

このたび、2011年1月の新病棟落成にあわせて、CCU、心臓リハビリテーションが開始となり、さらに4月からは256列冠動脈CTが導入され、診療内容が大幅に充実しました。そして心臓外科専門医の白神幸太郎医長が着任し、当院の悲願でありました開心術が6月から開始されました。これまで内科的治療では限界のあった重症心血管疾患の患者さんが、手術を受けて元気に退院して社会復帰され、我々も大変嬉しく思っています。

また、開心術の開始により、重症不整脈患者を対象とした植込型除細動器(ICD)、重症心不全患者を対象とした心臓再同期療法(両心室ペースメーカー)の実施施設基準を取得し、治療を開始しています。

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	28.1	1223	8.3

外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	82.0	76.1%	175.8%

主な手術・検査の件数など

	冠動脈カテーテル治療	冠動脈カテーテル検査	下肢動脈カテーテル治療	カテーテルアブレーション	ペースメーカー植込
2011年	345件	770件	34件	23件	53件

□地域医療連携・広報活動

第3回伏見心血管病勉強会「院外心停止症例に対する当院の取り組み」　平成23年2月5日

第4回伏見心血管病勉強会「循環器疾患に対する外科治療」　平成23年9月3日

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	内		容
2011	The American College of Cardiology 61st Annual Scientific Session, Chicago, USA. 2011.3.	Highly Absorptive Curcumin Improves Left Ventricular Diastolic Function Regardless of Blood Pressure in Hypertensive Patients.	Tatsuya Morimoto, Hiromichi Wada, Yoichi Sunagawa, Masatoshi Fujita, Hideaki Kakeya, Atsushi Imaizumi, Tadashi Hashimoto, Masaharu Akao, Yasufumi Katanasaka, Genta Osakada, Hirofumi Kambara, Hiroki Shiomi, Takeshi Kimura, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa.
2011	第194回日本内科学会近畿地方会	検診での胸部X線異常を契機に発見された無症状の心房中隔欠損症の一例	濱谷康弘，石井充，竹中淑夏，西尾真季，小川尚，舩津順子，金崎幹彦，小坂田元太，阿部充，赤尾昌治
2011	第194回日本内科学会近畿地方会	20年前に失神発作を来たし、脳動静脈奇形と診断されていたBrugada症候群の一例	小川尚，石井充，谷口由里子，鵜木崇，益永信豊，中島康代，土井孝浩,静田聡、阿部充、赤尾昌治
2011	第111回日本循環器学会近畿地方会	肺高血圧症を伴う孤立性肺動脈欠損症に対してポセンタン治療を施行した一例	山下侑吾、石井充、小川尚、竹中淑夏、西尾真季、鵜木崇、益永信豊、舩津順子、金崎幹彦、中島康代、和田啓道、長谷川浩二、小坂田元太、中野爲夫、阿部充、赤尾昌治
2011	第111回日本循環器学会近畿地方会	完全房室ブロックを来たし、ペースメーカー埋込後にリード穿孔を来した心アミロイドーシスの一例	森田絢子、小川尚、金崎幹彦、竹中淑夏、西尾真季、鵜木崇、石井充、益永信豊、舩津順子、中島康代、和田啓道、長谷川浩二、小坂田元太、中野爲夫、阿部充、赤尾昌治
2011	第111回日本循環器学会近畿地方会	エルゴメトリン負荷にて冠攣縮が証明された9日後に急性心筋梗塞を発症した一例	花田圭太、石井充、竹中淑夏、西尾真季、鵜木崇、益永信豊、小川尚、船津順子、金崎幹彦、中島康代、和田啓道、長谷川浩二、小坂田元太、中野為夫、阿部充、赤尾昌治
2011	第75回日本循環器病学会学術集会総会, 横浜 2011.8.3-4	Simultaneous monitoring of reactive oxygen species, calcium and mitochondrial potential during myocardial ischemia by real-time two-photon imaging of perfused rat hearts.	Moritake Iguchi, Masaharu Akao, Masashi Kato, Madoka Matsumoto-Ida, Toru Kita, Takeshi Kimura.
2011	第75回日本循環器病学会学術集会総会, 横浜 2011.8.3-4	α1-Antitrypsin-low-density-lipoprotein Serves as a Marker of Smoking-specific Oxidative Stress.	Hiromichi Wada, Noriko Satoh, Shuichi Ura, Akira Yamada, Shuji Kitaoka, Masaharu Akao, Mitsuru Abe, Koh Ono, Tatsuya Morimoto, Masatoshi Fujita, Akira Shimatsu, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa
2011	第75回日本循環器病学会学術集会総会, 横浜 2011.8.3-4	Serum Adiponectin Levels are Increased by Pathologically Induced Left Ventricular Hypertrophy.	Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Nobutoyo Masunaga, Tomohide Takaya, Shuichi Ura, Akira Yamada, Rieko Takanabe-Mori, Mitsuru Abe, Junko Funatsu, Yasuyo Nakajima, Mikihiko Kanasaki, Genta Osakada, Tameo Nakano, Koh Ono, Noriko Satoh, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa
2011	第75回日本循環器病学会学術集会総会, 横浜 2011.8.3-4	Index of Lectin-like Oxidized Low-density-lipoprotein Receptor Is Independently Associated with Left Ventricular Systolic Dysfunction.	Hiromichi Wada, Nobutoyo Masunaga, Shuichi Ura, Akira Yamada, Masaharu Akao, Mitsuru Abe, Mikihiko Kanasaki, Genta Osakada, Tomohide Takaya, Tatsuya Morimoto, Masatoshi Fujita, Yoshiko Fujita, Yuko Satoh, Akira Shimatsu, Tatsuya Sawamura, Koji Hasegawa
2011	第75回日本循環器病学会学術集会総会, 横浜 2011.8.3-4	Serum Levels of Placental Growth Factor is Associated with Left Ventricular Hypertrophy in Men.	Nobutoyo Masunaga, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Shuichi Ura, Akira Yamada, Tomohide Takaya, Mitsuru Abe, Maki Nishio, Junko Funatsu, Yasuyo Nakajima, Mikihiko Kanasaki, Genta Osakada, Noriko Satoh, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa
2011	第75回日本循環器病学会学術集会総会, 横浜 2011.8.3-4	Serum Levels of α1-Antitrypsin-LDL were Associated With Severe Arteriosclerosis Obliterans.	Nobutoyo Masunaga, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Shuichi Ura, Akira Yamada, Mitsuru Ishii, Takashi Unoki, Mitsuru Abe, Junko Funatsu, Maki Nishio, Hisashi Ogawa, Yoshika Takenaka, Yasuyo Nakajima, Mikihiko Kanasaki, Noriko Satoh, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa
2011	European Society of Cardiology Congress 2011, Paris, France. 2011.8.	alpha1-Antitrypsin-low-density-lipoprotein serves as a marker of smoking-specific oxidative stress.	H. Wada, N. Satoh-Asahara, M. Akao, M. Abe, K. Ono, T. Morimoto, M. Fujita, A. Shimatsu, Y. Takahashi, K. Hasegawa.
2011	European Society of Cardiology Congress 2011, Paris, France. 2011.8.	Placental growth factor is a sensitive indicator of abdominal fat accumulation and increased insulin resistance after smoking cessation in men.	H. Wada, S. Kitaoka, S. Ura, M. Akao, M. Abe, T. Morimoto, M. Fujita, A. Shimatsu, Y. Takahashi, K. Hasegawa.

2011	European Society of Cardiology Congress 2011, Paris, France. 2011.8.	Serum VEGF-C levels are elevated in metabolic syndrome subjects.	H. Wada, S. Ura, S. Kitaoka, N. Satoh-Asahara, M. Akao, M. Abe, T. Morimoto, M. Fujita, A. Shimatsu, K. Hasegawa.
2011	第196回日本内科学会近畿地方会	ペースメーカーリードへの疣贅付着を伴う感染性心内膜炎の二例	髙田秀明、阿部充、金崎幹彦、小川尚、小坂田元太、濱谷康弘、小田垣孝雄、小山弘、赤尾昌治
2011	第196回日本内科学会近畿地方会	発作性心房細動の発作開始一時間後に血栓性脳梗塞を発症した一例	高木大輔、小川尚、新井大輔、井口守丈、舩津順子、和田啓道、中島康代、阿部充、赤尾昌治
2011	第196回日本内科学会近畿地方会	心肺蘇生後にtorsades de pointesを多発し、心電図の経時的変化からたこつぼ型心筋症が疑われた一例	高林健介、鵜木崇、竹中淑夏、石井充 、益永信豊、小川尚、長谷川浩二、中野爲夫、阿部充、赤尾昌治
2011	第59回日本心臓病学会学術集会	男性において血清の胎盤由来増殖因子レベルは左室肥大に関連する	益永信豊、和田啓道、赤尾昌治、浦修一、高谷智英、阿部充、西尾真季、船津順子、中島康代、金崎幹彦、小坂田元太、浅原哲子、島津章、長谷川浩二
2011	第59回日本心臓病学会学術集会	血管内皮増殖因子Cは動脈硬化惹起性脂質異常と関連している	浦修一、和田啓道、北岡修二、浅原哲子、高谷智英、森利依子、尾野亘、赤尾昌治、阿部充、森本達也、藤田正俊、島津章、長谷川浩二
2011	第59回日本心臓病学会学術集会	血清可溶性VEGF受容体2レベルは冠動脈疾患重症度と逆相関する	和田啓道、赤尾昌治、益永信豊、浦修一、鵜木崇、石井充、阿部充、船津順子、西尾真季、小川尚、竹中淑夏、中島康代、金崎幹彦、小坂田元太、中野爲夫、浅原哲子、島津章、長谷川浩二
2011	第59回日本心臓病学会学術集会	血清α1-Antitrypsin-LDLは喫煙と密接に関連したマーカーである	浦修一、和田啓道、浅原(佐藤)哲子、北岡修二、赤尾昌治、阿部充、尾野亘、森本達也、藤田正俊、島津章、高橋裕子、長谷川浩二
2011	第59回日本心臓病学会学術集会	LOX-indexは収縮不全患者において有意に上昇している	和田啓道、益永信豊、浦修一、赤尾昌治、阿部充、金崎幹彦、小坂田元太、高谷智英、森本達也、藤田正俊、藤田佳子、佐藤優子、島津章、沢村達也、長谷川浩二
2011	第59回日本心臓病学会学術集会	貧血を伴う慢性腎臓病は、重症冠動脈疾患の独立した規定因子である	鵜木崇、和田啓道、赤尾昌治、益永信豊、石井充、阿部充、浦修一、船津順子、西尾真季、小川尚、竹中淑夏、中島康代、金崎幹彦、小坂田元太、中野爲夫、島津章、長谷川浩二
2011	第59回日本心臓病学会学術集会	α1-anti-trypsin-LDLは閉塞性動脈硬化症の重症度と関連する	益永信豊、和田啓道、赤尾昌治、浦修一、石井充、鵜木崇、阿部充、船津順子、西尾真季、小川尚、竹中淑夏、中島康代、金崎幹彦、浅原哲子、島津章、長谷川浩二
2011	American Heart Association Scientific Sessions 2011, Orlando, USA. 2011.11.	Soluble Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-1 Serves as a Marker of Cardiovascular Risk in Chronic Kidney Disease Patients.	Hiromichi Wada, Shuichi Ura, Nobutoyo Masunaga, Masaharu Akao, Mitsuru Abe, Junko Funatsu, Yasuyo Nakajima, Mikihiko Kanasaki, Tameo Nakano, Koh Ono, Tatsuya Morimoto, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa.
2011	American Heart Association Scientific Sessions 2011, Orlando, USA. 2011.11.	Effects of Highly Absorptive Curcumin on Systolic and Diastolic Function in Hypertensive Patients with Left Ventricular Hypertrophy.	Tatsuya Morimoto, Hiromichi Wada, Yoichi Sunagawa, Masatoshi Fujita, Hideaki Kakeya, Hiroki Sasaki, Atsuhi Imaizumi, Tadashi Hashimoto, Masaharu Akao, Genta Osakada, Hirofumi Kambara, Osamu Doi, Hiroki Shiomi, Takeshi Kimura, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa.
2011	第112回日本循環器学会近畿地方会	起始異常を伴う冠動脈拡張症に急性心筋梗塞を認めた一例	高木大輔,石井充、小川尚、高林健介、竹中淑夏、鵜木崇、益永信豊、舩津順子、金崎幹彦、中島康代、和田啓道、長谷川浩二、小坂田元太、阿部充、赤尾昌治
2011	第112回日本循環器学会近畿地方会	偶発性低体温による心肺停止に対しPCPSによる積極的な復温が奏効し社会復帰した一例	鵜木崇、阿部充、小川尚、高林健介、竹中淑夏、石井充、井口守丈、益永信豊、舩津順子、金崎幹彦、中島康代、和田啓道、長谷川浩二、小坂田元太、赤尾昌治
2011	第112回日本循環器学会近畿地方会	PCPSからの離脱時に広範囲な心原性脳梗塞を生じた劇症型心筋炎の一例	竹中淑夏、石井充、小川尚、高林健介、鵜木崇、井口守丈、益永信豊、舩津順子、金崎幹彦、中島康代、和田啓道、長谷川浩二、小坂田元太、阿部充、赤尾昌治
2011	第196回日本内科学会近畿地方会	難治性冠攣縮性狭心症にCa拮抗剤2剤併用とスタチンの増量が有効であった一例	袴田圭祐、鵜木崇、小川尚、高林健介、石井充、益永信豊、小坂田元太、阿部充、赤尾昌治
2011	第196回日本内科学会近畿地方会	左房内腫瘤様エコーを呈した食道裂孔ヘルニアの一例	佐田蓉子、小川尚、金崎幹彦、井口守丈、和田啓道、中島康代、小坂田元太、阿部充、赤尾昌治
2011	第196回日本内科学会近畿地方会	重症肺血栓塞栓症にt-PAを投与し肝実質内出血を合併した一例	高林健介，石井充，小川尚，竹中淑夏，鵜木崇，井口守丈，益永信豊，長谷川浩二，阿部充，赤尾昌治

2011	第76回日本循環器病学会学術集会総会, 福岡 2012.3.16-18	Current Status of Clinical Backgrounds of Patients with Atrial Fibrillation in a Community-based Prospective Survey: The Fushimi AF Registry	Masaharu Akao, Yeong-Hwa Chun , Hiromichi Wada , Masahiro Esato , Tetsuo Hashimoto , Mitsuru Abe , Koji Hasegawa , Hikari Tsuji , Keizo Furuke
2011	第76回日本循環器病学会学術集会総会, 福岡 2012.3.16-18	Distinct Difference in Clinical Backgrounds of Atrial Fibrillation Patients between Private Clinics and Cardiovascular Centers: From the Fushimi AF Registry	Hikari Tsuji, Masaharu Akao , Yeong-Hwa Chun , Hiromichi Wada , Masahiro Esato , Tetsuo Hashimoto , Mitsuru Abe , Koji Hasegawa , Keizo Furuke
2011	第76回日本循環器病学会学術集会総会, 福岡 2012.3.16-18	Soluble Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-1 is a Novel Marker of Cardiovascular Risk in Association with Chronic Kidney Disease	Hiromichi Wada, Shuichi Ura , Nobutoyo Masunaga , Masaharu Akao , Mitsuru Ishii , Takashi Unoki , Mitsuru Abe , Mikihiko Kanasaki , Yasuyo Nakashima , Ko Ono , Tatsuya Morimoto , Akira Shimatsu , Koji Hasegawa
2011	第76回日本循環器病学会学術集会総会, 福岡 2012.3.16-18	Serum Levels of Vascular Endothelial Growth Factor-C are Inversely Associated with Severe Coronary Artery Disease	Takashi Unoki, Hiromichi Wada , Masaharu Akao , Shuichi Ura , Nobutoyo Masunaga , Mitsuru Ishii , Mitsuru Abe , Hisashi Ogawa , Moritake Iguchi , Yoshika Takenaka , Kensuke Takabayashi , Yasuyo Nakashima , Mikihiko Kanasaki , Genta Osakada , Akira Shimatsu , Koji Hasegawa
2011	第76回日本循環器病学会学術集会総会, 福岡 2012.3.16-18	Highly Absorptive Curcumin Improves Left Ventricular Diastolic Function in Hypertensive Patients with Left Ventricular Hypertrophy	Tatsuya Morimoto, Hiromichi Wada , Yoichi Sunagawa , Masatoshi Fujita , Hideaki Kakeya , Hiroki Sasaki , Atsushi Imaizumi , Tadashi Hashimoto , Masaharu Akao , Hidetoshi Suzuki , Yasufumi Katanasaka , Genta Osakada , Hirofumi Kanbara , Osamu Doi , Hiroko Shiomi , Takeshi Kimura , Akira Shimatsu , Koji Hasegawa
2011	第76回日本循環器病学会学術集会総会, 福岡 2012.3.16-18	Serum Levels of Vascular Endothelial Growth Factor-C are Associated with Dyslipidemia and Atheroscrelosis	Shuichi Ura, Hiromichi Wada , Shuji Kitaoka , Noriko Satoh-Asahara , Takahiro Horie , Ko Ono , Masaharu Akao , Mitsuru Abe , Tatsuya Morimoto , Masatoshi Fujita , Akira Shimatsu , Koji Hasegawa
2011	第76回日本循環器病学会学術集会総会, 福岡 2012.3.16-18	Serum Levels of VEGF-C, but not VEGF-A, are Inversely Associated with Systolic Dysfunction	Mitsuru Ishii, Hiromichi Wada , Masaharu Akao , Shuichi Ura , Nobutoyo Masunaga , Takashi Unoki , Mitsuru Abe , Yasuyo Nakashima , Mikihiko Kanasaki, Genta Osakada , Noriko Satoh-Asahara , Akira Shimatsu , Koji Hasegawa
2011	第76回日本循環器病学会学術集会総会, 福岡 2012.3.16-18	Serofendic Acid, an Endogenous Substance Extracted from Fetal Calf Serum, Protects against Myocardial Ischemia-reperfusion Injury in Rats	Tadaaki Ioroi, Masaharu Akao , Toshiaki Kume , Moritake Iguchi , Masashi Katoh , Takeshi Kimura , Yasuhiko Izumi , Akinori Akaike
2011	第76回日本循環器病学会学術集会総会, 福岡 2012.3.16-18	Serum Levels of Vascular Endothelial Growth Factor-C are Inversely Associated with Future Cardiovascular Events	Nobutoyo Masunaga, Hiromichi Wada , Masaharu Akao , Shuuichi Ura , Mitsuru Ishii , Takashi Unoki , Mitsuru Abe , Yasuyo Nakashima , Mikihiko Kanasaki , Ko Ono , Tatsuya Morimoto , Noriko Satoh-Asahara , Akira Shimatsu , Koji Hasegawa
2011	第76回日本循環器病学会学術集会総会, 福岡 2012.3.16-18	Long-term Clinical Outcomes of Right Ventricular Septal Pacing Compared with Right Ventricular Apical Pacing in Patients with Pacemaker Implantation	Hisashi Ogawa, Mikihiko Kanasaki , Kensuke Takabayashi , Yoshika Takenaka , Takashi Unoki , Mitsuru Ishii , Moritake Iguchi , Nobutoyo Masunaga , Yasuyo Nakashima , Genta Osakada , Hiromichi Wada , Koji Hasegawa , Mitsuru Abe , Masaharu Akao

□投稿論文など

年	内　　容	
2011	High blood viscosity is closely associated with cigarette smoking and markedly reduced by smoking cessation. Shimada S, Hasegawa K, Wada H, Terashima S, Satoh-Asahara N, Yamakage H, Kitaoka S, Akao M, Shimatsu A, Takahashi Y. Circ J. 2011;75(1):185-9.	Shimada S, Hasegawa K, Wada H, Terashima S, Satoh-Asahara N, Yamakage H, Kitaoka S, Akao M, Shimatsu A, Takahashi Y.
2011	α1-Antitrypsin Low-Density-Lipoprotein Serves as a Marker of Smoking-Specific Oxidative Stress. Wada H, Ura S, Satoh-Asahara N, Kitaoka S, Mashiba S, Akao M, Abe M, Ono K, Morimoto T, Fujita M, Shimatsu A, Takahashi Y,Hasegawa K. J Atheroscler Thromb. 2011 Oct 26. [Epub ahead of print]	Wada H, Ura S, Satoh-Asahara N, Kitaoka S, Mashiba S, Akao M, Abe M, Ono K, Morimoto T, Fujita M, Shimatsu A, Takahashi Y,Hasegawa K.
2011	Distinct characteristics of circulating vascular endothelial growth factor-a and C levels in human subjects. Wada H, Ura S, Kitaoka S, Satoh-Asahara N, Horie T, Ono K, Takaya T, Takanabe-Mori R, Akao M, Abe M, Morimoto T, Murayama T, Yokode M, Fujita M, Shimatsu A, Hasegawa K. PLoS One. 2011;6(12):e29351.	Wada H, Ura S, Kitaoka S, Satoh-Asahara N, Horie T, Ono K, Takaya T, Takanabe-Mori R, Akao M, Abe M, Morimoto T, Murayama T, Yokode M, Fujita M, Shimatsu A, Hasegawa K.

科　名：小児科



専門医資格等　日本小児科学会専門医
専 門 分 野　血液・腫瘍・予防接種
得 意 疾 患　心身症

医長
秋山　祐一

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　長	黒須　英雄	日本小児科学会専門医	未熟児・新生児	小児発達
医　長	河田　興	日本小児科学会専門医 日本周産期学会　新生児専門医 日本臨床薬理学会　専門医	未熟児・新生児	妊娠とくすり 新生児とくすり
医　長	鶴田　悟	日本小児科学会専門医 日本アレルギー学会　専門医 日本感染症学会　専門医	アレルギー疾患 小児感染症	喘息・アトピー 食物アレルギー
医　員	石塚　哲也		小児救急	
医　員	豊田　有子	日本小児科学会専門医	小児内分泌代謝	低身長・甲状腺
医　員	北　誠		未熟児・新生児／小児全般	虐待
医　員	阿水　利沙	日本小児科学会専門医	未熟児・新生児／小児全般	極小・超未熟児

□診療科の特徴

施設認定等	日本小児科学会研修施設

1．お子さんの、心とからだの発達を重視します
2．スタッフ全員が未熟児・新生児から思春期までの診療がおこなえるよう研鑽しています
3．小児期からもちこした疾患の診療に関与します
4．御家族全体が健康であるように、配慮します
5．長期入院の場合に学習の継続を重視します(院内学級併設)

□代表的診療対象疾患

1．平成12年4月から新生児集中治療室(NICU6床)を開設しました。
　赤ちゃんの診療、発達の評価、育児相談を大切にしています。
2．産婦人科と密接に協力して24時間体制で赤ちゃんの診療を行っています。未熟児出生の可能性のある場合は小児科医師全員が妊婦さんの状態を把握出来るシステムが完備しています。赤ちゃんの診断治療に超音波診断を積極的に行っています

３．小児科病棟(2-3病棟)では小児血液疾患、悪性腫瘍、慢性腎疾患、小児膠原病、難治性喘息、重症アトピー、神経疾患等の慢性疾患の入院治療を行います。院内学級に通学しながら治療を継続します
４．乳幼児の肺炎や脱水など短期の入院も積極的に取り扱っています

□診療(業務)内容

受精から胎児期、分娩、新生児、乳児、幼児、小児、思春期、結婚・妊娠までのライフ・サイクルを考えて小児科診療を行います。

このすべてに関して小児科では相談の窓口になります。遺伝相談、不登校、小人症、糖尿病、肥満、等の相談を歓迎します。

初診の場合は可能であればかかりつけの先生の紹介状を是非御持参下さい。

主な取り扱い疾患は以下の通りです。

新生児・低出生体重児(2500g未満)
小児血液疾患(白血病、血小板減少症、貧血)
アトピー性皮膚炎、気管支喘息、膠原病
小児腎疾患(血尿・蛋白尿)
小児感染症全般
小児心臓疾患
小児内分泌疾患(甲状腺疾患・低身長など)
小児代謝疾患(糖尿病・副腎過形成など)
小児のてんかん、発達障害

入院患者数

	１日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	13.7	527	9.5

外来患者数

	１日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	37.1	37.9%	19.3%

主な手術・検査の件数など

	小児科入院数	ＮＩＣＵ入院数	外来総数
2011年度	527件	129件	9058件

□学術活動報告(学会・研究発表など)

・第33回日本造血幹細胞移植学会「副腎白質ジストロフィーに非骨髄破壊的前処置をもちいて造血幹細胞移植を施行 した4症例」
・第52回日本小児神経学会総会「後頭葉に発作焦点がみとめられたEating Epilepsyの一女児例」
・第38回日本小児臨床薬理学会学術集会「薬物離脱症候群の一例」
・第417回日本小児学会京都地方会「schimiter症候群の一例」
・第1回　京都小児内分泌勉強会「ジアゾキサイド投与でコントロールを図った 新生児低血糖症の1例」
・京大関連病院新生児研究会「2q22.3欠損症の1例」
・伏見医師会ランチョンセミナー「こどもの食物アレルギー」
・第14回　伏見臨床小児科懇話会「1型糖尿病1歳女児」
・第45回　日本小児内分泌学会「21水酸化酵素欠損症　142家系の遺伝子解析 からみえてきたこと」
・第2回　京都小児内分泌勉強会「腸瘻からの急速注入により反応性低血糖を 来した在宅経管栄養患者の1例」

・第419回日本小児科学会京都地方会　在宅支援セッション　座長　黒須英雄
・香川県観音寺・三豊医師会講演会　講演(2011/10/7)　河田興
・第32回日本臨床薬理学会シンポジウム　発表(2011/12/3)　河田興
・第2回香川県妊婦授乳婦専門薬剤師講習会　講師(2011/12/9)　河田興

□投稿論文など

著書・雑誌名	内容
臨床薬理	A Clinical Trial Assessing the Efficacy and Safety of a New Injectable Formula of Sodium Phenobarbital Containing No Additives for the Treatment of Neonatal seizures. Kawada K, Itoh S, Itani Y,et al.
月刊薬事2011	妊娠後期に使用する薬剤の胎児・新生児への影響　河田 興
小児臨床薬理学会雑誌	新生児へのゾニサミド使用と薬物動態　河田 興, 古家信介, 宮城雄一, 他
	超低出生体重児の日齢３における使用薬剤調査 多田みずえ, 河田 興, 大森理津子, 他

科　名：外　科



診療部長(肝胆膵責任者)
猪飼　伊和夫

専門医資格等　日本外科学会 外科専門医、指導医
日本消化器外科学会 消化器外科専門医、指導医
日本肝胆膵外科学会 肝胆膵外科高度技能指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
専門分野　肝胆膵外科
得意疾患　肝臓がん
胆道がん
膵臓がん

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長	大和俊夫	日本外科学会　外科認定医	外科一般	
医長 臨床栄養科長 (上部消化管責任者)	大谷哲之	日本外科学会外科専門医 日本消化器外科学会　消化器外科認定医 日本がん治療認定医機構 癌治療認定医暫定教育医	上部消化管	食道がん 胃がん
医長 (下部消化管責任者)	山口高史	日本外科学会　外科専門医 日本消化器外科学会 消化器外科専門医、指導医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本大腸肛門病学会 大腸肛門病専門医・指導医 日本内視鏡外科学会　内視鏡外科技術認定医	下部消化管	大腸がん 骨盤外科
医長 (乳腺責任者)	坂田晋吾	日本外科学会　外科専門医 日本乳癌学会認定医 マンモグラフィ読影医	乳腺	乳がん
医師	福田明輝	日本外科学会　外科専門医 日本救急医学会　救急専門医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医 日本内視鏡外科学会　内視鏡外科技術認定医	下部消化管 腹部救急	大腸がん
医師	畑　啓昭	日本外科学会　外科専門医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医 日本外科感染症学会 周術期感染管理認定医・暫定教育医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 ICD（インフェクションコントロールドクター）	上部消化管	胃がん
医師	小木曾　聡	日本外科学会　外科専門医	肝胆膵外科	肝臓がん 胆道がん 膵臓がん
医師	奥知慶久			
医師	村上隆英			
医師	谷　昌樹			
医師	森山　沙也香			
医師	花田圭太			
非常勤医師	寺島隆平		肛門科	

□診療科の特徴

施設認定等	日本外科学会外科専門医修練施設
	日本消化器外科学会専門医修練施設
	日本肝胆膵外科学会認定肝胆膵外科高度技能専門医修練施設 A
	日本乳癌学会関連施設
	日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
	JCOG 大腸がんグループ参加施設
	JCOG 胃がんグループ参加施設

1．専門性が高く、高度で安全な外科治療を行います。
2．消化器がんや乳がんなど悪性腫瘍の外科治療を中心に行っています。
　臓器別(上部消化管・下部消化管・肝胆膵・乳腺)に専門医がおり、高度で安全な外科手術を行っています。
3．腹腔鏡手術を始めとした低侵襲な手術(体への負担が少ない手術)を積極的に行なっている一方、高度進行がんに対しては、必要に応じて拡大手術を行い、抗がん剤や放射線を併用した集学的治療を 行っています。
4．外科医、消化器内科医、放射線科医、腫瘍内科医、病理医が協議して治療方針を検討しています。

□代表的診療対象疾患

食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、胆嚢がん、胆管がん、膵臓がん、乳がん

□診療(業務)内容

消化器がん(食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、胆嚢がん、胆管がん、膵臓がん)や乳がんを中心とし、腹部良性疾患、肛門疾患や腹部救急疾患の外科治療を行っております。

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	46.5	1037	15.7

外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	73.6	62.6%	47.4%

□手術実績(2011年)

全手術数(外来手術を含める)	979例

主な術式別手術件数

術　　式	手術件数	※うち鏡視下手術 (ポリペクトミー、EMR, ESDなど内視鏡的切除は除く)
食道がん切除術	9	8
幽門側胃切除術(幽門保存胃切除術を含む)	59	23
胃全摘術(噴門側胃切除術を含む)	29	2
結腸切除術	111	77
直腸切除術	46	27
肝切除術	56	9
膵頭十二指腸切除術	9	0
膵体尾部切除術(胃がん手術に伴うものは除く)	6	0
乳がん手術	84	0

胆嚢摘出術	109	97
脾摘術	2	2
虫垂切除術	50	2
ヘルニア手術(小児を除く)	122	0
良性肛門疾患手術	82	0
小児外科手術(ヘルニアも含む)	10	0

□地域医療連携・広報活動

第17回伏見医師会癌医療病診連携の会　講演Ⅰ『乳癌の病診連携パス』	2011年４月23日	坂 田 晋 吾
京都胃癌化学療法学術講演会 『胃癌化学療法におけるS1+ドセタキセル療法の位置づけ』	2011年７月22日	畑　　啓 昭
第537回京都府放射線技師会定例研修会 『肝癌診療におけるガイドラインと外科治療』	2011年７月22日	猪飼伊和夫
京都市北保険センター健康教室 『大腸がんについて～治療を中心に～』	2011年７月22日	山 口 高 史
第18回伏見医師会癌医療病診連携の会 講演Ⅰ『肝癌診療ガイドラインについて』	2011年９月10日	猪飼伊和夫
第8回京都肝臓外科セミナー テーマ「高度技能専門医取得を目指して～どうすれば？どうさせれば？」 高度技能専門医養成ビデオクリニック	2011年９月10日	小木曾　聡
第11回伏見栄養療法・胃瘻研究会 演題2『末梢静脈ルートによる静脈炎から敗血症になった一例』	2011年10月１日	大 谷 哲 之
第19回伏見医師会癌医療病診連携の会 『大腸がんの外科的治療について』	2011年11月26日	山 口 高 史
輸液学術講演会 講演『術後の輸液　～何を　どれだけ　どんな根拠で』	2011年12月17日	畑　　啓 昭

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　　容
2011	国内学会	福田明輝．鈍的外傷により生じた腹部大動脈損傷の１例．第25回日本外傷学会総会・学術集会．2011年5月19日～ 20日；大阪
2011	国内学会	山口高史．直腸低位前方切除術における縫合不全防止の工夫．第111回日本外科学会定期学術集会．紙面開催
2011	国内学会	小木曾聡、猪飼伊和夫．胆管内乳頭状腫瘍(IPNB)に対する術式選択とフォローアップ～ skin legionを有するIPNB症例を経験して～．第111回日本外科学会定期学術集会；紙面開催
2011	国内学会	谷　正樹、猪飼伊和夫．主膵管拡張にて12年間の経過観察後に切除したGroove Pancreatic Carcinomaの一例．第189回近畿外科学会．2011年６月４日；大阪
2011	国内学会	小木曾聡、猪飼伊和夫．ポスター『Gemcitabine療法が著効し切除可能となったStageIVb進行癌の1例』．第23回日本肝胆膵外科学会・学術集会．2011年6月8日～ 10日；東京
2011	国際学会	小木曾聡、山口高史．ポスター『Raparoscopic Resection for Sigmoid and Rectosigmoid Cancer Performed by Trainees: The Impact on Utcomes and Selection of Suitable Patients』．第19回 欧州内視鏡外科学会議 (EARS)．2011年6月15日～ 18日；イタリア(トリノ)
2011	国内学会	畑　啓昭、山口高史．PREV07-01『腹腔鏡補助下大腸切除術における予防的抗菌薬投与法設定の為の無作為化比較試験第Ⅲ相試験、プロトコル概要と進行状況』．平成23年度 一般社団法人　日本・多国間臨床試験機構　　第10回臨床試験ワークショップ．2011年6月18日；名古屋
2011	国内学会	大谷哲之．左側臥位の胸腔鏡下胸部食道癌手術の体位の工夫(左側臥位から左側ローテーション法による視野展開の有用性)．第66回日本消化器外科学会・総会．2011年７月１3日～ 15日；名古屋
2011	国内学会	山口高史．直腸DST吻合における吻合部出血回避の工夫．第66回日本消化器外科学会・総会．2011年７月１3日～ 15日；名古屋
2011	国内学会	福田明輝、山口高史．StageIV 大腸癌に対する腹腔鏡下大腸切除術の検討．第66回日本消化器外科学会・総会．2011年７月１3日～ 15日；名古屋
2011	国内学会	畑　啓昭．周術期の輸液製剤についての検討～低Na血症予防のために～．第66回日本消化器外科学会・総会．2011年７月１3日～ 15日；名古屋
2011	国内学会	山口高史．ステージ3大腸癌術後補助化学療法としてのカペシタビン療法の検討．第49回日本癌治療学会学術集会．2011年10月27日；名古屋

2011	国内学会	福田明輝．刺創による後腹膜損傷3症例．第73回日本臨床外科学会総会．2011年11月17日～19日；東京
2011	国内学会	奥知慶久、畑啓昭．日常内服量がプレドニゾロン5mｇ未満であったにも関わらず術後に遅発性の副腎不全を発症した回腸人工肛門造設術の一例．2011年11月17日～19日；東京
2011	国内学会	村上隆英、猪飼伊和夫．術前診断が困難であった肝副葉に発生した肝血管腫の1切除例．2011年11月17日～19日；東京
2011	国内学会	谷　正樹、猪飼伊和夫．大腸癌術後に発症した寄生虫感染による肝腫瘤の一例．2011年11月17日～19日；東京
2011	国内学会	山口高史. 直腸癌術後縫合不全の原因. 第66回日本大腸肛門病学会学術集会. 2011年11月25日～26日; 東京
2011	国内学会	福田明輝. 鈍的横行結腸損傷に対して試験的腹腔鏡手術が有用であった１例. 第190回近畿外科学会. 2011年11月26日；大阪
2011	国内学会	花田圭太、小木曾聡．盲腸軸捻転症の一例．第190回近畿外科学会．2011年11月26日；大阪
2011	国内学会	畑　啓昭．術後遠隔部位感染として急性前立腺炎を合併した症例の検討．第24回日本外科感染症学会総会・学術集会　2011年12月1日～2日；三重
2012	国内学会	畑　啓昭．LADGにおける当院での左胃動脈根部からNo.11p郭清の工夫．第84回日本胃癌学会総会．2012年2月8日～10日；大阪

□投稿論文など

年	筆頭著者	内　　容
2011	畑　　啓昭 山口高史	原著　腹腔鏡下大腸手術における予防的抗菌薬投与法の標準化を目指して：化学的腸管処置の効果の検討．日本外科感染症学会雑誌8（2）：99～104
2011	畑　　啓昭	症例　case report　長期保存治療により軽快したRoux　stasis症候群の１例．外科　Vol.73 No.4：.423～.426
2011	小木曾　聡 猪飼伊和夫	右側肝円索患者の胆管腫瘍栓合併肝細胞癌に対して肝後区域切除術を施行した１例．日本臨床外科学会雑誌　第72巻4号：972-977
2011	小木曾　聡 山口高史	Evaluation of factors affecting the difficulty of laparoscopic anterior resection for rectal cancer: “narrow pelvis” is not a contraindication. Surg Endosc(2011) 25:1907-1912
2011	畑　　啓昭	特集　その輸液、間違っていませんか？ 輸液のコントラバシーとピットフォール ≪輸液の技術的側面≫　輸液のセッティングや穿刺技術 クリティカルパール・ピットフォール．　内科　Vol.109　No.2（2012）279-284
2011	畑　　啓昭	SURGICAL　INTENSIVE CARE　UNIT　SICU　pearls 外科ICUで困った時に開く本 4章　Trouble Shooting A. 術後管理　6.　術後に尿量低下で呼ばれたら？ P313 F. 心臓血管外科　2.　術後の乳び胸水．P338　　中外医学社
2012	畑　　啓昭	原則から処方の具体例までわかる輸液のコツとポイント．全368頁　文光堂
2012	山口高史	原著　ステージⅢ大腸癌に対する術後化学療法としてのカペシタビン（Xeloda）内服療法の検討．癌と化学療法　第39巻第3号：.389～393
2012	小木曾　聡 山口高史	Laparoscopic resection for sigmoid and rectosigmoid colon cancer performed by trainees:impact on short-term outcomes and selection of suitable patients Int J Colorectal Dis DOI 10.1007/s00384-012-1471-1

科　名：整形外科



専門医資格等　日本整形外科学会専門医
専 門 分 野　スポーツ、軟骨、関節
得 意 疾 患　膝、肩

外科系統括部長
中川　泰彰

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
部　長	中 川 泰 彰	日本整形外科学会専門医	スポーツ、軟骨、関節	膝、肩
医　長	山 田 茂	日本整形外科学会専門医	股関節、膝関節	股関節
医　員	向 井 章 悟	日本整形外科学会専門医	スポーツ、膝、肩、小児	膝、肩
医　員	向 田 征 司	日本整形外科学会専門医	脊椎	脊椎
医　員	二 宮 周 三	日本整形外科学会専門医	股関節	股関節
医　員	坪 内 直 也		脊椎	脊椎
医　員	松 岡 将 之		整形外科一般	
専 攻 医	樽 見 映 里		整形外科一般	

□診療科の特徴

施設認定等	日本整形外科学会研修施設

1．スポーツ、肩、肘、股関節、膝関節、脊椎のそれぞれのスペシャリストがいます。
2．救命救急センターとタイアップし、様々な外傷にも対応しています。
3．スポーツ医学センターを併設し、発育期、競技スポーツ、中高年のスポーツ復帰のリハビリも行っています。
4．骨軟骨疾患に対する自家骨軟骨移植術の件数は、日本最多で、中期成績も優秀です。

□代表的診療対象疾患

様々な関節の変形性関節症、肩関節脱臼、腱板断裂、膝靭帯損傷、様々な脊椎疾患、離断性骨軟骨炎などのスポーツ障害

□診療(業務)内容

スポーツ、肩、肘、股関節、膝関節、脊椎のそれぞれの専門家が執刀する手術(安定した治療成績が獲得できています)及び、外来での経過観察や保存的治療を行っています。術後のリハビリは疾患に応じて、当院リハビリ科とスポーツ医学センターで行っており、特に、スポーツ医学センターでは、術後のスポーツ復帰だけでなく、再受傷予防などの対策も立てています。又、外来通院による保存的治療としてのリハビリも行っています。

入院患者数

	１日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	47.5	652	25.5

外来患者数

	１日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	86.8	36.3%	62.2%

主な手術・検査の件数など

	頸椎手術	胸腰椎手術	人工股関節置換術	人工膝関節置換術	自家骨軟骨移植術
2011年度	47件	141件	28件	66件	37件

□地域医療連携・広報活動

京都府軟式野球連盟からの依頼により、2011年からスポーツ医学センターにて、小中学生の投手を中心としたメディカルチェックを行っています。

2011年７月　京都府体育協会主催「スポーツ選手と指導者のためのスポーツ医事相談」で中川が講演。

2011年10月　京都府相撲連盟平成23年度生涯スポーツ指導者研修会で中川が講演。

2012年２月　平成23年度京整会京滋開業医会で中川が講演。

2012年３月　京都府軟式野球連盟指導者研修会で中川が講演。

□学術活動報告（学会・研究発表など）

年	場　所	内　　容
2011	海外会議	Y. Nakagawa, S. Mukai, Y. Hattori, T. Nakamura Spondylolysis decreases sports performance in sumo wrestlers-Radiological changes of lumbar spine in high school and collegiate sumo wrestlers. IOC World conference on prevention of injury & illiness in sport April 7-9, 2011 Monte-Carlo, Principality of Monaco
2011	海外学会	Y. Nakagawa The Operative Outcome of the Osteochondral Grafts for Knee Ostenecrosis: Comparison between Steroid-induced Osteonecrosis and Other Osteonecrosis 8th ISAKOS Congress May 15-19, 2011 Rio de Janeiro, Brazil
2011	海外学会	S Mukai, Y. Nakagawa Harvest of Osteochondral Plug does not Modulate the Progression of Osteoarthritic Change of Patello-Femoral Jont in Degenerative Kne Disease 8th ISAKOS Congress May 15-19, 2011 Rio de Janeiro, Brazil
2011	国内学会	田中慶尚、中川泰彰、向井章悟、坪内直也、後藤匡志、小林雅彦、中村孝志 膝蓋大腿関節の離断性骨軟骨炎に対する手術治療成績 第３回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会　2011.6.16-18、 札幌、日本
2011	国内学会	向井章悟、中川泰彰、田中慶尚、小林雅彦、新井隆三、中村孝志 中高年以上の骨軟骨移植術後におけるドナー部位の変形性関節症変化の検討 第３回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会　2011.6.16-18、 札幌、日本
2011	国内学会	中川泰彰、向井章悟、田中慶尚、小林雅彦、中村孝志 移植部が原因となった骨軟骨移植術再手術例の検討 第３回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会　2011.6.16-18、 札幌、日本
2011	国内学会	松岡将之、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、坪内直也、田中慶尚、中村孝志 足関節脛骨関節面に生じた離断性骨軟骨炎の１例 第２１回関西臨床スポーツ医科学研究会　2011.6.25、 大阪、日本
2011	国内学会	坪内直也、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、田中慶尚、中村孝志 腫瘍用セメント人工股関節ステム周囲骨折に対して LCD-DF cable system を使用した１例 第３７回日本骨折治療学会　2011.7.1-2、 横浜、日本
2011	国内学会	二宮周三、坪内直也 大腿骨近位部骨折の術後感染症例の検討 第３７回日本骨折治療学会　2011.7.1-2、 横浜、日本

2011	国内学会	Nakagawa. Y., Mori K., Mukai. S., Kobayashi M., Nishitani K., Kuroki H., Nakamura. T Intraoperative acoustic evaluation of living human cartilage of the shoulder-comparison between shoulder, elbow and knee joints- The 7th Academic Congress of Asian Shoulder Association, 2011.7.7-8, Okinawa, Japan
2011	国内学会	Mukai. S., Nakagawa Y. Case reports: traumatic cartilage injury of humeral head in American football players The 7th Academic Congress of Asian Shoulder Association, 2011.7.7-8, Okinawa, Japan
2011	国内学会	田中慶尚、中川泰彰、向井章悟 ３年以上放置された肘関節脱臼の１例 第１１回肩と肘を語る会　2011.7.23、 大阪、日本
2011	国内	田中慶尚、中川泰彰 ステロイド性骨壊死に対する新しい試み 第９回ひふみ会　2011.7.30、京都、日本
2011	国内	向井章悟、中川泰彰 フットボール選手に発症した上腕骨頭軟骨損傷の２例 第９回ひふみ会　2011.7.30、京都、日本
2011	国内	中川泰彰 膝のスポーツ外傷・障害 京都府体育協会主催　スポーツ選手と指導者のためのスポーツ医事相談　2011.7.30、京都、日本
2011	国内学会	田中慶尚、中川泰彰、中村孝志 スポーツ復帰を目指して施行した自家骨軟骨移植術症例の実際の復帰状況 第３７回日本整形外科スポーツ医学会学術集会　2011.9.23-24、博多、日本
2011	国内学会	小林雅彦、中村伸一郎、新井隆三、浅野太陽、中川泰彰、中村孝志 解剖学的２重束 ACL 再建術の短期成績とイメージマッチング法による術前回旋不安定性評価 第３７回日本整形外科スポーツ医学会学術集会　2011.9.23-24、博多、日本
2011	国内学会	向井章悟、中川泰彰、田中慶尚 上腕骨頭軟骨損傷の２例 第３８回日本肩関節学会　2011.10.7-8、博多、日本
2011	国内研修会	中川泰彰 スポーツ傷害予防についてのトピックスと２０１１年度ドーピングの注意点 京都府相撲連盟平成２３年度生涯スポーツ指導者研修会　2011.10.26、 京都、日本
2011	国内学会	松岡将之、中川泰彰、山田茂、二宮周三、田中慶尚、中村孝志 当院における人工関節置換術後に発症した下肢静脈血栓症の検討 第１１７回中部日本整形外科災害外科学会　2011.10.28-29、宇部、日本
2011	国内学会	田中慶尚、中川泰彰、山田茂、二宮周三、松岡将之、中村孝志 当院における人工膝関節置換術後感染に対する持続洗浄の臨床成績 第１１７回中部日本整形外科災害外科学会　2011.10.28-29、宇部、日本
2011	国内学会	向井章悟、中川泰彰、中村孝志 骨軟骨移植術後のスポーツ復帰 第２２回日本臨床スポーツ医学会学術集会　2011.11.5-6、青森、日本
2011	国内学会	中川泰彰、松末吉隆、小林雅彦、向井章悟、中村孝志 膝骨壊死に対する骨軟骨移植術の治療成績 - ステロイド性骨壊死との比較 - 第３９回日本関節病学会パネル 2011.11.12-13、 横浜、日本
2011	国内研修会	中川泰彰 骨軟骨疾患に対する自家骨軟骨移植術（モザイクプラスティー）の適応と限界 練馬区整形外科医会教育研修講演会　2011.11.16、 東京、日本
2011	国内講習会	中川泰彰 2012 年のドーピングについて。うっかりドーピングも含めて 平成２３年度日本相撲連盟公認相撲指導員専門講習会　2011.12.23-24、 博多、日本
2012	国内	田中慶尚、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、坪内直也、松岡将之、中村孝志、瀬戸口芳正 円板状半月板切除術後に外側コンパートメントの軟骨損傷を来した１例 第１７回スポーツ傷害フォーラム　2012.1.28、大阪、日本
2012	国内懇話会	松岡将之、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、坪内直也、田中慶尚、中村孝志 足関節脛骨関節面に生じた離断性骨軟骨炎の１例 第１０６回京都整形外科懇話会　2012.2.4、京都、日本
2012	国内学会	坪内直也、中村孝志、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、松岡将之、田中慶尚 上腕骨内側上顆投球骨折術後に投球骨折を再度受傷した１例 第２４回日本肘関節学会　2012.2.18、長岡、日本
2012	国内学会	二宮周三、山田茂、坪内直也、中川泰彰、中村孝志 TKA 術後に PS 型ポリエチレンインサートが脱転した３例 第４２回日本人工関節学会　2012.2.24-25、沖縄、日本

2012	国内	中川泰彰 整形外科医も知っておきたいドーピングの基礎知識 平成２３年度京整会京滋開業医会　2012.2.26、京都、日本
2012	国内研修会	中川泰彰 少年野球におけるスポーツ障害の予防と対策 平成２４年京都府軟式野球連盟指導者研修会　2012.3.3、京都、日本
2012	国内学会	中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、坪内直也、松岡将之、田中慶尚、小林雅彦、中村孝志 骨軟骨移植術の再鏡視像に影響を与える因子 第２５回日本軟骨代謝学会　2012.3.9-10、名古屋、日本
2012	国内学会	中川泰彰 足にまつわるスポーツ医学の諸問題 第１０回日本フットケア学会　教育講演　2012.3.17-18、 大阪、日本

□投稿論文など

年	内　　容
１）　著書	
2011	アトラス骨関節画像診断　３外傷（山本謙吾編） 中川泰彰 上肢　A 肩関節、肩甲帯：鎖骨骨折；2-3、中外医学社、 2011
2011	整形外科手術イラストレイテッド　肩関節の手術（井樋栄二編） 中川泰彰 烏口突起移行術；　100-108、中山書店、 2011
2011	整形外科手術イラストレイテッド　膝関節の手術（黒坂昌弘編） 中川泰彰 骨軟骨柱移植術；　183-188、中山書店、 2011
２）　英文論文	
2011	Shirai T, Kobayashi M, Nishitani K, Satake T, Kuroki H, NakagawaY, Nakamura T Chondroprotective effect of alendronate in a rabbit model of osteoarthritis J Osthop Res　29: 1572-1577, 2011
2011	Nakamura S, Kobayashi M, Asano T, Arai R, Nakagawa Y, Nakamura T Image-matching technique can detect rotational and AP instabilities in chronic ACL-deficienct knee Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc　19 Suppl 1: S69-76, 2011
３）　和文論文	
2011	中川泰彰 手術の巧：第６回　膝骨軟骨移植術－関節切開手術－ 関節外科、 30：　675-684、 2011
2011	西谷江平、小林雅彦、中川泰彰、中村孝志 変形性関節症における軟骨初期変化の超音波とフーリエ変換赤外分光分析法 (FTIR) を用いたコラーゲン量変化による同定 日臨スポ会誌、 19：258-264、2011
2011	田中慶尚、中川泰彰、向井章悟 アルコール依存症患者の鎖骨遠位端骨折にフックプレートを使用した際の問題点 肩関節、 35：407-409、 2011
2011	向井章悟、中川泰彰、田中慶尚 様々な肩関節疾患の MRI から検討した腱板断裂と関節症変化の関係 肩関節、 35：915-918、 2011
2011	坪内直也、中川泰彰 転位のない上腕骨通顆骨折保存療法後の偽関節に対し人工肘関節全置換術を施行した高齢透析患者の１例 日肘学会誌、 18：217-219,　2011
2011	中川泰彰、向井章悟 膝離断性骨軟骨炎に対する骨軟骨柱移植術の有効性と限界 MB Orthop , 25: 65-68, 2012
2011	中川泰彰、向井章悟 膝蓋骨脱臼に伴う骨軟骨損傷の頻度と治療 関節外科、31：　324-329、2012
2011	中川泰彰 専門医試験を目指す症例問題トレーニング：リウマチ性疾患・感染症 整形外科、 63：　271-276、2012
2011	松岡将之、中川泰彰、山田茂、二宮周三、田中慶尚、中村孝志 当院における人工関節置換術後に発症した下肢静脈血栓症の検討 中部整災誌、 55：　187-188、2012

科　名：形成外科



専門医資格等　日本形成学会専門医
手外科専門医
日本創傷外科学会専門医
京都大学　臨床准教授
専 門 分 野　形成外科一般

科長
荒田　　順

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　　名	専門医資格等	専門分野
医　　師	米谷あずみ	日本形成学会専門医	形成一般
医　　師	田中宏典		形成一般
専修医	鈴木茉友		形成一般

□診療科の特徴

施設認定等	日本形成外科学会認定施設

□代表的診療対象疾患

皮膚・皮下軟部腫瘍、顔面外傷、瘢痕拘縮、頭頸部・乳房再建

□診療(業務)内容

当科では

・顔面、手足、体幹の先天異常をはじめとする小児形成外科
・整容面を重視した眼瞼下垂、眼瞼内反症・外反症などの眼瞼形成
・体表における腫瘍の切除、皮膚潰瘍に対する皮膚移植、遊離皮弁による潰瘍の閉鎖などの皮膚疾患に対する整容面に配慮した外科治療
・顔面骨骨折を中心とする顔面外傷に対する整容を重視した治療、口腔外科と合同で行う顎顔面外科
・手外科疾患の初期治療から二次的な機能再建
・頭頸部外科と合同で頭頸部癌に対する癌切除後の機能損失を最小限にすることを目的としたマイクロサージャリーを駆使した組織移植を積極的に行い、乳腺外科との合同で乳がんに対する乳房再建を手がけています。
・レーザー：ルビーレーザー（黒、茶あざ、しみ)、Ｖビーム(血管腫)、ＣＯ２レーザー（小腫瘍の蒸散、瘢痕の修正）を所持しており、美容を目的としたしみに対するレーザー治療など幅広い治療を行っています。

入院患者数

	１日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	10.2	175	19.4

外来患者数

	１日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	20.7	46.7%	10.1%

主な手術・検査の件数など

	皮膚皮下腫瘍	眼瞼形成	顔面骨骨折および外傷
2011年度	328件	40件	70件

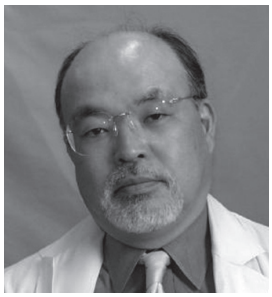
□学術活動報告（学会・研究発表など）

年	場　所	内　　容
2011	国内学会	荒田順　安部佐和子　米谷あずみ．小児に発生したガングリオン症例の検討．第５４回日本手の外科学会．2011/4/15　青森
2011	国内学会	田中宏典　荒田順　米谷あずみ　鈴木茉友　安部佐和子．救肢しえた左下腿に生じた石灰化筋壊死の一例．第３回日本形成外科学会．2011/7/8　札幌

□投稿論文など

年	内　　容	
2011	日本形成外科学会誌	超音波ガイド下腕神経叢ブロック（腋窩法）の有用性の検討 葉山佐和子　荒田順
2011	Annals of Plastic surgery	Nonincisional osteotomy for gradual lengthening by callus distraction in the hand and foot Jun Arata Naoki Morimoto, et al

科　名：脳神経外科



副院長
塚原　徹也

専門医資格等
　脳神経外科専門医
　脳卒中専門医
専門分野
　脳神経外科
得意疾患
　脳血管障害



医長
福田　俊一

専門医資格等
　脳神経外科専門医
　脳卒中専門医
専門分野
　脳神経外科
得意疾患
　脳動脈瘤
　良性脳腫瘍
　頭蓋底手術

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　長	青木　友和	日本脳神経外科学会 専門医、日本脳卒中学会 専門医、日本癌治療学会　暫定教育医	脳神経外科	悪性能腫瘍、顔面痙攣、三叉神経痛
医　師	中久木　卓也	日本神経内視鏡学会技術認定医	脳神経外科	下垂体腫瘍、内視鏡手術
医　師	後藤　正憲	脳神経血管内治療(学会)専門医	脳神経外科	脳血管内手術
専修医	新井　大輔		脳神経外科	

□診療科の特徴

施設認定等	日本脳神経外科学会研修施設

1．当科は、脳卒中や頭部外傷などの脳神経外科領域の救急疾患に２４時間対応し、地域救急医療に貢献していると同時に、困難な脳神経系疾患に対して集約的な治療も行っています。

2．脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷、脊髄疾患など脳神経外科領域全般にわたって、患者さんの入院および外来加療を行っています。

3．脳神経外科領域の疾患では、緊急に手術等の処置を行わなければ生命にかかわる場合もあれば、逆に病気はあるものの、定期的に外来で経過を観て行くことが適当である場合もあります。

4．上記3.のような場合を除けば、手術をすべきかどうかは、その疾患自体だけではなく、症状や年齢、全身状態、手術の難易度、さらには患者さんの性格や家族構成などを考慮して決めるべきであり、たとえ同じ疾患でも個々の患者さんによって方針が異なって来ます。

5．私たちは、患者さんご自身やご家族に充分に病気についての説明をし、相談をした上で、インフォームドコンセントをとり、その上で適切な治療方針をとることが大切であると考えています。

6．いったん手術が必要であると決まった場合には、たとえ難易度の高い手術でも、従来の顕微鏡を用いた開頭手術に加え、血管内手術や神経内視鏡手術などの様々な手術法を用い、積極的に治療を行っています。

□代表的診療対象疾患

・脳血管障害(脳梗塞・クモ膜下出血・未破裂脳動脈瘤・脳内出血・その他の脳血管障害)
・脳腫瘍(グリオーマ・下垂体腺腫・頭蓋底腫瘍・聴神経腫瘍・転移性脳腫瘍・脳内リンパ腫・髄膜腫・頭蓋咽頭腫)
・神経内視鏡手術
・頭部外傷
・機能的脳神経外科(顔面けいれん・三叉神経痛)

□診療(業務)内容

・脳血管障害(脳梗塞に対する血行再建術・破裂および未破裂脳動脈瘤に対するクリッピング術・脳内出血に対する開頭摘出術、内視鏡手術)
・脳神経血管内治療(脳動脈瘤塞栓、ステント設置、腫瘍塞栓、脳動静脈奇形塞栓など)
・脳腫瘍(グリオーマ・下垂体腺腫・頭蓋底腫瘍・聴神経腫瘍・転移性脳腫瘍・脳内リンパ腫・胚細胞腫・髄膜腫・頭蓋咽頭腫)に対する摘出術
・神経内視鏡手術(下垂体腫瘍、脳室内腫瘍、水頭症、脳内出血など)
・頭部外傷(血腫除去術)
・脊椎背髄疾患
・機能的脳神経外科(顔面けいれん・三叉神経痛に対する神経減圧術)

頭蓋底および頚部腫瘍: 腫瘍摘出および血行再建術

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	33.1	411	28.0

外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	43.3	50.4%	45.3%

主な手術・検査の件数など

	脳動脈瘤	脳腫瘍	脳血管内手術	脳動静脈奇形	頸動脈内膜剥離術	血管バイパス術
2011年度	38件	44件	46件	5件	20件	15件

□地域医療連携・広報活動

第8回脳卒中市民講座　2011年1月29日、於：京都医療センター
第9回脳卒中市民講座　2011年12月11日、於：京都第二赤十字病院

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　　容
2011	大阪	新井大輔、山口将、太田剛史、中久木卓也、福田俊一、塚原徹也；長期ステロイド内服中にノカルジア脳腫瘍を来たした1例、第61回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、2011/4/25、大阪
	京都	中久木卓也、浅原哲子、福田俊一、村上守、新井大輔、山口将、中村道三、大谷良、山陰一、塚原徹也；脳梗塞患者における血中アディポサイトカインの検討、第36回日本脳卒中学会総会、2011/7/30、京都
	京都	新井大輔；Black-Blood　MRIによるプラーク診断に基づく頚部頚動脈狭窄症に対する治療選択の検討、第36回日本脳卒中学会総会、2011/7/30、京都
	京都	後藤正憲；DSAとMRIを利用した3D　fusion　imageによる術前検討の有用性、第40回日本脳卒中の外科学会、2011/7/30、京都

	大阪	青木友和、寺崎瑞彦、渋井壮一郎、成田善孝、藤巻高光、澤村豊、栗栖薫、伊藤恭悟；再発膠芽腫に対する個人化ペプチドワクチンの第 1 相試験の報告、第 62 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、2011/9/3、大阪
	横浜	福田俊一；出血で発症し手術を行ったテント下 AVM7 例の検討、日本脳神経外科学会第 70 回学術総会、2011/10/12 ～ 14、横浜
	横浜	青木友和；再発膠芽腫に対するイフォスマイド、カルボプラチン、エトポシド (ICE) 化学療法　第 2 相試験、日本脳神経外科学会第 70 回学術総会、2011/10/12 ～ 14、横浜
	横浜	後藤正憲；血管撮影装置と MRI を利用した fusion　3D　image による術前検討の有用性、日本脳神経外科学会第 70 回学術総会、2011/10/12 ～ 14、横浜
	横浜	中久木卓也、福田俊一、新井大輔、後藤正憲、青木友和、塚原徹也；ハイビジョン内視鏡による経蝶形骨洞手術の経験、日本脳神経外科学会第 70 回学術総会、2011/10/12 ～ 14、横浜
	岡山	中久木卓也、福田俊一、新井大輔、後藤正憲、青木友和、塚原徹也；ハイビジョンシステムを用いた内視鏡手術、神経内視鏡学会、2011/11/17 ～ 18、岡山
	ｶﾙﾌｫﾙﾆｱ	Tomokazu　Aoki ; Efficacy and safety of monotherapy with bevacizumab in Japanese patients with malignant glioma at first or second relapse、2011 SNO 16th Annual Scientific Meeting in Conjunction with the ANNS/CNS、2011/11/17 ～ 20、California
	千葉	後藤正憲；血管撮影装置を利用した 3D fusion image の有用性、第 27 回日本脳神経血管内治療学会総会、2011/11/24 ～ 26、千葉
	岐阜	青木友和；再発悪性神経膠腫に対する Temozolomide と ACNU の併用化学療法（TA 療法）の臨床第Ⅰ/Ⅱ相試験、第 29 回日本脳腫瘍学会、2011/11/27 ～ 29、岐阜
	岐阜	青木友和；初発の悪性神経膠腫及び再発の膠芽腫患者を対象とした NPC-08 第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験、第 29 回日本脳腫瘍学会、2011/11/27 ～ 29、岐阜

□投稿論文など

年	内　　容	
2011	Trends in Neurovascular Surgery, Springer Wien New York	T.Tsukahara, L.Regli, D.Hanggi, B.turowski, H.-J.Steiger, Editors;Trends in Neurovascular Surgery , Supplement112、Trends in Neurovascular Surgery,Springer Wien New York
2011	Trends in Neurovascular Surgery, Springer Wien New York	Daisuke Arai, Susumu Yamaguchi, Mamoru Murakami, Takuya Nakakuki, Shunichi Fukuda,Noriko Satoh-Asahara, and Tetsuya Tsukahara ; Characteristics of Carotid Plaque Findings on Ultrasonography and Black Blood Magnetic Resonance Imaging in Comparison with Pathological Findings.Trends in Neurovascular Surgery112　15-20、Springer Wien New York
2011	Trends in Neurovascular Surgery, Springer Wien New York	Tetsuya Tsukahara, Shunichi Fukuda, Takuya Nakakuki, Mamoru Murakami, Daisuke Arai, and Susumu Yamaguchi ; Indication for Surgical treatment of Carotid Arterial Stenosis in High-Risk Patients.Trends in Neurovascular Surgery112　21-24、Springer Wien New York
2012	Neurosurgery68	Taketo Hatano, Tetsuya Tsukahara, Akinori Miyakoshi, Daisuke Arai, Susumu Yamaguchi, Mamoru Murakai. ; Stent Placement for Atherosclerotic Stenosis of the Vertebral Artery Ostium: Angiographic and Clinical Outcomes in 117 Conesecutive Patients、Neurosurgery68　108-116　BLAINLAB

科　名：血管外科



科長
浅田　秀典

専門医資格等　心臓血管外科専門医、日本外科学会専門医、日本脈管学会評議員、
旭川医科大学　医学博士

専 門 分 野　血管外科(閉塞性動脈硬化症、動脈瘤、急性動脈閉塞、血管炎、
血管外傷に対する各種血行再建術)、静脈、リンパ疾患

□診療科の特徴

1．あらゆる診療科や地域医療機関で直面した血管疾患の問題に迅速に対応してまいります。

2．患者さんには診療内容に対する十分な説明と満足な治療成果が得られるよう努力いたします。

2006年(平成18年) 4月に発足した、主に末梢動脈疾患に対する血行再建を担当する診療科です。

近年、糖尿病や腎不全による慢性透析患者さんが増加するとともに、閉塞性動脈硬化症例(ASO)が増加しています。

閉塞性動脈硬化症とは、動脈硬化による下肢血流障害により各種症状(歩行時の下肢の痛み、安静時の足の痛みおよび足部潰瘍・壊死)を生じ、最終的には下肢切断にも至る疾患です。

このような症例には、迅速な診断とともに適切な治療が必要で、時には技術的に困難とされる足関節周囲への末梢バイパス手術と適切な局所処置が必要となります。当科は、京都では数少ない血管外科専門科として日々下肢血流障害の治療にあたっています。

患者さんの多くは動脈硬化性の全身合併症があり、術前評価には循環器内科、脳神経外科、また、術前後には麻酔科はもちろん、糖尿病内科、腎臓内科、形成外科、整形外科、皮膚科などとの協力が必要で、各科連携した総合的診療を心がけています。

□代表的診療対象疾患

大動脈疾患(腹部大動脈瘤、大動脈解離など)、閉塞性動脈硬化症(糖尿病合併症例、慢性透析例を含む)
閉塞性血栓血管炎(バージャー病)、急性動脈閉塞症(血栓症、塞栓病、外傷など)、
下肢静脈瘤、静脈(鬱滞)性潰瘍、深部静脈血栓症、肺塞栓症、リンパ浮腫、
血管内治療(動・静脈閉塞性疾患、動脈瘤)、内シャント作成(blood access)作成

□診療(業務)内容

外来診療は、月、水の午前・午後、木曜日午前中の3日間実施しております。

心疾患、脳疾患、糖尿病、腎臓病などの併存症を持っている方でも院内全体の診療科が協力し、安全で安心できる治療を行っています。

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	8.7	165	19.6

外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	10.7	84.3%	103.5%

主な手術・検査の件数など

	下肢末梢動脈手術	腹部大動脈瘤手術	透析内シャント手術	下肢静脈瘤手術
2011年度	57件	15件	63件	10件
	四肢カテーテル治療	四肢動脈造影		
	34件	71件		

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　　容
2011	国内学会	浅田秀典　「大腿動脈以下末梢動脈に対する治療戦略　バイパス手術の有効性」第39回日本血管外科学総会　2011年4月20日：沖縄
2011	国内学会	浅田秀典　「バイパス術後5年目に発症した大腿動脈吻合部巨大仮性瘤の一例」第40回京滋心臓血管外科研究会　2011年9月10日：京都
2012	国内学会	浅田秀典　「下肢末梢動脈疾患の治療」　第3回ATIS Forum　2012年2月25日：京都
2012	国内学会	浅田秀典　「重症虚血肢に対してDistal Venous arterializationは有効か」　第26回日本血管外科学会近畿地方会　2012年3月3日：大阪

科　名：心臓外科



専門医資格等　心臓血管外科専門医
専 門 分 野　成人心臓大血管疾患
得 意 疾 患　成人心臓大血管手術

医長
白神　幸太郎

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	片　岡　　剛	心臓血管外科専門医	成人心臓大血管疾患	成人心臓大血管手術

□診療科の特徴

1．心臓外科診療を通して人々のお役に立つ
2．手術や診療の透明性を確保する
3．循環器診療の最後の砦となる

□代表的診療対象疾患

虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞など)に対する冠動脈バイパス術
弁膜症(大動脈弁疾患、僧帽弁疾患など)に対する弁形成術や弁置換術、不整脈手術
大血管疾患(胸部大動脈瘤、急性大動脈解離など)に対する人工血管置換術

□診療(業務)内容

心臓大血管疾患の手術適応およびリスク評価を体系的にかつ厳密に行い、安全な手術治療を目指す。一方で院内各専門科と緊密な連携を取り、周術期管理にあたる。緊急を要する症例について積極的に手術治療を行い、地域医療に貢献することを目標としている。

2011年4月に白神が赴任し心臓外科を開設。2011年6月より2012年3月末までに56例の心臓大血管手術を施行。内訳は冠動脈バイパス術16件、心臓弁膜症手術30件、胸部大動脈手術14件、その他心臓手術6件(重複あり)であった。そのうち14例は緊急および準緊急手術であった。予定手術42例における院内死亡は1例で手術死亡率は2.4％であった。冠動脈バイパス術における早期グラフト開存率は97％、僧帽弁形成手技成功率は100％であった。

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	5.2	52	36.6

外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	1.7	133.3%	1833.3%

主な手術・検査の件数など

	冠動脈バイパス術	心臓弁膜症手術	胸部大動脈手術	その他心臓手術
2011年度	16件	30件	14件	6件

□地域医療連携・広報活動

2011.9.3　第４回伏見心血管病勉強会　特別講演「循環器疾患に対する外科治療」

2012.5.19　第７１回伏見医師会学術集談会　特別講演「現在の冠動脈疾患治療選択」

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　　容
2011.9.10	熊本市	第７回心臓血管外科研究会　基調講演「生体弁の課題」白神幸太郎
2011.11.26	札幌市	第８１回北海道シネアンジオ研究会　特別講演「心臓外科治療の最前線-Heart Team構築のために－」白神幸太郎
2012.4.21	京都市	KCJL surgical debate session「難渋した症例」白神幸太郎

□投稿論文など

年	内　　容	
2011	日本冠疾患学会雑誌	冠動脈ステント留置後慢性期に発生した冠動脈瘤に対する１治験例　白神幸太郎　他

科　名：皮膚科



専門医資格等　日本皮膚科学会専門医
専 門 分 野　皮膚科一般、皮膚免疫
得 意 疾 患　乾癬、糖尿病足病変

医長
十一　英子

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	岡 本 奈 都 子	日本皮膚科学会専門医	皮膚科一般	
医　　師	林　雄 二 郎	日本皮膚科学会専門医	皮膚科一般	
レジデント	櫻 井　謙 次		皮膚科一般	

□診療科の特徴

施設認定等	日本皮膚科学会専門医研修施設
	生物学的製剤使用承認施設

1．糖尿病足病変、基礎疾患を持つ蜂窩織炎、帯状疱疹などの感染症や難治性潰瘍など、総合病院の特色を生かして他科と密に連携して治療しています。
2．乾癬に対する生物学的製剤による治療を行っています。
3．地域の他病院から紹介された診断困難な症例、難治例、重症例なども多く受け入れています。

□代表的診療対象疾患

アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、蕁麻疹、乾癬、薬疹、水疱症、皮膚腫瘍、皮膚潰瘍、
細菌感染症(ざ瘡、蜂窩織炎、丹毒、伝染性膿痂疹、など)、
ウイルス感染症(帯状疱疹、単純疱疹、カポジ水痘様発疹症、尋常性疣贅など)、
真菌感染症(足白癬、股部白癬、爪白癬、カンジダ症など)など

□診療(業務)内容

糖尿病に合併する皮膚疾患：糖尿病センターとの連携のもと、糖尿病と関連した足病変、
皮膚病変の診療を行っています。
乾癬：中等症～重症では、免疫抑制剤や生物製剤による治療を行っています。
帯状疱疹(ヘルペス)：重症度に応じて、抗ウイルス剤の内服、入院で点滴治療を行っています。
爪白癬：難治な爪の水虫には抗真菌剤の内服治療を行っています。
接触皮膚炎：かぶれの原因検索に、パッチテストを行っています。
薬疹：重症薬疹は入院で治療しています。
診断・治療のために積極的に皮膚生検を行っています。

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	4.1	62	23.4

外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	69.3	28.5%	15.2%

主な手術・検査の件数など

	皮膚生検	皮膚切開術	皮膚皮下腫瘍摘出術
2011年度	242件	46件	109件

□地域医療連携・広報活動

市民講座「皮膚の日」講演「糖尿病と足の皮膚病－放っておくと大変なことに！－」
2011年11月13日　十一英子

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　　容
2011	国内学会	辻花光次郎，楠葉展大，鬼頭昭彦，十一英子，安部佐和子，荒田順．左下腿に生じたcalcific myonecrosis の１例．日本皮膚科学会京滋地方会　2011年6月18日；京都
2011	国内学会	趙玲愛，辻花光次郎，鬼頭昭彦，十一英子，西村翔，神田智子，本田啓吾，岡村美里，荒木則雄．顔面と頚部の腫脹から肺癌が判明した上大静脈症候群の１例．近畿皮膚科集談会　2011年7月10日；大阪
2011	国内学会	十一英子，辻花光次郎，涌田あすか，鬼頭昭彦．TNFα阻害薬による掌蹠膿疱症様、乾癬様皮疹に脱毛を伴う症例の治療．日本乾癬学会　2011年9月10日；大阪
2011	国内学会	林雄二郎，櫻井謙次，岡本奈都子，十一英子，浅田秀典，米谷あずみ．閉塞性動脈硬化症とCalciphylaxis合併例の皮膚潰瘍に血行再建が奏功した１例．日本皮膚科学会京滋地方会　2011年12月17日；京都
2012	国内学会	櫻井謙次，林雄二郎，岡本奈都子，十一英子，山本鉄郎．頬部に生じた癌肉腫の１例．日本皮膚科学会京滋地方会　2012年3月10日；京都

□投稿論文など

年	内　　容
2011	十一英子　高齢者の足趾壊疽をみたら？ 高齢者の皮膚トラブルＦＡＱ　141-143　宮地良樹，北徹編　診断と治療社
2011	十一英子　糖尿病性壊疽「糖尿病患者の足が黒色に変色してきた」．外来皮膚科ＥＲ最前線　228-233　宮地良樹編　メディカルレビュー社
2011	遠藤雄一郎，林雄二郎，道上幹子，瀧玲子，谷岡未樹，是枝哲，十一英子，門脇則光，松村由美，宮地良樹　予後不良であった原発性皮膚未分化大細胞リンパ腫の２例.Skin Cancer 26(1):15-20
2011	楠葉展大，辻花光次郎，涌田あすか，鬼頭昭彦，十一英子　動眼神経麻痺と外転神経麻痺をきたした眼部帯状疱疹　皮膚病診療　33(11):1145-1148
2011	楠葉展大，山田玉靜，涌田あすか，鬼頭昭彦，十一英子　アスコルビン酸内服を試みた臀部肉芽腫の１例　皮膚科の臨床　53(13):1893-1896

科　名：泌尿器科



専門医資格等　日本泌尿器科学会指導医・専門医
専 門 分 野　泌尿器科一般
得 意 疾 患　前立腺癌　男性学

診療部長　科長
奥野　　博

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　長	三品　睦輝	日本泌尿器科学会指導医・専門医	泌尿器科一般	膀胱癌　尿路結石症
医　師	伊東　晴喜	日本泌尿器科学会指導医・専門医	泌尿器科一般	夜間頻尿
医　師	増田　憲彦	日本泌尿器科学会専門医	泌尿器科一般	腎泌尿器癌
医　師	眞鍋　由美	日本泌尿器科学会専門医	泌尿器科一般	女性泌尿器科学
医　師	北村　悠樹	日本泌尿器科学会専門医	泌尿器科一般	腎不全　透析

□診療科の特徴

施設認定等	日本泌尿器科学会研修施設

1．体腔鏡、内視鏡をはじめとする低侵襲手術・検査(痛みが少なく入院期間を短く)により患者さんへの負担の軽減を図ります。
2．最先端医療も積極的に取り入れます。
3．地域の開業医、診療所、病院と積極的に医療連携を行います。
4．患者さんの人権を尊重し、安心と満足のいく良質の医療提供を目指します。

□代表的診療対象疾患

腎臓癌	膀胱癌	前立腺癌	副腎腫瘍	前立腺肥大症	尿路結石症	過活動膀胱
夜間頻尿	尿失禁	膀胱瘤	骨盤臓器脱	男性不妊症	性機能障害	内分泌障害
尿路感染症	性感染症		小児泌尿器科	腹膜透析	慢性腎不全	

□診療(業務)内容

・尿路性器悪性腫瘍に対する集学的治療を多部門と連携し積極的に行っている
・体腔鏡、内視鏡をはじめとする低侵襲手術に取り組んでいる
・初診外来担当医は患者さんの入院、手術、退院後の診療を一貫して責任をもって受け持つ
・外来及び入院看護師には排尿機能検査士の取得者を配置し、専門的な医療と看護を提供
・外来診療：火曜、木曜、金曜が３診、月曜、水曜は２診
・手術：月、水、金曜日の週3日間

・火曜日の早朝には外来カンファレンス、夕方からは病理医を招いて臨床病理カンファレンス
・木曜日早朝から全体回診（医師、看護師長）　次いで放射線科医を招いて放射線画像・放射線治療カンファレンス
・木曜日夕方から薬剤師、看護師を交えた症例カンファレンス
・金曜日早朝には最新の海外文献の抄読会やビデオ供覧会

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	23.7	741	11.8

外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	75.4	60.9%	78.9%

主な手術・検査の件数など

	前立腺全摘	腎摘（腹腔鏡含め）	前立腺肥大症内視鏡手術	膀胱癌内視鏡手術	骨盤臓器脱・尿失禁手術
2011年度	32件	37件	45件	73件	12件

□地域医療連携・広報活動

第14回　内科－泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）。「感染症」2011.07.02（京都・ホテルグランビア京都）

第15回　内科－泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）。「睡眠障害」2012.03.03（京都・ホテルグランビア京都）

奥野　博：講演「前立腺がんとは」前立腺がん市民公開講座。2011.03.12（京都・京都市呉竹文化センター）

奥野　博：出演「排尿障害」 ABCラジオ「健やかライフ」。2011.10.10 ～ 10.14

奥野　博：特別講演Ⅰ「伏見区前立腺がん検診と今後の課題」伏見泌尿器科連携の会。2012.03.10（京都・リーガロイヤル京都ホテル）

三品　睦輝：講演「前立腺がんの診断（PSA検査）」前立腺がん市民公開講座。2011.03.12（京都・京都市呉竹文化センター）

伊東晴喜：講演「夜間頻尿を科学する(夜間頻尿外来の現状)」。 京都府伏見医師会ランチョンセミナー 2011.12.08（京都・伏見医師会館）

□学術活動報告（学会・研究発表など）

年	場　所	内　　容
2012.01.2	京都・ホテルグランヴィア京都	奥野　博、増田憲彦、北村悠樹、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝：前立腺肥大症に対する GreenLight ®レーザー蒸散術の初期経験。第 30 回泌尿器科手術研究会
2011.04.24	名古屋・名古屋国際会議場	佐倉雄馬、増井仁彦、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博、筧　善行：ホルモン療法中の前立腺癌患者における調査表（EPIC-HD）を用いた QOL の検討。第 99 回日本泌尿器科学会総会
2011.04.24	名古屋・名古屋国際会議場	増田憲彦、増井　仁彦、佐倉雄馬、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博:「夜間頻尿専門外来」開設３年半の診療成績。第 99 回日本泌尿器科学会総会
2011.05.21	京都・京都テルサ	増田憲彦、佐倉雄馬、北村悠樹、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：：経尿道的開窓術を施行した Cowper’s syringocele の 1 例。第 215 回日本泌尿器科学会関西地方会
2011.09.16	福井市・フェニックスプラザ	伊東晴喜、北村悠樹、眞鍋由美、増田憲彦、増井　仁彦、佐倉雄馬、三品睦輝、奥野　博:夜間頻尿外来開設４年の診療成績。第 18 回日本排尿機能学会
2011.10.28	名古屋市・名古屋国際会議場	増田憲彦、北村悠樹、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：PSA grey zone 症例における前立腺生検前 MRI 撮影の癌検出に対する有用性の検討。第 49 回日本癌治療学会
2011.10.28	名古屋市・名古屋国際会議場	佐倉雄馬、奥野　博、北村悠樹、眞鍋由美、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、田岡利宜也、筧　善行：ビカルタミド治療中の乳房痛に対するフルタミド変更療法の有用性に関する研究。第 49 回日本癌治療学会

2011.12.11	京都・ハイアットリージェント京都	北村　悠樹、眞鍋　由美、増田　憲彦、伊東　晴喜、三品　睦輝、奥野　博、益田　良賢：前立腺癌ホルモン中療法中に前立腺癌肉腫に移行した 1 例。第 231 回泌尿器科 Monthly Meeting
2011.12.17	大阪・リーガロイヤル NCB	増田憲彦：＜第 215 回ベストプレゼンテーション賞受賞者表彰ならびに記念講演＞　経尿道的開窓術を施行した Cowper’s syringocele の 1 例。第 217 回日本泌尿器科学会関西地方会
2011.12.17	大阪・リーガロイヤル NCB	北村悠樹、眞鍋由美、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博、益田　良賢：前立腺癌ホルモン療法中に発見された前立腺癌肉腫の 1 例。第 217 回日本泌尿器科学会関西地方会
2012.03.03	京都市・ホテルグランヴィア	北村悠樹、眞鍋由美、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：尿路結石症に対する軟性尿管鏡下経尿道的砕石術（f-TUL）と体外衝撃波砕石術（ESWL）。第 15 回藤ノ森カンファレンス
2012.03.03	京都市・ホテルグランヴィア	増田憲彦、北村悠樹、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：前立腺肥大症に対する Green Light ®レーザー前立腺蒸散術。第 15 回藤ノ森カンファレンス
2012.03.03	京都市・ホテルグランヴィア	伊東晴喜、増田憲彦、北村悠樹、眞鍋由美、三品睦輝、奥野　博：夜間頻尿を科学する。第 15 回藤ノ森カンファレンス

□投稿論文など

年	著書・雑誌名	内　　容
2011	LUTS	Kimihiko MASUI, Koji YOSHIMURA, Hiroyuki NISHIYAMA, Hiroshi OKUNO,and Osamu OGAWA. Transition in Type of Surgery for Benign Prostatic Hyperplasia: A Multi-institutional Study in Japan.　LUTS 3: 104-108, 2011
2011	泌尿器ケア	奥野　博:「内分泌療法（ホルモン療法）」。特集 1　クイックマスター泌尿器科の病気・治療・ケア。泌尿器ケア　2011. Vol.16. no.4. 54-55(378-379)　メディカ出版
2011	泌尿紀要	増井仁彦、吉村耕治、佐倉雄馬、伊東晴喜、吉田　徹、三品睦輝、奥野　博：下部尿路症状と夜間転倒転落：外来および入院患者に対する生活質問票を用いた転倒。泌尿紀要　57：417-423、2011

科　名：産科・婦人科



副院長
高倉　賢二

専門医資格等　日本産科婦人科学会専門医
日本婦人科腫瘍学会専門医
日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
京都大学医学部臨床教授
三重大学医学部客員教授
関西医科大学臨床教授

専門分野　婦人科腫瘍
産婦人科手術
内分泌疾患の診断治療
不妊症の診断治療

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医療情報部長	北岡有喜	日本産科婦人科学会専門医	生殖分子生理学・医療情報学・情報システム学	
婦人科医長	徳重　誠	日本産科婦人科学会専門医・ 日本産婦人科内視鏡学会技術認定医・ 母体保護法指定医・ 日本内視鏡外科学会技術認定医	腹腔鏡下手術・婦人科手術	婦人科腫瘍・子宮内膜症
産科医長	山本紳一	日本産科婦人科学会専門医・ 母体保護法指定医・ 京都大学　医学博士		婦人科がん
婦人科医長 外来医長	高尾由美	日本産科婦人科学会専門医・京都大学医学博士	生殖内分泌学	婦人科がん
産科医長 産科病棟医長	江川晴人	日本産科婦人科学会専門医・京都大学医学博士・専門医制度暫定指導医・日本周産期新生児医学会	周産期一般・更年期	
婦人科病棟医長	関山健太郎	日本産科婦人科学会専門医・婦人科腫瘍専門医・日本婦人科腫瘍学会	腹腔鏡下手術	婦人科がん
産科医師	伊藤美幸	日本産科婦人科学会専門医	腹腔鏡下手術	婦人科一般
産婦人科医師	山西　優紀夫			
レジデント	上田　優輔			
専修医	今井更衣子			婦人科一般
専修医	坂田　亜希子			

□診療科の特徴

1．安全で、妊婦さんひとりひとりが心から満足のいく分娩を、ということが私たちのモットーです。

女性にとって、お産は重要なイベントです。そして、それぞれのお産についての妊産婦さんの考えや要望は年々変化してきています。私たちは、お産の質の向上、および医療者側のお産に対する的確な対応が、ますます大切なものとなってきていると考えています。

2．症状や診察所見に基づいて、患者さんひとりひとりの病状に合わせた治療、すなわちテーラメードな治療を行うことを基本方針としています。また、婦人科のみで診療にあたるのではなく、麻酔科、外科、泌尿器科、放射線科、腫瘍内科などの関連科と連携し、患者さんにとっての最良の治療を考え、実施していきます。

□診療(業務)内容

産科

●妊婦健診　●分娩(出産)　●産前・産後の母乳ケア

年間600例の分娩を取り扱っています。

産科外来に病棟助産師が立ち会い、継続して保健指導を行っています 。安心して出産を迎えることができます。

婦人科

1．悪性腫瘍(子宮がん・卵巣がん)に対して充実した診療を行います

当院は、京都府のがん診療拠点病院に指定されています。また、2007年4月より、婦人科腫瘍が専門の藤井信吾前京都大学婦人科学産科学教室教授が病院長に就任し、これまで以上に子宮がん、卵巣がんなどの婦人科悪性腫瘍の診断と治療に重点をおいた診療を行っています。

2．子宮頸がんの治療は、手術後のQOL（生活の質)に配慮して行います

子宮頸がんの治療には、広汎子宮全摘手術が標準として行われていますが、術後の排尿障害が大きな問題でした。当院では手術方法を改良し、根治性を保ちながら可能な限り排尿神経を温存する手術を行います。術後の排尿障害に対しても良好な結果を得ています。また、かつての広汎性子宮全摘術の際には出血量が多くなり輸血が必要となるケースがありましたが、当院では丁寧な出血の少ない手術を行うことにより輸血を回避しています。

3．高い専門知識をもって抗がん剤治療、放射線治療を行います

がんの治療には手術とならんで化学療法(抗がん剤治療)が重要な役割を果たします。当科では、抗がん剤治療の経験豊富なスタッフが抗がん剤治療を行います。また、当院には腫瘍内科医も常勤しており、必要に応じて連携して治療方針を決定します。さらに、抗がん剤の副作用の予防・緩和についても、十分な知識をもって対応します。 放射線治療が適切と判断された場合には、当院に常勤している放射線治療専門医と連携して放射線治療を行います。また、当院は京都大学とも連携しており、当院では設備のない小線源腔内照射などの特殊な治療については、京都大学放射線科の協力が得られる体制を整えています。

4．良性腫瘍(卵巣腫瘍・子宮筋腫)の治療は、患者さんのQOLに配慮して方針を決定します

良性卵巣腫瘍や子宮内膜症、子宮筋腫などの治療については、患者さんにとって何が最善の方法なのかを、症状や診察所見に基づいてカウンセリングしながら決定します。将来は妊娠をしたいのかどうか、筋腫の増大傾向があるのかどうか、手術をするのか、するのならばどのような手術法を選択するのか、それとも薬で治療が可能なのか、細やかに対応します。

5．インフォームド・コンセントを重視します

十分な説明を行い、納得いただいたうえで治療を行うことにより、満足の得られる医療を行うことを診療のモットーとしています。また、疾患について画一化された治療を行うのではなく、それぞれの患者さんの身体的・精神的・社会的状況や希望なども十分ふまえたうえで治療方針を決定します。

産科入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	15.4	661	8.5

産科外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	17.5	48.4%	36.3%

婦人科入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	20.8	835	9.2

婦人科外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	55.2	62.6%	18.1%

主な手術・検査の件数など

	分娩件数	帝王切開件数	開腹手術	腹腔鏡下手術
2011年度	576件	166件	215件	86件

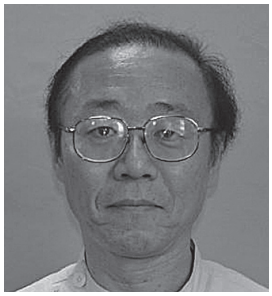
□学術活動報告(学会・研究発表など)

場　所	内　　容
第29回日本受精着床学会学術講演会	『射出精子を用いた人工授精・ICSI後にTESE-ICSI にて妊娠・出産に至った精管精管再吻合術後の1症例』 高尾　由美
第56回日本生殖医学会学術講演会	『モノアミンオキシダーゼAはヒト妊娠黄体細胞に発現する』 高尾　由美
第12回近畿産婦人科内視鏡手術研究会	『妊娠中の破裂により壁側腹膜に固定された成熟嚢胞性奇形腫の1例』 上田優輔
第63回日本産科婦人科学会学術講演会	『膀胱壁に浸潤する前置穿通胎盤が疑われた症例に対する保存的治療の経験』 上田優輔
第50回日本婦人科腫瘍学会	『外陰に発生した腺様嚢胞癌(adenoid cystic carcinoma: ACC)の一例』 上田優輔

□投稿論文など

年	内　　容	
2010.4.10発行	メジカルビュー社(東京)	単純子宮全摘術の手術解剖． OGS Now No.2 腹式単純子宮全摘術　必須術式の完全マスター（編集：平松祐司、小西郁生、櫻木範明、竹田省)、p.32-41 高倉賢二、樋口壽宏、勝矢聡子
2011.5.1発行	メジカルビュー社(東京)	子宮体癌の基本手術、OGS Now No.6　子宮体癌・卵巣癌の手術 基本術式と腫瘍進展に応じた戦略（編集:平松祐司、小西郁生、櫻木範明、竹田省)、p.14-33 高倉賢二
2011.5.9発行	中山書店（東京）	スタイン・レーベンタール症候群． 症候群ハンドブック（総編集：井村裕夫、編集：福井次矢、辻省次)、p.442-443 高倉賢二
2011	日本婦人科腫瘍学会	術前のMRI鑑別診断に苦慮した卵巣原発非ホジキンリンパ腫の1例　29(1):123-128 関山健太郎、天野康彰、徳重誠、井上卓也、藤井信吾
2012.3.31発行	診断と治療社	カラーアトラス臨床解剖学に基づいた新版産婦人科手術シリーズⅠ　藤井信吾、落合和徳、関山健太郎
2012.1.15	じほう	44.女性生殖器用薬－子宮収縮薬、子宮収縮抑制薬、子宮内膜症治療薬〔総説〕． 治療薬ハンドブック2012薬剤選択と処方のポイント(監修：高久史麿)、p756-759　関山健太郎、藤井信吾

科　名：緩和ケア科



専 門 分 野　緩和ケア

診療部長
土屋　宣之

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
科　　長	久 保 速 三	日本緩和医療学会指導医	緩和ケア	

□診療科の特徴

施設認定等	日本緩和医療学会

□代表的診療対象疾患

癌一般

□診療(業務)内容

1，与えられた構造の中で環境整備ー視覚(照明、花木)、聴覚(院内放送の個室内制限)などー
2，利用者の価値観や生き方を尊重するためにことさら根気と丁寧さを要するケア、自立性を奪われていく困難と苦痛の中で行われるケア
3，上記のような場を提供・俯瞰、特殊な感情労働に従事するケアスタッフへの目配り
4，場の提供に続いてそこで有意義な時間空間を作る力を持った利用者や家族の選択のために入棟の適応の可否を判定員会で議論検討する。
5，目的としてでなく手段としての症状緩和、薬剤による対処療法の役割は限定的である。たとえ症状緩和に成功しなくとも生きる場所を提供できる可能性もある。自宅に遠く及ばなくとも、多職種による行事企画や音楽療法、食事への気配り、家人への配慮を通してかけがえない時間を過ごす場を作りうる。あくまで我々は触媒でしかないのだが。
6，在宅への橋渡し、レスパイト入院への門戸開放
7、遺族への配慮：訪問遺族の傾聴に時間をかける他に遺族会、遺族への書状を通して継続的な関わりを試みる
8，緩和ケアチームを中心とした、一般病棟、地域医療への貢献

緩和ケア内科入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	8.9	19	51.9

緩和ケア内科外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	0.5	100.0%	27.3%

緩和ケア外科入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	9.8	80	39.8

緩和ケア外科外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	4.7	89.0%	101.4%

□地域医療連携・広報活動

伏見医師会　癌医療病診連携の会「在宅と緩和ケア病棟の連携について」2011年4月23日
京都医療センター、がん市民講座、当院緩和ケア病棟について、2011年6月4日
2011年度第3回伏見医師会公開講座、がんの最期をどう生きますか２０１１，９，１７
PEACE緩和ケア研修会、２０１１年１１月１２，１３日
シオノギステロイドセミナーⅣ、緩和ケアにおける病診連携、２０１２，２，２３．

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　　容
2011	名古屋	ファシリテーター及び演者。名古屋フォローアップ研修会(PEACE追加モジュール研修会)。2011年2月19日、愛知県がんセンター
2011	静岡	ファシリテーター及び演者。静岡市立静岡病院PEACE研修会。2011年3月5-6日、静岡市立静岡病院
2011	愛知	ファシリテーター及び演者。愛知医科大学病院PEACE研修会。2011年3月26-27日、愛知医科大学病院
2011	京都	ファシリテーター。京都市立病院PEACE研修会。2011年6月26日、京都市立病院
2011	静岡	ファシリテーター及び演者。静岡市立静岡病院PEACE研修会。2011年8月20-21日、静岡市立静岡病院
2011	名古屋	ファシリテーター及び演者。独立行政法人国立病院機構　名古屋医療センター PEACE研修会。2011年9月3-4日、名古屋医療センター
2011	宇治	ファシリテーター及び演者。第２岡本総合病院PEACE研修会。2011年10月29-30日、第２岡本総合病院
2011	綾部	講演『緩和ケアと緩和ケア病棟』。綾部市立病院院内学術集談会、2011年12月7日、綾部市立病院
		以上、久保先生。

科　名：眼　科



専門医資格等
　日本眼科学会専門医
専門分野
　眼科一般

医長
山本　美保



専門医資格等
　日本眼科学会指導医
　日本眼科学会専門医
　ＰＴＤ認定医
　京都大学医学博士
　京都大学臨床教授
専門分野
　網膜硝子体疾患

診療部長
喜多美穂里
Ｈ 24.4.1 ～

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　長	秋元　正行	日本眼科学会専門医	眼科一般	
医　師	濵　祥代	日本眼科学会専門医	眼科一般	
医　師	川越　直顕	日本眼科学会専門医	眼科一般	

□診療科の特徴

施設認定等	日本眼科学会研修施設

１．糖尿病網膜症：当院がWHO指定の糖尿病センターであることもあり、当院糖尿病センター・内分泌代謝疾患センターと連携して、糖尿病患者さんの網膜症診療を担当しています。
病気の進行を定期的にチェックし、必要に応じて、レーザーによる網膜光凝固術や、合併症である白内障や眼底出血に対し、手術治療を行います。
２．白内障：人口の老齢化および長寿化に伴い、手術の必要な白内障の患者さんが増加して います。年間約1200件の白内障手術を行って視力回復をめざしています。
全身状態の良い患者さんに対しては、外来通院での白内障手術も行っています。
３．未熟児網膜症:NICUを有する当院小児科と連携して、未熟児の重篤な合併症である網膜症に対し、赤ちゃんの視力を守るための検査・治療を行います。

□代表的診療対象疾患

白内障全般、緑内障全般、網膜剥離・糖尿病網膜症などの後眼部疾患
感染症および非感染性ぶどう膜炎・眼内炎・角膜炎、視神経疾患(頭蓋内病変に起因するものを含む)
眼瞼内反症・外反症・眼瞼下垂症・霰粒腫などの外眼部疾患
結膜弛緩症・翼状片など各結膜疾患、鼻涙管閉塞症など

□診療(業務)内容

１．“見える”というゴールを目標に、全身の一部としての眼科治療をめざします
　眼科的疾患のほかにも様々な全身疾患を併せ持つ患者さんにも、手術をはじめ、様々な治療を安全に効率良く提供し、より良い視力の 獲得にむけて努力しています。
２．地域医療の一翼として、開業医や他病院の先生方と協力し、より良い医療の提供をめざします
　さまざまな医療資源を備える総合病院として、ホームドクターの先生との連携のもと、より高度な医療の提供に努力しています。

入院患者数

	１日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	11.3	655	6.3

外来患者数

	１日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	69.1	61.5%	52.0%

主な手術・検査の件数など

	水晶体再建術	硝子体手術	網膜復位術	緑内障手術	手術件数合計
2011年度	1,087件	58件	15件	1件	1,154件

□学術活動報告（学会・研究発表など）

年	場　所	内　　容
2011	国内学会	秋元正行．民生用３Ｄビデオカメラによる手術３Ｄ撮影の試み．第65回日本臨床眼科学会．2011.10.7-10；東京
2011	国内学会	高橋綾子、秋元正行、濱祥代、白井洋子、南口早智子．開放性眼外傷に対する眼球摘出術において、歯科用印象材を用いた一例．第65回日本臨床眼科学会．　2011.10.7-10；東京
2011	国内学会	高橋綾子 秋元正行 濵祥代 山本美保 白井陽子 南口早智子．開放性眼外傷に対する眼球摘出術における工夫．第117回京都眼科学会．　2011.7.3；京都

□投稿論文など

年	内　　容	
2011	Invest Ophthalmol Vis Sci;52:5153-6	Akimoto M, Mitomo K. : Potential therapeutic efficacy of a virtual pupil made of polarizing plates for correction of aniridia.
2011	Eye Reports. 1:1:3-4	Takahashi A, Akimoto M, Hama S, Shirai Y, Minamiguchi S.: Enucleation assisted with filler for open-globe injury.

科　名：耳鼻咽喉科・頭頸部外科

No Image

専門医資格等
　日本耳鼻咽喉科専門医
　京都大学　医学博士
得意疾患
　耳疾患、頭頚部腫瘍

医長
辻　　純



専門医資格等
　日本耳鼻咽喉科専門医
　頭頸部がん専門医
　内分泌・甲状腺外科専門医
　気管食道科専門医
　日本がん治療認定医
専門分野
　頭頸部外科
得意疾患
　頭頚部癌・甲状腺癌

医長
安里　　亮

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　員	渡邉　佳紀	日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本がん治療認定医	耳鼻咽喉科一般	
医　員	辻村　隆司	日本耳鼻咽喉科学会専門医	耳鼻咽喉科一般、 鼻副鼻腔疾患	
医　員	神田　智子	日本耳鼻咽喉科専門医	耳鼻咽喉科・頭頸部外科一般	頭頸部外科
医　員	本多　啓吾	日本耳鼻咽喉科専門医 頭頸部がん専門医 日本がん治療認定医	耳鼻咽喉科・頭頸部外科一般	頭頸部癌・甲状腺癌
医　員	森　祐輔	日本耳鼻咽喉科専門医	耳鼻咽喉科・頭頸部外科一般	甲状腺外科

□診療科の特徴

施設認定等	日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医研修施設
	内分泌・甲状腺外科専門医制度認定施設
	日本耳鼻咽喉科学会専門医制度専門医研修施設

1．頭頸部進行癌に対する拡大手術を中心とした集学的治療による治癒率向上
2．頭頸部癌による低侵襲手術の開発によるQOL向上
3．QOLを考慮した甲状腺手術
4．頭頸部・甲状腺外科執刀医養成のシステム
5．スタッフ全員による入院患者の診断・治療

□代表的診療対象疾患

・頭頸部癌（口腔癌：舌癌・歯肉癌・頬粘膜癌・口腔底癌、咽頭癌、喉頭癌、鼻・副鼻腔癌：上顎洞癌・篩骨同癌、耳下腺癌・顎下腺癌など）
・甲状腺癌・甲状腺良性腫瘍・副甲状腺腫瘍・バセドウ病（手術）
・頭頸部良性腫瘍
・頭蓋底進展腫瘍
・咽頭表在癌

□診療（業務）内容

耳鼻咽喉科と頭頚部外科はともに外来・病棟・手術を行っている（手術数などは両科合同）。一般的な頭頸

部癌・甲状腺癌の治療はもとより進行癌の治療も積極的に行い根治治療を目指しており、再建を要する頭頸部進行癌や縦隔浸潤する甲状腺癌・頭蓋底に進展する頭頸部腫瘍は関西一円はもとより関東・中国地方などからも治療をうけにこられている。また、低侵襲手術としての口腔癌に対するPGAシート被覆法を開発し､学会などで積極的に発表し標準治療としての普及を図っている。さらに経口的な咽頭がんの切除により、QOLを保った治療も積極的に行っており、これらも関西以外からも手術を希望されて当科に紹介される場合が多い。

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	32.4	532	21.8

外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	64.6	66.6%	22.2%

主な手術・検査の件数など

	頭頸部癌手術	甲状腺癌手術	甲状腺・副甲状腺良性手術	頭頸部良性手術
2011年度	82件	65件	36件	44件

□地域医療連携・広報活動

市民公開講座「頭頸部がんについて」2011/3/19

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内	容			
2011	国内学会	森　祐輔・渡邉佳紀・牛呂幸司・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	頭頸部領域におけるセルブロック法の有用性	第112回日本耳鼻咽喉科学会	2011/5/19	京都
2011	国内学会	本多啓吾・森　祐輔・渡邉佳紀・牛呂幸司・神田智子・安里　亮・辻　純	頭頸部癌術後合併症の検討	第112回日本耳鼻咽喉科学会	2011/5/19	京都
2011	国内学会	渡邉佳紀・森　祐輔・牛呂幸司・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	喉頭蓋木村氏病の1例	第112回日本耳鼻咽喉科学会	2011/5/19	京都
2011	国内学会	牛呂幸司・森　祐輔・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	進行鼻副鼻腔悪性腫瘍一塊切除における内視鏡補助の役割	第112回日本耳鼻咽喉科学会	2011/5/19	京都
2011	国内学会	安里　亮・森　祐輔・渡邉佳紀・牛呂幸司・本多啓吾・神田智子・辻　純	口腔咽頭癌切除におけるPGAシート＋フィブリン糊スプレー被覆法	第112回日本耳鼻咽喉科学会	2011/5/19	京都
2011	国内学会	森　祐輔・辻村隆司・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	頭頸部領域におけるセルブロック法	第109回日本耳鼻咽喉科学会京滋合同地方会	2011/6/4	京都
2011	国内学会	渡邉佳紀･辻村隆司･森裕輔･本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	下顎軟骨肉腫例	第109回日本耳鼻咽喉科学会京滋合同地方会	2011/6/4	京都
2011	国内学会	辻村隆司・森　祐輔・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	頭頸部粘膜悪性黒色腫の検討	第109回日本耳鼻咽喉科学会京滋合同地方会	2011/6/4	京都
2011	国内学会	本多啓吾・辻村隆司・森祐輔・渡邉佳紀・神田智子・安里　亮・辻　純	甲状腺乳頭癌内頸静脈切除例の検討	第109回日本耳鼻咽喉科学会京滋合同地方会	2011/6/4	京都
2011	国内学会	安里　亮・森　祐輔・渡邉佳紀・牛呂幸司・本多啓吾・神田智子・辻　純	顔面・頭蓋底解剖セミナーマニュアル	第35回頭頸部癌学会	2011/6/9	名古屋
2011	国内学会	本多啓吾, 安里亮, 神田智子, 辻純, 牛呂幸司, 渡邉佳紀, 森祐輔	当科における口腔癌治療の検討	第35回頭頸部癌学会	2011/6/9	名古屋

2011	国内学会	渡邉佳紀・森　祐輔・牛呂幸司・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	再建手術を行った下顎血管肉腫例	第 35 回頭頸部癌学会	2011/6/9	名古屋
2011	国内学会	森　祐輔渡邉佳紀・牛呂幸司・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	甲状腺癌における外側区域リンパ節転移の臨床診断精度	第 35 回頭頸部癌学会	2011/6/9	名古屋
2011	国内学会	安里　亮・森　祐輔・渡邉佳紀・牛呂幸司・本多啓吾・神田智子・辻　純	内視鏡補助下におこなった前頭蓋底進展悪性腫瘍一塊切除術	第 23 回日本頭蓋底外科学会	2011/6/15	大阪
2011	国内学会	安里　亮・森　祐輔・渡邉佳紀・牛呂幸司・本多啓吾・神田智子・辻　純	頭蓋底悪性腫瘍の術後成績	第 65 回国立病院総合医学会	2011/10/7	岡山
2011	国内学会	渡邉　佳紀，安里　亮，辻　純，神田智子，本多啓吾，牛呂幸司，森　祐輔	喉頭蓋木村氏病の 1 例	第 65 回国立病院総合医学会	2011/10/7	岡山
2011	国内学会	辻村隆司・森　祐輔・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	頭頸部粘膜悪性黒色腫 5 症例の検討	第 65 回国立病院総合医学会	2011/10/7	岡山
2011	国際学会	Ryo ASATO、Keig HONDA, Yuusuke MORI, Yoshiki WATANABE, Koji Ushiro, Tomoko KANDA, Jun TSUJI	A New Method of Covering Mucosal Defect after Oral Cancer Resection - A Combination of Polyglycolic Acid (PGA) Sheet and Sprayed Fibrin Glue-	3rd Word congress of the IAOO	2011/7/15	shingapore
2011	国際学会	Keigo HONDA、Ryo ASATO, Yuusuke MORI, Yoshiki WATANABE, Koji Ushiro, Tomoko KANDA, Jun TSUJI	Extended Application of Poliglycolic Acid Sheet Combined with Sprayed Fibrin Glue to Advanced Oral Cancers	3rd Word congress of the IAOO	2011/7/15	shingapore
2011	国内学会	渡邉　佳紀，安里　亮，辻　純，神田　智子，本多　啓吾，牛呂　幸司，森　祐輔	先端可動型硬性内視鏡を用いて耳鼻咽喉科・頭頸部外科単独で施行した ELPS の 3 症例	第 73 回耳鼻咽喉科臨床学会	2011/6/23	松本
2011	国内学会	本多啓吾, 安里　亮, 辻　純, 神田智子, 牛呂幸司, 渡邉佳紀, 森　祐輔	口腔・咽喉頭癌症例における重複癌の検討	第 73 回耳鼻咽喉科臨床学会	2011/6/23	松本
2011	国内学会	牛呂　幸司，安里　亮，森　祐輔，渡邉　佳紀，本多　啓吾，神田　智子，辻　純	オトガイ下 intramuscular AVM	第 73 回耳鼻咽喉科臨床学会	2011/6/23	松本
2011	国内学会	安里 亮、辻村隆司・森　祐輔・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・辻　純	先端可動型硬性内視鏡下咽喉頭手術	第 10 回頭頸部表在癌研究会	2011/11/26	東京
2011	国内学会	安里 亮、辻村隆司・森　祐輔・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・辻　純	先端可動型硬性内視鏡下咽喉頭手術	第 63 気管食道科学会	2011/11/10	名古屋
2011	国内学会	本多啓吾, 安里　亮, 辻　純, 神田智子, 牛呂幸司, 渡邉佳紀, 森　祐輔	甲状腺乳頭癌における内頸静脈切除例の検討	第 44 回日本甲状腺外科学会	2011/11/6	米子
2011	国内学会	森　祐輔・渡邉佳紀・牛呂幸司・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	小児プランマー病の一例	第 44 回日本甲状腺外科学会	2011/11/6	米子
2011	国内学会	森　祐輔・渡邉佳紀・牛呂幸司・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	多発内分泌腫瘍症 2B 型（MEN2B）の 1 例	第 44 回日本甲状腺外科学会	2011/11/6	米子
2011	国内学会	本多啓吾・辻村隆司・森　祐輔・渡邉佳紀・神田智子・安里　亮・辻　純	頸部廓清における頸神経温存の腫瘍学的安全性	第２２回日本頭頸部外科学会	2012/1/26	福島
2011	国内学会	渡邉佳紀・辻村隆司・森　祐輔・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	QOL 改善手術が奏功した中咽頭進行癌例	第２２回日本頭頸部外科学会	2012/1/26	福島
2011	国内学会	辻村隆司・森　祐輔・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	中咽頭前壁進行癌に対する内視鏡下経口切除術の経験	第２２回日本頭頸部外科学会	2012/1/26	福島
2011	国内学会	辻村隆司・森　祐輔・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	当科における舌根癌に対する喉頭温存手術例	第 50 回日本鼻科学会	2011/12/1	岡山

2011	国内学会	森　祐輔・辻村隆司・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	甲状腺全摘後の副甲状腺埋め込み例	第110回日本耳鼻咽喉科学会京滋合同地方会	2011/12/1	京都
2011	国内学会	本多啓吾・辻村隆司・森　祐輔・渡邉佳紀・神田智子・安里　亮・辻　純	頭頸部癌に対する選択的術後照射	第110回日本耳鼻咽喉科学会京滋合同地方会	2011/12/1	京都
2011	国内学会	渡邉佳紀・辻村隆司・森　祐輔・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	先端可動型硬性内視鏡下咽喉頭手術	第110回日本耳鼻咽喉科学会京滋合同地方会	2011/12/10	京都
2011	国内学会	辻村隆司・森　祐輔・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	当科における舌根癌に対する喉頭温存手術例	第110回日本耳鼻咽喉科学会京滋合同地方会	2011/12/10	京都
2011	国内学会	本多啓吾	頸神経叢を温存した頸部郭清	第20回京都耳鼻咽喉科研究会	2011/4/7	京都
2011	国内学会	安里　亮	口腔癌切除後におけるフィブリン接着スプレー＋PGAシート被覆法（MDFP法：Mucosal Defect covered with Fibrin glue and Polyglycolic acid sheet）の有用性	第５６回日本口腔外科学会総会・学術講演会	2011/10/21	大阪
2011	国内学会	安里　亮	口腔癌切除後におけるフィブリン接着スプレー＋PGAシート被覆法（MDFP法）	第２２回日本頭頸部外科学会	2012/1/26-27	福島

□投稿論文など

年	内　　容		
2011	牛呂幸司安里　亮・本多啓吾・辻　純・神田智子・渡邉佳紀・森　裕輔	耳鼻臨床	導入化学療法としてのTPF療法の安全性
2011	Manabu Muto, MD, PhD,Hironaga Satake, MD, Tomonori Yano, MD, Keiko Minashi, MD,Ryuichi Hayashi, MD, Satoshi Fujii, MD, PhD, Atsushi Ochiai, MD, PhD, Atsushi Ohtsu, MD, PhD,Shuko Morita, MD, Takahiro Horimatsu, MD, Yasumasa Ezoe, MD, Shinichi Miyamoto, MD, PhD,Ryo Asato, MD, PhD, Ichiro Tateya, MD, PhD, Akihiko Yoshizawa, MD, PhD, Tsutomu Chiba, MD, PhD	GASTROINTESTINAL ENDOSCOPY	Long-term outcome of transoral organ-preserving pharyngeal endoscopic resection for superficial pharyngeal cancer
2011	牛呂幸司、安里　亮・辻　純・神田智子・本多啓吾・渡邉佳紀・森　裕輔	耳鼻臨床	上縦隔に原発した脂肪肉腫例
2011	Kazutaka Nanba, Takeshi Usui, Sachiko Minamiguchi, Yusuke Mori, Yoshiki Watanabe, Keigo Honda, Ryo Asato, Kanako Nakao, Sachiko-Tsukamoto Kawashima, Akiko Yuno, Tamiko Tamanaha, Tetsuya Tagami, Mitsuhide Naruse, Yuichi Akiyama, and Akira Shimatsu	Endocrine Journal	Two rare TSH receptor amino acid substitutions in toxic thyroid adenomas
2011	森祐輔、辻　純、安里　亮、神田智子、本多啓吾、牛呂幸司、渡邉佳紀	耳鼻臨床	咽頭出血を初発症状とした後天性血友病例
2011	本多啓吾、安里　亮、辻　純、神田　智子、牛呂幸司、渡邉佳紀、森　祐輔	耳鼻臨床	腺内に微小病巣が多発する甲状腺乳頭癌症例の検討
2011	安里　亮	JOHNS	「ここまで変わった頸部郭清術」N0舌癌への対応ー予防的頸部郭清術か経過観察か

科　名：麻酔科



専門医資格等　厚労省標榜医
日本麻酔科学会指導医・専門医
日本集中治療学会専門医
専 門 分 野　麻酔管理一般、集中治療

診療部長
七野　　力

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	宇賀　久敏	厚労省標榜医 日本麻酔科学会指導医・専門医	麻酔管理一般、集中治療	
医　　員	杉本　亮大	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般	
医　　員	嵯峨　慶子	厚労省標榜医 日本麻酔科学会専門医	麻酔管理一般	
医　　員	溝田　陽子	厚労省標榜医 日本麻酔科学会専門医	麻酔管理一般	
医　　員	藤田　靖子	厚労省標榜医 日本麻酔科学会専門医	麻酔管理一般	
医　　員	原　　祐介	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般	
医　　員	岩田　良佳	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般	
専修医	堤　　貴彦			

□診療科の特徴

施設認定等	日本麻酔科学会研修施設
	日本集中治療学会認定施設

1．麻酔管理
2．集中治療管理

□代表的診療対象疾患

麻酔管理：外科手術一般
集中治療：敗血症、肺炎、ＡＲＤＳ、多臓器不全、術後管理一般

□診療(業務)内容

手術を受けられる患者さんに対する麻酔の施行と全身管理

当科では患者さんのご希望を最大限に尊重しながら、患者さんの全身状態、手術の内容を勘案してもっとも安全で苦痛の少ない麻酔法を選択しています。近年は全身麻酔と神経ブロックなど、各種麻酔法を組み合わせる方法が増加しています。それぞれの長所を生かしつつ、かつ短所を最小限に抑えることにより、手術

が終わっても痛みが少なく、安全でしかも目覚めがよい麻酔を心がけています。

重症患者さんに対する集中治療室(ＩＣＵ)での集学的治療

本院は院内に2か所の集中治療室を有する全国でも数少ない施設です。救命センターと手術室フロアにそれぞれ設置されており、ともに日本集中治療学会認定の専門医が従事しています。麻酔科ではこのうち、手術室フロアのＩＣＵ(院内ＩＵＣ)の管理を行っています。院内ＩＣＵでは主に手術後の患者さんと重症の入院患者さんの全身管理を行っています。

入院患者数

	１日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	－	－	－

外来患者数

	１日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	－	－	－

主な手術・検査の件数など

	全身麻酔（鎮静を含む）	全身麻酔（+脊、硬、ブロック）	脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔	麻酔科管理症例計	院内ＩＣＵ入室患者数
2011年度	1,927件	1,057件	392件	3,376件	538件

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　　容
2011	国内学会	嵯峨　慶子、七野　力、藤田　靖子、岩田　良佳。　不穏患者へのヘルメット型マスク（ＣＡＳＴＡＲ）の応用と一工夫。日本集中治療医学会。2011 年 2 月 25 日；横浜
2011	国内学会	藤田　靖子、七野　力、原　祐介、別府　賢、嵯峨　慶子、宇賀　久敏。坐位開頭手術中の大量静脈空気塞栓により術後重篤な肺水腫を来した一例。日本集中治療医学会。2011 年 2 月　24 日；横浜
2011	国内学会	森田　絢子、鈴木　堅悟、岩田　良佳、七野　力。後縦隔腫瘍の胸腔内穿破による大量出血に緊急止血術を施行した von Recklinghausen 病の一例～危機的出血に対する麻酔科医の役割。日本臨床麻酔学会。２０１１年１１月３日；沖縄

科　名：放射線科



放射線科
伊藤　　剛

専門医資格等　日本医学放射線学会専門医
　　臨床研修指導医臨床研修指医
専 門 分 野　画像診断

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
放射線治療科科長	荒木　則雄	日本医学放射線学会専門医、日本放射線腫瘍学会専門医、がん治療認定医、臨床研修指導医	放射線腫瘍学	放射線治療
放射線診断科科長	広川　侑奨	日本医学放射線学会専門医、日本核医学会専門医	画像診断、IVR	腹部画像診断
放射線科医師	黒田　昌志	日本医学放射線学会専門医	画像診断	骨軟部画像診断
放射線科レジデント	濱田　彩		画像診断	
放射線科レジデント	桑原　遼		画像診断	
放射線科レジデント	矢嶋　諒		画像診断	
技師長	片倉　和雄	放射線治療品質管理士, 放射線治療専門放射線技師, 医学物理士		
副技師長	上垣　忠明	放射線治療品質管理士, 放射線治療専門放射線技師, マンモグラフィ認定技師		
副技師長	伊藤　篤	放射線治療専門放射線技師		
主任	山中　早苗	放射線治療品質管理士, 放射線治療専門放射線技師, マンモグラフィ認定技師		
主任	坂本　龍彦			
主任	榎本　直之	核医学専門技師		
主任	森川　進	X線CT認定技師		
主任	大橋　健三			
主任	樋口　孝次	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師		
技師	松田　英樹	救急撮影認定技師,ICLS認定インストラクター		
技師	吉本　篤史	放射線治療品質管理士, 放射線治療専門放射線技師		
技師	川端　清志	放射線治療専門放射線技師		
技師	菊川　絢子	マンモグラフィ認定技師		
技師	大西　孝志	マンモグラフィ認定技師, 肺がんＣＴ認定技師		
技師	西川　峰生			
技師	前原　健吾	救急撮影認定技師, 医療情報技師,		

技　　師	谷田　幸茂			
技　　師	山本　　崇	マンモグラフィ認定技師		
技　　師	永井　康宏	マンモグラフィ認定技師		
技　　師	小田　晴義	マンモグラフィ認定技師		
技　　師	竹原　和宏			
技　　師	新家　睦巳			
技　　師	淺野　朱香	マンモグラフィ認定技師		
技　　師	嵯峨根　真也			
技　　師	辰野　絢香			
技　　師	濱田佳代子			
技　　師	藤田　訓充			

□診療科の特徴

施設認定等	日本医学放射線学会修練施設

1．検診乳房撮影認定施設

2．近畿ブロック　放射線治療研修施設

3．京都医療科学大学臨床実習施設

□代表的診療対象疾患

悪性腫瘍全般

□診療(業務)内容

ほぼ全領域の画像診断、頭部および心臓血管領域を除くIVR、悪性腫瘍を中心とする放射線治療

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	－	－	－

外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	36.8	100%	169.2%

主な手術・検査の件数など

	年間治療件数	年間治療計画件数
2011年度	10,792件	586件

□地域医療連携・広報活動

放射線科紹介用パンフレットの作成と地域への配布

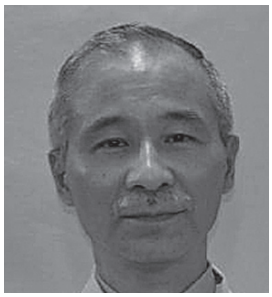
整形外科領域の一般撮影講習会「伏水塾」2011年8月6日

診療放射線技師教育研修2011年3月

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　　容　（医　　師）
2011	国内研究会	桑原遼、濱田彩、坂田昭彦、黒田昌志、広川侑奨、荒木則雄、伊藤剛、肝外発育型血管腫の一例、第33回京奈臨床画像カンファレンス、2011.6.4, 奈良
2011	国内学会	濱田彩、桑原遼、坂田昭彦、黒田昌志、広川侑奨、荒木則雄、伊藤　剛、肝炎症性偽腫瘍の一例、第298回日本医学放射線学会関西地方会、2011.6.25、大阪
2011	国内研究会	広川侑奨、肝癌における画像診断ー Gd-EOB-DTPA(EOB) 造影ＭＲＩを中心としてー、第18回伏見医師会病診連携の会、2011.9.10、京都
2011	国内研究会	坂田昭彦、桑原遼、濱田彩、黒田昌志、広川侑奨、荒木則雄、伊藤剛、子宮悪性リンパ腫の一例、第71回比叡山画像カンファレンス、2011.10.6、京都
2011	国内学会	桑原遼、濱田彩、坂田昭彦、黒田昌志、広川侑奨、荒木則雄、伊藤剛、早期胃癌精査中に発見された膵腺房細胞癌の一例、第299回日本医学放射線学会関西地方会、2011.11.51、大阪
2012	国内研究会	濱田彩、桑原遼、坂田昭彦、黒田昌志、広川侑奨、荒木則雄、伊藤　剛、Schoenlein-Henoch　purpura の一例、第34回京奈臨床画像カンファレンス、2012.1.21；京都
2012	国内研究会	黒田昌志、桑原遼、濱田彩、坂田昭彦、広川侑奨、荒木則雄、伊藤剛、肩甲部に生じた glomus tumor の一例、第23回骨軟部放射線研究会、2012.1.27; 東京
2012	国内学会	坂田昭彦、桑原遼、濱田彩、黒田昌志、広川侑奨、荒木則雄、伊藤剛、中咽頭に生じた孤発性神経線維腫の一例、第300回日本医学放射線学会関西地方会、2012.3.3；大阪
2011	国内学会	上垣忠明　一般撮影における標準化について、国立病院療養所近畿放射線技師会第20回学術大会、2011年10月7日；岡山
2011	国内学会	上垣忠明　チーム医療における自職種の役割、第65回　国立病院総合医学会、2011年10月7日；岡山
2011	国内学会	坂本龍彦、小西佳之、田中美帆、上垣忠明、伊藤剛（医療技術部長）、 MR検査の待ち日数管理について - 検査待ち日数短縮のための対応策 - 国立病院療養所近畿放射線技師会第20回学術大会、2011年10月1日；大阪
2011	国内学会	森川進、西川峰生、小田晴義、前原健吾、菊川絢子、伊藤篤、上垣忠明、小西佳之、 iDose4再構成の画質評価　ファントム画像における FBP再構成との比較、国立病院療養所近畿放射線技師会第20回学術大会、2011年10月1日；大阪
2011	国内学会	森川進　iDose4の物理評価と臨床応用、Brilliance Community In Osaka、2011年9月10日；大阪
2011	国内学会	森川進　逐次近似法を用いたＣＴ画像について、第25回関西CT技術シンポジウム、2012年2月25日; 大阪
2011	国内学会	吉本篤史、前原健吾、川端清志、大西孝志、山中早苗、森川進、伊藤篤、上垣忠明、小西佳之、 治療CTS撮影時の呼吸性移動を伴う臓器への至適撮影法の検討、国立病院療養所近畿放射線技師会第20回学術大会、2011年10月1日；大阪
2011	国内学会	松田英樹、山本崇、榎本直之、伊藤篤、上垣忠明、小西佳之、膝関節軸位撮影における撮影法の構築、国立病院療養所近畿放射線技師会第20回学術大会、2011年10月1日；大阪
2012	国内学会	松田英樹、山本崇、大西　孝志、伊藤篤、上垣忠明、小西佳之、一般撮影の標準化、全国X線撮影技術読影研究会、2012年3月31日；奈良
2011	国内学会	西川峰生、前原健吾、森川進、小田晴義、伊藤篤、上垣忠明、小西佳之、 低線量胸部CT検査における至適条件の検討、 国立病院療養所近畿放射線技師会第20回学術大会、2011年10月1日；大阪
2011	国内学会	菊川絢子、上垣忠明、伊藤篤、小西佳之、伊藤剛、黒田昌史、広川侑奨、坂田晋吾、 マンモグラフィにおけるモニタ診断用パラメータの検討、 国立病院療養所近畿放射線技師会第20回学術大会、2011年10月1日；大阪
2011	国内学会	大西　孝志、川端　清志、吉本　篤史、前原健吾、山中　早苗、森川　進、上垣　忠明、小西　佳之、放射線治療計画用ＣＴにおける iDose4の使用についての基礎的検討、国立病院療養所近畿放射線技師会第20回学術大会、2011年10月1日；大阪
2012	国内学会	大西　孝志、上垣　忠明、小西　佳之、 一般撮影の標準化への取り組み、第23回近畿地方放射線技師会学術大会、2012年2月19日；神戸
2011	国内学会	前原健吾、森川進、西川峰生、小田晴義、伊藤篤、上垣忠明、小西佳之、iDoseによる再構成画像の冠動脈ステント内腔評価、 国立病院療養所近畿放射線技師会第20回学術大会、2011年10月1日；大阪
2011	国内学会	山本崇、松田英樹、山本崇、永井康宏、榎本直之、伊藤篤、上垣忠明、小西佳之、肩関節 ScaplaYにおける撮影標準化の試み、 国立病院療養所近畿放射線技師会第20回学術大会、2011年10月1日；大阪
2012	国内学会	山本崇、松田英樹、大西　孝志、伊藤篤、上垣忠明、小西佳之、一般撮影の標準化、全国X線撮影技術読影研究会、2012年3月31日；奈良
2011	国内学会	小田晴義、森川進、西川峰生、前原健吾、伊藤篤、上垣忠明、小西佳之、 iDose4による再構成画像の Caスコアへの適応について、 国立病院療養所近畿放射線技師会第20回学術大会、2011年10月1日；大阪
2011	国内学会	淺野朱香、菊川絢子、上垣忠明、伊藤篤、小西佳之、 当院における MMGレポーティングシステムの構築と運用　第2報、 国立病院療養所近畿放射線技師会第20回学術大会、2011年10月1日；大阪

科　名：リハビリテーション科



専門医資格等　日本神経学会専門医
専 門 分 野　神経内科

医長
岩辻　賢一郎

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	中 島　康 代	日本循環器学会専門医ほか	循環器内科	
医　　師	井 村　美 紀		循環器内科	
看　護　師	1名(心大血管等リハビリ専属)			
理学療法士	11名(士長1名、主任1名)			
作業療法士	5名(主任1名)			
言語聴覚士	3名(ほか脳神経センター雇用非常勤STが1名協力)			
医療クラーク	2名(医師記録代行入力)			
看 護 助 手	2名			

□診療科の特徴

1．入院患者の急性期リハビリを主眼に置いています。
2．外来は退院後の失語症治療と心臓大血管リハビリの集団療法のみです。

□代表的診療対象疾患

詳しくはHPに掲載しております。
主治医からご依頼があれば新生児から全疾患に対応しております。

リハビリ実施単位数

	心大血管リハビリ	脳血管疾患等	運動器	呼吸器	がん患者	廃用症候群
2011年度	12,425単位 (16.2%)	3,2591 (48.5%)	11,529 (15.1%)	4,553 (5.95%)	1,445 (1.89%)	9,445件 (12.3%)

リハビリテーション終了患者

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
心臓以外	960件	1,072件	1,160件	1,406件	1725件
心臓以外	0件	0件	0件	88件	347件

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　　容
2011.07.10	国内学会	農端芳之　関節運動学的アプローチ - 博田法と関節神経学的アプローチの臨床効果　日本関節運動学的アプローチ医学会理学・作業療法士会学術集会　福岡県

□投稿論文など

年	著書・雑誌名	内　　容
2011.06	宗近眞理子、その他	作業療法士が行うIT活用支援　田中勇次郎編集　医歯薬出版 2011.06

科　名：歯科口腔外科



医長
吉田　和也

専門医資格等　日本口腔外科学会専門医・指導医、日本顎関節学会専門医・指導医、日本補綴歯科学会専門医・指導医、日本睡眠学会認定歯科医・評議員、日本睡眠歯科学会評議員、大阪歯科大学歯学博士、京都大学医学博士、大阪歯科大学非常勤講師、京都大学非常勤講師、松本歯科大学臨床教授、歯科医療研修振興財団歯科医師臨床研修指導医
専門分野　口腔外科一般
得意疾患　睡眠時無呼吸症候群
　　顎口腔領域の不随意運動（ジストニア、ブラキシズム）
　　顎顔面補綴

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　員	大　野　純	歯科医療研修振興財団歯科医師臨床研修指導医	口腔外科一般	歯科用インプラント、顎変形症
レジデント	小　川　卓　二	歯科医療研修振興財団歯科医師臨床研修指導医	口腔外科一般	
レジデント	福原　紫津子	日本口腔ケア学会認定医	口腔外科一般	口腔ケア

□診療科の特徴

施設認定等	日本口腔外科学会認定機関
	日本顎関節学会認定機関
	日本睡眠学会認定機関
	日本補綴歯科学会認定機関

1．迅速で的確な診断を心がけます。
2．複数の治療法を呈示し、十分に話し合った後、最適な治療を行います。
3．治療にあたっては低侵襲を心がけます。
4．口腔ケアや口腔衛生指導によって、治療と予防を実践します。

□代表的診療対象疾患

親知らず（智歯）、埋伏歯の抜歯　口の中の腫瘍（腫れ物）、のう胞（膿の袋）　顎の骨折や歯、口腔の外傷　顎関節症、その他の顎関節疾患　顎変形症（歯並び、咬み合わせ、顎の形の異常）　口腔乾燥や唾液の異常、舌痛症　顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損の顎顔面補綴治療・口腔ケア・手術、放射線治療、化学療法前後の口腔衛生指導　歯茎、顎の骨の炎症　口内炎、舌や頬の炎症　入院患者さんあるいは全身疾患（心疾患、糖尿病、高血圧、抗血栓療法中など）のある外来患者さんの歯科治療

専門で取り扱っている疾患
　睡眠呼吸障害（睡眠時無呼吸症候群、いびき、上気道抵抗症候群）
　顎口腔領域の不随意運動（ジストニア、ブラキシズム、ジスキネジアなど）
　顎関節疾患（顎関節症、咬筋肥大症、筋突起過長症、咀嚼筋腱・腱膜過形成症など）
・顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損

□診療(業務)内容

当科は日本口腔外科学会の認定機関であるばかりではなく、日本顎関節学会、日本睡眠学会、日本補綴歯科学会の認定機関でもあり、顎口腔領域のさまざまな疾患の総合的な診断と一貫した治療が可能です。多くの大学医学部あるいは歯学部附属病院や総合病院から多数の患者さんが紹介受診されています。一般的な口腔外科的治療や有病者(心疾患、糖尿病、高血圧、抗血栓療法中など)の歯科治療、入院患者さんの歯科治療や手術前後の口腔ケアを行います。口腔外科的治療とは主に顎変形症、顎関節疾患、口腔腫瘍、顎顔面外傷などの手術を要する疾患に対して行われる治療を指します。

専門で取り扱っている疾患と治療として睡眠呼吸障害(睡眠時無呼吸症候群、いびき、上気道抵抗症候群)に対する口腔内装置治療(マウスピース)や顎矯正手術、顎関節疾患(顎関節症、咬筋肥大症、筋突起過長症、咀嚼筋腱・腱膜過形成症など) の補綴的あるいは口腔外科的治療、インプラント治療、顎口腔領域の不随意運動(ジストニア、ジスキネジア、ブラキシズムなど)の内服治療、局所麻酔薬によるブロック療法(MAB療法)、ボツリヌス療法や口腔外科的手術療法、顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損の顎顔面補綴治療などがあります。口と顎の領域のジストニアを専門で治療や研究を行っている科は他に例がなく、口と顎のジストニアの患者さん用のサイト「顎口腔領域の不随意運動」を作り(https://sites.google.com/site/oromadibulardystonia/)、国内外より問い合わせ、受診が増えております。遠方の患者さんにはSkype (スカイプ) を利用したコンピューター上での遠隔診断が可能です。治療のため当院に入院していただくメディカルツーリズム(医療観光)により遠方からも患者さんに受診していただけるよう願っております。

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	1.7	79	7.9

外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	42.0	47.4%	7.6%

主な手術・検査の件数など

	抜歯術	嚢胞摘出術	腫瘍摘出術	インプラント手術	消炎手術	顎変形症手術	骨折手術
2011年度	779件	41件	26件	9件	9件	8件	7件

□地域医療連携・広報活動

東住吉区歯科医師会学術講演会．吉田和也．睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置治療の実際．2011年11月30日

京都医療センター呼吸ケアチーム研修会．吉田和也．人工気道(気管挿管・気管切開)患者の口腔ケア．2011年7月26日

ＦＭ845 「からだ元気」．大野　純．歯科用インプラント．2011年7月26日

京都府歯科医師会伏見支部学術講演．大野　純．臨床よもやま話　病院歯科編　15年で変ったもの、変らないもの．2011年7月22日

京都医療センター呼吸ケアチーム研修会．福原紫津子．口腔ケア方法．2011年7月26日

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　　容
2011	国際学会	Yoshida K.　Brain functions in response to oral and cognitive tasks assessed by near-infrared spectroscopy in obstructive sleep apnea syndrome. Worldsleep2011 (The 6th World Congress of the World Sleep Federation) and the 36th Annual Meeting of Japanese Society of Sleep Research.　2011, 10, 16-20; Kyoto
2011	国際学会	Yoshida K.　Glycated hemoglobin improvement by oral appliance therapy in obstructive sleep apnea syndrome patients with diabetes mellitus. Worldsleep2011 (The 6th World Congress of the World Sleep Federation) and the 36th Annual Meeting of Japanese Society of Sleep Research.　2011, 10, 16-20; Kyoto
2011	国内学会	吉田和也．近赤外線スペクトロスコピーを用いた顎機能および語流暢性課題時の睡眠時無呼吸症候群患者の脳ヘモグロビン濃度変化.循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「肥満残存高血圧合併睡眠時無呼吸患者に対する 防風通聖散及び大柴胡湯の治療効果の比較と病態生理の解明」班平成23年度総会．　2011年12月9日；京都
2011	招待講演	吉田和也．人工気道(気管挿管･気管切開)患者の口腔ケア．京都医療センター呼吸ケアチーム研修会．2011年7月26日；京都
2011	招待講演	吉田和也．睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置治療の実際．　東住吉区歯科医師会学術講演会．2011年11月30日；大阪
2011	招待講演	大野　純．臨床よもやま話　病院歯科編　15年で変ったもの、変らないもの．京都府歯科医師会　伏見支部学術講演．2011年7月22日；京都
2011	報道	大野　純．歯科用インプラント．ＦＭ845　「からだ元気」．2011年7月26日；京都
2011	招待講演	福原紫津子．口腔ケア方法．京都医療センター呼吸ケアチーム研修会．2011年7月26日；京都

□投稿論文など

年	著書・雑誌名	内　　容
2011	International Journal of Medical and Biological Frontiers	Yoshida K.　Treatment and research of sleep apnea syndrome from clinical and neurophysiological aspects in the stomatognathic system. International Journal of Medical and Biological Frontiers, 17; 1-88, 2011.
2011	Medicina	吉田和也．口腔内装置、口腔外科手術. Medicina, 48; 1042-1046, 2011.
2011	Neuroscience Research	Maezawa H,　Yoshida K, Matsuhashi M, Yokoyama Y, Mima T, Bessho K, Fujita S, Nagamine T, Fukuyama H.　Evaluation of tongue sensory disturbance by somatosensory evoked magnetic fields following tongue stimulation. Neuroscience Research, 71; 244-250, 2011.

科　名：救命救急科



センター長
金 子 一 郎

専門医資格等　日本救急医学会指導医　日本外科学会指導医
専 門 分 野　心肺蘇生法　外傷　救急医学

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　長	笹 橋　望	日本外科学会認定医 日本外科学会専門医 日本外科学会指導医 日本胸部外科学会認定医 日本胸部外科学会指導医	心臓血管外科	ER
医　長	志 馬 伸 朗	日本集中治療医学会専門医 日本麻酔科学会指導医 infection control doctor	成人・小児集中治療 感染症	重症感染症
医　長	別 府　賢	日本救急医学会専門医 日本集中治療医学会専門医 日本麻酔科学会指導医	集中治療 麻酔	重症感染症
医　師	中 野 良 太	日本救急医学会専門医 日本外科学会専門医	救急、外傷	重症多発外傷
医　師	田 中 博 之	日本内科学会認定医	救急、一般	呼吸器疾患、 災害医療
専 修 医	吉 田 浩 輔	日本内科学会認定医	救急、集中治療	重症感染症
専 修 医	井 上　京		救急、集中治療	重症感染症

□診療科の特徴

施設認定等	日本救急医学会専門医認定施設 日本集中治療医学会専門医認定施設

1．京都南部の重症患者を受け入れる拠点として活動。
2．重症多発外傷、重度熱傷、敗血症性ショックなど重症患者を集中治療室にて管理。
3．循環器、脳卒中など専門各科と協力し、質の高い医療を提供。
4．積極的に研修医に救急外来で初期対応をさせ、教育。

□代表的診療対象疾患

多発重症外傷、重度熱傷、敗血症、交通外傷、重症感染症

□診療(業務)内容

救急搬送症例に対する初期外来対応、専門診療科紹介、入院加療など
院内重症患者に対する治療
他院からの重症紹介症例の受け入れ

院内緊急手術への参加
学会、研究会などでの研究討論発表
他施設との症例検討会や情報交換
各種災害訓練の実施と参加
蘇生講習などへの参加と指導
研修医教育
コメディカルに対する教育研修
市民に対する救急啓蒙教育
消防局との連携ならびに情報交換
医師会､他病院との連携ならびに情報交換

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	14.7	773	8.7

外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	6.8	17.5%	47.0%

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　　容
2011	国内学会	中野良太、福田明輝、西川元、濱中訓生、笹橋望、金子一郎．鈍的交通外傷後S状結腸破裂を合併していた骨盤骨折の一例．第25回日本外傷学会学術集会．2011年5月19日．大阪
2011	国内学会	福田明輝、中野良太、浅田秀典、濱中訓生、金子一郎．鈍的外傷により生じた腹部大動脈損傷の1例．第25回日本外傷学会学術集会．2011年5月19日．大阪．
2011	国内学会	笹橋望、金子一郎、別府賢、中野良太、下戸学、濱中訓生、大杉治之、佐倉雄馬、奥野博．導尿カテーテルによる尿管閉塞の1例．第14回日本臨床救急医学会総会・学術集会．2011年6月3日～2011年6月4日．北海道
2011	国内学会	笹橋望、金子一郎、別府賢、中野良太、下戸学、濱中訓生、吉田浩輔、井上京．気腫性膀胱炎の1例．第37回京都医学会．2011年10月2日．京都．
2011	国内学会	吉田浩輔、大鶴繁、井出善教、太田好紀、趙晃済、加藤源太、佐藤格夫、西山慶、鈴木崇夫、小池薫．イレウス保存的加療中に急変し、緊急手術により救命し得た胃軸捻転症の一例．第39回日本救急医学会総会．2011年10月18日～2011年10月20日．東京．
2011	国内学会	井上京、金子一郎、笹橋望、別府賢、中野良太、濱中訓生、吉田浩輔．診断に苦慮した膀胱破裂から敗血症性ショックに陥った一例．第39回日本救急医学会総会．2011年10月18日～2011年10月20日．東京．
2012	国内学会	井上京、金子一郎、笹橋望、別府賢、中嶋康文、中野良太、濱中訓生、吉田浩輔．乳酸菌感染症による敗血症性ショック．第39回日本集中医学会学術集会．2012年2月28日～2012年3月1日．千葉
2012	国内学会	金子一郎、笹橋望、別府賢、中野良太、濱中訓生、吉田浩輔、井上京．ICU患者システム(PIMS)と病院電子カルテ(HIS)間の連携－HISへの診療記録統合の重要性．第39回日本集中医学会学術集会．2012年2月28日～2012年3月1日．千葉．
2012	国内学会	濱中訓生、井上京、吉田浩輔、中野良太、別府賢、笹橋望、金子一郎．神経性食思不振症の身体合併症を契機に救命センターに入院した症例の検討．第39回日本集中医学会学術集会．2012年2月28日～2012年3月1日．千葉．

□投稿論文など

年	筆頭著者	内　　容
2011	日本臨床救急医学会雑誌　別冊　日臨救急医学会雑誌(JJSEM)　Vol.14，No.1，2011　7P～13P	笹橋望、金子一郎、別府賢、中野良太、下戸学、濱中訓生．救急搬送をきっかけに悪性腫瘍と診断された症例の検討．
2012	日本臨床救急医学会雑誌　別冊　日臨救急医学会雑誌(JJSEM)　Vol.15，No.1，2012　41P～43P	笹橋望、金子一郎、小畑馨、別府賢、中野良太、濱中訓生、吉田浩輔、井上京、増田憲彦、奥野博．気腫性膀胱炎の1例．

科　名：健診部



健診部長
前川　高天

専門医資格等　日本消化器病学会指導医
日本消化器内視鏡学会指導医・同評議員
日本内科学会認定内科医
日本ヘリコバクター学会　H.Pylori(ピロリ菌)感染症認定医
専 門 分 野　消化器内科一般
特 委 疾 患　消化管疾患

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	北 岡　修 二	日本内科学会総合内科専門医 日本消化器病学会指導医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本肝臓学会肝臓病専門医 日本がん治療認定機構認定医 日本医師会認定産業医 労働衛生コンサルタント(保健衛生)	消化器一般	消化器内視鏡

□診療科の特徴

１．より迅速に、より的確な健診を心がけています。

健診センター専用棟には、診察室、心電図、腹部超音波検査装置、Ｘ線撮影装置、上部消化管内視鏡が完備されていますので、それぞれの検査が迅速かつ効率的にすすめることが可能になっています。(コース、オプション内容によっては、中央診療棟での検査、診察になります。)また、各学会の認定医・専門医が多数在籍していますので、より専門的で的確な診断が可能になっています。

２．“点”から“線”の健診へ

従来の結果を眺めるだけの“点”の健診ではなく、継続的な健康管理に役立つ“線”の健診を目指しています。特にここ数年来問題視されているメタボリックシンドローム、喫煙関連疾患については、各診療科の専門外来と協力し、継続的な診療を受けていただけるよう心がけています。

３．より確実な早期発見を目指して

各領域の悪性疾患については、最近の低侵襲治療の発達で、その早期発見はより重要になっています。また近年、癌に対する様々なリスクファクターが明らかにされており、これらのリスクを考慮したハイリスク検診の試みも始まっています。当センターでは、子宮がん検診に、子宮頚がんのリスクファクターとされるhuman papilloma virus (HPV)検査を、胃がん検診に血清ペプシノゲン/血中ヘリコバクターピロリ菌抗体検査を導入し、より確実な診断に努めています。

４．より“やさしい”検査へ

胃がんの早期発見には内視鏡検査(胃カメラ検査)の有用性が指摘されていますが、受診者にとっては、これまで“つらい”検査の一つでした。当センターでは極細径内視鏡による経鼻内視鏡検査を導入し、受診者にとって“つらい“検査から“楽な”検査への転換を図っています。

□代表的診療対象疾患

・基本コース(一般コース・脳ドック・レディースコース)に加えて、各種オプション(肺:胸部CT検査、婦人科:診察・US、乳がん:US/MMG など)を受診者の希望に応じて実施しています。

入院患者数

	1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
2011年度	−	−	−

外来患者数

	1日平均患者数	紹介率	逆紹介率
2011年度	4.1	−	−

主な手術・検査の件数など

	経鼻内視鏡検査
2011年度	349件

□地域医療連携・広報活動

ＦＭ８４５　からだ元気　新しい胃がん検診　2011年12月14日

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　　容
2009	名古屋	北岡修二、前川高天：人間ドックにおける経鼻内視鏡検査の有用性と問題点、第77回日本消化器内視鏡学会総会、2009年5月23日
2009	京都	北岡修二、前川高天：胃がん検診における経鼻内視鏡検査の有用性と問題点、第78回日本消化器内視鏡学会総会、2009年10月17日
2010	大阪	北岡修二：経鼻内視鏡検査の現在～ Pros and Cons ～第14回経鼻内視鏡研究会in関西、2010年4月10日
2010	横浜	北岡修二、前川高天：経鼻内視鏡検査の受容性に影響する受検者因子の臨床的検討、第80回日本消化器内視鏡学会総会、2010年10月16日
2011	名古屋	北岡修二、前川高天：経鼻内視鏡検査における適応型IHb色彩強調画像観察の有用性、第1回経鼻内視鏡研究会　2011年8月19日
2011	福岡	北岡修二、前川高天：経鼻内視鏡検査における適応型IHb色彩強調画像観察の有用性、第82回日本消化器内視鏡学会総会　2011年10月21日
2012	熊本	北岡修二、前川高天：胃がんリスク検診における経鼻内視鏡検査の有用性、第51回日本消化器がん検診学会総会　2012年6月1日
2012	熊本	北岡修二、前川高天：極細径内視鏡検査における適切な画像設定の重要性、第2回胃細径内視鏡研究会　2012年6月2日

□投稿論文など

年	内　　容
2013年1月刊行予定	研修医・初心者のための上部消化管内視鏡研修マニュアル：第3章　スコープ挿入の基本とコツ～経鼻内視鏡

科　名：臨床研究センター



臨床研究センター長
臨床研究企画運営部長（併任）
糖尿病研究部長（併任）
治験管理室長（併任）
研究室長（糖尿病合併症：併任）
島津　　章

専門医資格等　日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医
日本糖尿病学会　糖尿病専門医
日本内科学会　認定内科医･総合内科専門医･指導医
日本病態栄養学会　認定NSTコーディネーター
専 門 分 野　内科・内分泌代謝・神経内分泌、検査医学

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　　名	専門医資格等	専門分野
内分泌代謝高血圧研究部長・研究室長（高血圧：併任）	成瀬　光栄	日本内科学会　指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本腎臓学会　腎臓専門医・指導医 日本高血圧学会　専門医	内科・内分泌代謝（副腎疾患）・高血圧
展開医療研究部長	長谷川　浩二	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医専門医 アメリカ心臓協会専門医(FAHA) アメリカ心臓病学会専門医(FACC) 日本禁煙科学会認定　禁煙支援医"	心不全、虚血性心疾患、心血管危険因子管理・特に禁煙指導、心血管展開医療研究
研究室長（予防医学）	坂根　直樹	日本内科学会　認定医 日本肥満学会　評議員	糖尿病、糖尿病教育
研究室長（臨床内分泌代謝）	臼井　健	日本内科学会認定医･指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本人類遺伝学会/日本遺伝子カウンセリング学会　臨床遺伝専門医･指導医 臨床研修指導医	内科・内分泌代謝・臨床遺伝学
研究室長（先端医療技術開発）	和田　啓道	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	循環器学、リスクファクター管理、予防医学、臨床研究（バイオマーカー、メタボリックシンドローム、喫煙）、実験医学（心筋梗塞、高血圧性心疾患、血管新生）

研究室長（臨床代謝栄養）	浅原　哲子	日本糖尿病学会　糖尿病専門医・研修指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本内科学会　認定内科医 日本肥満学会　評議員 日本病態栄養学会　評議員	糖尿病、肥満（メタボリックシンドローム）疾患
研究室長（分子内分泌代謝：併任）	田上　哲也	日本内科学会　総合内科専門医・認定医･指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医・教育責任者 日本甲状腺学会　専門医 臨床研修指導医	内科・内分泌代謝（甲状腺疾患）
研究室長（内分泌系腫瘍：併任）	奥野　博	日本泌尿器科学会　指導医・専門医 日本生殖医学会　評議員 日本アンドロロジー学会　評議員 京都大学　医学博士 京都大学医学部　臨床教授 関西医科大学　臨床教授 米国泌尿器科学会 日本癌治療認定医 日本臨床腎移植学会　腎移植認定医 日本内視鏡外科学会　技術認定医 日本泌尿器内視鏡学会　腹腔鏡技術認定医	前立腺がん、体腔鏡手術、女性･男性泌尿器科学
研究室長（臨床疫学情報：併任）	小山　弘	日本内科学会　総合内科専門医	内科一般、内科診断学、医学教育、臨床疫学
研究室長（糖尿病：併任）	河野　茂夫	日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本内科学会　認定内科医･総合内科専門医･指導医 日本糖尿病学会　評議員	糖尿病、足病変
研究室長（がん医療：併任）	猪飼　伊知夫	日本外科学会 外科専門医、指導医 日本消化器外科学会 外科専門医、指導医 日本肝胆膵外科学会 肝胆膵外科高度技能指導医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医	肝胆膵外科（肝臓がん、胆道がん、膵臓がん）
研究室長（血管障害：併任）	塚原　徹也	日本脳神経外科学会　脳神経外科専門医・評議 日本脳卒中学会　脳卒中専門医・評議員 日本脳神経外科学会　脳神経外科専門医・評議員 日本脳卒中学会　脳卒中専門医・評議員	脳卒中外科、脳血管障害、脳腫瘍、脳神経外科一般
研究室長（生命情報科学：併任）	七野　力	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定　麻酔科専門医・指導医 日本集中治療医学会認定　集中治療専門医	麻酔科学全般 心臓血管外科手術の麻酔管理 集中治療における呼吸・循環管理
研究室長（情報化推進：併任）	北岡　有喜	日本産科婦人科学会専門医 国立病院等総合情報ネットワーク研究会副会長 ＩＴコンソーシアム京都 医療情報化部会長	生殖分子生理学 医療情報学・情報システム学
流動研究員	木下　善皓		
流動研究員	津崎　こころ		
流動研究員	沢井　邦子		
流動研究員	佐々木洋介		
流動研究員	曽和　尚也		

□診療科の特徴

京都医療センターは平成11年3月「内分泌・代謝性疾患」の高度専門医療施設(準ナショナルセンター)として位置づけられました。その研究体制強化の一環として平成15年10月1日付で臨床研究センターが設置され、「糖尿病を中心とした内分泌・代謝性疾患の病態と発症機序の解明および予防・診断・治療法の開発研究」を担っています。国立病院機構の臨床研究体制再構築に伴い、平成20年度から「内分泌・代謝性疾患」にとどまらず、がん診療支援を含めた幅広い分野を臨床研究の活動分野とすることになりました。

今までの研究基盤の上に立ち、内分泌・代謝性疾患に加え、がん医療、成育医療、循環器疾患、腎疾患、感覚器疾患など幅広い医療分野において、当院でなければ出来ない研究、すなわち他の研究施設や大学には備わっていない特性を生かした臨床研究を行う学術機関として位置づけられています。現在、臨床研究センターは、臨床研究企画運営部、内分泌代謝高血圧研究部、糖尿病研究部、展開医療研究部の4部門15研究室を中心として、院内各臨床部門と密接に連携協力し、研究体制を支援、あわせて院外の研究員又は、諸機関と広く協力し、研究施設の効率的運用を図り、医療の向上に資する臨床研究を強力に推進しています。

□地域医療連携・広報活動

世界高血圧デー企画　市民公開講座「第一部　高血圧の基礎知識」「第二部　原発性アルドステロン症」（京都医療センター）2011年5月14日

下垂体患者の会　医療講演会「とことん甲状腺」 講師　田上哲也　（付属京都看護助産学校視聴覚室）2011年9月11日

第2回臨床研究セミナー（統計セミナー）「統計解析の実践講座」 講師　山陰一(研究員) 特別講演「臨床研究を科学的にするために一心疾患領域を例に－」 講師　森本剛(近畿大学教授)（多目的ホール）2011年12月14日

特別セミナー「生活習慣因子を科学する分子病理疫学」 講師　荻野周史(Harvard大学准教授)（視聴覚室）2012年3月30日

□学術活動報告(学会・研究発表など)

演者(全員)	タイトル	学会名	開催地	会期(年月日)	会期終了
H. Wada, S. Ura, S. Kitaoka, N. Satoh-Asahara, M. Akao, M. Abe, T. Morimoto, M. Fujita, A. Shimatsu, K. Hasegawa	Serum VEGF-C levels are elevated in metabolic syndrome subjects	European Society of Cardiology Congress	Paris France	2011.8.27	2011.8.31
K Nakao, K Nanba, S kawashima, A Yuno, T Tamanaha, T Tagami, T Yamamoto, S Minamiguchi, T Usui, A Shimatsu, M Naruse.	Clinical Significance of the Histopathological Grading Scoring in Malignant Pheochromocytoma/ Paraganglioma	93rd ANNUAL MEETING ENDO2011	Boston, Massachusetts	2012.6.4	2011.6.7
K Nanba, T Tamanaha, K Nakao, S Kawashima, A Yuno, T Usui, T Tagami, A Shimatsu, M Naruse	Clinical Characteristics in Elderly Patients with Primary Aldosteronism	93rd ANNUAL MEETING ENDO2011	Boston, Massachusetts	2011.6.4	2011.6.7
Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto	Curcumin as a Possible Novel Therapy for Heart Failure in Human	The 7th China-Japan Cardiovascular Forum	Beijing, China	2011 October 14	2011 October 15
Naruse M, PHEO-J Study Group	Nationwide survey and PHEO network for the study of Pheochromocytoma/ Paraganglioma in Japan (PHEO-J)	ENDO2011	Boston,USA	2011.6.4	2011.6.7
Rieko Takanabe-Mori, Koh Ono, Hiromichi Wada, Tomohide Takaya, Hajime Yamakage, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Yuko Takahashi, Masatoshi Fujita, Yoshiko Fujita, Tatsuya Sawamura, Koji Hasegawa	Lectin-like Oxidized Low-density Lipoprotein Receptor-1 (LOX-1) may be Involved in Smoking-induced Inflammation at Vessel Walls	The American College of Cardiology 61st Annual Scientific Session and ACC-i2 with TCT	Chicago, USA	2011 March 24	2011 March 27

Sayaka Shimada, Koji Hasegawa, Hiromichi Wada, Sachiko Terashima, Noriko Satoh - Asahara, Hajime Yamakage, Rieko Takanabe - Mori, Masaharu Akao, Akira Shimatsu,Yuko Takahashi	Influences of smoking cessation treatment by nicotine patch and valenicline on lipid metabolism in Japanese.	The 14th Annual International Toronto Heart Summit,	Toronto, Canada	2011 June 9	2011 June 11
Shuichi Ura, Hiromichi Wada, Noriko Satoh-Asahara, Shuji Kitaoka, Masaharu Akao, Mitsuru Abe, Koh Ono, Tatsuya Morimoto, Masatoshi Fujita, Akira Shimatsu, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa	Serum Levels of α1-Antitrypsin-LDL are Negatively Associated with Soluble VEGF Receptor-1 in Smokers and Decrease after Successful Smoking Cessation	The 14th Annual International Toronto Heart Summit	Toronto Canada	2011.6.9	2011.6.11
Takashi Murata, Hiroshi Okada, Naoki Sakane, Kazunori Yamada	DEVELOPMENT OF A ROLE-PLAYING PROGRAM FOR HEALTH CARE PROVIDERS IN CARBOHYDRATE COUNTING EDUCATION	The 5th International Conference on Advanced Technologies & Treatment for Diabetes	Barcelona, Spain,	2012.2.8	2012.2.11
Takeshi Usui, Mayu Tochiya, Noriko Satoh-Asahara, Belinda H Jenks, Tomoni Ueno, Shigeto Uchiyama, Akirta Shimatsu	The effect of natural S-equol supplement on metabolic parameters in overwight adult Japanese males and females in equol producers and non-producers	Women's Health 2012	ワシントン DC	2012.3.16	2012.3.18
Tatsuya Morimoto, Yoichi Sunagawa, Hiromichi Wada, Yasufumi Katanasaka, Tomohide Takaya, Teruhisa Kawamura, Shigeki Yanagi, Akira Marui, Ryuzo Sakata, Akira Shimatsu, Takeshi Kimura, Masatoshi Fujita, Koji Hasegawa	A natural p300-specific histone acetyltransferase inhibitor, curcumin, prevents the development of heart failure in addition to ACE inhibitor after myocardial infarction in rats	American Heart Association BCVS2011	New Orleans, LA, USA	2011July 18	2011July 21
Yoichi Sunagawa, Yasufumi Katanasaka, Taishi Terada, Yuichi Watanabe, Hiromichi Wada, Akira Shimatsu, Masatoshi Fujita, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto	Retinoblastoma Protein (Rb)-associated Protein 48 and 46 Form a Functional Complex With p300/GATA4 and Suppress Hypertrophic Responses in Cardiomyocytes	American Heart Association Scientific Sessions 2011	Orland, USA	2011 Nov 13	2011 Nov 16
河野　茂夫	招待講演：'-Diabetic Foot-News from the South-East Asia and Western Pacific regions	6ｔｈ International Symposium on the diabetic foot	アムステルダム、オランダ	2011.5.11	2011.5.14
他、255件					

□投稿論文など

著者（全員）	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	出版社	発行年および月
Ayabe M, Yonei Y, Miyazaki R, Kumahara H, Sakane N, Ishii K.	Functional age and bouts of physical activity in middle-aged to older Japanese adults; Yurin-Study.	Anti-Aging Medicine	8巻	7号	103-107		2011
Hasegawa K, Wada H, Takahashi Y.	The Association between physical data, mental status and blood rheology with special emphasis on smoking status, depressive state, and blood viscosity.	Circ J	75	5	1283		2011.5
K Nanba, T Usui, S Minamiguchi, Y Mori, Y Watanabe, K Honda, R Asato, K Nakao, S-T Kawashima, A Yuno, T Tamanaha, T Tagami, M Naruse, Y Akiyama, and A Shimatsu	Two rare TSH receptor amino acid substitutions In toxic thyroid adenomas	Endocrine Journal	59	1	13 － 19		2012.1

Kotani K, Satoh-Asahara N, Kato Y, Araki R, Himeno A, Yamakage H, Koyama K, Tanabe T, Oishi M, Okajima T, Shimatsu A, The Japan Obesity Metabolic Syndrome Study (JOMS) Group.	Serum Amyloid A Low-density Lipoprotein Levels and Smoking Status in Obese Japanese Patients.	The Journal of International Medical Research	39	5	1917-1922		2011
L Y Wong, Peter Campbell, Takeshi Usui, Anthony J O'Sullivan	Paucity of ACTH and androgen receptors in massive myelolipoma of congenital adrenal hyperplasia patient - more insight into pathogenesis	Journal of Endocrinology and Metabolism	I	2	87-89	Journal of Endocrinology and Metabolism	2011
M Koizumi, T Usui, S Yamada, I Fujiwara, T Tsuru, K Nanba, H Hagiwara, T Kimura, T Tamanaha, T Tagami, M Naruse, A Shimatsu	Successful treatment of Cushing's disease caused by ectopic intracavernous microadenoma	Pituitary	14	3	295-298		2011
N Sakane, J Sato, K Tsushita, S Tsujii, K Kotani, K Tsuzaki,M Tominaga, S Kawazu, Y Sato, T Usui, I Kamae, T Yoshida,Y Kiyohara, S Sato, H Kuzuya	Prevention of type 2 diabetes in a primary healthcare setting: Three-year results of lifestyle intervention in Japanese subjects with impaired glucose tolerance	BMC Public Health	11	1	40		2011
Ono K.	MicroRNA links obesity and impaired glucose metabolism.	Cell Res	21	6	864-866		2011.6
Shimatsu A, Kakeya H, Imaizumi A, Morimoto T, Kanai M, Maeda S	Clinical Application of "Curcumin", a Multi-Functional Substance Anti-Aging Medicine	Anti-Aging Medicine	9	1	43-51		2012.1
Shimazu S, Shimatsu A, Yamada S, Inoshita N, Nagamura Y, Usui T, Tsukada T	Resistance to dopamine agonists in prolactinoma is correlated with reduction of dopamine D2 receptor long isoform mRNA levels	European Journal of Endocrinology	166	3	383-390		2012
Sunagawa Y, Morimoto T, Wada H, Takaya T, Katanasaka Y, Kawamura T, Yanagi S, Marui A, Sakata R, Shimatsu A, Kimura T, Kakeya H, Fujita M, Hasegawa K	A Natural p300-Specific Histone Acetyltransferase Inhibitor, Curcumin, in Addition to Angiotensin-Converting Enzyme Inhibitor, Exerts Beneficial Effects on Left Ventricular Systolic Function After Myocardial Infarction in Rats.	Circ J	75	9	2151-2159		2011.9
Tsuzaki K, Kotani K, Sano Y, Fujiwara S, Gazi IF, Elisaf M, Sakane N	The relationship between adiponectin, an adiponectin gene polymorphism, and high-density lipoprotein particle size: from the Mima study.	Metabolism	61	1	17-21	ELSEVIER	2012
Wada H, Ura S, Kitaoka S, Satoh-Asahara N, Horie T, Ono K, Takaya T, Takanabe-Mori R, Akao M, Abe M, Morimoto T, Murayama T, Yokode M, Fujita M, Shimatsu A, Takahashi Y, Hasegawa K	Distinct Characteristics of Circulating Vascular Endothelial Growth Factor-A and C Levels in Human Subjects.	PLoS ONE	6	12	e29351		2011.12
他、１０７件							

□獲得した競争的研究資金

④その他厚生労働省関連研究費	21分指-8⑥　難治性内分泌腫瘍の診断と治療に関する研究	島　津　　章	がん研究助成金21分指-8⑥	主任	1290万円
②厚生労働科学研究費	糖尿病予防のための戦略研究	葛谷　英嗣	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	分担	1000万円
②厚生労働科学研究費	生活習慣病対策における行動変容を効果的に促す食生活支援の手法に関する研究	坂根　直樹	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	分担	60万円
②厚生労働科学研究費	間脳下垂体機能障害に関する調査研究	島　津　　章	難治性疾患克服研究事業	分担	230万円
②厚生労働科学研究費	褐色細胞腫の診断及び治療法の推進に関する研究(H22-難治-一般-099)	成瀬　光栄	難治性疾患克服研究事業(褐色細胞腫)	主任	1300万円
②厚生労働科学研究費	副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	成瀬　光栄	難治性疾患克服研究事業(副腎ﾎﾙﾓﾝ)	分担	140万円
②厚生労働科学研究費	ゲノム解析による原発性アルドステロン症の原因診断学の再構築	成瀬　光栄	難治性疾患克服研究事業(ゲノム解析)	分担	50万円
⑤その他財団等からの研究費	成長ﾎﾙﾓﾝ療法の治療効果に及ぼす諸因子の解析並びにｱﾄﾞﾊﾞｰｽ・ｲﾍﾞﾝﾄの調査に関する研究	島　津　　章	成長ホルモン治療研究助成金	分担	20万円
⑤その他財団等からの研究費	Ⅱb型高脂血症に対するﾌｪﾉﾌｨﾌﾞﾗｰﾄとｴｾﾞﾁﾐﾌﾞの単独療法と併用療法のﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験(CSP-LD 07 EFECTL Study)	田上　哲也	パブリックヘルス助成金	分担	7万円
⑤その他財団等からの研究費	喫煙がｲｿﾌﾗﾎﾞﾝ代謝に影響を与える腸内細菌叢(bacterio-typing)に及ぼす影響とその効果	臼　井　　健	喫煙科学研究助成金	主任	200万円
⑤その他財団等からの研究費	ﾒﾀﾎﾞﾘｯｸｼﾝﾄﾞﾛｰﾑにおけるSAA/LDL上昇と動脈硬化進展に及ぼす喫煙の影響-減量及び薬物療法と禁煙の併用治療による心血管病ﾘｽｸへの効果-	浅原　哲子	喫煙科学研究助成金	主任	200万円
⑤その他財団等からの研究費	高血圧と冠動脈研究	浅原　哲子	高血圧と冠動脈疾患研究会助成金	主任	5万円
⑤その他財団等からの研究費	井村臨床研究奨励賞	浅原　哲子	成人血管病研究振興財団助成金	主任	50万円
⑤その他財団等からの研究費	心血管イベントを規定するバイオマーカー開発-血管新生関連因子と新規酸化LDLﾏｰｶｰ-	和田　啓道	武田科学振興財団研究助成金	主任	300万円
⑤その他財団等からの研究費	禁煙後の肥満とVEGFファミリー～各ホモログ、可溶性受容体による関連因子の相違～	和田　啓道	タニタ健康体重基金助成金	主任	50万円
⑤その他財団等からの研究費	非運動性短時間身体活動が健康づくりに資する役割に関する包括的分析研究～抗酸化能、DNAの損傷・修復能を含めて～	綾部　誠也	花王健康科学助成金	主任	50万円
⑤その他財団等からの研究費	保険薬局における2型糖尿病患者に対する動機付けの効果～ｸﾗｽﾀｰﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験による検討～	岡　田　　浩	政策医療振興財団研究助成金	主任	68万円
⑤その他財団等からの研究費	メタボリック症候群におけるエンコサペンタエン酸の抗動脈硬化作用の分子機構-PPARγを介するIL-10の上昇作用-	佐々木　洋介	高血圧と冠動脈疾患研究会助成金	主任	10万円
①文部科学省関連研究費	核内受容体によるエネルギー代謝調節の分子メカニズムに関する研究	田上哲也	基盤研究(C)	主任	76.7万円
①文部科学省関連研究費	核内受容体によるエネルギー代謝調節の分子メカニズムに関する研究	成瀬光栄	基盤研究(C)	分担	1.3万円
①文部科学省関連研究費	イソフラボンと腸内細菌代謝産物エクオール産生能の個人差が代謝症候群に及ぼす影響	臼井　健	基盤研究(C)	主任	117万円
①文部科学省関連研究費	肥満代謝症候群の単球機能を標的とした動脈硬化早期診断パネルの構築と心腎疾患予防法	佐藤哲子	基盤研究(C)	主任	130万円
①文部科学省関連研究費	肥満代謝症候群の単球機能を標的とした動脈硬化早期診断パネルの構築と心腎疾患予防法	長谷川浩二	基盤研究(C)	分担	6.5万円
①文部科学省関連研究費	肥満代謝症候群の単球機能を標的とした動脈硬化早期診断パネルの構築と心腎疾患予防法	小谷和彦	基盤研究(C)	分担	6.5万円

①文部科学省関連研究費	メタボリックシンドロームと喫煙の心血管リスクにおける可溶性ＶＥＧＦ受容体の役割	和田啓道	基盤研究(C)	主任	123.5万円
①文部科学省関連研究費	メタボリックシンドロームと喫煙の心血管リスクにおける可溶性ＶＥＧＦ受容体の役割	佐藤哲子	基盤研究(C)	分担	6.5万円
①文部科学省関連研究費	ＮＯＤマウスにおけるＭＨＣ連鎖Ⅰ型糖尿病感受性遺伝子の同定と機能	服部正和	基盤研究(C)	主任	169万円
①文部科学省関連研究費	日本人向けカーボカウントの有用性と指導者育成に関する研究	佐野喜子	基盤研究(C)	主任	130万円
①文部科学省関連研究費	日本人向けカーボカウントの有用性と指導者育成に関する研究	坂根直樹	基盤研究(C)	分担	13万円
①文部科学省関連研究費	プライマリケア医とコメディカルの糖尿病診療スキル向上プログラム開発と有効性の検証	岡崎研太郎	基盤研究(C)	主任	52万円
①文部科学省関連研究費	プライマリケア医とコメディカルの糖尿病診療スキル向上プログラム開発と有効性の検証	坂根直樹	基盤研究(C)	分担	6.5万円
①文部科学省関連研究費	プライマリケア医とコメディカルの糖尿病診療スキル向上プログラム開発と有効性の検証	岡田浩	基盤研究(C)	分担	6.5万円
①文部科学省関連研究費	肥満代謝症候群の脂肪酸分画と単球機能に着目した動脈硬化早期診断法の確立	佐々木洋介	若手研究(B)	主任	169万円
①文部科学省関連研究費	骨軟骨移植術および関節軟骨損傷のリハビリテーションに関する基礎的研究	中川泰彰	基盤研究(A) 分担	分担	13万円
①文部科学省関連研究費	ヤング世代からのメタボ予防ー実証的介入研究に基く食教育コンテンツ開発とその評価	坂根直樹	基盤研究(C) 分担"	分担	39万円
①文部科学省関連研究費	骨格筋電気刺激による加齢性筋肉減少性（サルコペニア）の予防・改善	坂根直樹	基盤研究(B) 分担	分担	65万円
①文部科学省関連研究費	ヘルシープレートを活用した簡単カーボコントロール法の有用性の検証	坂根直樹	基盤研究(C) 分担	分担	13万円
①文部科学省関連研究費	高齢者・認知症者の音楽活動による健康増進を推進する読譜トレーニングシステムの開発	塚原徹也	挑戦的萌芽研究 分担"	分担	27.3万円
①文部科学省関連研究費	血液単球分画由来リボ核酸を使用した肺癌診断	三尾直士	分担 基盤研究(C)	分担	39万円
①文部科学省関連研究費	メタボリック症候群の発症と減量治療抵抗性に関する新規バイオマーカーの探索	宮永史子	基盤研究(C)	主任	221万円
①文部科学省関連研究費	メタボリック症候群の発症と減量治療抵抗性に関する新規バイオマーカーの探索	佐藤哲子	基盤研究(C)	分担	13万円
①文部科学省関連研究費	摂食栄養素とアディポサイトカイン値に基づく肥満症の効果的な栄養指導の確立	山陰一	若手研究(B)	主任	247万円
①文部科学省関連研究費	うつ病態・遺伝素因の日本人肥満・代謝症候群への影響とその効果的診断・治療法の構築	姫野亜紀裕	若手研究(B)	主任	234万円
③国立高度専門医療センター等研究費	中国大都市における糖尿病などの生活習慣病に対する予防・治療のモデル構築に関する研究	成瀬光栄	国際開発費22 指10	主任	321万円
③国立高度専門医療センター等研究費	アジア開発途上国の糖尿病合併症診療の拠点形成と診療支援に関する研究	河野茂夫	国際開発費22 指10	主任	276万円
②厚生労働科学研究費	国内外科手術成績を基礎とした経口抗がん剤による治療切除大腸癌術後補助療法の確立	山口高史	がん臨床研究事業	分担	100万円
②厚生労働科学研究費	治癒切除後の再発リスクが高い進行胃がん(スキルス胃がんなど)に対する標準的治療の確立に関する研究	畑啓昭	がん臨床研究事業	分担	70万円
②厚生労働科学研究費	標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第Ⅲ相臨床研究(H23-がん臨床-一般-002)	青木友和	がん臨床研究事業	分担	100万円
②厚生労働科学研究費	切除不能進行・再発胃がんに対する個別化治療に関する研究	安井久晃	がん臨床研究事業	分担	40万円
②厚生労働科学研究費	肥満残存高血圧合併睡眠時無呼吸患者に対する防風通聖散及び大柴胡湯の治療効果の比較と病態生理の解明(H22-循環器等(生習)-一般-008)	吉田和也	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	分担	30万円
②厚生労働科学研究費	病態別の患者の実態把握のための調査および肝炎患者の病態に即した相談に対応できる相談員育成のための研修プログラム策定に関する研究	米田俊貴	難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業(肝炎関係研究分野)	分担	150万円

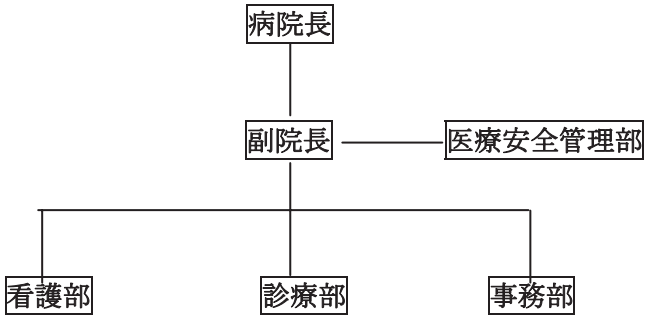
科　名：医療安全管理部



医療安全管理部長
高倉　賢二

医療安全は医療の本質にかかわる重要な課題である。病院理念の『私たちは患者さんとともに病気に立ち向かい、患者さんが安心できる医療を提供します。』を実践する上で、安全な医療の提供は基本となるものであり、医療安全の必要性と重要性を、組織としてまた職員個人自身の課題として認識する必要がある。

医療安全体制の確立を図り安全な医療の遂行を徹底するために、医療安全管理委員会、医療事故対策本部、医療安全管理室を設置して医療安全管理体制を整備している。個々の事例に対応するだけでなく、医療安全のためのマニュアル（以下「マニュアル」という。）も作成している。また、インシデント・アクシデント事例及び医療事故の評価分析によりマニュアル等の定期的な見直し等を行い医療安全管理の強化充実を図っている。



１．医療安全組織図

１）副院長直下に医療安全管理部を設ける。

２）構成メンバー

医療安全管理部長　１名
医療安全管理副部長　１名
医療訴務専門職　１名
医療安全管理係長　１名
医療安全推進担当者（リスクマネージャー）各部署から１名　計５５名

２．医療安全に関する日常活動

１）医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査（定期的な現場の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検）

２）マニュアルの作成及び点検と見直しの提言等

３）インシデント・アクシデントレポートの収集、保管、分析、具体的な改善策の提案、分析結果の現場

へのフィードバックと集計結果の管理
4）医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知
5）医療安全に関する職員への啓発、広報
6）医療安全に関する教育研修の企画･運営
7）医療安全対策ネットワーク整備事業に関する報告
8）医療安全管理に係る連絡調整に関すること

3．業務実績

1）医療事故に関する会議開催状況
① 拡大医療安全管理委員会　２件
② 医療事故本部対策会議　３件
③ オカーレンス事例検討会議　２０件
④ ハイリスク診療検討会議　１１件

2）マニュアル、ガイドラインの作成
・心臓ペースメーカー患者における電気メス使用時の対応（２０１１年）
・抗血栓薬の適正使用と周術期の取り扱いに関するガイドライン（２０１１年）
・放射性医薬品を投与された患者の排泄物の取り扱い（２０１１年）
・二酸化炭素ボンベ管理方法（２０１１年）

3）インシデント・アクシデントレポート収集
・平成２３年度報告件数
インシデント　3,１２８件
アクシデント　１２０件

・平成２３年度職種別報告件数
看護部：２,９６０件（91.1％）
医師：９８件（3.0％）

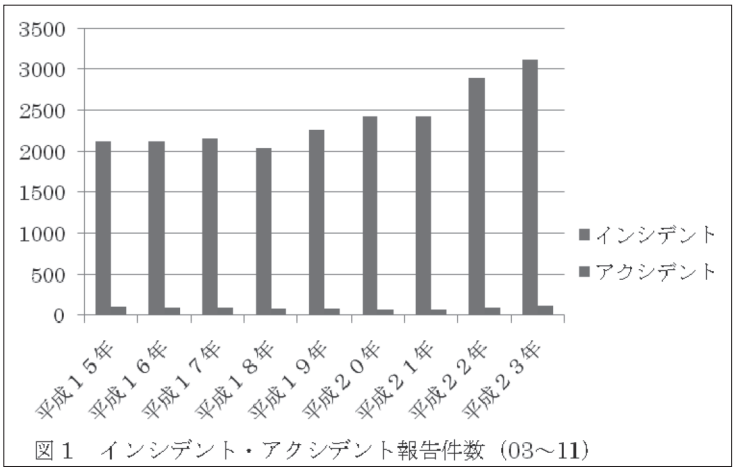


図１　インシデント・アクシデント報告件数（03～11）

表１　職種別報告件数

看　護　部	2,960	91.1%
医　　師	98	3.0%
薬　　剤	36	1.1%
栄　　養	32	1.0%
検　　査	48	1.5%
放　射　線	32	1.0%
リ ハ ビ リ	21	0.6%
臨床工学技士	6	0.2%
事　　務	15	0.5%
合　　計	3,248	

4）平成 23 年度緊急コール件数
ドクターハート・コール　３２件
ホワイトコード・コール　１７件

5）医療安全に関する活動及び情報提供
・医療安全管理委員会　１回 / 月　計１２回
・医療安全推進部会　１回 / 月　１２回（平成２４年度から「リスクマネージャー会議」に組織改編）
・診療科長会議、医局会、管理診療会議での事例紹介（「本日の事例、本日の苦情」）
・医療安全管理室だより　１回 / 月発行

・事故事例の情報発信　計１０回（二酸化炭素誤投与、ダイアライザー取り違え等）
・救急対応物品整備：外来患者緊急時の物品の配置整備
・医療消耗品整備：輸液システム、経管栄養物品、血糖測定器の更新
・誓約書の作成、２０１１年から使用開始

6）医療安全に関する教育研修
抗血栓薬適正使用と周術期の取り扱いについて　１５９名
クレーム対応研修　１１１名
転倒防止研修　第1回　１１２名
第2回　９４名

7）医療安全に関する講義
新採用者研修、幹部看護師任用候補者研修、スペシャルメディカルクラーク、看護学校
近畿ブロック医療安全管理者研修

科　名：感染制御部



診療部長
奥野　博

専門医資格等　日本泌尿器科学会指導医・専門医
専 門 分 野　泌尿器科一般
特 委 疾 患　尿路・性器感染症

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
副部長 ICTリーダー	小田垣　孝雄	ICD 日本内科学会総合内科専門医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医	内科一般、感染制御	一般内科疾患
副部長	志馬　伸朗	ICD 日本外科感染症学会暫定教育医 日本化学療法学会認定医	救急・集中治療	救急・集中治療・外科感染症
医師	畑　啓昭	ICD 外科学会専門医 消化器外科学会専門医 外科周術期感染管理認定医・教育委(暫定)	上部消化管外科	胃癌，食道癌
医師	遠藤　文司	ICD 日本内科学会認定内科医 日本医師会認定産業医	消化器内科一般 胆道・膵疾患	消化管・肝胆膵領域感染症
薬剤師 (専任)	朴井　三矢	抗菌化学療法認定薬剤師 感染制御認定薬剤師		
薬剤師	ゆう　くみ			
副看護師長 (専従)	宮地　聡子	ICN 感染管理認定看護師		
検査科主任	福田　修			
経営企画室長	岡崎　義治			

□診療(業務)内容

平成9年4月に　院内感染対策チーム(ICT)が設立し、平成22年4月には　ICTを核とする感染制御部が発足しました。そのモットーは院内の感染管理と職員の健康管理を通じて、患者さんが安心して診療を受けられる環境を提供することを目標としています。

さらにその使命として、医師・看護師・リンクナース・薬剤師・臨床検査技師・事務など多くの職員がそれぞれに得意とする分野を分担し　責任をもってこれを行っています。

この活動内容は　病院長直轄の「院内感染対策委員会」(月1回)と平成22年4月に発足した「抗菌薬の適正使用に関する小委員会」(月1回)にて　報告･審議･決定がなされるシステムとなっています。実務はICTリーダーを中心に週１回のICTラウンド・ICTミーティングを行い、また日常の問題や相談に関しても随時対応しています。

□地域医療連携・広報活動

院内感染対策講習会 「インフルエンザアウトブレイクを振り返って」 2012年6月22日・７月12日

第1回感染防止対策地域連携カンファレンス 「院内感染対策チームの作り方、活動の仕方」 2012年6月23日

院内感染対策講習会 「手指衛生」 2010年4.月30日・5月14日

院内感染対策講習会 「手術部位感染対策」 2010年9月24日

院内感染対策講習会 「救命センター感染予防強化に向けて」 2011年3月.28日

院内感染対策講習会「手術患者の感染管理について」2011年.6月27日・7.月8日

院内感染対策講習会 「ノロウイルスによる感染性胃腸炎について」 2011年11月21日・11月28日

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　　容
2011	国内学会	小田垣孝雄、朴井　三矢 「京都医療センターにおける抗菌薬適正使用の取り組み」 京滋感染管理研究会　2011年12月10日；京都
2011	国内学会	畑　啓昭　第24回外科感染症学会学術集会　栄養　座長　2011年12月2日；三重
2011	国内学会	畑　啓昭 「術後遠隔部位感染として前立腺炎を合併した症例の検討」 第24回外科感染症学会学術集会　2011年12月1日；三重

科　名：医療情報部



部長
情報システム管理室室長
診療情報管理室室長
臨床研究センター
政策医療企画研究部
情報化推進研究室室長
北岡　有喜

専門医資格等
京都大学　医学博士
日本産科婦人科学会　専門医
システムズエンジニア
独立行政法人国立病院機構本部　情報化統括責任者(CIO)補佐官
ジャパン・クラウド・コンソーシアム　健康・医療クラウドWG総合監修
ＩＴコンソーシアム京都　医療情報化部会長
京都府がん医療戦略推進会議　院内がん登録部会　部会長
国際医療福祉大学大学院客員教授(医療福祉情報システム学)

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　　名	専門医資格等
副部長	八 幡　兼 成	京都大学　医学博士 日本腎臓学会　専門医・指導医 日本透析医学会　専門医・指導医 日本糖尿病学会　専門医 日本内科学会　専門医
診療情報管理室　主任	金 子　悦 代	診療情報管理士・院内がん登録実務中級者
診療情報管理室　室員	平 井　千 尋	診療情報管理士・院内がん登録実務初級者
診療情報管理室　室員	上 田　好 美	診療情報管理士・院内がん登録実務初級者
診療情報管理室　室員	淺 井　典 子	事務助手(診療情報管理室担当)
診療情報管理室　室員	川戸　さくら	事務助手(診療情報管理室担当)
スペシャル医療クラーク	松田　安由美	助産師・産婦人科担当
スペシャル医療クラーク	木 村　仁 美	眼科担当
スペシャル医療クラーク	秋 好　香 織	整形外科担当
スペシャル医療クラーク	長谷川　紗世	内分泌代謝センター担当
スペシャル医療クラーク	西田　千賀子	耳鼻咽喉科担当
スペシャル医療クラーク	成 田　朋 代	泌尿器科担当
スペシャル医療クラーク	赤 井　樹 理	外科担当・院内がん登録実務初級者
スペシャル医療クラーク	甲 田　実 樹	呼吸器内科担当
スペシャル医療クラーク	柴 田　暢 子	形成外科担当
スペシャル医療クラーク	品 川　智 子	薬剤師・循環器内科担当
スペシャル医療クラーク	村 上　雅 代	救命センター担当
スペシャル医療クラーク	川 合　朋 子	麻酔科担当
スペシャル医療クラーク	中 村　繭 子	消化器内科・内視鏡センター担当
スペシャル医療クラーク	西山　万里子	看護師・血管外科担当
スペシャル医療クラーク	小 川　文 代	管理栄養士・糖尿病センター担当
スペシャル医療クラーク	中 條　夏 子	脳神経センター担当

スペシャル医療クラーク	三浦　圭代	小児内科担当
スペシャル医療クラーク	中尾　真理	腎臓内科担当
スペシャル医療クラーク	藤本　容子	薬剤師・糖尿病センター担当
スペシャル医療クラーク	加藤　由美子	緩和ケア科担当
スペシャル医療クラーク	目片　香織	皮膚科担当
スペシャル医療クラーク	南野　和代	院長室・整形外科担当
スペシャル医療クラーク	田中　直美	心臓外科担当
スペシャル医療クラーク	山元　貴美子	リハビリテーション科担当
スペシャル医療クラーク	黒田　果奈	脳神経センター担当
スペシャル医療クラーク	横山　順子	放射治療科担当
スペシャル医療クラーク	木下　幸子	腫瘍内科担当
スペシャル医療クラーク	陳　勝涛	中華人民共和国看護師・産婦人科担当
スペシャル医療クラーク	井上　恭子	脳神経センター・地域連携室担当
スペシャル医療クラーク	馬場　真由子	消化器内科・内視鏡センター担当
医療クラーク	松本　紀美子	事務助手(地域連携室担当)
医療クラーク	石橋　ナナミ	事務助手(手術室担当)
情報システム管理室　室員	園田　淳	運用管理職員(委託)
情報システム管理室　室員	奥田　英智	運用管理職員(委託)
情報システム管理室　室員	細江　俊樹	運用管理職員(委託)
情報システム管理室　室員	太田　佳子	運用管理職員(委託)
流動研究員	木下　善皓	診療情報管理士
非常勤研究員	中辻　善行	システムズエンジニア
非常勤研究員	小川　麻理	日医認定ITインストラクター・情報処理士
非常勤研究員	横田　健吾	システムズエンジニア
非常勤研究員	滝川　裕介	システムズエンジニア
非常勤研究員	小森　由宗	システムズエンジニア
非常勤研究員	河野　通和	システムズエンジニア
非常勤研究員	松原　大介	システムズエンジニア
非常勤研究員	小森谷　祥明	システムズエンジニア
非常勤研究員	田中　啓之	システムズエンジニア
非常勤研究員	安江　大輔	システムズエンジニア

□診療科の特徴

1．京都医療センター医療情報部は、独立行政法人化以前の2003年7月に国立病院としては初めて設置が認可された医療情報部です。

2．医師と情報システムエンジニアの資格を持つ人材が部長を担当しており、ベンダーに依存することなく、医療現場のニーズにマッチした情報システムの要件定義や開発・導入・構築を迅速かつ適価で行っています。

3．京都府・京都市が設置した情報基盤協議会である「ITコンソーシアム京都」医療情報化部会と連携し、「ポケットカルテ」などの二次医療圏を包括する地域医療連携基盤の企画・設計・開発・構築・運用・整備なども行っています。

4．情報システムや診療記録管理だけでなく、診療諸記録作成の専門職として「スペシャル医療クラーク」を独自に育成し各診療科に配置することで、医師・看護師などの専門職が専門業務に集中出来る環境を構築すると共に、診療諸記録の質の向上ならびに診療の質の向上に努めています。

□診療(業務)内容

医療情報部は３部署で構成されています。各部署の名称と主な業務内容は以下の通りです。

１．病院情報システム管理室　：　病院情報システム(電子カルテシステム)の開発・構築・運用・整備および将来計画に関すること

２．診療情報管理室　：　診療諸記録及び診療情報の管理・調査・研究およびがん登録に関すること

３．診療支援チーム　：　スペシャル医療クラークを独自に育成し、各診療科などに配置することで、医師など専門職の事務作業を軽減すると共に、診療諸記録の精度向上や処理を迅速化すること

また、研究業務は臨床研究センター情報化推進研究室と一体化し、医療情報の研究、教育及び利用、病院の運営及び診療の管理に係る情報化などの研究開発を行っています。

□地域医療連携・広報活動

国立病院機構　関信ブロック　院長協議会　講演会「京都医療センターが独自に育成するスペシャル医療クラークの概要とその導入効果」北岡有喜、大宮ソニックシティ、2011年04月15日

公立大学法人山梨県立大学　研修会「京都医療センターが独自に育成するスペシャル医療クラークの概要とその導入効果」北岡有喜、山梨県立大学、2011年04月21日

第8回　総務省　地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2011年04月22日

神戸市立医療センター中央市民病院　研修会「京都医療センターが独自に育成するスペシャル医療クラークの概要とその導入効果」北岡有喜、神戸市立医療センター中央市民病院、2011年05月12日

関西医療情報技師会　第8回勉強会「個人向け健康情報管理サービス　ポケットカルテ」北岡有喜、大阪医科大学、2011年05月14日

第2回「医療クラーク推進協議会」「京都医療センターが独自に育成するスペシャル医療クラークの概要とその導入効果」北岡有喜、京都センチュリーホテル、2011年05月20日

第9回　総務省　地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2011年05月26日

ＩＴコンソーシアム京都　第6回総会「個人向け健康情報管理サービス「ポケットカルテ」のこれまでの取組と今後の展開について」北岡有喜、京都リサーチパーク、2011年05月27日

第10回　総務省　地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2011年06月23日

第11回　総務省　地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2011年07月21日

第12回　総務省　地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2011年08月25日

第13回　総務省　地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2011年09月22日

第14回　総務省　地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2011年10月20日

「全国若手市議会議員の会」中国ブロックの研修会「「ポケットカルテ　地域共通診察券」(仮称：すこやか安心カード)について」北岡有喜、岡山理科大学、2011年11月10日

第15回　総務省　地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2011年11月24日

ジャパンクラウドコンソーシアム　健康・医療クラウドWG「個人向け健康情報管理サービス　ポケットカルテ」北岡有喜、品川イーストワンタワー内　KDDI(株)品川事業所、2011年12月07日

第16回　総務省　地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2011年12月22日

伏見薬剤師会　研修会「電子版お薬手帳について」北岡有喜、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2012年01月26日

第17回　総務省　地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2012年01月26日

第9回うー茶んフェスタ「地域共通診察券（すこやか安心カード）発行」、地域共通診察券１７１枚を発行、うじ安心館、2012年2月4日

神奈川県　政策研究会（マイカルテ勉強会）「個人向け健康情報管理サービス「ポケットカルテ」のこれまでの取組と今後の展開について」北岡有喜、神奈川県庁大会議室、2012年02月09日

第18回　総務省　地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2012年02月23日

ジャパンクラウドコンソーシアム　シンポジウム「個人向け健康医療福祉履歴管理サービス　ポケットカルテ　これまでの取組と今後の展開について」北岡有喜、大手町サンケイプラザ、2012年03月08日

神奈川県「マイカルテ」シンポジウム「個人向け健康医療福祉履歴管理サービス　ポケットカルテ　これまでの取組と今後の展開について」北岡有喜、慶應義塾大学日吉キャンパス、2012年03月17日

第19回　総務省　地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2012年03月22日

□学術活動報告（学会・研究発表など）

年	場　所	内　　容
2011	第11回日本糖尿病情報学会年次学術集会教育講演	北岡有喜．個人向け健康医療福祉履歴管理サービス　ポケットカルテ　これまでの取組と今後の展開について．第11回日本糖尿病情報学会年次学術集会教育講演．2011年08月06日；メルパルク京都
2011	第65回国立病院総合医学会	木下善皓、北岡有喜．スペシャル医療クラークの導入効果　外来診察記録の質的改善．第65回国立病院総合医学会．2011年10月07日；岡山コンベンションセンター他
2011	第31回　医療情報学連合大会　公募企画シンポジウム	北岡有喜．京都医療センターが独自に育成するスペシャル医療クラークの概要とその導入効果．第31回　医療情報学連合大会　公募企画シンポジウム．2011年11月21日；鹿児島県南日本新聞社「みなみホール」
2011	第31回　医療情報学連合大会　公募企画シンポジウム	木下善皓、北岡有喜．スペシャル医療クラークの導入効果：外来診察時間と外来診療記録の記載文字数から．第31回　医療情報学連合大会．2011年11月21日；鹿児島サンロイヤルホテル
2012	医療マネジメント学会　第12回東京支部学術集会　ランチョンセミナー	北岡有喜．スペシャルメディカルクラークの養成とその配置効果．医療マネジメント学会　第12回東京支部学術集会　ランチョンセミナー．2012年02月25日；独立行政法人国立病院機構東京医療センター　講堂

□投稿論文など

年	内　　容	
2011	平成22年度総務省　成果報告書	平成22年度総務省　地域ＩＣＴ利活用広域連携事業「地域共通診察券（仮称：すこやか安心カード）発行による安心・安全な健康医療福祉情報基盤整備事業」成果報告書　1-55頁　2011年04月
2011	月刊「新医療」	北岡有喜・藤井信吾　ＨＩＳ稼動下での専任クラーク養成の意義とその実効性　月刊「新医療」　2011年11月号（Vol.38 No.11）　124-128頁　（株）エムイー振興協会
2011	医療情報学	北岡有喜　スペシャル医療クラークの導入意義：診療記録の質の向上に向けて　医療情報学 31（Suppl.）2011　180-181
2011	医療情報学	木下善皓・北岡有喜　スペシャル医療クラークの導入効果：外来診察時間と外来診療記録の記載文字数から　医療情報学 31（Suppl.）2011　883
2012	調剤と情報	北岡有喜　ＩＴ活用がもたらす薬局・地域医療の未来「ポケットカルテと地域共通診察券」　調剤と情報　2012年01月号（Vol.18 No.1）　47-54頁　（株）じほう
2012	国際医療福祉総合研究所 HealthCare Innovation 21 研究会編	北岡有喜　8，PHRシステム：ポケットカルテの構築と2次利活用　「医療におけるデータマイニング講座」　国際医療福祉総合研究所　HealthCare Innovation 21 研究会編　in press
2012	電子情報通信学会　通信ソサイエティマガジン	北岡有喜　ホームICTの新たな展開：個人向け健康情報管理サービス『ポケットカルテ』について　電子情報通信学会　通信ソサイエティマガジン

科　名：教育研修部



専門医資格等　日本内科学会内科指導医

部長
小 山　　弘

□診療科の特徴

施設認定等	臨床研修指定病院

1．スーパーローテション方式を採用しています
2．ERの担当を通じ、幅広く急性疾患、外傷に対応する能力を獲得します
3．古くからの教育病院として、臨床研修医を教える文化のある病院です
4．毎週臨床研修医が自分で選んだテーマのレクチャーをすることにより、自己学習の習慣を習得します

□診療(業務)内容

当院の臨床研修プログラムに所属する臨床研修医、および京都大学医学部付属病院の臨床研修プログラムに所属する臨床研修医のうち協力病院として当院で研修を行う臨床研修医の、研修に関する諸問題を担当しています。

また、京都府医師会臨床研修のあり方に関する検討委員会の委員として、京都府全体の臨床研修に関する活動を行っています。

□地域医療連携・広報活動

京都府医師会臨床研修のあり方に関する検討委員会委員
京都府地域医療支援センター運営会議委員
医療系大学間共用試験実施評価機構医学系OSCE実施小委員会委員

科　名：地域医療部



地域医療部長
秋 山 祐 一



地域医療連携室長
瀬 田 公 一

医療法改正論議は進行しています。

厚生労働省の各種審議会をみていると　75 歳以上の老人人口の増加を見据えて医療法の改正をめざしていることがわかります。医師会　病院関係者　学識経験者などにその意義の徹底がはかられる形で審議が進んでいます。すでに急性期の病院は DPC で長期入院ができないようにシステム化され、地域支援病院指定で収入面での誘導がなされています。なぜわざわざ医療法改正という法律でさらにきっちり定義する必要があるのでしょうか。「医療法改正により急性期の病院へは紹介状または救急車での搬送以外では原則受診できません」という政府のキャンペーンがそろそろ始まるのではないかと思います。これらの医療改正の流れに柔軟に対応するために今後地域医療連携室の役割は高まっていくと思われます。

地域医療連携室

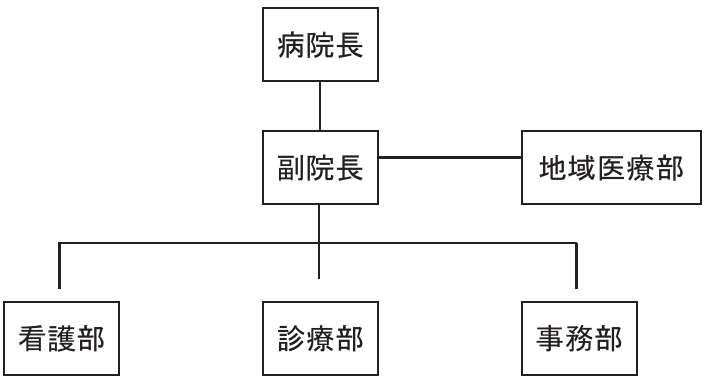
高度な医療をよりたくさんの患者さんに提供することや入院患者さんが退院後も適切な療養生活を送れるようにすることや、患者さんや家族からの様々な相談に応じることを目標に地域医療連携室は活動している。そのために、

① 患者さんとその家族のことをしっかり把握して退院支援を行う
② 地域の医療施設と顔の見える連携を築き上げる
③ 紹介を断らないシステムを確立する
④ 転院をお願いする際は紹介先の立場に立った誠意ある紹介をする

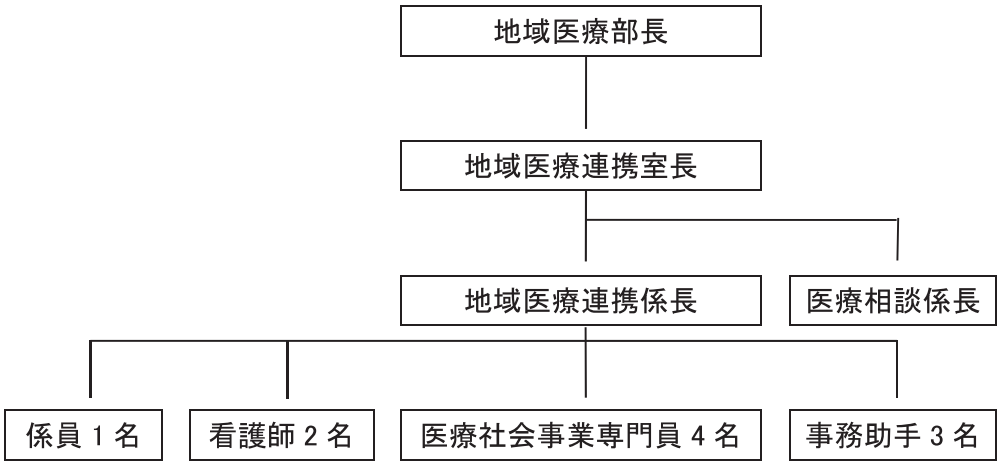
ことを方針としている。

1．沿革と体制

2002 年　地域医療連携室設置
2007 年　地域がん診療拠点病院の指定
2008 年　地域医療支援病院の承認



構成メンバー



2．地域医療連携室の日常活動

〈前方連携〉

●診察・検査事前予約
●救急紹介受診の受付と手配
●開放型病床のデータ管理
●紹介患者の返信確認と入退院の情報提供

〈後方連携〉

●退院支援（転院・在宅）
●後方支援機関との連携の強化
●後方支援機関への紹介患者

〈相談〉

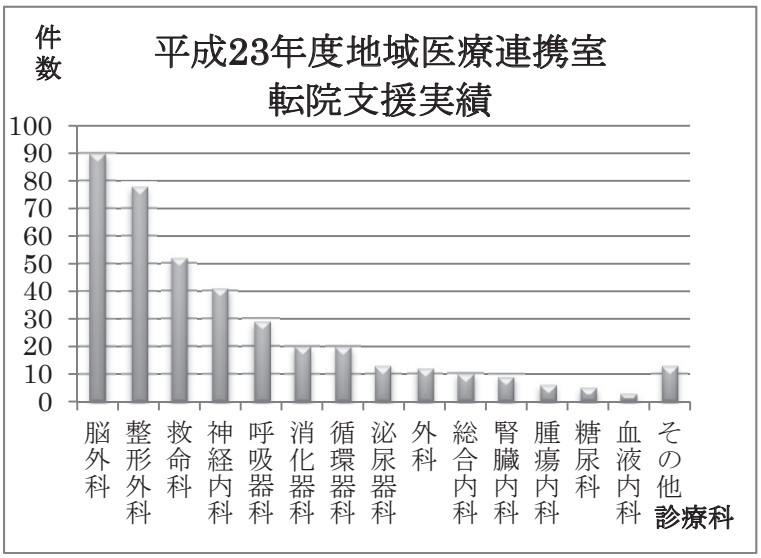
●療養上の相談や受診についての相談
●経済的問題の解決
●各種制度（介護保険・障害者医療など）の相談

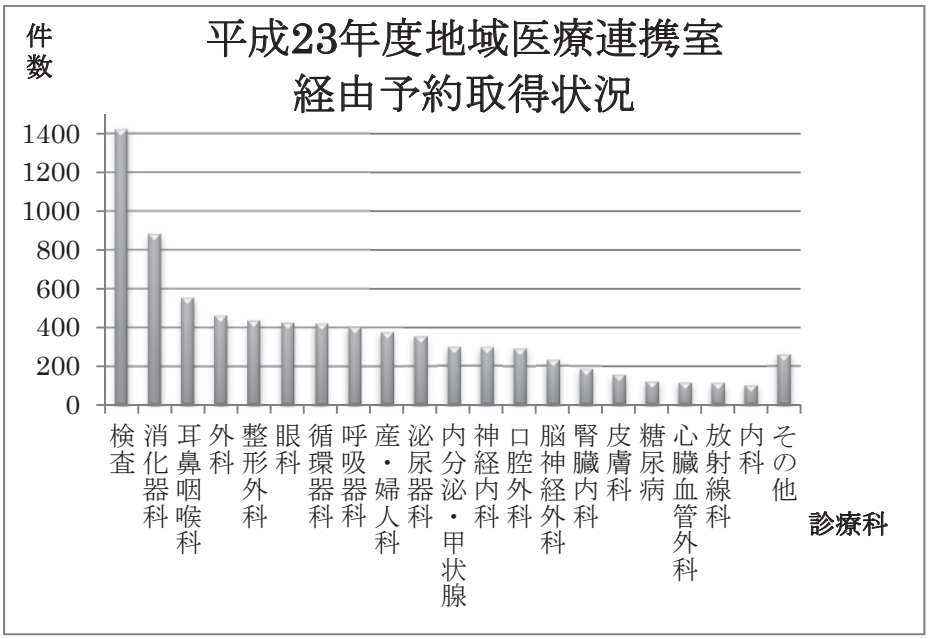
〈広報〉

●外来担当表等の発送
●広報誌『京都医療センターだより』の発送
●市民公開講座の開催

3．業務実績（2011 年実績）

地域医療連携室経由予約件数　診療予約 6,529 件　検査予約 1,426 件
1 日平均予約件数 32.6 件
相談件数 7,024 件　転院支援実績 420 件
転院支援実績在院日数 48.5 日　地域医療診療計画管理料適用患者数　65 件
救急受診受付 673 件　救急受診受入後入院件数 320 件
セカンドオピニオン相談件数 123 件　セカンドオピニオン実績件数 24 件
紹介率 67.0％　逆紹介率 54.0％　開放型病床登録医数 146 件
地域医療連携委員会　1 回 / 月
地域支援病院運営委員会　四半期 1 回
地域公開講座計 5 回開催


件数
平成23年度地域医療連携室
転院支援実績
100
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
脳外科
整形外科
救命科
神経内科
呼吸器科
消化器科
循環器科
泌尿器科
外科
総合内科
腎臓内科
腫瘍内科
糖尿科
血液内科
その他
診療科


件数
平成23年度地域医療連携室
経由予約取得状況
1400
1200
1000
800
600
400
200
0
検査
消化器科
耳鼻咽喉科
外科
整形外科
眼科
循環器科
呼吸器科
産・婦人科
泌尿器科
内分泌・甲状腺
神経内科
口腔外科
脳神経外科
腎臓内科
皮膚科
糖尿病
心臓血管外科
放射線科
内科
その他
診療科

科　名：薬剤科



薬剤科長
北村　良雄

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等
副薬剤科長	田中　利夫	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
副薬剤科長	中村　慶	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
薬務主任	小林　雅典	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
試験検査主任	辻　美里	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
治験主任	山本　靖子	日本臨床薬理学会認定CRC、日本糖尿病療法指導士、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
製剤主任	畝　佳子	日本医療薬学会がん専門薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
調剤主任	中尾　元紀	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本医療薬学認定薬剤師、日本糖尿病療養指導士、日本医療情報学会医療情報技師、日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師
薬剤師	馬場　雅子	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
薬剤師	瀬戸口　由	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
薬剤師	古川　順章	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師
薬剤師	八木　久美子	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
薬剤師	朴井　三矢	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、感染制御認定薬剤師、日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師
薬剤師	味山　陽子	日本糖尿病療養指導士
薬剤師	安達　紀美子	日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト
薬剤師	高畑　紀子	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本糖尿病療法指導士
薬剤師	綿谷　早苗	
薬剤師	堀川　久美	
薬剤師	小山　智美	日本臨床薬理学会認定CRC、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
薬剤師	渕崎　恵美子	
薬剤師	庾　錦	
薬剤師	吉村　友里	

薬　剤　師	小 川　寛 子	
薬　剤　師	藤 村　尚 子	
薬　剤　師	黒　川　　央	
薬　剤　師	栗 宗　由 樹	
薬　剤　師	小 林　正 志	

□診療科の特徴

１．各病棟に担当薬剤師を配置し、入院時持参薬確認を全患者を対象に実施している。
２．外来化学療法室での抗がん剤無菌調製、レジメンチェック、副作用発現確認を実施している。
３．チーム医療に参加し、医薬品の情報活動を行っている。
４．治験・臨床研究実施におけるCRC業務等を実施している。

□診療(業務)内容

１．調剤業務
　調剤時に医薬品の適応、用量及び用法に併せ、禁忌、相互作用、注射配合変化の確認を実施している。
　処方箋枚数(月)は、入院処方箋11,500枚、外来院内1,400枚、外来院外12,300枚であり、注射処方箋(月)は入院10,600枚、外来2,400枚である。
２．製剤業務
　消毒薬や処置薬剤の払出しをはじめ、医師からの要請に合わせた特殊製剤の調製を実施している。
　また、高カロリー輸液製剤の無菌調製や抗がん剤の無菌調製を行い外来化学療法室では服薬指導を行っている。
３．医薬品管理
　医薬品の購入から病棟等での医薬品の適正な保管管理を行っている。
４．医薬品情報室
　病棟薬剤師等と連携し、副作用報告やプレアボイド報告等から多角的に医薬品の情報を集積・分析するとともに迅速に医療従事者に提供している。
５．病棟業務・薬剤管理指導業務
　入院患者に対する最適な薬物療法の実施による有効性と安全性に寄与するため、持参薬確認、アレルギー歴、副作用の確認を実施している。また、チーム医療の推進と医療安全の向上を目的に業務を実施している。
６．治験管理業務
　治験のみならず臨床研究の実施に対し中心的役割を果たし、教育を充実させCRCの輩出に貢献している。
７．研究・研修業務
　国内外の学会や研究活動に積極的に参加し、最新の医学・薬学の知識修得に努めている。
　また、薬学生の長期実務実習を積極的に受け入れている。

□地域医療連携・広報活動

第１８回伏見区薬剤師会・京都医療センター合同研修会2011年4月21日
第２６回ＤＭ京都2011年6月19日
第１９回伏見区薬剤師会・京都医療センター合同研修会2011年6月23日
第２０回伏見区薬剤師会・京都医療センター合同研修会2011年9月22日
第２１回伏見区薬剤師会・京都医療センター合同研修会2011年11月24日
がん市民講座2011年12月10日
第２２回伏見区薬剤師会・京都医療センター合同研修会2012年1月26日
第２３回伏見区薬剤師会・京都医療センター合同研修会2012年3月22日

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　　容
2011	国内学会	○庾錦、朴井三矢、中尾元紀、藤村尚子、田中利夫、長谷川健次．当院ICT活動における広域抗菌薬適正使用への取り組み．近畿国立病院薬剤師会研究発表会．'2011年6月25日；大阪市
2011	国内学会	○黒川央、中尾元紀、綿谷早苗、古川順章、土井敏行、田中利夫、長谷川健次．京都医療センターにおけるプレアボイド報告事例に関する分析．近畿国立病院薬剤師会研究発表会．2011年6月25日；大阪市
2011	国内学会	○畝佳子、北村良雄、中西弘和．当院におけるプレガバリンカプセルの使用状況．第5回日本緩和医療薬学会年会．2011月9月24日；千葉市(幕張メッセ)
2011	国内学会	○古川順章、北村良雄、久保速水、中西弘和．緩和ケア病棟における薬剤師の役割についての検討．第5回日本緩和医療薬学会年会．2011月9月24日；千葉市(幕張メッセ)
2011	国内学会	○中尾元紀、黒川央、堀川久美、朴井三矢、齋藤誠、田中利夫、北村良雄．ワルファリン療法におけるPT-INRの目標治療域の管理に関する報告．第21回日本医療薬学年会．2011月10月1日；神戸市
2011	国内学会	○朴井三矢、藤村尚子、庾錦、中尾元紀、齋藤誠、田中利夫、北村良雄．Clostridium difficile関連下痢症の患者背景に関する調査．第21回日本医療薬学年会．2011年10月1日；神戸市
2011	国内学会	○堀川久美、黒川央、中尾元紀、齋藤誠、田中利夫、北村良雄．硫酸クロピドグレルにおける安全性に関する検討．第65回国立病院総合医学会．2011年10月7日；岡山市
2012	国内学会	○古川順章．オピオイドの基礎と臨床．第33回日本病院薬剤師会近畿学術大会．2012年1月21日；大阪市
2012	国内学会	○山本靖子．CRC業務の実際．近畿ブロックCRC研修会．2012年3月22日；大阪市

科　名：臨床検査科



専門医資格等　日本内科学会
日本循環器学会
日本高血圧学会
日本透析医学会

科長
金﨑　幹彦

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等
病理医師	山本　鉄郎	日本病理学会 日本臨床細胞学会
臨床検査技師長	渡久地　政茂	超音波検査士（循環器・消化器）
副臨床検査技師長	古田　賢二	認定輸血検査技師
主任臨床検査技師	常松　裕子	認定緊急臨床検査士
主任臨床検査技師	岡　洋一郎	健康食品管理士
主任臨床検査技師	木下　晴希	日本細胞検査士 国際細胞検査士
主任臨床検査技師	井本　元治	超音波検査士（消化器）
主任臨床検査技師	河合　健	認定輸血検査技師
主任臨床検査技師	小原　伸之	超音波検査士（循環器・消化器・血管領域） 糖尿病療養指導士
主任臨床検査技師	池田　俊彦	日本細胞検査士 国際細胞検査士
主任臨床検査技師	新田　幸一	認定輸血検査技師
主任臨床検査技師	林　文子	
臨床検査技師	鶴田　康倫	日本細胞検査士 国際細胞検査士
臨床検査技師	鈴木　雅樹	超音波検査士（循環器）
臨床検査技師	島田　良員	

役職	氏　名	専門医資格等
臨床検査技師	中垣　典子	超音波検査士（循環器・消化器）
臨床検査技師	大上　哲也	日本細胞検査士 国際細胞検査士
臨床検査技師	谷口　美奈	糖尿病療養指導士
臨床検査技師	小森　法子	認定血液検査技師
臨床検査技師	三石　智恵子	認定緊急臨床検査士 健康食品管理士
臨床検査技師	土田　幸生	
臨床検査技師	福留　裕美子	日本細胞検査士 国際細胞検査士 認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	天藤　由美子	
臨床検査技師	下村　智美	超音波検査士（循環器） 認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	成田　弓子	
臨床検査技師	相原　美奈子	
臨床検査技師	松本　俊一	
臨床検査技師	栗山　陽子	認定輸血検査技師
臨床検査技師	山本　紗耶香	

役職	氏　名	専門医資格等
臨床検査技師	伊藤　智慧	
臨床検査技師	森内　貴子	
非常勤技師	佐伯　ミカ	
招聘技師	出羽　恭枝	
検査助手	山下　晴貴	

役職	氏　名	専門医資格等
事務助手	村井　佳世	
事務助手	小野　忍	
事務助手	岡　由美	
事務助手	岩崎　京子	
事務助手	川口　真弓	

□診療科の特徴

１．正しいデータを臨床側に返すことは、臨床検査技師の大切な任務であり、その命ともいえる精度管理に大きなエネルギーを注いでいます。
２．当センターは日本の政策医療で、内分泌・代謝性疾患の基幹的役割を担っています。当科は臨床検査のトップ集団であることを自覚し、政策医療関連の検査の充実を図っています。
３．緊急検査は、２４時間対応しています。
４．感染防御という立場から積極的に取り組むためＩＣＴ(感染防御チーム)の活動に臨床検査技師も参加しています。
５．輸血業務を一元化し、安全かつ適正な輸血管理業務を行っています。

□診療(業務)内容

当科の業務は臨床検査を行うことであり、臨床検査は検体検査と生理機能検査の２つの分野に大きく分かれます。

１．検体検査：

血液、尿、便、痰、手術により切り出された組織、穿刺液等を用いて行う検査です。肝機能検査や生活習慣病の血糖・尿糖検査、貧血検査、がん細胞検査等がこの中に含まれます。検査部門としては血液学検査、生化学検査、免疫学検査、輸血関連検査、微生物学検査、病理学検査、一般検査があります。

２．生理機能検査：

直接患者さんの身体に接して、体内からの情報や変化の状態を数字や画像に変換して目で見えるようにした検査です。分野別に心電図検査、肺機能検査、脳波検査、筋電図検査、超音波検査、聴力検査、睡眠時無呼吸検査、出血時間検査があります。

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　容
2011	国内学会	福留裕美子、大上哲也、佐伯仁志、木下晴希、山本鉄郎、南口早智子．当院におけるベセスダシステム導入後の現状．第52回日本臨床細胞学会総会．2011年5月20日；福岡
2011	国内学会	碁盤法子、土田幸生、三石智恵子、古田賢二、渡久地政茂．コールターセルラーシステム　ユニセルＤｘＨ800の基礎的検討およびリサーチパラメータ(CDC:Cell Population Data)の有用性について．第60回日本医学検査学会．2011年6月4日；東京
2011	国内学会	碁盤法子、土田幸生、三石智恵子、古田賢二、渡久地政茂．治療関連骨髄性腫瘍Therapy-related myeloid neoplasmsの2症例．第38回国臨協近畿支部学会．2011年6月25日；京都
2011	国内学会	相原美奈子、成田弓子、池田俊彦、奈須正人、新田幸一、古田賢二、渡久地政茂、金﨑幹彦．日常検査で遭遇したＴＧ異常高値の解析．第38回国臨協近畿支部学会．2011年6月26日；京都
2011	国内学会	新田幸一．国臨協近畿支部生化学・免疫精度管理調査報告．国立病院臨床検査技師協会近畿支部精度管理研修会．2011年8月27日；大阪
2011	国内学会	碁盤法子、土田幸生、三石智恵子、古田賢二、渡久地政茂．コールターセルラーシステム　ユニセルＤｘＨ800におけるリサーチ項目ＣＰＤの可能性．第43回日本臨床検査自動化学会．2011年10月6日；横浜

2011	国内学会	古田賢二、新井浩司、川口和子、高石俊一、上條敏夫、木下均、渡久地政茂、正木修一、西浦明彦、永井正樹、川端薫、佐野道孝、岡本敏、小松和典、奥田勲．ＮＨＯならびにＮＣ等における臨床検査部門を基盤とした臨床検査値標準化の動向に関する研究　第２報．第６５回国立病院総合医学会．2011年10月7日；岡山
2011	国内学会	大上哲也、佐伯仁志、福留裕美子、鶴田康倫、木下晴希、山本鉄郎、南口早智子．当センターで運用している尿細胞診報告様式の説明及び組織検査結果との比較検討．第50回日本臨床細胞学会　秋期大会．2011年10月22日；東京
2012	国内学会	新田幸一．ＡＵ5800の運用および基礎検討．ベックマンコールター　ユーザー会．2012年2月4日；静岡

科　名：臨床栄養科



臨床栄養科長
大谷　哲之

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　名	専門医資格等
栄養管理室長	谷川　清	
主任栄養士	真鍋　悟	
栄養士	山地　聡子	
栄養士	片山　蘭	
栄養士	内川　厳志	
栄養士	三浦　あゆみ	
栄養士	後　沙苗	日本糖尿病療養指導士
臨時任用栄養士	安藤　由美	
非常勤栄養士	土井　芳子	
非常勤事務助手	菅　共子	
調理師長	福井　勝	

役職	氏　名	専門医資格等
副調理師長	河添　幸弘	
副調理師長	石井　俊雄	
主任調理師	山田　弘喜	
主任調理師	西田　正直	
調理師	坂本　尚人	
調理師	桝村　勝利	
調理師	澤辺　元弘	
調理師	野尻　和彦	
調理師	博多　健二	
調理師	松尾　隆生	
調理師	蒲生　亘	
非常勤調理助手	藤井　恵子	

□診療科の特徴

施設認定等	日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設

年度目標

1．患者サービスの向上及び安全な食事の提供
2．NST活動の充実と推進
3．専門外来栄養指導の充実

□診療(業務)内容

栄養管理室では入院患者対象に食事提供を行っており、患者サービス、喜ばれる食事の一環として週３回の選択食や季節の食材を使用した行事食を実施している。

また緩和ケア病棟、化学療法における食欲不振時等の個人対応食(PS食)を提供すると共に特別室個室病棟においては、５種類の献立から選択可能な特別献立による食事提供を行っている。

今年度は、胃切術後食、腎臓食の食事箋規約の改正を行いガイドラインに基づいた食事提供を行っている。

栄養管理業務においては、入院・外来患者を対象とした個人栄養指導や集団栄養指導を実施しており、個人栄養指導では、通常の指導以外に特別に指導枠を設けた１型糖尿病ポンプ外来や１型糖尿病専門外来等の指導についても医師、看護師共同で継続的に実施している。

集団指導では、糖尿病教室を毎週、母親教室を隔週開催している。

また入院時には医師、看護師、管理栄養士による栄養アセスメントを実施、栄養状態のリスクを早期に発見し対応しているが､特別に栄養管理が必要な場合は栄養サポートチームが関わっている｡栄養サポートチームは、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士を構成メンバーとし管理栄養士が専従となりチームラウンド、カンファレンスを実施、年間６５０名程度の患者に対応した。地域連携については、当院で行われている、メタボリックシンドロームや糖尿病、腎臓病などの市民講座等に積極的に関わっている。

また平成２３年度は人材育成の一環から管理栄養士科の学生実習を６大学より２０名程度の受け入れを行った。

□地域医療連携・広報活動

世界高血圧ディー市民公開講座｢減塩・減塩・おいしく減塩｣ 2011年5月14日
DM京都｢やっぱり食べたい時の一工夫～夏の低カロレシピ｣ 2011年6月19日
第1回腎臓病教室｢夏に気を付けたい腎臓食の話｣ 2011年6月25日
看護の日｢栄養相談｣ 2011年7月 2日
京都府栄養士会生涯学習｢糖尿病栄養指導の実際｣ 2011年7月10日
京都府東山区管内栄養士協議会｢カーボコントロール指導の実際｣ 2011年7月13日
第7回Ｉ型糖尿病セミナー「Ｉ型糖尿病患者のｲﾝｽﾘﾝ自己調節ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑ」 2011年8月27日
ﾒﾀﾎﾞﾘｯｸｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ市民公開講座｢歴代メタボランチの歩み｣ 2011年9月17日
糖尿病週間　栄養相談コーナー　2011年11月16日
第2回腎臓病教室｢年末年始の塩分制限の話｣ 2011年12月10日
京都府南・下京区管内栄養士協議会｢ｶｰﾎﾞｺﾝﾄﾛｰﾙ指導の実際｣ 2012年3月14日

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　　容
2011	研究会	内川　厳志．経鼻栄養における誤嚥性肺炎に対し高濃度半固形食を使用した症例．伏見栄養療法・胃瘻研究会．2011年10月1日；伏見医師会館
2011	国内学会	真鍋　悟．１型糖尿病患者を対象としたカーボカウント習得度評価の状況．日本糖尿病学会年次学術集会．2011年5月19日；札幌
2012	研究会	三浦　あゆみ．管理栄養士の緩和ケア病棟への取り組みについて．ｼｵﾉｷﾞｽﾃﾛｲﾄﾞｾﾐﾅｰ　緩和ケアにおける病診連携．2012年2月23日；新・都ホテル
2012	研究会	三浦　あゆみ．管理栄養士の緩和ケア病棟での取り組み．伏見栄養療法･胃瘻研究会．2012年3月17日；伏見医師会館

科　名：医療技術部　臨床工学科



医療技術部長
伊藤　　剛

□スタッフ

平成23年10月1日時点

役職	氏　　名	専門医資格等
主任臨床工学技士	井上　裕之	３学会合同呼吸療法認定士
臨床工学技士	柳澤　雅美	３学会合同呼吸療法認定士・透析技術認定士
臨床工学技士	清水　真樹子	３学会合同呼吸療法認定士
臨床工学技士	赤井　健太郎	臨床検査技師
臨床工学技士	川西　恭輔	透析技術認定士
臨床工学技士	大谷　直哉	DMAT隊員
臨床工学技士	中村　健志	

□診療科の特徴

１．患者さんへ、安全かつ安心して高度な医療技術が受けていただける環境づくりに努める。

□診療(業務)内容

臨床工学科の業務内容

臨床工学の業務は、大きく分けると【臨床支援業務】と【医療機器管理業務】の2つの分野があります。

『臨床支援業務』：呼吸・循環・代謝に関わる生命維持装置の操作

『医療機器管理業務』：院内での医療機器の効率的な運用を行う為、機器の選定から廃棄に至るまで医療機器の総合的管理

高度化した医療において、不可欠な人工呼吸器(呼吸療法)・人工透析(血液浄化療法)・人工心肺(体外循環)など、生命に直結する重要な生体機能を代行する医療機器管理と操作のプロフェッショナルとして、活動しています。また、患者さんの状態に合わせて、安全に最適な条件で治療の手助けを行い、また、病院内の医療機器全般について、いつでも、有効かつ安全・安心して臨床使用できるように運用・保守管理するという重要な役割も担っています。医療の中心にある患者さんを見据え、臨床工学技士として必要な専門知識と技術について工学分野と医学分野を交えて日々業務しています。

□学術活動報告(学会・研究発表など)

年	場　所	内　　容
2011	第３３回日本呼吸療法医学会	柳澤　雅美　別府　賢(救命医師)パルスオキシメータの安全管理～臨床工学技士の立場から～
2011	第２１回日本臨床工学会	柳澤　雅美　清水　真樹子　赤井　健太郎　川西　恭輔　大谷　直哉　中村　健志　井上　裕之　松本　貴代子(安全管理係長)生体情報モニターの安全管理
2011	第１８回近畿臨床工学会	赤井　健太郎.当院の院外心肺停止に対するCPRの現況

□投稿論文など

年	内　　容
2012	輸液のコツとポイント　輸液用ポンプの基礎知識～輸液・シリンジポンプの基礎知識・注意点～

科　名：看護部



看護部長
森田　　文

国立病院機構の理念に沿った病院の使命を認識し、機構の看護職員として以下の役割を果たす。

1．機構及び病院の理念を踏まえた良質の看護サービスの提供に努める。
2．看護の質の向上を目指し、臨床看護の研究、業務の改善を行う。
3．良質な看護を提供するために、看護職員をはじめ看護に関係する職員の教育研修を行う。
4．看護の提供と経営効率の調和を図り、病院経営に参画する。
5．チーム医療推進のための調整を図る。
6．地域住民への健康教育活動に参画する。

□看護部の理念

私たちは、常に患者さんと共に歩み、
安心して納得のいく医療を受けていただくために、
わかりやすく丁寧な看護を提供いたします。

□看護部の運営計画

【ＢＳＣ】
別紙１：ＢＳＣ戦略

【平成２３年度　看護部目標】
スローガン　「受け身からの脱却“自立”と“自律”」

1．根拠に基づいてチームで活動できる看護師の育成
1）アセスメント能力の向上
2）実習指導者専任化体制の構築

2．職場環境の充実による患者満足の向上
1）看護実践モデルの育成
2）職場環境の整備

3．安定した黒字経営
1）効率的な病床管理
2）目標患者数の確保

□看護部の体制

＊別紙２：看護部組織図

＊別紙３：看護部会議・委員会組織図（機能図）

Ⅰ．会議

１．看護師長会議

看護師長会ワーキング

１）医療安全

２）実習指導専任化

３）管理師長二交替制勤務

４）ジェネラリスト育成

２．副看護師長会議

３．専門看護師・認定看護師・CRC 連絡会議

Ⅱ．委員会

１）継続教育

２）看護の質改善

３）看護記録

Ⅲ．プロジェクト

１）ＮＳＴ・褥瘡チーム

２）がん・緩和ケアチーム

３）内分泌・代謝ケアチーム

４）感染チーム

５）地域看護支援チーム

６）呼吸ケアチーム

Ⅳ．時期限定プロジェクト

別紙１：ＢＳＣ戦略

平成23年度看護部運営計画

病院目標　　〝前進〟　～次の夢に向かって～

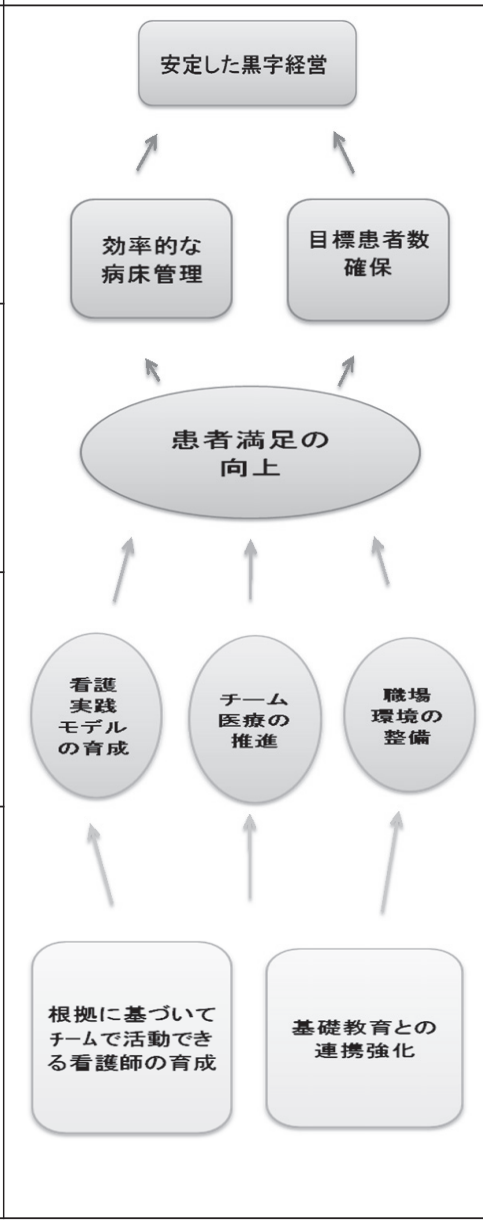
看護部 スローガン　　「受け身」からの脱却　〝自立〟　と　〝自律〟

看護部目標

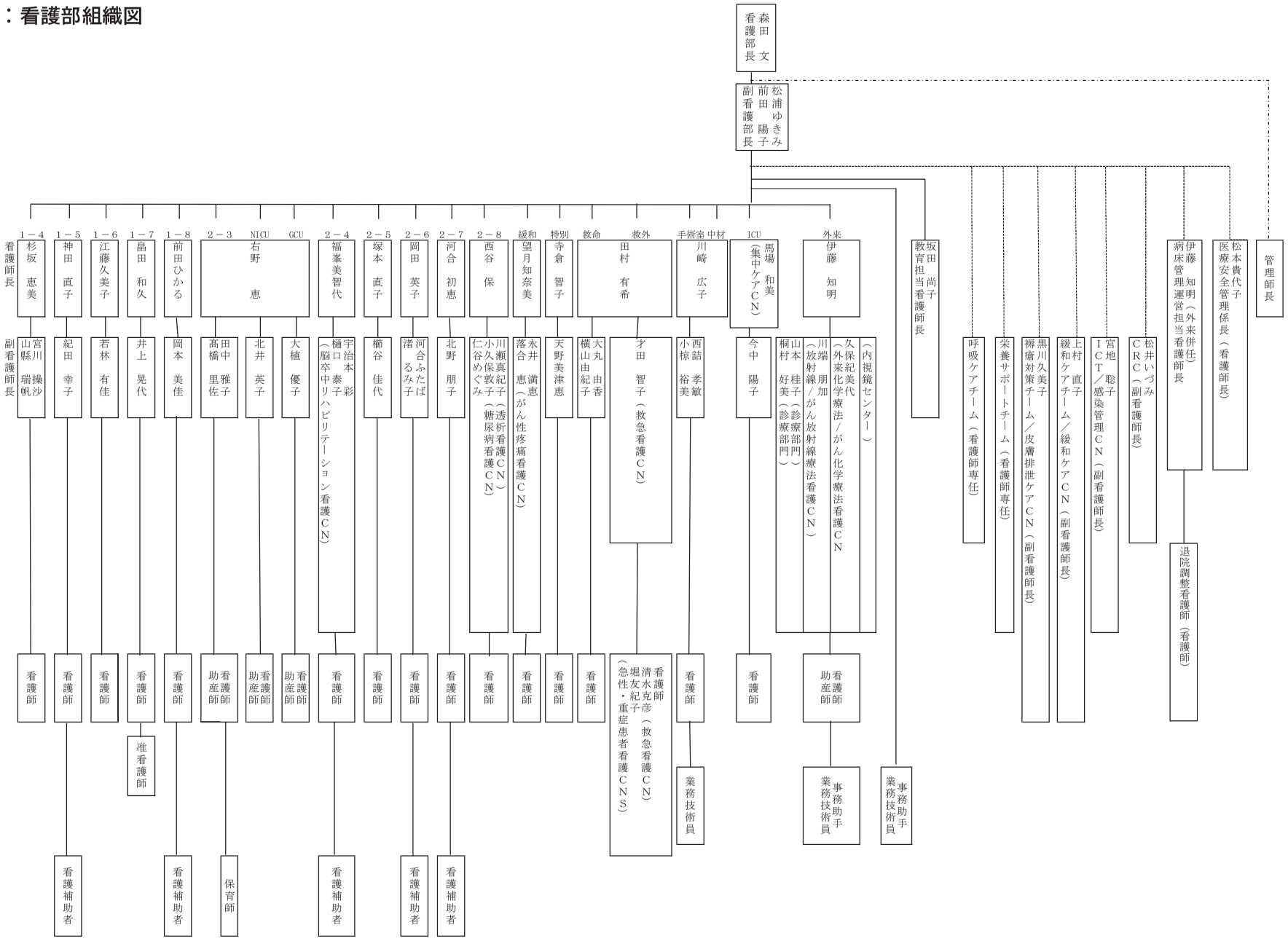
1. 根拠に基づいてチームで活動できる看護師の育成

2. 職場環境の充実による患者満足の向上

3. 安定した黒字経営

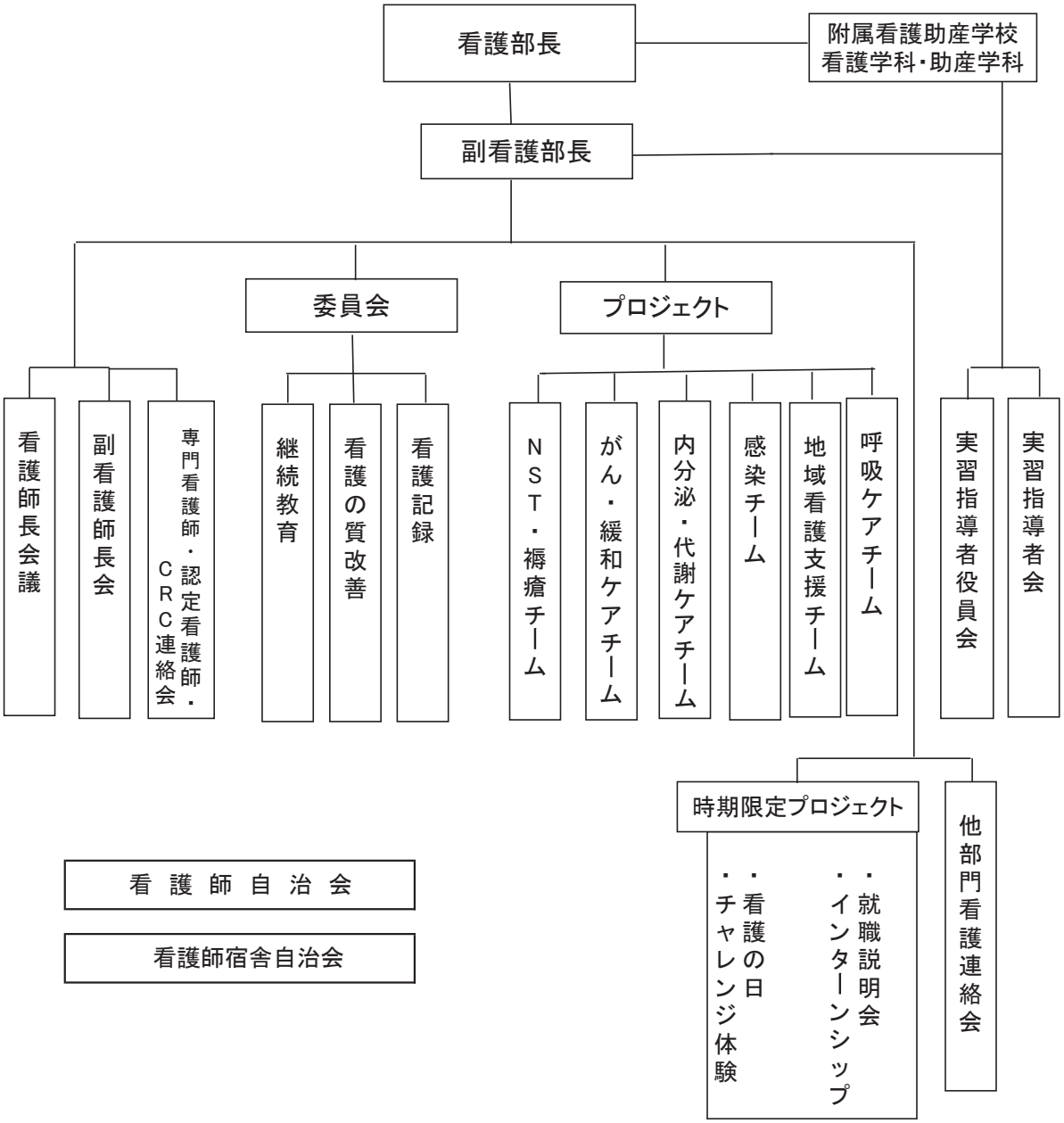
区分	戦略目標		重要成功要因
財務の視点	○効率的な病床管理 ○目標患者数確保 ○安定した黒字経営		・医業収益の増加 ・患者数確保 ・病床利用率の高率維持
顧客の視点	○患者満足の向上		・患者のニーズに応じた療養環境の提供 ・安心できる看護サービスの提供
内部プロセスの視点	○看護実践モデルの育成 ○職場環境の整備 ○チーム医療の推進		・リソースナースの活用と支援 ・働きやすい職場環境
成長と学習	○根拠に基づいてチームで活動できる看護師の育成 ○基礎教育との連携強化		・中堅看護師の育成 ・教育システムの構築 ・実習指導者の専任化に向けての体制づくり

別紙２：看護部組織図


森田　文
看護部長
松浦ゆきみ
前田陽子
副看護部長
管理師長
松本貴代子
医療安全管理係長（看護師長）
伊藤知明（外来併任）
病床管理運営担当看護師長
退院調整看護師（看護師）
松井いづみ
ＣＲＣ（副看護師長）
宮地　聡子
ＩＣＴ／感染管理ＣＮ（副看護師長）
上村　直子
緩和ケアチーム／緩和ケアＣＮ（副看護師長）
黒川久美子
褥瘡対策チーム／皮膚排泄ケアＣＮ（副看護師長）
栄養サポートチーム（看護師専任）
呼吸ケアチーム（看護師専任）
坂田　尚子
教育担当看護師長
外来
伊藤　知明
ICU
馬場　和美
（集中ケアＣＮ）
今中　陽子
看護師
手術室
中材
川崎　広子
西詰　孝敏
小椋　裕美
看護師
業務技術員
救命
救外
田村　有希
才田　智子（救急看護ＣＮ）
看護師
清水克彦（救急看護ＣＮ）
堀友紀子（急性・重症患者看護ＣＮＳ）
大丸由香
横山由紀子
看護師
特別
寺倉　智子
天野美津恵
看護師
緩和
望月知奈美
永井　満恵
落合　恵（がん性疼痛看護ＣＮ）
看護師
２－８
西谷　保
川瀬真紀子（透析看護ＣＮ）
小久保敦子（糖尿病看護ＣＮ）
仁谷めぐみ
看護師
２－７
河合　初恵
北野　朋子
看護師
２－６
岡田　英子
河合ふたば
渚　るみ子
看護師
２－５
塚本　直子
楠谷　佳代
看護師
２－４
福峯美智代
宇治本　彩
樋口　泰子（脳卒中リハビリテーション看護ＣＮ）
看護師
２－３
NICU
GCU
右野　恵
田中　雅子
高橋　里佐
北井　英子
大植　優子
看護師
助産師
１－８
前田ひかる
岡本　美佳
看護師
１－７
畠田　和久
井上　晃代
准看護師
１－６
江藤久美子
若林　有佳
看護師
１－５
神田　直子
紀田　幸子
看護師
１－４
杉坂　恵美
宮川　操沙
山縣　瑞帆
看護師
看護補助者
保育師
看護師長
副看護師長
（内視鏡センター）
久保紀美代（外来化学療法／がん化学療法看護ＣＮ
川端朋加（放射線／がん放射線療法看護ＣＮ）
山本桂子（診療部門）
桐村好美（診療部門）
看護師
助産師
事務助手
業務技術員

別紙３：看護部会議・委員会組織図（機能図）

看護部会議・委員会組織図（機能図）



看護部が関わる主な病院諸会議

- ○管理診療会議
- ○薬剤委員会
- ○行政サービス向上推進委員会
- ○医療情報委員会
- ○病床管理委員会
- ○地域医療連携室委員会
- ○集中治療室運営会議
- ○災害対策委員会
- ○医療安全管理委員会
- ○医療事故対策委員会
- ○栄養管理委員会（NSTワーキング）
- ○院内感染対策委員会
- ○輸血療法委員会
- ○人工透析委員会
- ○外来管理委員会
- ○救命救急センター運営会議
- ○褥瘡対策委員会
- ○手術室運営会議
- ○医療安全管理推進委員会
- ○過半数代表者会議・選出選挙委員会
- ○職員研修企画
- ○新病棟ワーキング

□会議・委員会活動

Ⅰ．会議

1．看護師長会議

看護師長会ワーキング

1）医療安全

看護師長会ワーキング【医療安全】活動評価

ワーキングメンバー：畠田師長、右野師長、西谷師長、松本医療安全管理係長、前田副看護部長

（1）平成 23 年度の看護部目標

看護部の目標　BSC シート 転倒率：前年度以下　　目標値 0.3　　50 件 / 月 転倒事故レベル 3a、3b：前年度以下　　3a　12 件、3b　5 件 誤薬件数：前年度以下　　目標値（レベル 1 以上）1010 件　　80 件 / 月 インスリンインシデント：前年度以下　　目標値 63 件　　5 年 / 月

（2）目標達成度

看護部の目標達成度　　目標は達成できていない 転倒率：0.33、54.5 件 / 月 転倒事故レベル　3a　7 件、3b　8 件 誤薬件数：934 件　　93.4 件 / 月 インスリンインシデント：53 件　　5.3 年 / 月

（3）活動計画及び実施内容

	問題	原因	対策	方法	実施内容
転倒	看護師が介助している状況での転倒が発生している	介助の具体的な方法を知らない。 看護計画に立案している、「見守り」がどういうことか知らないままに行っている。	患者の状況を判断し正しい知識、技術を習得させる	患者の移動の介助の技術演習（大会） リハビリ科に協力依頼し、評価・講習を行う	・ベッドから車いすへの移乗介助の技術研修を実施（7月29日参加者 112 名） ・大会開催（9月29日参加者 94 名）
	転倒事故が発生した状況の分析が不十分	分析能力が不十分。 分析できる十分な時間の確保が困難。	①転倒事例のラウンドをおこない、問題を明確にし、看護計画を病棟看護師と立案する ②病棟毎に転倒防止活動を行う	①看護師長医療安全ワーキングメンバーによりラウンドを施行する。ラウンド時病棟看護師と共に行う ②病棟の取り組みついて発表会開催	ラウンドは実施しなかった。
誤薬	誤薬の誘因が、持参薬に関連している事例がある	医師が電子カルテに入力しない。または入力の誤りがある。 持参薬の処理に看護師、薬剤師の時間がとられている。 持参薬から当院処方に切り替わるときに混乱し、過量与薬が発生している。 麻薬など書類処理が煩雑になる。	持参薬の使用を中止する	看護師長会議で検討し、医療安全推進部会に提案し、各部署と合議の上決定する。（運用を決定）	持参薬について、病棟に現状調査を行い、問題点の明確化し、対策を立案（別紙参照）。 薬剤科と協力し、持参薬の取扱いのルールを明確にした。12 月から試行し、1 月全面実施をおこなった。

	自己管理をしている患者の誤薬が多い	自己管理とする判断が十分でない。自己管理させる基準がない	自己管理基準の作成	自己管理基準をワーキングで作成後、看護師長会議で検討し実施させる	自己管理基準は作成。薬剤科にて検討中。持参薬の歴入力が軌道に乗った時点で検討。
	誤薬の要因に確認不足がある	ダブルチェックを行っているが、正しく行えていない 施行直前に電子カルテの確認が行えていない 看護師の実施者責任の意識が薄い。または他人に依存する	点滴施行時の６R、3回確認、呼称確認の実施	看護師長医療安全ワーキングメンバーによりラウンドを施行する。次回さらに具体的な方法を検討	ダブルチェックの廃止と指差呼称の導入 2月試行 3月全面実施
インスリン	①インスリンの与薬時間、量、見落としが多い ②異常時または絶食時の対象方法が確立されていないことで、看護師が速やかな対応がとれない	①対症指示がわかりにくい ②インスリンの種類が多い ③知識不足	①糖尿病ワーキングにて対症指示の統一（テンプレート） ②異常時（高血糖、低血糖）、絶食時の対応方法の標準化(プロトコール)。 ③学習会の開催	ワーキングメンバーにより、病棟師長へテンプレート、プロトコールを伝達し、病棟のリンクナースと共に実施できる様に係わる	手順の作成中。 医師とテンプレートの検討中

＊インスリンに関しては糖尿病ワーキング、内分泌・代謝ケアチームと協力し検討。

（4）．評価

1）転倒について

大会を開催する事を事前に案内する事で、研修会に参加をした看護師が、病棟の看護師に伝達しなければならないため､技術を習得する機会となった。また大会に代表で参加する看護師は、練習を行う事で、より技術の習得につながった。看護師の技術の向上のためには有効であった。

また、リハビリ科に講師を依頼したことで、病棟でのリハビリ科とのコミュニケーションの土壌となり、病棟の患者個々の看護計画立案時のカンファレンスでコメントを求めやすくなった。看護の質の向上につながると考えられる。

2）誤薬について

（1）持参薬については中止には至らなかったが、取扱いが明確になり、医師、薬剤師、事務職員で共有できたことは評価できる。

（2）自己管理基準は作成ができた。使用をするにあたっては、平成 24 年度の診療報酬改定にて、薬剤師の病棟常駐化が実施されるため、来年度薬剤師との検討が必要である。

（3）ダブルチェックが正しく行えていない現状があり、ラウンドを行い問題を明確にし、具体案を提示する計画であった。ラウンドは行えなかったが、現状の方法では誤薬は減少しない。看護師は責任が分散されているように認識しており、自己の安心にしかならず防止にはならない状態であった。今回、看護師長会・副看護師長会でダブルチェックを廃止し指差呼称へ移行する事を提案した。検討した結果、2 月試行。3 月全面実施をする事になった。今年度は実施後の誤薬の状況は評価できないため、有効であったかどうかは、平成 24 年度のインシデントの状況で判断する。

3）インスリンについて

（1）インスリンの看護手順の見直しを行った。まだ実施には至っていない。今年度には看護師長会に提案し、承認の予定。

（2）対症指示のテンプレートは作成途中。医師が行う部分であることから、すすまなかった。

（3）1 月 2 月の超速効型のインスリンに関するインシデントが複数有り。この手順の修正に関しては急務である。今年度中に作成する。

2）実習指導専任化

平成 23 年度より、実習指導者の専任化に向け取り組みを開始した。実習指導者及び副看護師長が一週間以上継続して実習指導を行う体制を定着することを目標に取り組んだ。各病棟の実習指導の現状を調査した結果、日々の実習指導者の役割に格差があった。実習指導者専任化の提議・実習指導者の役割を見直し、学校との連携が強化できるように話し合い、実習指導者会でも検討を重ねた。結果、勤務表作成では、各看護師長が工夫し、専任化体制で指導に臨むことができるようになった。実習指導者も専任化のメリットを理解し指導できるようになった。学校側との連携については、看護師長が調整役を担う必要性が明らかになり、取組んでいるところである。更に今後の課題としては、実習指導者が、学生の行動計画を聴いて指導する、学生の受け持ち患者のケアを学生とともに実施し指導することについて、病棟看護師の協力を得て、病棟の看護チーム全体で学生が育成できるように実習指導体制を構築していくことである。

3）管理師長二交替制勤務

目的：夜間の継続した患者及びスタッフの管理、看護師長の生活の質の向上

方法：二交替制勤務の導入（14 時間 45 分）

導入：平成 23 年 10 月より

取り組み：二交替制勤務のメリット・デメリットの検討
勤務時間・勤務線表の検討
業務内容の見直し（特に日勤からの申し受け内容や方法）
導入後のアンケート実施

結果：目的に関しては、継続して患者把握やスタッフへの指導が出来るとの意見が多い。トラブルやインシデント発生時もその後の対応などを確認フォローしやすくなった。看護師長の生活サイクルについて、三交替からの不規則な勤務からの疲労感は改善された。

課題：勤務時間が長時間であることから来る疲労感や，新任看護師長のフォロー
インシデントや患者対応時の休憩の確保が困難な場合への対応

4）ジェネラリスト育成

問題解決能力を身につけ、チームを活性化できる中堅看護師を育てることが必要であると考え、看護師長として戦略的に関わることを目的とした。6 年目以上の看護師 43 名を対象に、問題解決技法の研修を行なった。研修生は病棟の課題に取り組み、看護師長は研修生の課題達成を支援し、やりがいを感じられるように関わった。将来、副看護師長になることを期待している。

2．副看護師長会議

看護部の目標達成に向け、副看護師長の役割を果たすことを目的に活動を行った。

目標１．根拠に基づいて活動できる（自立・自律した）看護師を育成する
２．中堅看護師の育成に向けた取り組みができる
３．集合教育とＯＪＴの連携が円滑に行えるように支援できる
４．基礎教育と臨床との連携強化により、看護の質の維持・向上をめざす
５．看護師長補佐・代行としての役割と業務を理解する

活動内容

１．看護管理
・医療事故事例から考える副師長としての看護管理　（事例検討）
・看護師長代行時の副看護師長としての看護管理　（事例検討）
・クリティカル５Ｓから考える看護管理　（討議）
・働きがいのある職場環境　（チームインベントリーの結果から討議）

２．教育
・２年目～５年目までの年間課題の達成に向けての支援　（討議）

・基礎教育と臨床との連携（実習指導者専任化に伴う実習指導者への関わりについて討議）
３．副看護師長としての看護実践の役割モデルとしての関わり　（事例検討）

３．専門看護師・認定看護師・ＣＲＣ連絡会議

専門看護師・認定看護師・ＣＲＣが各分野において専門的知識・技術をもとに高度な看護実践を行うこと、そして各分野の専門看護師・認定看護師・ＣＲＣが協力し合い、看護師への教育・指導に携わり看護の質の向上を図ることを目的としている。

平成２３年度は、地域に向けて第３回専門・認定看護師セミナーの企画・運営を行い、院内・院外合わせて 109 名の参加があった。院内では、看護倫理研修の企画･運営を含む各分野での研修会を行った。

Ⅱ．委員会

１．継続教育

副看護師長全員が委員会に所属し、NHO 看護職員能力開発プログラム（Acty）の目標と、看護部研修計画にそって企画運営し、集合教育と機会教育の連携につとめた。新採用者研修ではオリジナルの DVD を作成し、医療安全の強化を図った。キャリア支援研修では、医師の指導のもと、４年目以上のスタッフに「急変前気づき研修」をおこない、アセスメント能力の向上を図り、チーム医療の強化につなげている。

「看護と経営」の研修では、経営の現状や診療報酬制度について理解を深めた。

２．看護の質改善

＊別紙４

３．看護記録

看護記録委員会は、「看護記録の充実」と「標準看護計画の完成」の 2 つの目標をあげ活動を行った。看護記録監査は、2 回／年（結果を数値化）実施し、数値の低い項目に対し検討を行い、各病棟に情報提供した。2 回目の監査では全体として 80.8% から 82.5% に監査結果が改善された。症例検討は、3 部署の看護記録を用いて、それぞれに検討事項を決めて行った。看護計画・看護診断・成果指標は適切か、評価は適切な時期に行われているか、転倒転落アセスメントが適時記載できているか、計画に基づいて実践した内容とその反応が記載できているかなどを検討することで、各病棟の記録の現状や問題点が明らかになった。それらを改善させながら、症例検討を継続し、看護実践のみえる記録を目指していきたいと考える。標準看護計画は、平成 21 年度に作成したものをベースに、不足分の項目を追加し 257 項目を完成した。今後、作成した標準看護計画を使用し、評価していく必要がある。

Ⅲ．プロジェクト

１．ＮＳＴ・褥瘡チーム

院内褥瘡発生率を低下させること、嚥下障害のある患者の嚥下評価・摂食機能訓練・食事介助方法を理解し、実践できることを目標に取り組んだ。

１）褥瘡カンファレンス用紙を作成し、リンクナースが中心となり、各病棟で検討した。褥瘡発生患者のアセスメントや予防計画の振り返り、褥瘡発生原因を明確にすることで、スタッフの褥瘡に対する意識・知識の向上を図ることができてきた。

２）嚥下機能評価・摂食機能訓練・食事介助時のポジショニングについて講義・演習を行い、リンクナースの知識・技術の向上を図った。しかし、実践までは至っておらず、嚥下評価、援助に対して積極的に関わる必要がある。

３）ポジショニングラウンドを年 4 回行った。チェックリストを使用し､全病棟をリンクナースが確認､病棟スタッフに指導を行い、リンクナースの知識・技術の向上に繋がっている。

４）褥瘡発生率は、1.60％であり、前年度から 0.04％低下した。

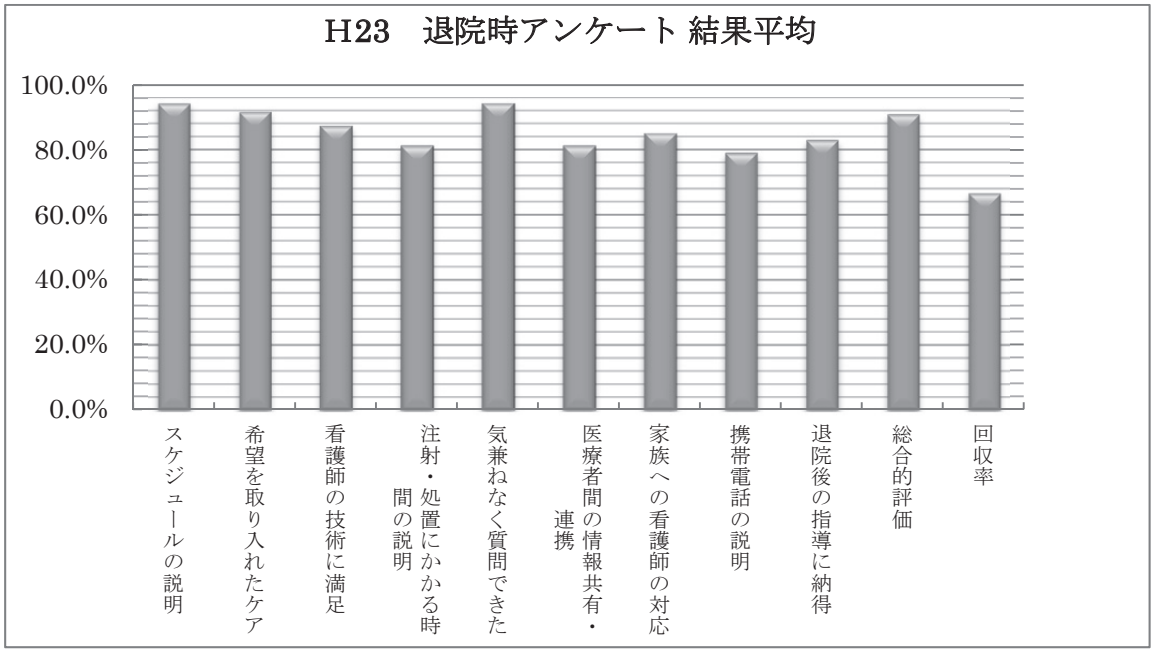
別紙４

平成 23 年度　看護の質改善委員会

看護部の理念に基づき、看護の資質の向上・発展をはかるため、看護過程の監査及び記録のシステムの改善を図ることを目的としている。

活動目標は、看護活動の質評価を行い、結果分析を更なる質改善につなげる。看護基準・手順の周知・徹底ができることをあげ活動した。

退院時アンケートの結果を基に、改善策をあげて看護部全体で取り組むテーマを決めて取り組んだ。改善が必要な患者意見については掲示板に掲示し返事をした。



身だしなみの監査では、当院の看護師としてふさわしい身だしなみを整えるために、毎月、自己他者評価で身だしなみチェックを実施した。名札の着用方法の見本を作成や髪型の見本を作成し取り組んだ。

看護基準・手順の監査では、副看護師長会で作成した監査表をもとに、18 項目の監査を実施した。手順通りに実施できていない項目は病棟に伝えて周知徹底した。次年度も看護の質の向上のため継続活動する。

2．がん・緩和ケアチーム

1）エンゼルメイクの手順を見直した。遺体の冷却方法と目的、詰め物の考え方、合掌バンド・顎バンドの使用は避けるように変更、看護師にレクチャーを行い教育した。また、エンゼルケアセットを見直し、平成 24 度より変更予定である。

2）化学療法の症状評価を CTCAE ｖ 4.0 を用いて行えるようにテンプレートとグレーディング一覧表を作成、看護師にレクチャーを行い教育した。

3）疼痛アセスメントについて､看護師にレクチャーを行い教育した。実際に医療用麻薬使用時の効果･副作用の観察ができているか毎月調査したこと、医療用麻薬の使用に関する問題点を抽出し各病棟で事例検討を実施することで、基礎知識の向上に努めた。

4）10 月 5 日に「ホスピス緩和ケア週間」の催しを行った。「アロマコーナー」「ウィッグコーナー」「緩和ケアの普及に向けてポスター展示」「ホスピタルクラウンによるパフォーマンス」「コンサート」を行い、200 名以上の参加が得られ盛況であった。12 月 21 日には、各病棟や外来を訪問しクリスマスコンサートを開催した。各病棟のディルームで行い、１会場 20 名以上の患者の参加が得られ、季節感を味わってもらえた。

3．内分泌・代謝ケアチーム

①インスリン関連インシデントの減少を図る

②糖尿病の基礎知識を習得し病棟で啓発をはかる

③看護職員の糖尿病教育の充実を図る目標として取組んだ。

インスリン関連インシデントの減少の取組みとして、インシデントの振り返り 11 回 / 年、インスリンの学習会 3 回 / 年､症例検討 1 回 / 年実施した。しかし､インシデントの件数は年間 62 件（昨年度比 103％）と増加した。引き続き、インスリンの学習会、インシデント分析、インスリンの指示テンプレート作成 (医師と調整) を実施していきたい。また､ＤＭ京都･メタボ会･高血圧セミナーと市民講座の企画・運営にも積極的に参加し実施した。院内では糖尿病ステップアップ研修Ⅰを開催し、20 名が修了した。引き続き基礎教育を充実させたいと考えている。

4．感染チーム

平成２３年度は､「アウトブレイクをおこさないための感染予防策の実施」を目標に、標準予防策の強化、根拠に基づいた感染予防策の実施・啓発活動に取り組んだ。

標準予防策の強化では、8 月と 12 月に各 5 日間、ゴージョ使用量調査と分析を行い、ポスター掲示を行うことで手指衛生遵守につなげた。また、ノロウイルスによる感染性胃腸炎・インフルエンザに着目し、講義資料を作成してリンクナースが現場のスタッフに講義を行い、知識の向上と感染対策の定着に努めた。汚物処理セットを病棟に設置し、スタッフが安全に汚物処理ができる環境を整えた。また、病棟ラウンドを行い、感染予防上の問題がないかを確認した。

5．地域看護支援チーム

地域看護支援チームでは、病棟と地域医療連携室との連携を強化できる。患者が安心して退院・転院が出来るよう支援が出来ることを目標に活動した。

具体的には、退院支援の充実のために

1）退院支援スクリーニングの問題点を明確にして改善できるように、アンケート調査を実施し月々の活動報告を行った。

2）計画的な退院支援として事例検討を行い退院支援の介入時期や方法などを検討した。

また、退院支援の看護計画立案数を調査し計画的な支援が出来ているか評価した。

地域との連携強化の一環として訪問看護研修の実施や交流会を行った。交流会では、在宅看護研修での体験を踏まえ積極的な意見交換や顔の見える関係作りができた。

訪問看護ステーションの活動内容を理解し連携強化できた。

6．呼吸ケアチーム

当センターにおける人工呼吸器装着患者の合併症を予防し早期離脱を図るため、人工呼吸管理および呼吸ケアの質の向上を目的とし活動を行った。

1）院内呼吸ケアチーム（RST）で検討した新しい気道管理物品や人工呼吸器関連物品について、情報を共有し、知識の向上を図った。

2）安全に人工呼吸器管理ができるよう、人工呼吸管理に関するインシデント事例をもとに対策を検討し、知識の共有を図った。各病棟では、リンクナースが中心となり、カンファレンスを行い予防対策の検討や知識の共有を図った。

3）閉鎖式吸引カテーテルの使用方法、気管挿管チューブ固定方法、口腔ケア（気管挿管･気管切開）に関するマニュアルを作成し、院内でケアの統一を図った。また、作成した呼吸ケアマニュアルの勉強会を開催し、根拠に基づいた知識および技術を伝達した。

4）RST 主催の人工呼吸管理に関する研修（初級編・中級編）、歯科口腔外科医師による人工気道患者の口腔ケア研修、理学療法士による呼吸リハビリテーション研修に参加することで、根拠に基づいた知識および技術の向上を図った。

Ⅳ．時期限定プロジェクト

次年度の看護師採用に繋がるよう、看護学生に対し就職説明会や施設見学等で、当院の機能や設備・看護の魅力をアピールする活動を行った。また健康に関する支援と、当院のＰＲ活動を地域住民に対し行った。

平成 23 年 6 月 18 日（土）合同就職説明会：63 名参加

平成 23 年 7 月 2 日（土）一日まちの保健室：73 名参加

平成 23 年 7 月 22 日（金）ふれあい看護体験：4 名参加

平成 23 年 7 月 26 日（火）～ 7 月 29 日（金）インターンシップ：9 名参加

平成 24 年 2 月　看護師募集 DVD 作成

平成 24 年 3 月　近畿ブロック附属看護学校 5 校訪問

□看護部の運営実績

別紙 5

□研究業績

1．投稿

年度	分類	著者（全員）	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	編集者等	出版社	発行年月
23	A-6	右野　恵 高橋　里佐	産後 2 週間健診による赤ちゃんの観察	妊産婦と赤ちゃんケア	3	4	58―62		日総研	2011年 7月
23	A-6	久保　紀美代	私の認定看護師としての原点と活動の軌跡	がん患者ケア	5	2	49―53	岸田　良平	日総研	2011年 11月
23	A-6	晝間　梓 川崎広子	小児手術における理解と説明･サポートの行ない方「子供の理解とプレパレーション」	実践手術看護	5	6	75―84		日総研	2012年 3･4月号

２．院外発表

年度	分類	演者（全員）	タイトル	学会名	開催地	会期（年月日）	会期終了
23	B-4	山本　千景・小谷　真弓 香川　亞里紗・浦川　綾加 田中　雅子・望月　知奈美	ターミナル期患者・家族の持つ精神的苦痛の緩和を目指して ～STAS－Jを用いて～	日本緩和医療学会	札幌	7/29	7/30
23	B-4	渚　るみ子	婦人科疾患で開腹手術を受けた患者の退院後の日常生活の実態とジェンダー意識の影響	看護協会成人看護学会	大阪	9/19	9/19
23	B-4	山本　千景・小谷　真弓 香川　亞里紗・浦川　綾加 田中　雅子・望月　知奈美	ターミナル期患者・家族の不安が増強した場面の分析 ～「STAS－J」を用いて～	国立病院総合医学会	岡山	10/7	10/8
23	B-4	山本　沙耶・北村　美津江 宮城　智恵美・望月　知奈美	病的骨折を繰り返す患者への援助で生じたジレンマの検討	国立病院総合医学会	岡山	10/7	10/8
23	B-4	平田　和幸・濱名　有紀 川崎　広子	脊椎手術時の４点ホールフレームにおける褥瘡予防 ～ズレ力に対しての軟膏の有効性～	国立病院総合医学会	岡山	10/7	10/8
23	B-4	荒木　由香里・岡田　英子	乳がん患者に対する継続看護 ～STAS－Jを用いた乳がん看護カンファレンス　第１報～	日本乳がん看護研究会	大宮	10/16	10/16
23	B-4	奥田　良美・望月　知奈美	最期の希望を叶えるケアを提供するための取り組み ～家族ストレス理論を用いて考える～	近畿看護学会	大阪	10/22	10/22
23	B-4	永井　満恵・落合　恵 望月　知奈美	緩和ケア病棟における質の高いケアを目指して	近畿看護学会	大阪	10/22	10/22
23	B-4	堀　友紀子	蘇生チームにおける活動報告	日本救急看護学会	神戸	10/29	10/29
23	B-6	寺嶋　幸子	前熟考期である喫煙者に禁煙相談を行う意義についての検討	日本禁煙学会　ナース分科会	沖縄	11/25	11/25
23	B-4	松井　いづみ	救急治験における迅速な被験者エントリーの取り組みについて	日本臨床薬理学会	浜松	12/1	12/3
23	B-4	寺嶋　幸子	禁煙の啓発及び普及のための禁煙相談について	日本循環器学会	福岡	2012/3/17	2012/3/18
23	B-4	寺嶋　幸子	禁煙治療開始後精神科緊急入院となった事例	日本循環器学会	福岡	2012/3/17	2012/3/18

3．院内発表

No.	テーマ	タイトル	部署	発表者または代表者	発表形式
1	医療の質Ⅰ	皮膚筋炎により筋力低下がある患者への退院指導	2病棟4階	今井　賀奈子	口述
2		1型糖尿病患者におけるインスリン注射手技と保管状況に関する調査	2病棟8階	森継　ゆか	口述
3		電話トリアージの現状と能力向上への取り組み	救急外来	清水　克彦	口述
4		平成23年度救命センターにおける感染防止対策についての報告	救命救急センター	田村　有希	口述
5	医療の質Ⅱ	患者や家族が望む快適な時間づくり ～抑制解除にむけた看護の取りくみ～	2病棟4階	布施　克美	口述
6		術後患者のせん妄予防のための温罨法の効果～術後せん妄ハイリスク患者の睡眠障害の改善を目指して～	2病棟6階	三好　梨恵	口述
7		術後せん妄アセスメントスケールを用いた術後せん妄発症予測の効果	2病棟6階	中野　達也	口述
8		集中治療室でせん妄をきたした患者の実態調査	集中治療室	三宅　望美	口述
9	がん・緩和医療	乳がん患者へのチームアプローチ ～若くしてStage Ⅳ乳がんに罹患した患者の1事例～	2病棟6階	荒木　由香里	口述
10		終末期患者を支える家族が求めるケア ～緩和ケア病棟開設後、半年間の評価を振り返って～	緩和ケア	寺戸　沙耶花	口述
11		がん性疼痛アセスメントと医療用麻薬に関する学習効果	がん・緩和ケアチーム	落合　恵	口述
12	活動報告	禁煙啓蒙活動の活性化に向けて ～禁煙支援の紹介をとおして～	外来	寺嶋　幸子	口述
13		第3回専門・認定看護師セミナー開催の報告と今後の課題	専門看護師・認定看護師・CRC連絡会	川瀬　真紀子	口述
14		救急治験における迅速な被験者エントリーへの取り組み	治験管理室	松井　いづみ	口述
15	医療の質	外来から関わろう入退院 ～退院支援ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ票を外来から使用して～	外来	楠部　比佐子	ポスター
16		白内障患者の点眼指導 －外来から点眼指導を導入して－	1病棟5階	山本　詩子	ポスター
17		当病棟におけるHIV陽性患者の生活・退院指導の実態調査～弱点克服！怖がらずに指導をしよう～	1病棟8階	不二門　祐哉	ポスター
18		退院後を見据えた心不全患者への内服自己管理介入	2病棟7階	西岡　唯	ポスター
19		術後、喀痰量が多い患者へのリカバリー室での援助 ～個別性の考察と病棟との継続看護の必要性～	手術室	井上　永子	ポスター
20	看護の質	咽頭喉頭食道全摘出術・遊離空腸再建術を受けた患者に対する嚥下訓練計画表を用いた嚥下訓練について	1病棟4階	松枝　綾子	ポスター
21		アロマテラピーを用いた足浴 ～心理状態の変化と疼痛緩和への有効性（中間報告）～	1病棟6階	神田　絵里	ポスター
22		若年AVM出血患者のリハビリテーション看護 ～かっこ悪くならない歩行獲得を目指して～	2病棟4階	樋口　泰子	ポスター
23		脳血管障害による意識障害のある患者に有効と言われている腹臥位療法の効果の検討	2病棟4階	安井　優美	ポスター
24		整形外科病棟で術後せん妄になった患者の特徴・行動傾向・背景に関する分析	2病棟5階	松本　早紀英	ポスター
25		統一したストーマセルフケアの指導 ～看護師用チェックシートを活用して～	2病棟6階	上垣　絵理	ポスター
26	医療安全・環境	終末期患者に対する環境調整がもたらす効果 －KOMI理論を用いて－	1病棟6階	柏原　彩子	ポスター
27		患者にとって快適な環境を考える	2病棟4階	福重　江梨	ポスター
28		特別室個室病棟としての療養環境を考える	特別室個室	荒牧　万寿美	ポスター
29		手術室における危険予知能力の向上 ~KYTを実施して~	手術室	加柴　結可	ポスター
30		ICU入室患者へのDVT予防策導入方法についての検討	救命救急センター	植木　昌一	ポスター

31	チーム医療・教育	地域がん拠点病院における緩和ケア病棟の役割 ～一般病棟から転入してきた患者の現状からの課題～	緩和ケア	落合　恵	ポスター
32		緩和ケアチームの活動報告と今後の課題 ～平成 22 年度の活動と比較して～	がん・緩和ケアチーム	上村　直子	ポスター
33		ホスピス緩和ケア週間 2011 のイベントの評価	がん・緩和ケアチーム	上村　直子	ポスター
34		平成 23 年度　感染チーム会 活動報告	看護部　感染チーム会	島田　利枝	ポスター
35		実習指導専任化体制での統合実習の取り組み	2 病棟 4 階	鈴木　里香	ポスター
36	がん・緩和医療	終末期における家族看護～事例を振り返って～	1 病棟 6 階	徳丸　千恵	ポスター
37		緩和ケア病棟における質の高いケアを目指して	緩和ケア	永井　満恵	ポスター
38		エンゼルメイクにおける手順の見直し	がん・緩和ケアチーム	永井　満恵	ポスター
39		化学療法・放射線療法における症状評価基準統一に向けた取り組み～ CTCAE ｖ 4.0 を用いて～	がん・緩和ケアチーム	香川　亜里沙	ポスター
40		病的骨折を繰り返す患者への援助で生じたジレンマの検討	緩和ケア	山本　沙耶	ポスター
41		ネクサバール薬を内服中断に至った患者の生活行動における要因に関する研究	1 病棟 7 階	小西　香里	ポスター

別紙５

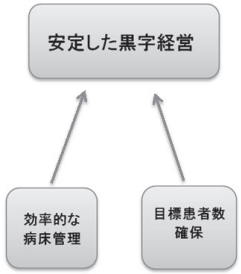
平成23年度看護部運営実績

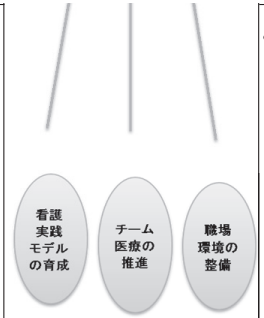
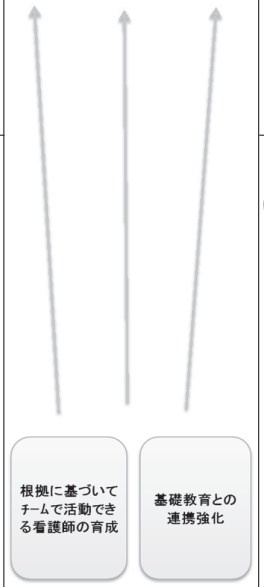
病院目標　　〝前進〟　～次の夢に向かって～

看護部スローガン　　「受け身」からの脱却　〝自立〟　と　〝自律〟

看護部目標

1. 根拠に基づいてチームで活動できる看護師の育成
2. 職場環境の充実による患者満足の向上
3. 安定した黒字経営

区分	戦略目標	戦略シナリオ	重要成功要因	目標値	実績	最終評価と今後の課題
財務の視点	○効率的な病床管理 ○目標患者数確保 ○安定した黒字経営		・医業収益の増加 ・患者数確保 ・病床利用率の高率維持	経常収支率：103.0%以上	100.9%	ユニット個室はリピーターが多い。外来でユニット、有料個室を含み第3希望まで確認し、有料病床利用向上に取り組んでいる。 各診療科のスペシャルメディカルクラークの患者への説明、病棟案内が始まっている。医師によるロータリークラブへの講演活動を実施している。
				平均1日在院患者数：552人	540.8人	
				病床利用率：92%以上維持	90.1%	
				ユニット個室利用率：97%	89.6%	
				特別室個室病棟利用率：70%以上	56.2%	
				平均在院日数：14.9日	15日	
顧客の視点	○患者満足の向上		・患者のニードに応じた療養環境の提供 ・安心できる看護サービスの提供	退院時アンケート結果： 総合評価：94%以上	91.0%	看護の質改善委員会と連携し取り組みキャンペーンを実施。携帯電話の使用エリア表示、接遇、身だしなみチェックなど結果を顧客の視点に返す取り組みは現場に生かされている。
				技術力：88.6%以上	87.4%	
				環境（携帯電話の使用）：80.9%以上	79.1%	
				医療チームの連携：83.6%以上	81.4%	
				転倒率：0.31%以下	0.33%	患者の特性把握とアセスメント能力の向上、患者に合った転倒件数の減少に繋がる現状の分析と方策を立てる。
				ﾚﾍﾞﾙ3a：平均月1件以下	0.9件/月	
				ﾚﾍﾞﾙ3b：年5件以下	0.7件/月	
				誤薬件数： 前年度以下	93.3件/月	医療安全ワーキングを立ち上げ誤薬防止に取り組んだ。2月から指差し、声だし確認を実施。ダブルチェックを廃止した。 入院時、持参薬の取り扱いに関するシステムを構築。1月末より全病棟担当薬剤師の持参薬確認開始
				内服薬に関するインシデント	50.3件/月	
				注射薬に関するインシデント	28.9件/月	

内部プロセスの視点	○看護実践モデルの育成 ○職場環境の整備 ○チーム医療の推進		・リソースナースの活用と支援 ・働きやすい職場環境			5分野以外のCNS・CNに於いても新たな研修の企画・実施ができた。
				褥瘡発生率：1.63%以下	1.60%	褥瘡予防に関する勉強会(ﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸﾞ等）15回実施。リンクナースと共に体圧分散寝具の選定を行い4月に更新予定。
				感染ｱｳﾄﾌﾞﾚｰｸ：0件	1件	インフルエンザのアウトブレークが発生した。今回のアウトブレークを分析し、今後の対応に活かす。
				ﾘﾝﾊﾟﾄﾞﾚﾅｰｼﾞ外来：5件/週1回	16.8件/月	7月から看護外来にて実施。加算対象者への介入を病棟と連携し増加させる。リンパ指導士が2名から3名になり次年度活動拡大。
				ｲﾝｽﾘﾝｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ：月5.2件以下	5.2件/月	糖尿病看護CNを中心に病棟での教育活動、手順の見直し、テンプレートの作成に取り組んだ。超速効型インスリンのインシデントが発生しており、インスリン事故防止への取り組み強化が必要。
				倫理研修：3回	のべ161名	経験年数、診療科の枠をこえ、看護部全体で倫理の検討ができ、倫理的問題への認識が高まった。病棟での倫理啓発に取り組む。
				年休取得：一人あたり年7.8日以上	6.9日/人/年	病休が増加した。スタッフの健康管理と年休の計画的取得に努める。
				超過勤務：月8.4時間以下	8.0時間/人/月	長日勤業務内容の見直し、手術室2交替制導入、夜間緊急検査の介助業務の協力体制構築により、7.9時間／月と減少した。
				2交替勤務開始		管理師長2交替制勤務ワーキンググループを中心に、2交替制勤務を検討。10/6から導入した。
成長と学習	○根拠に基づいてチームで活動できる看護師の育成 ○基礎教育との連携強化		・中堅看護師の育成 ・教育システムの構築 ・実習指導者の専任化に向けての体制づくり	ジェネラリスト研修	42名	ジェネラリストワーキンググループを立ち上げ、育成に取り組んだ。問題解決技法を学び、各自課題に取り組み、2月までに取り組みの成果をまとめた。
				がんステップⅠ研修	16名修了	ステップⅠはがん看護の基礎知識を持つことを目的に実施、ケーススタディで学びをまとめた。 ステップⅡではがん看護の専門性を深めることを目的に実施、ケーススタディでは理論を用いてまとめ、発表を行った。
				がんステップⅡ研修	19名修了	
				抗がん剤ボトル更新のための研修	190名	チーム医療推進、看護師の専門性を発揮することを目的に取り組み開始。平成21年度受講者を含め病棟での技術チェックを2月より開始。
				DMステップⅠ	19名修了	ステップⅠは看護師のDMに対する基礎知識の底上げを目的に実施し、ケーススタディで学びをまとめた。
				看護部キャリア支援研修	のべ108名	コミュニケーションスキル研修　31名。　急変アセスメント研修　20名。　経営と看護研修　57名
				幹部看護師任用候補者登載者：10名以上	22名受験 6名登載	ジェネラリスト研修、OJTで動機づけを行った。合格者の傾向を分析し合格者増の取り組みを行う。
				実習指導者講習会受講：6～7名	ブロック5名 看護協会1名	実習指導専任化体制ワーキンググループ立ち上げた。概ね専任化体制が構築できた。今後、病棟と教員との協力の在り方を検討していく。 看護教員インターンシップに3名が参加した。
				実習指導者専任化体制の構築、実習指導者会の活性化		
				手術室、外来1年目看護師2週間病棟研修		手術室5名、外来2名がローテーション研修を実施。3カ月までに到達する経験項目が増加した。手術室看護の質向上を目的に経験5年目以上で病棟経験のない看護師の研修を実施した。
				専門学会研究発表：前年度より増	院外発表17題	53回近畿看護学会4題、緩和医療学会1題、成人看護学会1題、総合医学会3題、看護学会2題、乳がん看護研究会1題、救急看護学会1題、禁煙科学会1題、薬理学会1題、糖尿病学会2題
				成果発表会	39題	成果発表会では、病院全体で口述21題（看護14）、ポスターセッション37題（看護25）がエントリーした。

科　名：京都看護助産学校



副学校長
山本　薫里



助産師科　教育主事
渡邊　玲子



看護師科　教育主事
松元　由美



看護師科　教育主事
岡村　稔子

Ⅰ　看護学校の概要

1．名称

独立行政法人　国立病院機構　京都医療センター附属京都看護助産学校

2．所在地

〒612 － 8555　京都市伏見区深草向畑町１の１

TEL（075）645 - 8401　ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ（6008）　　HP　http://www.hosp.go.jp/-kyotolan/

（075）641 - 9161（学校直通）

3．沿革

昭和 24 年 4 月 1 日　国立京都病院附属高等看護学院として開設
１学年定員 30 名　総定員 90 名

昭和 43 年 4 月 1 日　１学年定員 50 名　総定員 150 名

昭和 44 年 4 月 1 日　助産婦科の附設　　１学年定員 35 名　総定員 35 名
国立京都病院附属高等看護助産学院看護婦科・助産婦科に名称変更

昭和 50 年 4 月 1 日　国立京都病院附属看護助産学校看護婦科・助産婦科に名称変更

昭和 51 年 4 月 1 日　専修学校（専門課程）に認定

平成 9 年 4 月 1 日　国立京都病院附属看護助産学校看護学科・助産学科と改称

平成 14 年 4 月 1 日　国立京都病院附属看護助産学校看護師科・助産師科と名称変更

平成 16 年 4 月 1 日　国立療養所宇多野病院附属看護学校（３年課程）と国立療養所南京都病院附属看護学校（２年課程）と３校が統合、大型校となり独立行政法人国立病院機構京都医療センター附属京都看護助産学校に名称変更
看護師科　１学年定員 80 名　総定員 240 名
助産師科　１学年定員 35 名　総定員 35 名

（平成 24 年 3 月 31 日現在）　卒業生数
看護師科（１回生～ 53 回生）… 1,968 名
（１回生～ 8 回生）…　594 名（統合後）
助産師科（１回生～ 43 回生）… 1,274 名

4．課程・定員

課程	学科	入学定員	総定員	在籍者数（平成 24 年 3 月 1 日現在）			
				1 年生	2 年生	3 年生	合計
看護専門課程	看護師科(3 年課程)	80 人	240 人	82 人	76 人	77 人	235 人
看護専門課程	助　産　師　科	35 人	35 人	34 人			34 人
計		115 人	275 人	116 人	76 人	77 人	269 人

II　教育理念・目的

1．教　育　理　念

本校は、国立病院機構附属の養成所であり、国立病院機構の病院が担っている役割や機能を理解し、将来の国立病院機構の医療をリードしていく看護実践力をもつ看護師を育成することを責務としている。

人間愛を基盤とし、生命の尊厳と人権の尊重ができる感性豊かな人間性を育てることに主眼をおき、感じる心・考える力・主体的に行動する学生の育成を目指している。感じる心とは、人間に関心をもつことができ、生命の大切さや多様な価値観を感性豊かに感じとり物事の変化に気づくこと、考える力とは、状況の意味を自ら考え、専門的知識を活用して分析・判断する力のこと、主体的に行動するとは、感じ考えたことを自らすすんで表現し行動に繋げることができ責任がとれること、自己の目標達成に向けて卒業後も継続的に学習することを言う。

人間は、自己実現を目指し変化しようとしている存在であるが、現代の若者は生活体験が乏しいことから事象をイメージしにくく想像力・理解力が未熟な傾向にあるため、看護専門職として必要な基礎的知識、技術、態度を習得にあたり、体験的･実践的学習をとりいれわかりやすい授業を実践する。また、臨地実習での学びを充実させるために学びやすい環境づくりに力を入れる。さらに、医療・看護の動向をふまえ、保健医療福祉の変化に対応できる人材を育成する。

2．教　育　目　的

看護師若しくは助産師として必要な知識及び技術を教授し、独立行政法人国立病院機構　及び社会に貢献し得る有能な人材を育成する。

3．教　育　目　標

1．生命の尊厳と個々の人権を尊重できる感性豊かな人間性を養う。
2．看護の対象である人間を総合的に理解する能力を養う。
3．科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
4．人々の多様な価値観を認識し、専門職業人として共感的態度及び倫理に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
5．人々の最適な健康状態を目指し、生活を支援できる看護実践の基礎的能力を養う。
6．保健・医療・福祉の連携の中で調整的役割を果たす基礎的能力を養う。
7．国際化・情報化時代に対応できる基礎的能力を養う。
8．専門職業人としての自覚と責任をもち、主体的に看護を向上発展させていく姿勢を養う。

コンセプト

感じる心　　考える力　　そして・・・行動を

４．平成２３年度　運営方針

（１）教育の質の向上

①カリキュラムの検討および評価

②教育方法の検討

③看護技術の経験状況および到達度向上のための定期的調査

（２）安全・倫理教育の推進

①実習における事故防止策の検討

②個人情報保護の遵守と徹底

③実習場面における倫理教育の徹底

（３）教員の質の向上

①授業研究への参加

②研究・学会参加等自己研鑽の推進

③継続教育への講師派遣、研修受け入れ

④学生の学会発表指導

⑤研修日の確保（月１回）

（４）帰属意識への取り組み

①機構施設への就職率８０％以上の確保（助産師科：５０％）

②学生フォーラムへの支援

（５）学生支援

①学生の情報共有

②定期的、タイムリーな面接実施

③自治会支援

④クラブ活動支援

（６）質の高い学生の確保

①計画的な広報活動

②積極的な学校訪問

③業者主催の説明会への参加

（７）働きやすい職場環境　　コンセプト：育つ、育てる環境作り

①風通しの良いコミュニケーション

②学年を超えた教員間の協力体制

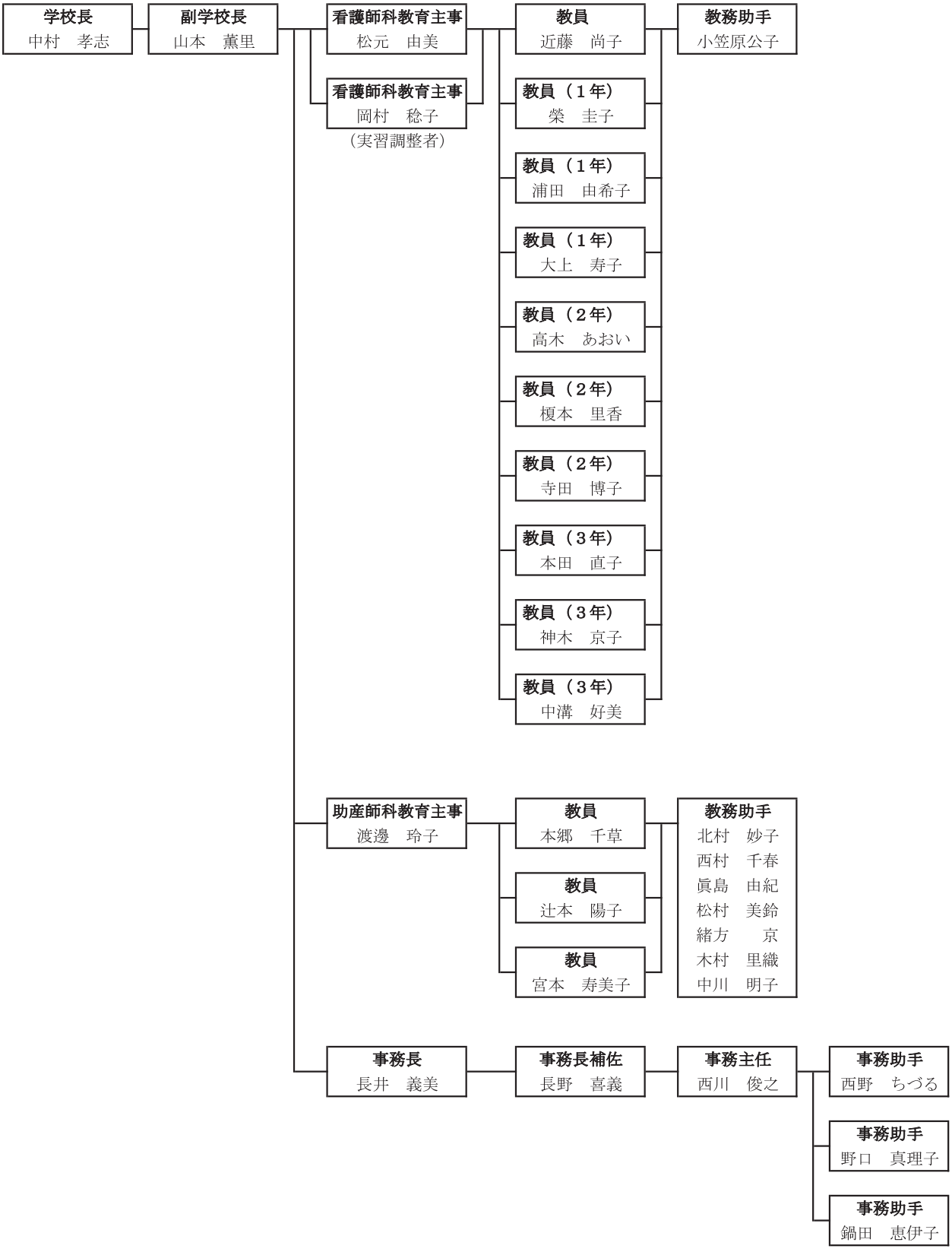
③離職防止

④計画的な年休取得推進

⑤タイムリーな連絡・報告・相談

Ⅲ．本学の組織

1．組織図


学校長
中村　孝志
副学校長
山本　薫里
看護師科教育主事
松元　由美
看護師科教育主事
岡村　稔子
（実習調整者）
教員
近藤　尚子
教務助手
小笠原公子
教員（１年）
榮　圭子
教員（１年）
浦田　由希子
教員（１年）
大上　寿子
教員（２年）
高木　あおい
教員（２年）
榎本　里香
教員（２年）
寺田　博子
教員（３年）
本田　直子
教員（３年）
神木　京子
教員（３年）
中溝　好美
助産師科教育主事
渡邊　玲子
教員
本郷　千草
教員
辻本　陽子
教員
宮本　寿美子
教務助手
北村　妙子
西村　千春
眞島　由紀
松村　美鈴
緒方　京
木村　里織
中川　明子
事務長
長井　義美
事務長補佐
長野　喜義
事務主任
西川　俊之
事務助手
西野　ちづる
事務助手
野口　真理子
事務助手
鍋田　恵伊子

2．教育経験年数

	教員の種別	教育年数	専門領域
看護師科	副学校長（山本　薫里）	16年	基礎看護学
	教育主事（松元　由美）	13年	基礎看護学
	教育主事（岡村　稔子）	10年	基礎看護学
	教　　員（近藤　尚子）	17年	基礎看護学
	教　　員（榮　　圭子）	11年	精神看護学
	教　　員（高木あおい）	6 年	成人看護学
	教　　員（神木　京子）	5 年	成人看護学
	教　　員（本田　直子）	5 年	成人看護学
	教　　員（中溝　好美）	3 年	老年看護学
	教　　員（浦田由希子）	3 年	小児看護学
	教　　員（榎本　里香）	1 年	成人看護学
	教　　員（大上　寿子）	0 年	成人看護学
	教　　員（寺田　博子）	0 年	成人看護学
	教務助手（小笠原公子）	16年	母性看護学
助産師科	教育主事（渡邊　玲子）	助８年	助産学・母性看護学
	教　　員（本郷　千草）	看８年・助１年	助産学
	教　　員（辻本　陽子）	助１年	助産学
	教　　員（宮本寿美子）	0 年	助産学
	教務助手（北村　妙子）		
	（西村　千春）		
	（眞島　由紀）		
	（松村　美鈴）		
	（緒方　　京）		
	（木村　里織）		
	（中川　明子）		

3．職員・講師数

教職員に関する事項	教員の種別	専　任	兼　任		職員の種別	専　任	兼　任
			（看）	（助）			
	保健師	０名	０名	１名	事務職員	３名	３名
	助産師	４名	５名	１０名	その他の職員	０名	０名
	看護師	１３名	２３名	２名	合　計	３名	３名
	医　師 （歯科医師含む）	０名	３３名	１７名			
	その他の教員	０名	２４名	８名			
	合　計	１７名	８５名	３８名			

Ⅳ．学生募集

１．入学試験実施状況

＜看護師科＞

	一次試験	二次試験	合格発表
一般入学試験	平成 24 年 1 月 19 日(木)	平成 24 年 1 月 21 日(土)	平成 24 年 1 月 26 日(木)
社会人入学試験	平成 23 年 11 月 17 日(木)	平成 23 年 11 月 19 日(土)	平成 23 年 11 月 24 日(木)

＜助産師科＞

	一次試験	二次試験	合格発表
一般入学試験	平成 24 年 1 月 19 日(木)	平成 24 年 1 月 21 日(土)	平成 24 年 1 月 26 日(木)
特別選抜入学試験	平成 23 年 11 月 17 日(木)	平成 23 年 11 月 24 日(木)	

２．入学状況（過去 5 年）

＜看護師科＞

年度(回生)	試　験	応募者数	受験者数	合格者数	入学者数	退学者数	卒業者数
平成 19 年(第 6 回生)	社会人	73	72	45			
	一　般	182	176	80			
	合　計	255	248	125	81	1	74
平成 20 年(第 7 回生)	社会人	90	83	41			
	一　般	190	182	82			
	合　計	280	265	123	94	1	97
平成 21 年(第 8 回生)	社会人	66	63	42			
	一　般	137	127	53			
	合　計	203	190	95	80	3	
平成 22 年(第 9 回生)	社会人	109	101	43			
	一　般	156	147	56			
	合　計	265	248	99	81	1	
平成 23 年(第 10 回生)	社会人	108	106	44			
	一　般	177	172	61			
	合　計	285	278	105	82		
平　均	2　5　8	246	109	84	2		

＜助産師科＞

年度(回生)	試験	応募者数	受験者数	合格者数	入学者数	退学者数	卒業者数
平成19年(第39回生)	特別選抜(学校)	10	10	10			
	特別選抜(施設)	4	4	4			
	一般	188	176	21			
	合計	202	190	35	34	1	33
平成20年(第40回生)	特別選抜(学校)	6	6	6			
	特別選抜(施設)	2	2	2			
	一般	207	196	30			
	合計	215	204	38	35	4	31
平成21年(第41回生)	特別選抜(学校)	8	8	8			
	特別選抜(施設)	3	3	3			
	一般	154	150	27			
	合計	165	161	38	34	2	33
平成22年(第42回生)	特別選抜(学校)	8	8	8			
	特別選抜(施設)	2	2	2			
	一般	137	136	28			
	合計	147	146	38	34	2	32
平成23年(第43回生)	特別選抜(学校)	16	16	16			
	特別選抜(施設)	5	5	5			
	一般	108	106	17			
	合計	129	127	38	56		
平　均		172	166	37	39	2	

3．オープンキャンパスの実施

＜看護師科＞

	日　程	内　　容	参加人数
1	平成23年6月11日(土)	学校の概要説明、校舎内見学 学校生活紹介、学生メッセージ 入試概要説明 質疑・応答、個別相談	22人
2	平成23年7月23日(土)		63人
3	平成23年8月6日（土）		78人
4	平成23年8月21日(日)		76人
5	平成23年10月15日(土)		46人
		合計	285人

＜助産師科＞

	日　程	内　容	参加人数
1	平成23年8月13日(土)	学校の概要説明、校舎内見学 学校生活紹介、学生メッセージ 入試概要説明 質疑・応答	48人
2	平成23年8月20日(土)		56人
3	平成23年9月10日(土)		34人
		合計	138人

Ⅴ．学生生活

1．心身の健康保持・増進

1）カウンセリング

カウンセラーによるカウンセリングを週１回（放課後）に実施している。

2）健康診断

健康管理規定に基づき、定期的に実施している。

項　目	対　象	４月	７月	１０月	１月
１．身体測定	全学生	○	○	○	○
２．胸部Ｘ線撮影	全学生	○			
３．血圧測定	全学生	○		○	
４．検尿 (糖、蛋白、潜血、ｳﾛﾋﾞﾘﾉｰｹﾞﾝ)	全学生	○		○	
５．内科総合診断	全学生	○		○	
６．採血 (梅毒反応、HB、HCV、麻疹、風疹 水痘、ムンプス抗体検査)	新入生	○			
７．ツベルクリン反応検査	新入生 (2,3 年生の陰性者)	○			
＊検便は実習前に実施					

2．課外活動　：　看護師科

1）自治会活動

	＜　前　期　＞		＜　後　期　＞
5 月	自治会総会	11 月	自治会総会
6 月		12 月	大掃除
7 月	大掃除	1 月	新春コンサートへの参加
8 月		2 月	国家試験激励会
9 月		3 月	予選会
10 月	戴帽式のお祝い	4 月	新入生歓迎会
	自治会総括		
	後期自治会選挙		
	自治会総括		
	前期自治会選挙		

2）クラブ活動

（1）バレーボール部

毎週　水・木・金　曜日　１６：３０～１８：００　体育館

あじさい杯　平成 23 年 7 月 2 日（土）　開催

＊京都看護助産学校主催で近畿ブロック附属看護学校 5 校のバレーボール部が集まる大会。毎年開催している。

（2）茶道部

隔週　木　曜日　１６：３０～１８：３０　在宅看護実習室

七夕茶会　平成 23 年 7 月 15 日（金）　開催

初釜茶会　平成 24 年 1 月 13 日（金）　開催

（3）園芸部

不定期開催

患者さんたちに季節の花を見てもらえるよう、草花を植えて手入れをしている。

3）ボランティア活動

平成 24 年 1 月：自治会有志　新春コンサート（合唱、トーンチャイム演奏）

平成 24 年 3 月：3 年生　病院清掃ボランティア、禁煙キャンペーン

緩和ケア病棟コンサート（ハンドベル演奏）

1 年生・3 年生有志　南京都病院　引越しボランティア

Ⅵ. 卒業生の進路

1．就職・進学状況（過去 5 年）

＜看護師科＞

年度	回生	卒業者数（人）	就職（人）						進学（人）				未就職
			国立病院機構		官公立	法人	その他	看護職以外	保健師	助産師	養護教諭	大学	
			自施設	他施設									
平成19年３月	第３回生	61	25	15	6	2	0	0	6	6	1	0	0
平成20年３月	第４回生	68	28	22	2	5	0	0	3	1	0	6	1
平成21年３月	第５回生	80	24	35	7	1	0	0	0	5	0	8	0
平成22年４月	第６回生	74	38	18	3	7	0	0	0	4	0	3	1
平成23年４月	第７回生	97	34	41	7	2	3	0	0	7	1	2	0
平　均			30	26	5	3	1	0	2	5	0	4	0

＜助産師科＞

年度	回生	卒業者数（人）	就職（人）						進学	未就職
			国立病院機構		官公立	法人	その他	看護職以外		
			自施設	他施設						
平成19年３月	第38回生	34	1	15	7	11	0	0	0	0
平成20年３月	第39回生	33	3	13	8	8	1	0	0	0
平成21年３月	第40回生	30	2	12	9	2	5	0	0	0
平成22年４月	第41回生	33	4	12	11	6	0	0	0	0
平成23年３月	第42回生	32	3	9	11	7	2	0	0	0
平　均			3	12	9	7	2	0	0	0

2．国家試験（過去3年）

＜看護師科＞

		全国（%）	機構附属（%）		
			全国	近畿	京都
９９回（H22.3）	全体（新卒）	89.5（93.9）	97.6（98.1）	99.0	100
１００回（H23.3）	全体（新卒）	91.8（96.4）	98.9（99.1）	99.4	100
１０１回（H24.3）	全体（新卒）	90.1（95.1）	98.6（98.9）	99.1	100

＜助産師科＞

		全国（%）	機構附属（%）	
			全国	京都
９３回（H22.3）	全体（新卒）	83.1（83.2）	91.2	96.9
９４回（H23.3）	全体（新卒）	97.2（98.2）	91.2	100
９５回（H24.3）	全体（新卒）	95.0（96.0）	100	100

Ⅶ．教員の研究および研修参加

1．研究活動

日程	学会名	テーマ	研究者（○発表）
平成23年9月	第52回 日本母性衛生学会	助産師学生の妊娠期の助産診断能力向上をめざした実習前のOSCEの実施と評価	○辻本陽子　本郷千草 宮本寿美子 伊藤美栄　渡邊玲子
平成23年10月	第64回 国立病院総合医学会	脳梗塞後患者の手指の拘縮を予防した手浴	○3年生　西岡　明美 教育主事　松元　由美
		ﾎﾞﾃﾞｨｲﾒｰｼﾞの変化が生じた成人期患者への援助	○3年生　魚野　智子 教　員　中溝　好美
		精神看護学実習における実習指導案の検討	教　員　近藤　尚子 辻本　陽子
平成23年10月	近畿地区 第53回看護学会	終末期における疼痛緩和の援助	○3年生　吉田　佑 教　員　本田　直子
		重症心身障害児の残存機能を生かす　コミュニケーション	○3年生　中村　恵 教　員　神木　京子
平成23年10月	第42回日本 看護学会（看護教育）	終末期における患者を受け持った看護学生の死生観に関係する実習での経験	教　員　浦田　由希子 本郷　千草

＜教員研修会　研究グループ＞

	テーマ	教員
1G（看護の統合）	卒後1、2年目看護師による卒業前演習の評価	神木　京子 本田　直子 高木　あおい
2G（基礎看護学）	専門分野における看護実践能力の向上に向けた授業案の作成	寺田　博子 宮本　寿美子
3G（成人看護学）	終末期にある患者を受け持った看護学生の経験に関する研究	浦田　由希子 本郷　千草
4G（成人看護学）	成人終末期患者の全人的苦痛を理解するための授業案の検討	大上　寿子 榎本　里香
5G（老年看護学）	高齢者疑似体験後の“高齢者”理解の比較～学生背景をふまえて～	中溝　好美 榮　圭子
6G（精神看護学）	実習指導案使用における評価についての検討	近藤　尚子 辻本　陽子

2．研修参加状況

日程	研修内容	参加人数
平成 23 年 7 月	新任中間監督者研修（近畿ブロック）	2 人
平成 23 年 7 月	幹部看護師（看護師長等）管理研修Ⅰ	1 人
平成 23 年 7 月～ 11 月	教員の育成（1・2 年目）（近畿ブロック） 教育力向上のための授業研修の実施	3 人
平成 23 年 8 月・12 月	1・2 年目教員研修（近畿ブロック）	3 人
平成 23 年 9 月	夏期合同研修会	12 人
平成 23 年 11 月	新人教員研修（機構本部）	2 人
平成 23 年 12 月	中堅教員育成研修	1 人

Ⅷ．社会への貢献

1．公開講座

	日　程	テーマ	参加者数
看護師科	平成 23 年 6 月 22 日(水)	基礎看護技術「車椅子への移動・移送」援助	27 人
	平成 23 年 7 月 23 日(土)	看護学生体験：手洗い体験、妊婦体験・新生児おむつ交換、救急救命体験	43 人
	平成 23 年 8 月 6 日（土）	看護学生体験：手洗い体験、妊婦体験・新生児おむつ交換、救急救命体験	40 人
	平成 23 年 8 月 21 日(日)	看護学生体験：手洗い体験、妊婦体験・新生児おむつ交換、救急救命体験	40 人
	平成 23 年 10 月 15 日(土)	足腰にいい！老化を防ぐロコモ体操！	13 人
助産師科	平成 23 年 8 月 20 日(土)	女性のための健康教室	16 人
		合計	179 人

2．教員の講習会、研修等の講師

日程	研修内容	教員
平成 23 年 6 月～ 7 月	平成 23 年度保健師助産師看護師実習指導者講習会 講義講師	山本　薫里 松元　由美 岡村　稔子 渡邊　玲子
	平成 23 年度保健師助産師看護師実習指導者講習会 演習指導案助言講師	高木　あおい 本田　直子

3．研修受け入れ

日程	研修内容	受け入れ数
平成 23 年 11 月～平成 24 年 3 月	近畿ﾌﾞﾛｯｸ副学校長教育主事協議会主催 看護学校インターンシップ	7 人

IX. 施設と設備

1．建物の概要

	区　分	建築年数	構造・階	面積（㎡）	摘　要
看護師科	校　舎	平成１６年	RC ４階	延：3037 ㎡ 建：1002 ㎡	
助産師科	校　舎	昭和５４年	RC ２階	延：850 ㎡ 建：469 ㎡	
	寄宿舎		RC ５階	延：540 ㎡ 建：111 ㎡	
共通	図書棟	平成１６年	RC ２階	延：704 ㎡ 建：421 ㎡	
	体育館	平成３年	RC ２階	延：664 ㎡ 建：600 ㎡	

2．図書・ビデオ保有数

＜図書＞　（平成 24 年 3 月 31 日現在）

	基礎科目	専門基礎科目	専門分野	その他	雑誌	合計
看 護 師 科	3,160	2,573	8,546	29	34 種	14,308
助 産 師 科	528	922	1,935	8	19 種	3,393

＜ビデオ＞　（平成 24 年 3 月 31 日現在）

	基礎科目	専門基礎科目	専門分野	その他	合　計
看 護 師 科	0	121	703	25	14,308
助 産 師 科	0	74	228	0	302

X．会議一覧

月	開催状況
4 月	運営会議・講師会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（3 回／月）
5 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（2 回／月）
6 月	運営会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（3 回／月）
7 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4 回／月）
8 月	教員会議（8 回／月）
9 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（2 回／月）
10 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4 回／月）
11 月	運営会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4 回／月） 入試委員会（社会人入試・特別選抜入試） 一次試験合否判定会議・二次試験合否判定会議
12 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（3 回／月）
1 月	運営会議 教員会議（3 回／月） 入試委員会（一般入試） 一次試験合否判定会議・二次試験合否判定会議
2 月	運営会議・講師会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（3 回／月）
3 月	運営会議・講師会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4 回／月）

編集後記

当院が診療年報を初めて発刊したのは1982年(昭和57年)でした。それ以降毎年当院の歩みを報告してきましたが、残念ながら2006年度の年報を最後に発刊が途絶えていました。この度、本年4月に広報委員会が拡充されたのを契機に診療年報を復活させることができました。

京都医療センターは急性期中核病院と地域医療支援病院としての役割を担っています。急性期中核病院として救命救急センターを設置し365日24時間の三次救急に対応できる医療体制を整え、地域医療支援病院として最善の高度医療を提供し地域医療に貢献できるよう病院全体で努力してまいりました。また、教育研修病院として医師、看護師、助産婦などの人材の育成に努め、高度専門医療施設(準ナショナルセンター)として臨床研究センターを擁して医療の向上に貢献しています。このような当院の日々の活動を年次でまとめることは、単に外部への情報発信のためだけではなく、院内にあっても病院一丸となっての努力の歩みに関する認識を個々人が共有することで当院のさらなる発展につながると考えています。

広報委員会として、この診療年報を毎年発刊することを通じて、京都医療センターの一層の発展とひいては地域への医療の貢献に役立てれば甚だ幸いです。

2012年　広報委員会

瀬　田　公　一

塚　原　徹　也